

慧海支村

園解

明治三十二年六月廿一日

立正大学品川図書館所蔵

河口慧海旧蔵資料解題目録

念心 恨 善訓  
密陀 燈 燈 煩悩  
諸の慢 各各 誰  
誰 欺 誑 誑 誰  
情 空 日 加 空  
無 愁 無 愁 依 止 根 本  
悼 悲 上 情 悲 泣 泣  
不信 信 信 情  
放 逸 安 定



印度佛陀伽耶ニシテ  
放スファンガウ僧ヨリ得シニ

庄司 史生・小此木 敏明 解説  
立正大学品川図書館 編

河口 慧海

明治三十二年六月廿七日日本書物ヲ始習ス

慧海

河口 慧海  
大正十一年七月廿七日  
東京品川品川図書館  
蔵書目録ヨリ全ク転写ス

初問  
以下西尾信  
星王學 梵語 法 星王學 滿月神通  
九十年十月廿四日  
田中一氏より  
贈る

立正大学品川図書館所蔵

# 河口慧海旧蔵資料解題目録

庄司 史生・小此木 敏明 解説  
立正大学品川図書館 編





## ごあいさつ

この度、2013年刊行の『立正大学 大崎図書館所蔵 河口慧海 請来資料解題目録』に続き、『立正大学品川図書館所蔵 河口慧海旧蔵資料解題目録』の刊行と相成った。本書は、仏教学部 庄司史生先生をはじめとする諸先生方のご尽力の賜物であり、本学図書館としては唯々感謝するばかりである。

前書刊行後の2015年10月、ネパール連邦民主共和国と本学は、当時の駐日ネパール特命全權大使 マダール・クマール・バッタライ閣下ご臨席の下で「ネパール・立正大学交流宣言」を行った。ネパールは河口慧海ゆかりの地であり、1899年に日本人として初めてネパールを訪れている。当時、厳しい鎖国状態のチベットを目指す慧海は、先ずネパールに入り、入境の計画と準備を整えた上で念願のチベット入国を果たした。その後も何回かネパールを訪れており、カトマンズにはネパールと日本の友好を示す“河口慧海訪問の記念碑”が建ち、マルファには慧海の滞在した家が慧海にまつわる仏教・生活関係の展示物と共に“河口慧海記念館”として公開されている。このようにネパールと日本との友好の礎を河口慧海は築いたのである。

本学とネパールの交流は上記宣言前の1967年、当時東京大学に留学中だったヴィレンドラ皇太子（後のネパール国王）の本学ご訪問に始まる。同年、本学は推定カピラ城遺跡（ティラウラ・コット）発掘調査団を編成し、1977年までに数多くの貴重な発見をした。交流宣言以降はネパールとの友好を深める催しを毎年举行している。特に、2016年は日本・ネパール国交樹立60周年、河口慧海生誕150周年にあたり、公開講座「ネパールに魅せられた日本人たち」を開催。多くの市民の反響を得た。なお、ネパールでは2015年4月25日にマグニチュード7.8の地震が発生し、幾多の人命を含む甚大な被害が生じた。未だ傷癒えぬであろうことを察してやまない。

さて、庄司先生によれば、本学図書館所蔵の慧海旧蔵文献は梵字写本・チベット語文献等の将来文献と和・洋装本の非将来文献に大別され、前者の目録が2013年の刊行書、後者の目録が本書であり、これを以って本学図書館所蔵河口慧海旧蔵文献の調査・報告は一先ず終了するという。これら2書による仏教研究への多大な貢献を期待することは勿論であるが、それと同時に、ネパール、そして願わくはチベットとの友好の更なる深まりを祈る次第である。

平成30年3月吉日

立正大学図書館長  
友 永 昌 治



立正大学品川図書館所蔵  
河口慧海旧蔵資料解題目録 目次

資料紹介 .....	5
新収資料紹介 .....	7
旧蔵資料紹介 .....	13
保存と利用 .....	20
河口慧海文庫概要 .....	23
分類構成 .....	42
洋装本目録 .....	43
和書の部 .....	45
洋書の部 .....	77
和装本目録 .....	97
版本の部 .....	101
写本の部 .....	136
解題 .....	147
1 慧海と仏典研究—法華経を中心として— .....	149
2 旧蔵書にみる慧海の事績—寄贈書類を中心として— .....	165
3 慧海旧蔵書中の目白僧園関係書について .....	183
河口慧海文庫公開の軌跡 .....	205
参考文献 .....	215
索引 .....	220
あとがき .....	237



# 資料紹介

---



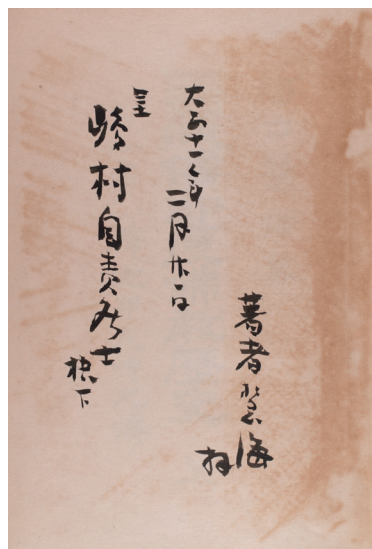




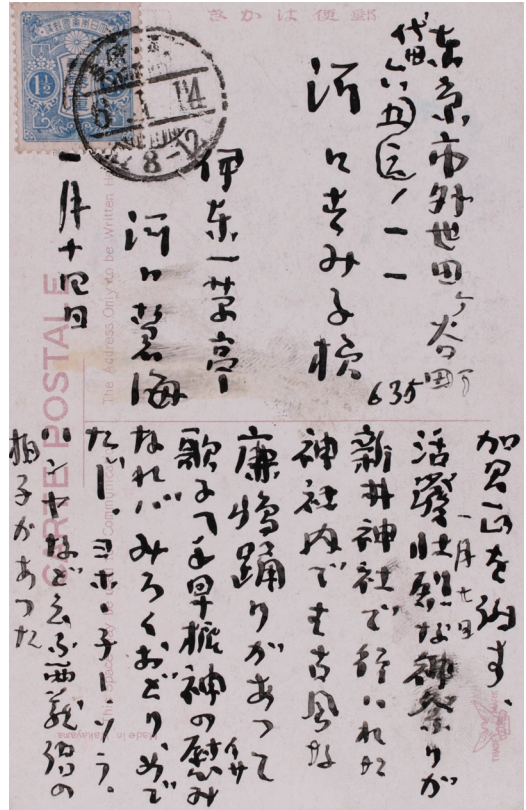
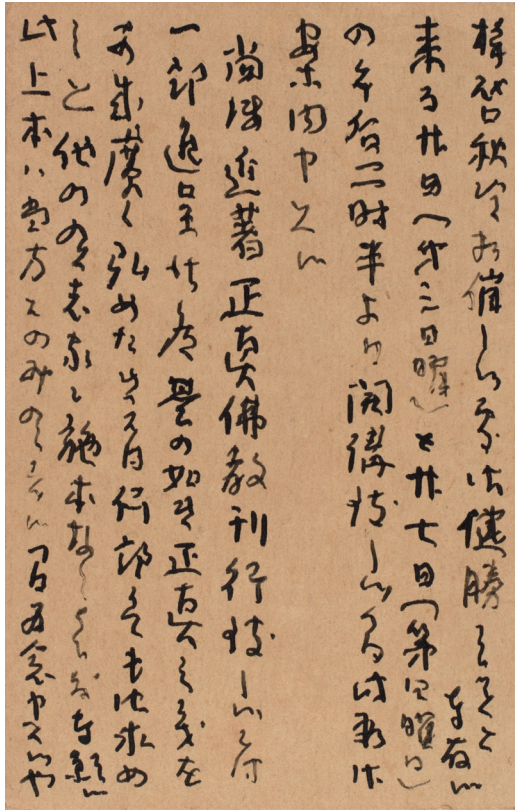
カワグチ エ カイソウコウ  
**河口慧海草稿**

河口慧海 [自筆]. 『西藏傳印度仏教歴史序』草稿].  
 東京, 1917, 17枚

『西藏傳印度仏教歴史』上巻の巻頭序から目次までの完全草稿。草稿の序文の日付は大正6年(1917)であるが、出版本には大正10年(1921)と記載されており、刊行までに間があいていたことがわかる。



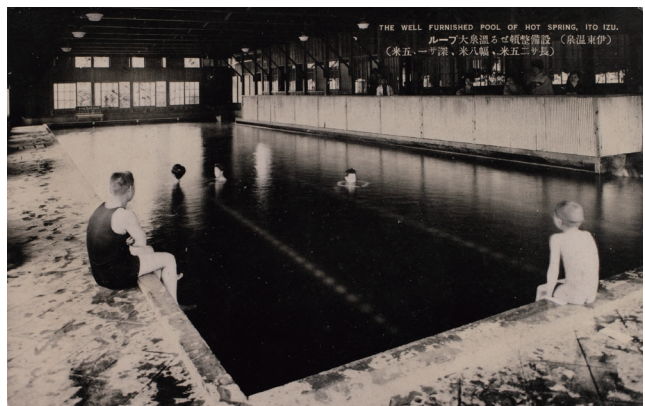
▶慧海から嶋村自責居士(嶋村清吉)への寄贈識語がある、1922年の刊行本『西藏傳印度仏教歴史』上巻も新たに収蔵した。



カワグチ エカイ ハガキ  
**河口慧海葉書**

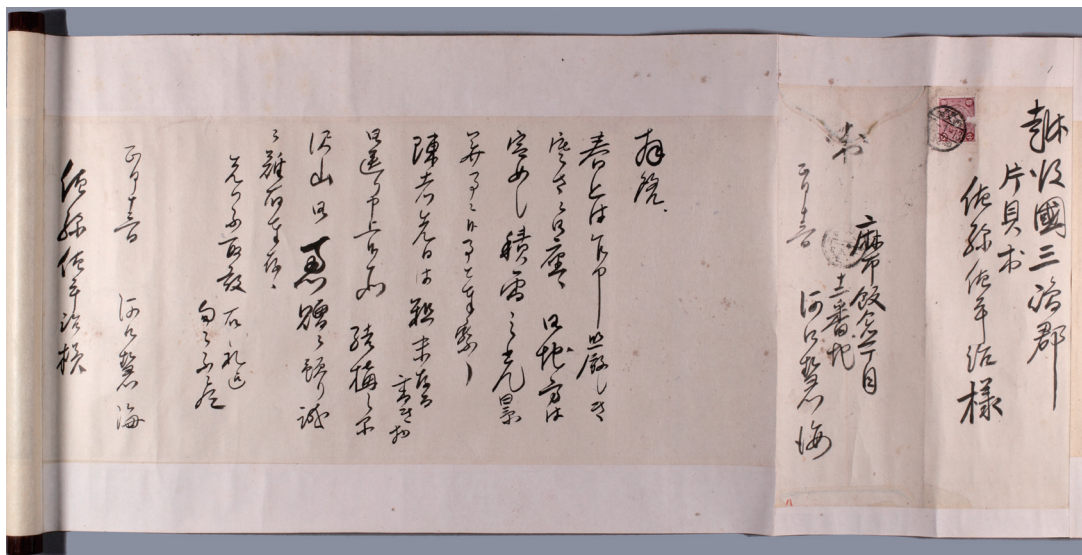
- 〈左〉 河口慧海. [奥平與二宛葉書]. 世田谷 [東京], 1936, 1 通
- 〈右〉 河口慧海. [河口すみ子宛葉書]. 伊東 [静岡], 1931, 1 通

〈左〉は9月20日、27日の「開講」案内と1936年刊行の著作『正眞佛教』進呈について書かれている。  
 〈右〉は新井神社で行なわれた神祭りについて記されており、慧海は特に鹿嶋踊りの歌に注目している。



▲〈右〉の裏面：伊東温泉大プールの写真





カワグチ エ カイ ショカンマキ  
**河口慧海ほか書簡巻**

河口慧海，富岡鉄斎，石黒忠恵ほか，  
 [佐藤佐平治宛十二通書簡巻].  
 [新潟]，明治期，1軸

佐藤佐平治宛の12通の手紙を封筒と共に貼り込んで、軸仕立てとしたもの。  
 佐藤家は新潟の酒造を営む家系で、代々佐平治を襲名していたと推測される。  
 慧海は佐平治宛に新年の挨拶の手紙を「正月十三日」付で送っている。



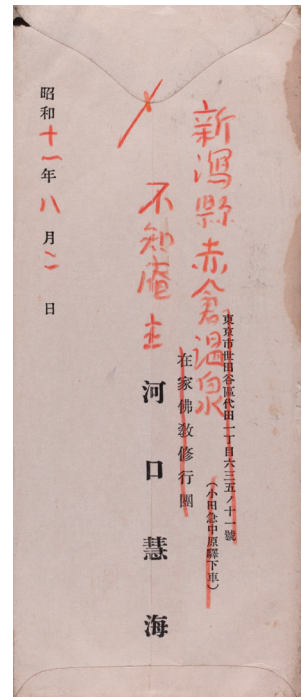
▲軸全景



カワグチ エ カイシヨカン  
**河口慧海書簡**

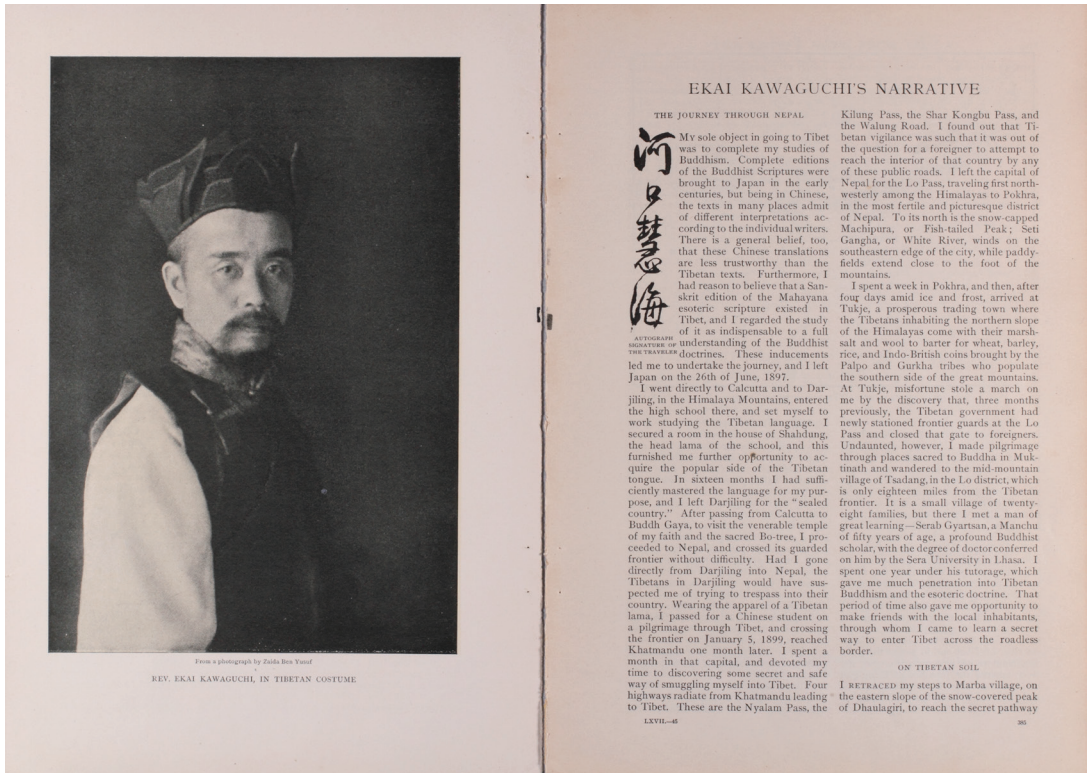
河口慧海. [石井教道宛書簡]. 新潟縣, 1936, 1 通

慧海から石井教道に宛てたお礼の手紙。慧海は教道から彼の著作『選擇集講義』を贈られたが、現在、赤倉温泉にて執筆作業中のため「帰京後に拝読」する旨が綴られている。



▶印刷部分の「在家佛教修行團」までを赤鉛筆で削除し「新潟縣赤倉温泉 不知庵主」に訂正している。





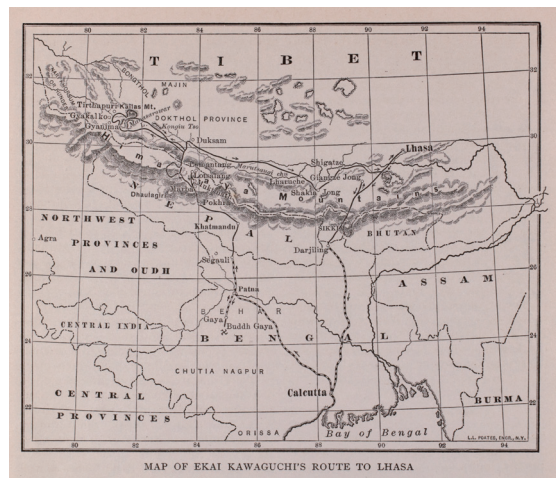
カワグチ エ カイ キンキョウホウコク  
**河口慧海『ラサからの近況報告』**

Kawaguchi, Rev. Ekai.

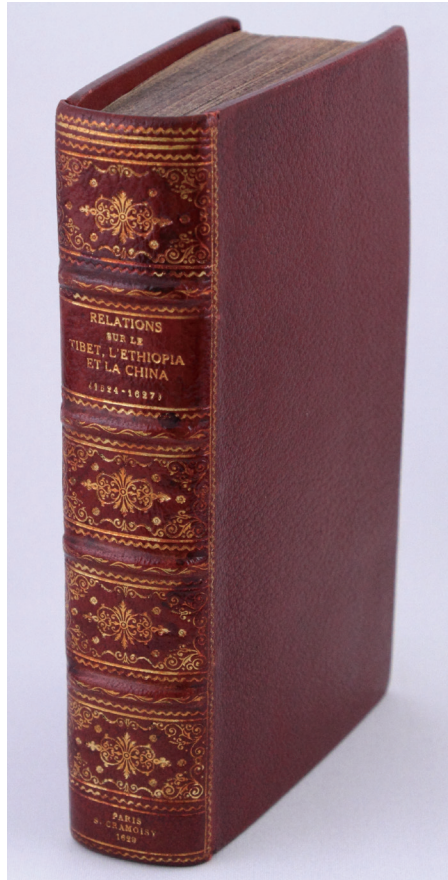
The Latest News from Lhasa : A Narrative of Personal Adventure in Tibet.

*The Century Illustrated Monthly Magazine*. Vol.67, 1904, p.383-393.

米国で出版の英文雑誌『The Century Illustrated Monthly Magazine』に掲載された、慧海のチベット旅行についての記事。



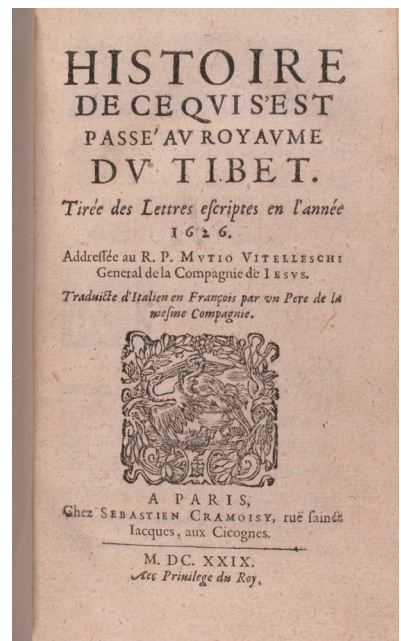
▲チベットの古都 ラサへの踏破地図



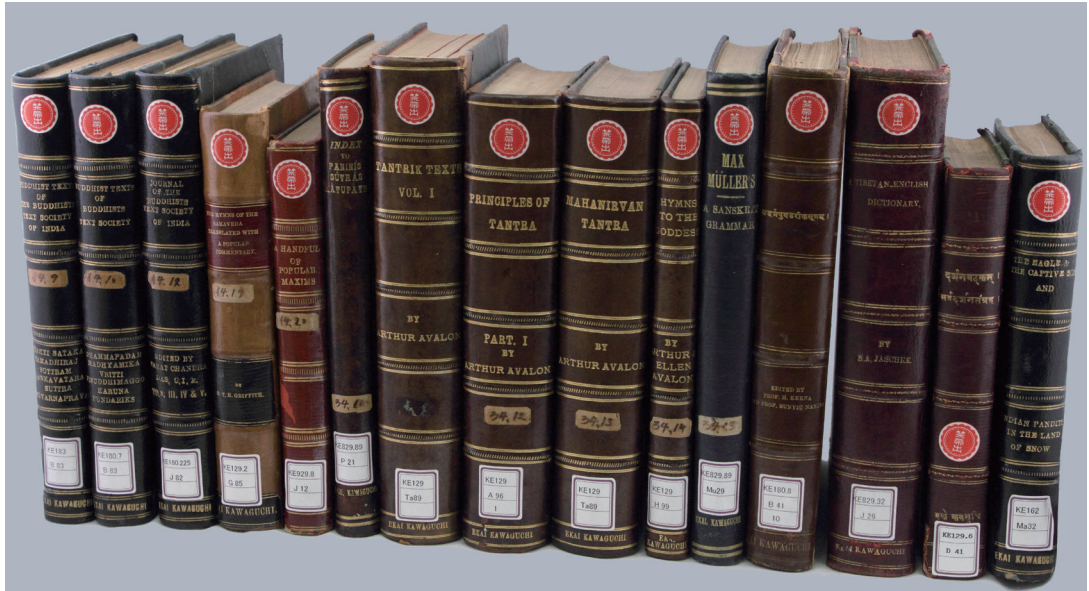
オウコク  
**アンドラーデ『チベット王国』**

Andrade, Antonio de. Histoire de ce qui s'est passe au Royaume du Tibet: Tiree des lettres escriptes en l'annee 1626. Paris, Sebastien Cramoisy, 1629.

ポルトガルのイエズス会神父アントニオ・デ・アンドラーデがチベットでの体験を綴った報告書。慧海は日本人として初めてチベットへの入国を果たしたが、アンドラーデはチベットにおけるカトリックの最初の伝道者といわれている。



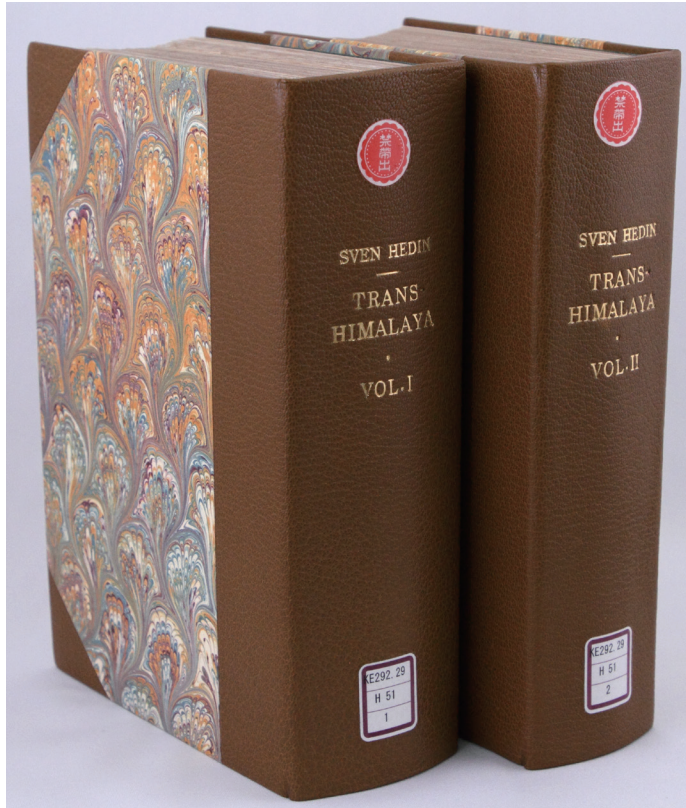
▲ 標題紙



カワグチ エ カイキョウゾウシヨクン  
**河口慧海 旧蔵書群**

河口慧海の旧蔵書には、「ろ3.14」等のラベルが貼付されている。洋装本の場合は背表紙に、和装本の場合は表紙右上に確認できる。彼が創始した佛教宣揚會（1918－1927）では、図書館建立が目指されていたことから、これらのラベルはそのために貼付されたものであった可能性も考えられる。慧海の旧蔵書すべてにラベルが見られるわけではないが、ラベルの確認できる蔵書については、その順序に基づくリストを本書の「概要」に掲載した。彼の蔵書構成を知るための手がかりになるものと考えられる。





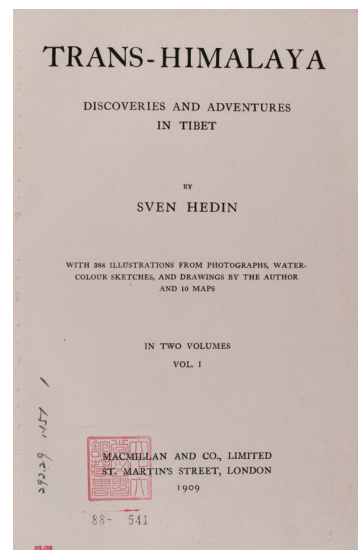
洋洋054/055 *Trans-Himalaya: Discoveries and Adventures in Tibet*

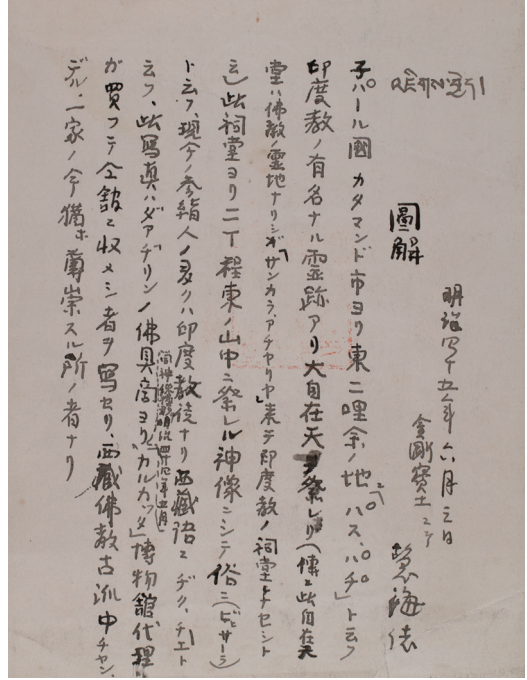
Sven Hedin. 22.6×15.5 cm. London: Macmillan, 1909-1910.

本書は、スヴェン・ヘディン (Sven Hedin, 1865-1952) 著にして著者自身より寄贈されたと推定される『トランスヒマラヤ』(*Trans-Himalaya*) である。

同書は全3巻よりなり、当館所蔵のものは2巻までであるものの、それらは、ヘディンが河口慧海に贈ったものと推定される点において、極めて重要である。

ヘディンより贈られた『トランスヒマラヤ』の所在について、これまで指摘されたことはなかったが、今回の調査により、それが現存していることが確認されたといえる。「解題 2.2.3」を参照。

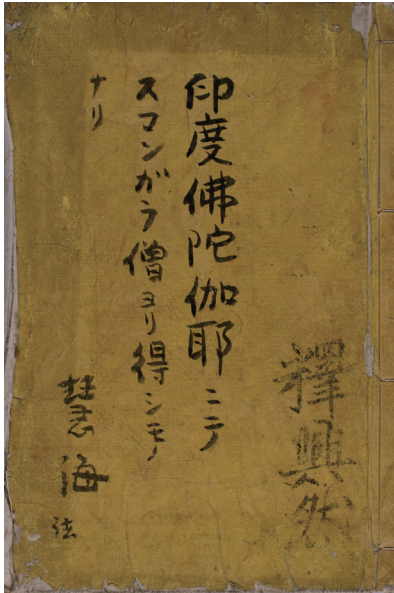




洋和032 <sup>シンゾウシャシン</sup> 【神像写真】

19.3×14.5cm。明治45（1912）年6月3日。1葉。

当館が所蔵する慧海旧蔵書の中にダニエル・ライト（Daniel Wright）編者『ネパールの歴史』（*History of Nepal*）があるが、そこには上記の写真が一枚、挟み込まれていた。裏面に記された慧海による解説によれば、この神像は、ネパールからインドの Kolkata（インド博物館）へと移動したということである。慧海による解説文の翻刻は本書の「解題2.2.2」に記した。



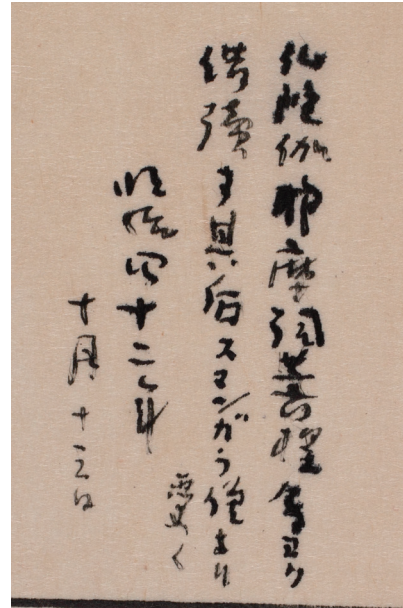
和版068 テンダイショウシカン 天台小止観

(隋) 智顛述、(日本) 山田妙運校。  
半紙本1冊。22.8×15.4cm。8行17字。東京、  
松澤庄次郎(慶元堂)、明治10年(1877)11月  
出版。

『天台小止観』(和版068)には興味深い書入れがみられる。表紙中央には「印度佛陀伽耶ニテスマンガラ僧ヨリ得シモノナリ 慧海 誌」とあり、筆跡からそれが慧海自身によって記されたものであることがわかる。

「印度佛陀伽耶」とはブッダ成道の地「ブッダガヤ」のことであり、慧海はその地で本書をスマンガラより得たことになる。それではスマンガラはどのようにして本書を得たのであろうか。同表紙右下には「釋興然」とある。釋興然とは慧海がパーリ語を学んだ師であり、日本人として初めてスリランカへ留学し、ブッダガヤの仏教復興運動に関わった人物として知られる。つまり、釋興然が日本より持参しスマンガラへ渡した本書が、後にインドへやってきた慧海への手へと渡り、さらにそれが慧海を介して日本へと戻ってきた、ということになる。

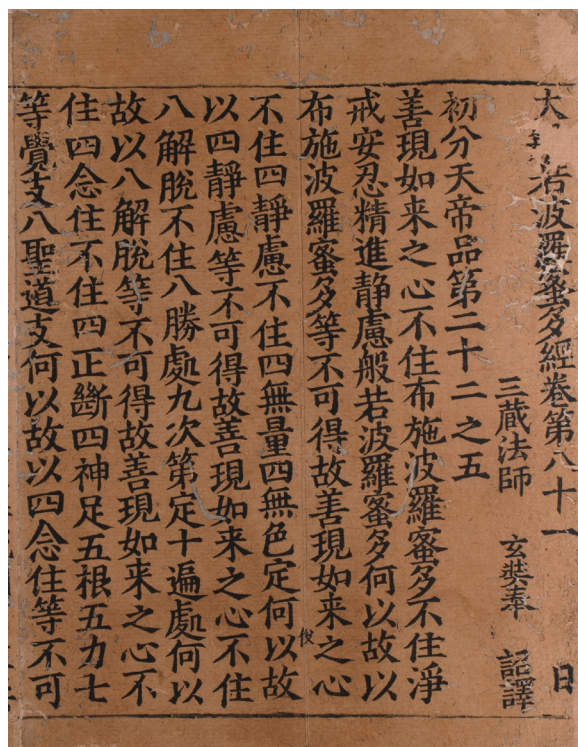
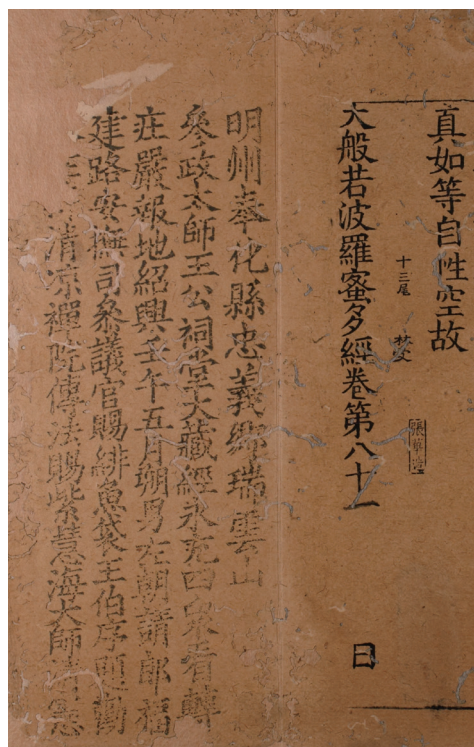
このように、本書は釋興然からスマンガラへ、そしてスマンガラから慧海へ贈られたものと推定することができる。慧海による『天台小止観』の入手時期は不明であるが、上掲の『梵網經』(和版060)への書入れから、明治42(1909)年の入手と考えるとよいであろう。本書「解題2.2.1」を参照。



和版060 ボンモウキョウ ルシャナ ブッセツ ボサツシンチ 梵網經 盧舍那佛說菩薩心地  
ホウモンボンダイジユウ 法門品第十

(後秦) 鳩摩羅什譯。大本1冊。25.4×17.2cm。  
8行17字。[明治期刊]。





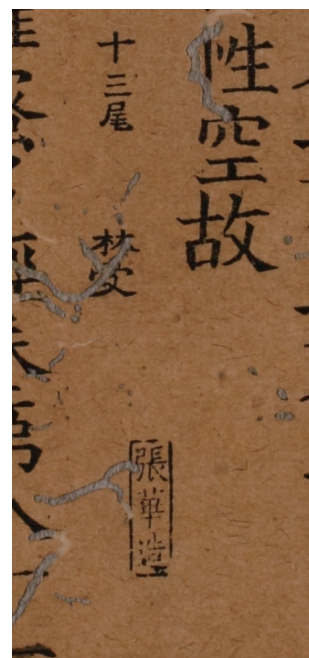
ダイハンニャ ハ ラミツ タキョウ マキダイハチジュウイチ  
和版026 大般若波羅蜜多經 卷第八十一

(唐)玄奘譯。折本1帖。30.1×10.3cm。6行17字。  
明州、王伯序、紹興32年(1162)頃 [印]。

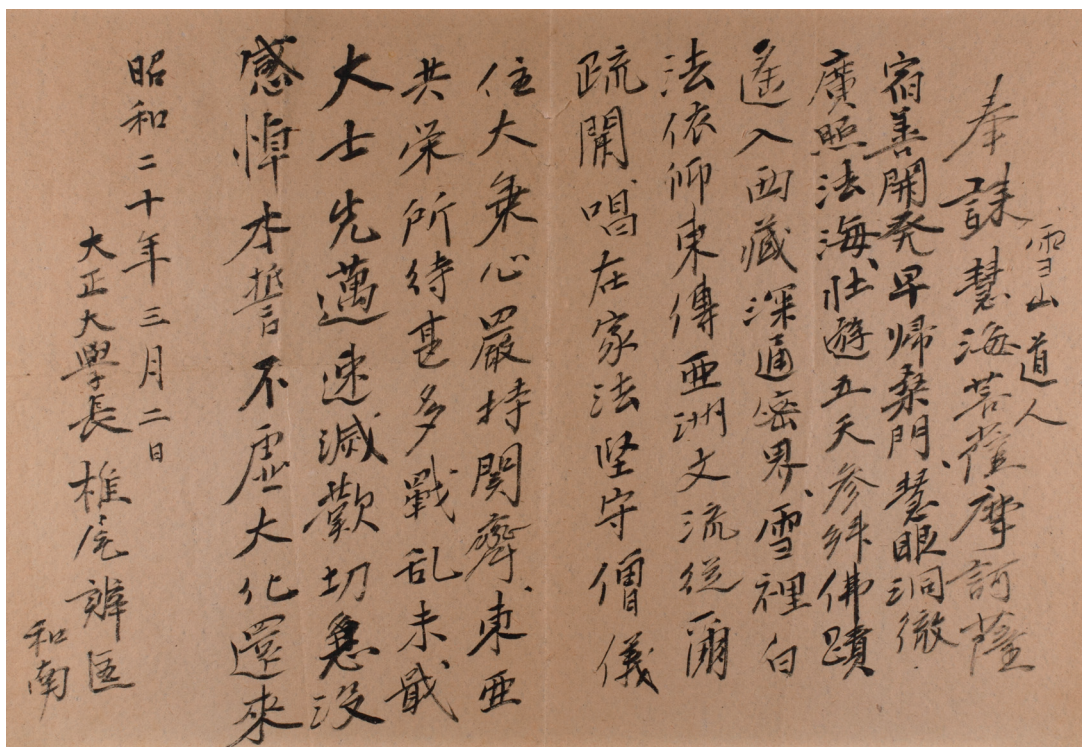
宋刊大藏經(福州東禪寺版)の再印本のうちの1帖。巻尾の施入記から王公祀堂本と呼ばれる。施入記に、紹興32年(1162)5月1日、慧海大師清憲の勧めにより、王伯序が明州(浙江省寧波)奉化縣忠義鄉瑞雲山にあった參政太師王公を祀った堂に納めたものとある。參政太師王公は、王伯序の父の王次翁とされる [中村1984: 95]。

表紙は後補だが、右上に仏教宣揚会の印が押されているため、慧海の旧蔵書であったことが分かる。破れがあるが、もとはその部分を裏打ちして繕い、上から文字を墨書きしていた。おそらく慧海が入手した段階でそのような状態だったと思われる。近年、補修に出された関係で新たに裏打ちされており、墨書きのある裏打ち紙は剥がされ、別に保管された。

野沢佳美『印刷漢文大藏經の歴史 中国・高麗篇』(立正大学図書館、2015年)にて紹介・解説されている。



▲印刷に当たった印造者の印「張華造」とある。

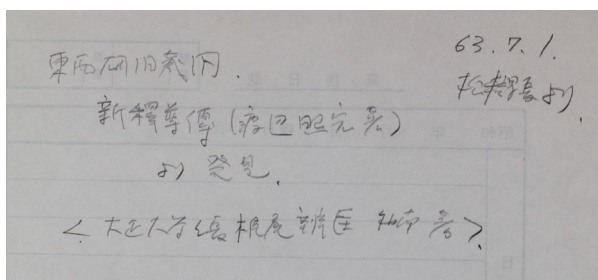


和写036 カワグチ エ カイソウカンシキリイブ 【河口慧海送棺式誄文】

椎尾辨匡 [著]。1枚。26.0×36.7cm。椎尾辨匡、昭和20年（1945）3月2日 [自筆力]。

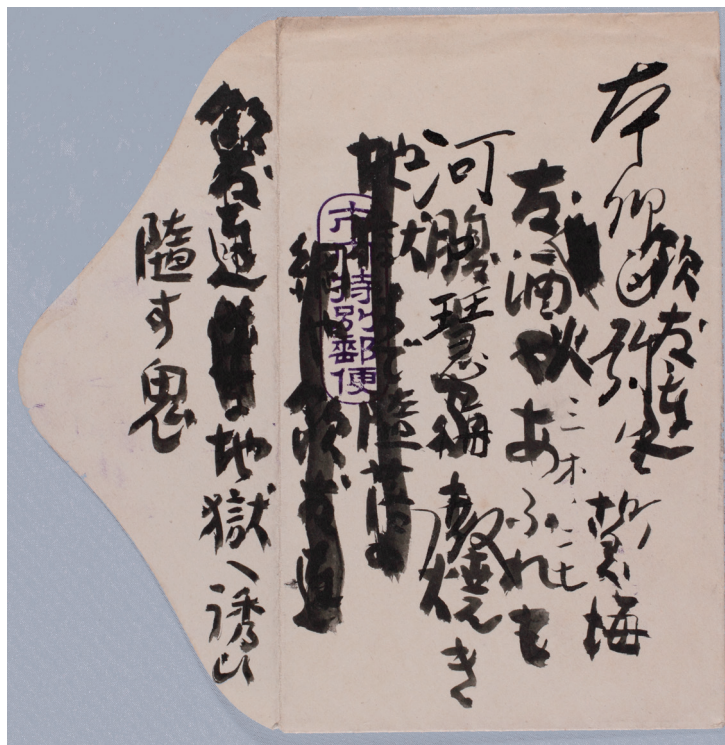
立正大学の封筒に、右のメモ書きと共に入れられ保管されていた。昭和20年（1945）3月2日に行われた慧海の送棺式に際して、当時の大正大学学長、椎尾辨匡が書いたものと推測される（解題2.3参照）。椎尾の自筆かどうかは不明。

冒頭に「奉誄 雪山道人 慧海菩薩摩訶薩」（雪山道人 慧海菩薩摩訶薩を誄し奉る）とある。雪山は慧海の号。「誄」は「しのびごと」とも読み、生前の死者を讃え、その死を悼むこと。内容からも、椎尾辨匡が生前の慧海の功績を述べ、その死を嘆いた文章であることが分かる。



▲上記資料を、昭和63年（1988）7月1日に渡辺照宏著の『新釋尊傳』より発見したというメモ書き。右上に「松本課長より」とあるのは、当時の立正大学図書館課長の松本顕祥氏。『新釋尊傳』是和洋062のことだと考えられる。





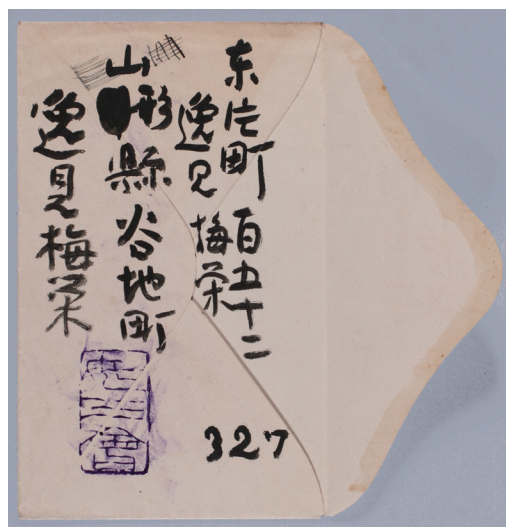
カワグチ エ カイサク ノミトモダチ ク  
 河口慧海作「飲友達」の句

洋封筒 1 枚 (15.1×9.3cm)、表裏に書入れ

和版134『梧窓漫筆後編』の間に挟まっていた洋封筒。表に「本郷区弥生町／三木二七／河口慧海」、裏に「東片町百五十二／逸見梅栄／山■〈墨滅〉形縣谷地町／逸見梅栄」「327」と書かれている。逸見梅栄は慧海の弟子（解題 2.3 参照）。書き損じたためか、表側で「飲友達」という題で、飲酒戒について詠んだ五七五の句を推敲している。

句は墨で塗り潰されたものを含め、以下のものが確認できる。

飲友達 慧海  
 友酒火あふれて／腹も家も焼き  
 [地獄まで墮落の／綱や飲友達]（墨滅箇所）  
 飲友達地獄へ誘ひ／墮す鬼



▲山形県谷地町は逸見埋梅栄の出身地。

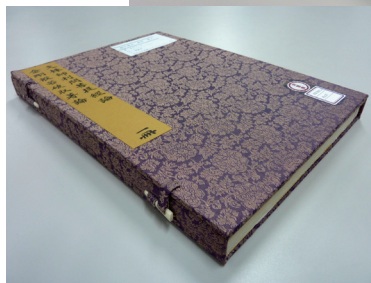
## 保存と利用

資料の特性を尊重した容器に収納し、24時間一定の温度・湿度に保たれた書庫内に保管している。

### ◆桐箱（貝多羅資料）



### ◆帙（和装本）

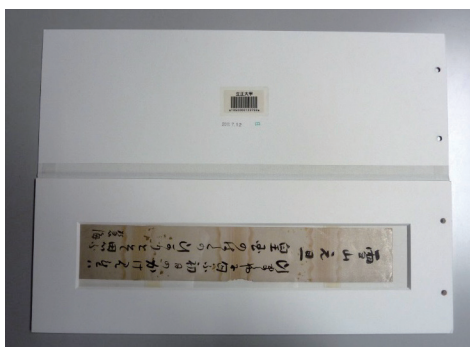




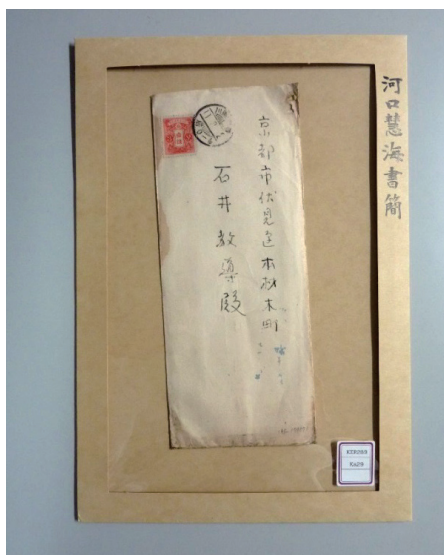
◆保存箱（洋古書）



◆中性紙マット  
(短冊、雑誌抜き刷り、一枚もの)



◆中性紙窓付き封筒  
(書簡、葉書)



※貴重資料の閲覧は電子データ閲覧後、所定の手続き（申請許可）が必要。



# 河口慧海文庫概要

---



本書は、立正大学品川図書館（旧大崎図書館、以下、当館）に所蔵されていた河口慧海旧蔵書のうち、洋装本と和装本に対する目録と、そこに含まれる数点の資料に対する解題より成る。後述するように、当館が所蔵する慧海旧蔵書は、将来文献（梵文写本、チベット語文献など）と非将来文献（洋装本、和装本）に大別することができる。そのうち、将来文献に対する目録は、『立正大学大崎図書館所蔵河口慧海請来資料解題目録』として、2013年に刊行されている。本書はいわば非将来文献に対する目録である。本書の刊行をもって、半世紀以上手つかずとなっていた当館所蔵河口慧海旧蔵書の調査・報告はひとまず終了することになる。

また、当館では河口慧海に関連する資料の蒐集を継続して行っている。本書では、近年当館に収められるに至った慧海関連新収資料もあわせて紹介する。

ところで、河口慧海（1866-1945）に関する近時の刊行物には、高山龍三著『河口慧海：人物書誌大系44』（日外アソシエーツ、2015年）のほか、講談社学術文庫版の高山龍三校訂『チベット旅行記』（二巻本として改版、2015年）の出版をあげることができ、また2016年9月には彼の第1回チベット旅行の最終部分にあたる3冊目の日記が新たに発見されるに至っている。このような状況の中で、ここに彼が所蔵していた洋装本と和装本の目録が初めて公表されることになるわけである。これまで慧海の将来文献に対する研究は個別的に進められてきたものの、彼が所蔵していた洋装本・和装本といった非将来文献に関する研究がなされることはなかった。そもそも、従来それらの存在すら確認されていなかったのである<sup>(1)</sup>。この点から、それらに対する調査とその報告書となる本書の刊行は、意義あるものと考えられる。詳細は本書の目録や解題に譲るが、当館が所蔵する彼の旧蔵書の中には、慧海本人による多数の書入れの他、さまざまな人物が慧海へと贈った旨を記す書入れ等も数多く見出される。その中には、スヴェン・ヘディン（1865-1952）が彼に贈ったと推定される『トランスヒマラヤ』2冊や、彼がインドで入手した和装本の『天台小止観』などがある。これらの資料とそこに記された記録は、彼の事績、また彼の思想内容を明らかにする上で、その手がかりとなり得るものと期待される。今後の研究資料として十分に活用されるべきであろう。

なお、慧海について知ることができる二次資料に次のものがある。まず彼の生前、1927年に河口慧海師後援会によって刊行された『河口慧海師畧傳並年譜』（以下、『略伝』）があり、次いで没後に彼の甥である河口正<sup>あきら</sup>（1918-1962）によって著された『河口慧海』（春秋社、1961年、のちに2000年に改装版刊行、以下『慧海伝』）がある。この他、1978年に高山龍三校訂による『チベット旅行記』が講談社学術文庫（5巻本、2015年に改訂の上、2巻本として刊行）、そして同氏による一連の著作として『河口慧海：人と旅と業績』（大明堂、1999年、以下『業績』）、『展望河口慧海論』（法蔵館、2002年、以下『展望』）、『河口慧海への旅：釈迦生誕地に巡礼した人びと』（勉誠出版、2011年、以下『旅』）、『河口慧海』（『人物書誌大系』44、日外アソシエーツ、以下『人物』）があり、さらに奥山直司による『評伝河口慧海』（中央公論新社、2003年、後に2009年に改訂の上、文庫化、以下『評伝』）、同編『河口慧海日記：ヒマラヤ・チベットの旅』（講談社、2007）等がある。また『河口慧海著作集』（うしお書店、USS出版）の他、『河口慧海著作選集』（慧文社）が現在に至るまで刊行中である。

# 1. 現存する河口慧海関連資料の全容

河口慧海による将来品や草稿等を含む関連資料の現在の所蔵機関を網羅的にまとめた研究成果には、①河口正著『河口慧海』<sup>(3)</sup>、②佼成出版社編『河口慧海請来チベット資料図録』<sup>(4)</sup>、③立正大学大崎図書館編『立正大学大崎図書館所蔵河口慧海請来資料解題目録』<sup>(5)</sup>がある。これらの成果に基づき、現在の所蔵機関を、その所蔵資料（言語別）とともに一覧にして示すと次の通りとなる。

## 1.1 梵文写本

表1 梵文写本

	機 関	内 容
①	東京大学 1915年寄贈	『八千頌般若経』 ( <i>Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā</i> ) の他、全390点
②	東洋文庫 1940年寄贈	『法華経』 ( <i>Saddharmaṣuṅḍarīka</i> ) の他、全16点（または28点）
③	立正大学 1952年譲渡	『華嚴経入法界品』 ( <i>Gaṇḍavyūha</i> ) の他、全2点

上記のうち、①東京大学所蔵本については、松濤誠廉によって目録が編纂・刊行されている。同大学には高楠順次郎将来の梵文写本と河口将来の梵文写本、計566部（関東大震災のため29部が欠本）を所蔵しており、整理番号1-390までが河口将来写本とされる<sup>(6)</sup>。また②東洋文庫所蔵本については金子良太らによる目録があり<sup>(7)</sup>、③立正大学所蔵本については当館による『解題目録』が刊行されている<sup>(8)</sup>。

## 1.2 チベット語文献

表2 チベット語文献

	機 関	内 容
①	宗教大学（現大正大学） 1915年寄贈	チベット大蔵経 ナルタン版カンギュル 1セット
②	東洋文庫 1940年寄贈	チベット大蔵経 写本大蔵経ほか 5セット 蔵外文献 463点
③	東京大学 寄贈年不明	チベット大蔵経 ナルタン版テンギュル 1セット
④	立正大学 1952年譲渡	蔵外文献 33点
⑤	東北大学 1955年譲渡	蔵外文献 北京街版 47函

まず①大正大学所蔵本については長島尚道による目録がある<sup>(9)</sup>。そして②東洋文庫本のうち、チベッ

ト大蔵経について『慧海伝』では「1 ナルタン版 仏部 101函 2 ナルタン版 祖部 224函 3 デルゲ版 仏部 100函 4 チョーネ版 仏部 108函 5 写本大蔵経 仏部 114函」とあり、さらに蔵外文獻については東洋文庫が実施した調査に基づく詳細な目録がある。<sup>(10)</sup>また、<sup>(11)</sup>③東京大学所蔵本についてはその目録カードが公開されている。<sup>(12)</sup>④立正大学所蔵本については、当館による『請求資料目録』がある。<sup>(13)</sup>⑤東北大学所蔵本については、民俗資料を中心とした資料目録の中で言及されている。<sup>(14)</sup>

### 1.3 洋装本、和装本、その他

表3 洋装本、和装本、その他

	機 関	内 容
①	東洋文庫 受入年不明	パーリ語仏典18点
②	立正大学 1952年譲渡	パーリ語(?)文献3点(詳細不明) 洋装本洋書101点 " 和書222点 和装本写本 39点 125冊 1枚 " 版本139点 409冊 28帖
③	東北大学 1955年譲渡	民俗資料など

その他の資料のうち、まず①東洋文庫所蔵本としてパーリ語仏典があるが、これは近年新たに発見・公表されたもので、東洋文庫が発行する『東洋文庫所報』にその目録が掲載されている。<sup>(15)</sup>次の②立正大学所蔵本のうち、現状で未比定のパーリ語(?)文献については先述の『請求資料目録』に掲載されているが、<sup>(16)</sup>洋装本と和装本については、本書にて本邦初公開となるものである。最後の③東北大学所蔵の民俗資料については、東北大学が実施した資料調査に基づく目録が刊行されている。<sup>(17)</sup>

以上の他、河口正の死後、慧海関連資料は慧海の姪である宮田恵美によって東京国立博物館へ寄贈され、<sup>(18)</sup>その他に東洋大学には慧海による草稿等が所蔵されている。<sup>(19)</sup>また大正大学にも、関連資料が所蔵されている。<sup>(20)</sup>

このように、慧海の旧蔵書を含む関連資料は、多数の機関に所蔵され、それらの資料調査は概ね終了しているようである。今後は、所蔵機関の枠を超えた、河口慧海旧蔵書の包括的研究が行われるべきであろう。

## 2. 立正大学における資料受入の経緯と資料調査の方法

慧海旧蔵書が立正大学へ受け入れられるまでの経緯については、『請求資料目録』<sup>(21)</sup>でも述べられている通り、慧海没後、遺族により立正大学内東西文化交流研究所へと一括譲渡されたようである。しかしながら、その経緯については今もなお不明な点が多い。本項では、立正大学への資料受入の経緯と、2009年に開始された資料調査の方法について記す。



## 2.1 東西文化交流研究所から図書館へ

現状において、立正大学への資料受入の経緯を探る上で手がかりとなり、また公表されている資料としてあげることができるものは、河口慧海の甥である河口正氏の著作『河口慧海－日本最初のチベット入国者』(=『慧海伝』)<sup>(22)</sup>のみである。その中には、彼の没後、その蔵書の一部が立正大学内の東西文化交流研究所に一括譲渡されたという記述が見出される<sup>(24)</sup>。

慧海の蔵書として洋書、和漢書その他多数あったが、彼の死後その一部は散佚したが、なお洋書二三冊、和漢書五五六部一五八九冊、及び多羅葉巴理語經典二部（七七枚、一一六枚）、ネパール語写本一部（四〇一枚）、多羅葉シャム經典一部（一四〇枚）が東西文化交流研究所に<sup>(註5)</sup>一括譲渡所蔵されている。

〔註〕(5) 東西文化交流研究所（東京都品川区東大崎四の一六〇 立正大学内）

このように『慧海伝』の中に、彼の旧蔵書の一部が立正大学内東西文化交流研究所（以下、東西研）に一括譲渡されていたことが記されている。また、当館所蔵の慧海旧蔵書について留意すべき点として、それらがすべて東西研所蔵資料に包括されている点をあげることができる。後述するように、当館における資料調査にあたっては、東西研本の中から、慧海旧蔵書を抽出する作業が必要となるのである。つまり、東西研が収集した文献資料の中に、慧海旧蔵書が収められており、東西研本の中には慧海とは関係のない資料（非慧海旧蔵書）も含まれているのである。

なお、東西研は現存しておらず、またその活動内容や時期についての詳細も不明である。しかしながら全く手がかりがないわけではなく、同研究所は雑誌『文化交流』を2冊発行しており、それらが当館にも収められている。同誌には「東西文化交流研究所の設立に至るまでの経過」の記事があり、その中で慧海の旧蔵書は次のように言及されている<sup>(25)</sup>（以下の下線は引用者による）。

### 東西文化交流研究所の設立に至るまでの経過

昭和十六（1941）年、高楠順次郎博士を中心に、三枝博音、結城令聞、石津照璽、江塚幸夫、多田淳政、三明永無等、相寄つて中山太一氏（中山文化研究所々主）の後援のもとに、東西の世界観の根本基調を研究対象として「東西文化交流研究会」を組織した。研究は、東洋の世界観の基調として、最初に唯識論を、後には更に俱舍論、天台の教学をえらび西洋の近代的世界観の代表的なものとしてカントとヘーゲルの哲学をとりあげ、東西世界観の総合研究に終始した。この成果は速記録の綴、数十冊に達し、別に三枝博音・結城令聞共著の「カントと唯識論の総合研究」をまとめた。いずれも公刊される予定である。文化交流研究会の端緒を開かれた高楠博士は昭和二十（1945）年六月、逝去され、研究会は一応解散となった。

昭和二十一（1946）年四月以降は三枝博音、J・R・ブリンクリー、佐々木峻の三名で、ヘーゲル哲学と仏教哲学のつき合わせ研究のため、読書会をもち、傍ら河口慧海師の西蔵仏教研究の資料の調査研究に着手した。

昭和二十六（1951）年八月、河口慧海師及び高楠順次郎博士の文庫を使用出来るようになったので、ここに新たに、三枝、ブリンクリー、佐々木及び結城が協力し、さらに三上次男が参

加して文化交流研究会を組織した。

この研究会の趣旨に石井光雄、伊藤忠太、石橋湛山、金森徳次郎、中山太一、赤尾好夫、鈴木大拙、中島健蔵の諸氏が賛同せられ、協力を約されたので、昭和二十七（1952）年一月、前記の人々と共に発起人会を開いて、東西文化交流研究所を創設し、四月より具体的に事業活動に着手するに至つたのである。

このように、東西研が創設されるに至る過程で「河口慧海師及び高楠順次郎博士の文庫を使用出来るようになった」とあり、この頃に慧海旧蔵書が東西研へと一括譲渡されたと推定される<sup>(26)</sup>。また、上記記事中に名があがる石橋湛山（1884-1973）の日記中、昭和26年（1951年）8月24日（金）の項には「正午三枝博音氏および佐々木峻氏東京より同伴来訪、東西文化交流研究所及び故河口慧海師蔵書買取りの件をもち来たる。これまた考慮を約す<sup>(27)</sup>」、同年8月30日（木）の項には「午後三枝博音氏来、東西文化交流研究所と河口文庫の件。赤尾好夫氏に紹介状を与う<sup>(28)</sup>」、12月14日（金）には「午後三時より文化交流研究所発起人会、クラブにて」、昭和27年（1952年）4月28日（月）には「二時すぎより東西文化交流研究会評議委員会に出席、定款等決定<sup>(29)</sup>」とあり、後に立正大学文学部教授となる三枝博音が、慧海旧蔵書買取りの件で、1952年12月1日より立正大学の学長となる石橋湛山を訪ねていたことがわかる。

他にも、慧海没後、後に立正大学文学部教授となるJ・ブリンクリーが河口宅にて「美術民族資料等」の処分にあたり力を尽くしたとの記事が残されている。そこには「同〔昭和〕22年（1947年）11月29日、〔蔵和辞典の〕編纂再開に関する打合せ会が壬生氏の手配により世田谷の河口宅において開かれ、壬生台瞬・長沢実導・田島隆純・佐々木峻・J・ブリンクリーの諸氏及び私〔河口正〕の七人が集まった。中に再開資金の一部として、慧海が請来せる美術民族資料等を処分することを要請するものがあり、私は「これを分散せず一括保管展示することを条件として譲渡しても差しつかえない」旨を言明した。ブリンクリー氏はじめいろいろの方がこれの斡旋に尽力下さったが、戦後の混乱期のこととて適当な譲渡先もないまま年月は推移した<sup>(31)</sup>」とある。

このように、現時点では慧海旧蔵書受入を裏付ける直接的な記録は見つかっていないが、以上の引用記事に基づく限り、立正大学内に慧海旧蔵書が所蔵されるまでに、石橋湛山、三枝博音、J・ブリンクリーらが関わっていたものと推定される。

以上は、慧海旧蔵書が東西研へと譲渡されるまでの記事である。その後東西研から大学図書館へと資料が移管される記録もまた、みつからない。ただし、大学図書館内部資料である「図書原簿<sup>(32)</sup>」によると、1988年に「東西研寄贈図書」として和漢書と洋書を一括で登録していることがわかる。この原簿は、慧海旧蔵書を含む東西研所蔵資料が大学図書館へ「寄贈」されたと記している。この「原簿」には登録された資料のみ（和装本の一部と洋装本のすべて）が記されているが、当館所蔵の慧海旧蔵梵文写本やチベット語文献等もまた、この時に同様に寄贈されたものと考えられる。

## 2.2 立正大学品川図書館への慧海旧蔵書受入の経緯

以下に、先述の関連記事に基づき慧海旧蔵書が立正大学品川図書館に所蔵されるに至るまでの経過をまとめて記す。

表4 河口慧海旧蔵書が立正大学品川図書館に所蔵されるまで

年 月 日	事 項
①1941年	高楠順次郎を中心に「東西文化交流研究会」を組織。
②1945年2月24日	河口慧海没す。
③1945年6月	高楠逝去により同会解散。
④1946年4月以降	三枝博音、プリングリー、佐々木峻で読書会。傍らで河口西蔵資料調査に着手。
⑤1947年11月29日	蔵和辞典編纂に関する会合にて将来品処分に関する言明が出る。そこに佐々木、プリングリーが同席。
⑥1951年8月	河口、高楠の文庫を使用できるようになった三枝、プリングリー、佐々木に三上次男を加え「文化交流研究会」を組織。
⑦1951年8月24日	三枝、佐々木が「東西研」、「河口慧海師蔵書買取りの件」にて石橋湛山を訪問。
⑧1951年8月30日	三枝が「東西研」、「河口文庫の件」にて石橋湛山を訪問。
⑨1952年1月	石橋湛山らが「文化交流研究会」の趣旨に賛同し発起人会を開き「東西文化交流研究所」を創立（湛山日記では発起人会は1951年12月とする）。
⑩1952年4月	同研究所事業活動に着手。
⑪1952～56年	河口旧蔵書が東西研に一括譲渡。
⑫1988年	立正大学大崎図書館（現品川図書館）が東西研寄贈図書（洋装本）を原簿に登録。 和装本は未登録本として書庫内に別置。
⑬2004年頃～2009年	東西研寄贈図書（和装本）が他の未登録本と混配され、それと気づかれな いまま一部が登録される。
⑭2009年	同寄贈図書中に河口慧海旧蔵書が見出される。

以上のように、当館に所蔵される慧海関連資料は、東西文化交流研究所蔵書の一部を構成するものである（実際のところ、当館が所蔵する東西研所蔵書中のほぼすべてが慧海旧蔵書となる）。この点において、当館所蔵の慧海関連資料調査を進める中で、その全容がみえないという問題点が露わになってくることになる。このような現状をふまえると、当館の中から、彼の旧蔵書が新たに発見される可能性も十分考えられるといえる。

## 2.3 資料調査の方法

当館における慧海旧蔵書の調査は、当初よりその目的が明確であったわけではなく、当初は当館所蔵の未登録資料の整理業務としてはじめられたのであった。実際のところ、未登録資料の中から、

慧海将来の梵文写本、そしてチベット語文献が見出されたことにより、慧海旧蔵書の資料調査という目的が明確になったのである。その後、既に図書登録がなされた上で配架されていた洋装本と和装本の一部の中から、次いで未登録資料として扱われていた和装本の中から彼の旧蔵書を抽出する作業が、慧海旧蔵書調査として行われることになった。以下に、当館における慧海旧蔵書調査の方法と進め方について紹介することとしたい。

先述の通り、2009年まで、当館所蔵の慧海旧蔵書が「慧海旧蔵書」として理解されていたわけではなかった。そのような状況から該当資料を抽出する作業（特に洋装本と和装本について）は次のように進められた。

まず、洋装本は2009年の時点でほぼすべてが図書登録済み（東西研から図書館への寄贈本という扱いで1988年の時点で一括登録されていた）であり、閉架・開架に関わらず、閲覧・貸出利用ができる状態となっていた。これらの奥付には「東西研寄贈資料」というシールが当館によって貼付され、その原簿にもまた東西研からの寄贈の旨が記されていた。つまり、これら洋装本を手がかりとして、慧海旧蔵書の全体像は東西研寄贈書の中にすべて包摂されているということが明らかとなった。そしてその東西研寄贈書の中から慧海旧蔵書を取り出すために、後述の判断基準の設定が必要となるのである。

次に、和装本は、1988年の時点では登録を見送られ、未登録本として書庫内に別置されていた。その後、2004年頃から、当館では未登録の和装本をNDC分類により積極的に整理・登録していったが、その際、東西研寄贈の和装本は別置を解かれ、他の未登録の和装本と混ぜられてしまった。おそらく、その頃には、東西研寄贈の和装本の存在は忘れられ、別置の経緯も不明になっていたと考えられる。

そのため、2009年の時点で東西研寄贈の和装本の一部はそれと認識されないまま図書登録済みとなっており、洋装本同様に閲覧利用ができるようになっていた。それ以外の和装本は、依然として未登録本の中に残され、当館が業者に依頼し作成した帙におさめられたものもあれば、帙もなくそのまま置かれているものもある、という状況で保存されていた。先の洋装本には「東西研寄贈資料」シールが貼付され、それと対応するように図書原簿へも東西研寄贈資料との記載がなされていたのに対し、和装本については、シールも、対応する図書原簿への記載もなかった。そのため、和装本については、洋装本の調査の過程で明らかとなった、慧海旧蔵書と比定することができる資料的特徴を基準とした上で、それを和装本に当てはめ、慧海旧蔵書か否かを判断することとなった。

以上の調査の中で、慧海旧蔵書と比定するための判断材料として、以下の4点を設定した。

- ① 資料への署名：慧海本人による署名が付されたもの。
- ② 資料への押印（蔵書印<sup>(33)</sup>）：彼の蔵書印や彼が創始した佛教宣揚會の蔵書印などが押印されたもの。
- ③ 資料への書入れ：本人によると推定される筆跡をもつ書入れがあるものや、慧海への寄贈の旨を記した彼の弟子等による書入れがあるもの。
- ④ 背表紙への刻印・ラベルの貼付<sup>(34)</sup>：蔵書の背表紙に慧海の名が記されたものや、洋装本の背表紙や和装本の表紙などに特有のラベルが貼付されたもの。



以上のように、慧海旧蔵であるか否かの判断基準を設定した。それらの詳細は、写真とともに本書の目録や解題にて紹介する。

なお、本調査では非慧海旧蔵書とする根拠も定めたが、それは1946年以降に発行されたもの（慧海は1945年没）、というものである。

このように、当館における慧海旧蔵書の調査にあたっては、当館所蔵資料の内、登録済、あるいは未登録本の中から、東西研所蔵資料を抽出し、そして東西研所蔵資料から、河口慧海関連資料の抽出作業を行った。和装本の場合は、東西研所蔵資料の痕跡を確認できないため、登録・未登録本の中から、直接、慧海関連資料を抽出していった<sup>(35)</sup>。しかし、この基準も絶対ではない。特に和装本資料の場合は、洋装本のように「図書原簿」に記載がなく、その全体像が把握できていないため、上記の判断基準を満たしていないけれども、実は慧海旧蔵書である資料が存在した場合、それを慧海旧蔵書と比定することができなくなる。そのため、和装本においては、調査の過程で判明した個別の判断基準も用いている（解題3参照）。それでも、当館所蔵の和装本未登録資料の中には、今もなお、慧海旧蔵書が眠っている可能性は大いにある。

なお、当館が所蔵する慧海旧蔵の洋装本と和装本の全体数を知る上でてがかりとなるものは、先に示した『慧海伝』の「洋書231冊、和漢書556部1589冊」という記述のみであるが、現在把握している数は洋書が101冊、洋装本の和書が222冊、和装本が178部563冊（28帖と1枚も冊として数えた場合）である。洋書はおよそ4割、「和漢書」については、洋装本の和書と和装本を「和漢書」とみなした場合、785冊となり、洋書と同様に半数に満たない計算となる。東西研が譲渡を受けた後に、多くの文献が失われていることになるが、それらの行き先は、現状において不明である。

### 3. 立正大学所蔵資料の特徴

立正大学に所蔵される慧海旧蔵書の特徴をまとめると、当館所蔵の文献資料の全体数は他の所蔵機関に比して少数であるといえるものの、当館所蔵資料が彼の遺品であること、またそのことと関連して、その文献の種類が多様であること、ということになる。

#### 3.1 遺品であること

先に述べたとおり、当館が所蔵する慧海旧蔵書は、慧海の没後、遺族の遺志によって東西研へ譲渡されたものであった。この点から、当館への資料の受入は、彼自身の意図するところではなかったということになる。彼は自らの蔵書に対して蔵書印やラベルを付しており、そのことから、彼は管理を積極的に行っていたことがわかる。

このように管理されていた蔵書が、本人の遺志ではないにせよ、まとまったかたちで当館に所蔵されていることは、彼の蔵書構成、またそこから推定される彼の思想やその事績を知るためには貴重な情報を提供しうるものと考えられる。

#### 3.2 文献の種類が多様であること

次に、当館所蔵旧蔵書の資料形態の多様性をあげることができる。先述した通り、当館所蔵資料は、いわば彼の遺品であること、とも関連するが、それらを資料形態よりみれば、梵文写本やチベッ

ト語文献のような特殊資料（貝葉型）の他、洋装本（和書と洋書）、和装本（写本と版本）がある。梵文写本の中には、従来失われたことになっていた梵文『華嚴經入法界品』（*Gaṇḍavyūha*）写本、またチベット語文献の中には、彼が第1回チベット旅行で入手したことが明らかなチベット語訳『八千頌般若』（*Phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa brgyad stong pa*）がある。さらに当館には、洋装本と和装本が所蔵されているのである。従来、彼の旧蔵書、特に洋装本や和装本については、その存在自体が知られておらず、従ってその調査が行われることもなく、その全容は長らく不明なままであった。

なお、先に記した通り、当館が所蔵する彼の旧蔵書が彼の遺品であったことから、そこに彼の晩年の関心事が反映されている、とみることも不可能ではないであろう。

### 3.3 蔵書構成の再構築の可能性

先述した通り、当館所蔵資料に関わらず、慧海旧蔵書には、蔵書管理ラベル（整理番号か）のようなものが貼付されているものがみられる。このラベルが実際にどのような意図のもとで付されたものであるのか、詳細は不明であるが、以下にそのラベルの順に従い、当館に所蔵される彼の旧蔵書を一覧（ラベルの貼付が確認されるもののみ）で記すこととしたい。

表5 ラベルに基づく慧海旧蔵書一覧

ラベル	書名	仏宣会印	資料No.
い 4 . 9	<i>Buddhist Texts of the Buddhists Text Society of India</i>	○	洋洋038
い 4 . 10	<i>Buddhist Texts of Buddhists Text Society</i>	○	洋洋039
い 4 . 12	<i>Journal of the Buddhist Text Society of India</i>	○	洋洋030
い 4 . 14	<i>Journey to Lhasa and Central Tibet</i>	○	洋洋053
[い 4] . 15	<i>Among the Himalayas</i>	○	洋洋067
い 4 . 16	<i>Hand Book of Colloquial Tibetan</i>		洋洋077
い 4 . 18	<i>Lhasa</i>	○	洋洋056
い 4 . 19	<i>The Hymns of the Samaveda</i>	○	洋洋010
い 4 . 20	<i>A Handful of Popular Maxims</i>	○	洋洋090
い 5 . 1 . 3	剃度直授菩薩戒儀軌	○	和版096
い 5 . 2 . 1	賣茶翁偈語	○	和版106
い 5 . 2 . 2	義楚六帖	○	和版005
い 5 . 2 . 4	密嚴上人行狀記	○	和版089
い 5 . 2 . 6	[兩部金剛名号]	○	和写015
い 5 . 2 . 7	五供養偈注	○	和版087
い 5 . 2 . 8	舍利禮文鈔	○	和版088
い 5 . 2 . 9	兩部曼荼羅私抄	○	和版078
い 5 . 2 . 10	菩提心論第三段秘記	○	和版063
い 5 . 2 . 11	歷朝華嚴經持驗紀	○	和版036

ラベル	書名	仏宣 会印	資料No.
い 5 . 2 . 12	魚山私鈔	○	和版092
い 5 . 2 . 13	聲字實相義口筆	○	和版075
い 5 . 3 . 1	異譯心經	○	和版029
い 5 . 3 . 3	乘法四縁	○	和写025
い 5 . 3 . 4	大乘義章	○	和版065
い 5 . 3 . 6	般若心經異本	○	和写004
い 5 . 3 . 8	花嚴五教章玄談	○	和写005
い 5 . 3 . 10	金剛供	○	和写029
い 5 . 3 . 11	宝篋印陀罗尼功德集	○	和写022
い 5 . 3 . 12	四種曼陀羅義	○	和写021
い 5 . 3 . 14	曼荼羅供作法	○	和写028
い 5 . 3 . 15	釋摩訶衍論骨髓鈔	○	和写012
い 5 . 3 . 16	八轉聲記 [ほか]	○	和写038
い 5 . 3 . 17	華嚴五教章聽講録	○	和写007
い 5 . 3 . 18	諸宗教理同異釋	○	和版085
い 5 . 3 . 19	梵網經盧舍那佛說菩薩心地 法門品第十	○	和版060
い 5 . 3 . 20	親鸞聖人繪詞傳	○	和版094
い 5 . 3 . 21	橘窓茶話	○	和版132
い 5 . 3 . 22	神代正語	○	和版001
い 5 . 3 . 23	教觀綱宗；教觀綱宗釋義	○	和版070
い 5 . 3 . 24	梵室偶談；見聞録	○	和版069
い 5 . 3 . 25	三昧耶戒序資秉記	○	和版077
い 5 . 3 . 26	和泉名所圖會	○	和版108
い 5 . 3 . 27	梧窓漫筆 [前編]	○	和版133
い 5 . 3 . 28	梧窓漫筆後編	○	和版134
い 5 . 3 . 29	梧窓漫筆三編	○	和版135
い 5 . 4 . 1	簠簋口傳初心鈔	○	和版109
い 5 . 4 . 2	佛說地藏菩薩發心因縁十王經	○	和版037
い 5 . 4 . 4	古事記	○	和版131
い 5 . 4 . 5	(増補) 谷文晁本朝畫纂大全 [前編]	○	和版114
い 5 . 4 . 7	唐賢絶句三體詩法	○	和版139
い 5 . 4 . 9	慈氏菩薩略修愈識念誦法	○	和写009
い 5 . 4 . 10	大方廣佛華嚴經淨行品第七搜探二玄記	○	和版035
い 5 . 4 . 12	科註妙法蓮華經	○	和版030
い 5 . 4 . 13	胎藏界口傳抄 (第2冊)	○	和写018
い 5 . 4 . 14	金剛畧疏	○	和版025

ラベル	書名	仏宣 会印	資料No.
い 5 . 4 . 16	鎮州臨濟慧照禪師語錄	○	和版105
い 5 . 4 . 18	占察善惡業報經玄義	○	和版039
い 5 . 4 . 19	占察善惡業報經疏	○	和版040
い 5 . 5 . 2	分別六合尺弁義	○	和写039
い 5 . 5 . 3	胎藏界口傳抄 (第1冊)	○	和写018
い 5 . 5 . 4	禪宗無門關鈔	○	和版099
い 5 . 5 . 6	新義聲明大典	○	和版093
い 5 . 5 . 8	聖歡喜天叢書甲集	○	和版071
い 5 . 5 . 9	大日經教主義	○	和版048
い 5 . 5 . 10	冠註即身成佛義	○	和版081
い 5 . 5 . 12	永平高祖傘松道詠略解	○	和版097
い 5 . 5 . 16	大華嚴經畧策	○	和版034
い 5 . 5 . 17	冠註四部錄	○	和版100
い 5 . 5 . 18	雜問答	○	和版083
い 5 . 5 . 19	薄伽梵大金剛阿闍梨位法性大日義	○	和版050
い 5 . 5 . 20	警覺心續生義	○	和版080
い 5 . 5 . 21	大唐西域求法高僧傳	○	和版003
い 5 . 5 . 22	愛染最深秘訣	○	和写026
い 5 . 5 . 23	釋門章服儀應法記	○	和版054
い 5 . 5 . 24	科註般若心經秘鍵	○	和版028
い 5 . 5 . 26	大毘盧遮那經住心鈔	○	和版051
い 5 . 5 . 27	六合釋精義	○	和版128
い 5 . 9 . 17	茶祖珠光傳	○	和写037
ろ 3 . 14	華嚴部章疏 (日本大藏經)	○	洋和065
ろ 3 . 15	華嚴部章疏二 (日本大藏經)	○	洋和066
ろ 3 . 16	華嚴部章疏之餘; 方等部章疏一 (日本大藏經)	○	洋和068
ろ 3 . 17	方等部章疏二 (日本大藏經)	○	洋和070
ろ 3 . 18	方等部章疏三 (日本大藏經)	○	洋和074
ろ 3 . 19	方等部章疏四 (日本大藏經)	○	洋和076
ろ 3 . 20	方等部章疏五 (日本大藏經)	○	洋和089
ろ 3 . 21	方等部章疏六 (日本大藏經)	○	洋和098
ろ 3 . 22	理趣經釋章疏一 (日本大藏經)	○	洋和095
ろ 4 . 1	<i>Bhāvanagaraprācīna Śodhasaṃgraha</i>	○	洋洋029
ろ 4 . 12	<i>Principles of Tantra Part 1</i>	○	洋洋001
ろ 4 . 13	<i>Tantra of the Great Liberation (Mahānirvāna Tantra)</i>	○	洋洋009
ろ 4 . 14	<i>Hymns to the Goddess</i>	○	洋洋005



ラベル	書名	仏宣 会印	資料No.
ろ 4 . 15	<i>On Yuan Chwang's Travels in India, vol. 1</i>	○	洋洋064
ろ 4 . 16	<i>On Yuan Chwang's Travels in India, vol. 2</i>	○	洋洋065
ろ 4 . 19	<i>The History of India</i>	○	洋洋048
ろ 4 . 20	<i>The Religions of India</i>	○	洋洋002
[ろ 4] . 21	<i>Chinese Religion through Hindu Eyes</i>	○	洋洋018
ろ 4 . 23	<i>A Sanskrit Grammar for Beginners ...</i>	○	洋洋081
ろ 5 . 2	<i>A Collection of Prakrit and Sanskrit Inscriptions</i>	○	洋洋026
ろ 5 . 4	<i>Inscriptions of Asoka</i>	○	洋洋027
ろ 5 . 5	<i>History of Nepāl</i>	○	洋洋050
は 1 . 4	禪林象器箋	○	洋和132
は 1 . 7	能海寛遺稿	○	洋和164
は 2 . 1	般若部章疏（日本大藏經）	○	洋和099
は 2 . 2	法華部章疏一（日本大藏經）	○	洋和082
は 2 . 3	法華部章疏二（日本大藏經）	○	洋和092
は 2 . 4	法華部章疏三（日本大藏經）	○	洋和094
は 2 . 5	密經部章疏上一（日本大藏經）	○	洋和088
は 2 . 6	密經部章疏上二（日本大藏經）	○	洋和090
は 2 . 7	密經部章疏下一（日本大藏經）	○	洋和096
は 2 . 8	密經部章疏下二（日本大藏經）	○	洋和100
は 2 . 9	大乘律章疏一（日本大藏經）	○	洋和083
は 2 . 10	大乘律章疏二（日本大藏經）	○	洋和085
は 2 . 11	大乘律章疏三（日本大藏經）	○	洋和105
は 2 . 12	大乘律章疏之餘；小乘律章疏一（日本大藏經）	○	洋和086
は 2 . 13	華嚴淨土論章疏（日本大藏經）	○	洋和071
は 2 . 14	眞言密教論章疏上（日本大藏經）	○	洋和078
は 2 . 15	眞言密教論章疏下（日本大藏經）	○	洋和080
は 2 . 16	諸大乘論章疏一（日本大藏經）	○	洋和087
は 2 . 17	三論章疏一（日本大藏經）	○	洋和084
は 2 . 18	三論章疏之餘；掌珍智度宗輪論章疏（日本大藏經）	○	洋和093
は 2 . 19	唯識論章疏一（日本大藏經）	○	洋和091
は 3 . 1	唯識論章疏二（日本大藏經）	○	洋和097
は 3 . 2	金七十論章疏；十句義論章疏ほか（日本大藏經）	○	洋和103
は 3 . 3	三論宗章疏（日本大藏經）	○	洋和067
は 3 . 4	三論宗章疏之餘；法相宗章疏一（日本大藏經）	○	洋和069
は 3 . 5	法相宗章疏二（日本大藏經）	○	洋和073
は 3 . 6	戒律宗章疏（日本大藏經）	○	洋和075

ラベル	書名	仏宣 会印	資料No.
は 3 . 7	戒律宗章疏二（日本大藏經）	○	洋和077
は 3 . 8	戒律宗章疏三（日本大藏經）	○	洋和079
は 3 . 9	華嚴宗章疏〔上〕（日本大藏經）	○	洋和104
は 3 . 10	華嚴宗章疏下（日本大藏經）	○	洋和106
は 3 . 11	天台宗顯教章疏一（日本大藏經）	○	洋和108
は 3 . 12	天台宗顯教章疏二（日本大藏經）	○	洋和110
は 3 . 13	天台宗密教章疏一（日本大藏經）	○	洋和107
は 3 . 14	天台宗密教章疏二（日本大藏經）	○	洋和109
は 3 . 15	天台宗密教章疏三（日本大藏經）	○	洋和112
は 3 . 16	眞言宗事相章疏（日本大藏經）	○	洋和111
は 3 . 17	曹洞宗章疏（日本大藏經）	○	洋和072
は 3 . 18	修驗道章疏一（日本大藏經）	○	洋和081
は 3 . 19	修驗道章疏二（日本大藏經）	○	洋和101
は 3 . 20	修驗道章疏三（日本大藏經）	○	洋和102
は 5 . 1 . 1	華嚴普賢行願品宗通畧疏	○	和版101
は 5 . 1 . 2	佛所行讚經（黄檗版大藏經）	○	和版023
は 5 . [1]. 3	佛說大阿彌陀經（黄檗版大藏經）	○	和版021
は 5 . 1 . 4	大方廣三戒經（黄檗版大藏經）	○	和版011
は 5 . 1 . 5	佛說無量清淨平等覺經（黄檗版大藏經）	○	和版012
は 5 . 1 . 6	佛說阿閼佛國經〔ほか〕（黄檗版大藏經）	○	和版014
は 5 . 1 . 7	金光明經（黄檗版大藏經）	○	和版018
は 5 . 1 . 8	金光明最勝王經（黄檗版大藏經）	○	和版016
は 5 . 1 . 9	金光明經（黄檗版大藏經）	○	和版017
は 5 . 1 . 11	妙法蓮華經（黄檗版大藏經）	○	和版019
は 5 . [1]. 12	添品妙法蓮華經（黄檗版大藏經）	○	和版020
は 5 . 2 . 2	（冠註）住心品疏略解	○	和版049
は 5 . 2 . 4	大佛頂如來密因修證了義諸菩薩萬行首楞嚴經合轍	○	和版052
は 5 . 2 . 5	達磨多羅禪經說通考疏	○	和版103
は 5 . 3 . 4	十善法語	○	和版091
は 5 . 3 . 5	宗門無盡燈論	○	和版102
は 5 . 4 . 1	三休老人生死辯	○	和版095
は 5 . 4 . 2	悉曇連聲傳授切韻口決	○	和版130
は 5 . 4 . 3	冠註一鹹味	○	和版098
は 5 . 4 . 4	種子集	○	和版073
は 5 . 4 . 6	阿字觀正訣	○	和写023
は 5 . 4 . 7	開題	○	和版027

ラベル	書名	仏宣 会印	資料No.
は 5 . 4 . 8	御遺告釋疑鈔	○	和版084
は 5 . 4 . 9	大和三教論 [前編]	○	和版002
は 5 . 4 . 11	大疏談義	○	和版053
は 5 . 5 . 5	大毘盧遮那成道經心目	○	和版044
に 1 . 13	<i>Selections from Modern English Literature</i>		洋洋100
に 1 . 14	<i>On the Threshold of Three Closed Lands</i>		洋洋066
に 1 . 15	<i>The Story of Hawaii</i>		洋洋052
に 1 . 21	<i>Self-help</i>		洋洋072
に 3 . 1 . 10	廣日本文典 全	○	洋和203
に 3 . 2 . 9	冠導阿毘達磨俱舍論	○	和版064
に 3 . 2 . 10	大藏輔國集	○	和版009
に 3 . 4 . 3	緣山三大藏目錄	○	和版007
に 4 . 1 . 1	阿毘達磨俱舍論講要義林 (第1冊)	○	和写010
に 4 . 2 . 1	不動忿怒瑜伽要鈔	○	和写016
に 4 . 2 . 2	開心秘決	○	和写017
に 4 . 2 . 3	駄都法口決抄	○	和写030
に 4 . 2 . 4	愛染王法口傳抄	○	和写031
に 4 . 2 . 5	阿毘達磨俱舍論講要義林 (第27冊)	○	和写010
に 4 . 2 . 6	諸尊法口決	○	和写024
に 4 . 2 . 7	華嚴五教章講錄	○	和写006
に 4 . 3 . 1	釋摩訶衍論謂立集	○	和写013
に 4 . 3 . [2]	三教指皈註刪	○	和写019
に 4 . 3 . 3	要法授訣鈔	○	和写033
に 4 . 3 . 8	僧徒官位事	○	和写014
に 4 . 3 . [ ]	要法授訣鈔	○	和写034
に 5 . 1 . 1	南本大般涅槃經會疏解	○	和版038
に 5 . 2 . 1	供養法疏略鈔	○	和版086
に 5 . 2 . 4	秘抄問答	○	和写032
に 5 . 3 . 3	菩提心論教相記	○	和版062
に 5 . 4 . 1	東國高僧傳	○	和版004
に 5 . 4 . 2	四分律行事鈔資持記	○	和版058
へ様の式 上	巴理語梵典 シンハリ文字ヲ羅葉		請来003
へ様の二 下	暹羅ヲ羅葉經典		請来004
へ様の二 下	印度佛蹟寫真帖	○	和版113
は [ . ]	梵漢對訳佛教辭典：翻譯名義大集		洋和042
ラベル剥離	<i>Tantrik Texts</i>	○	洋洋008

ラベル	書名	仏宣会印	資料No.
ラベル剥離	<i>Tibetan Tales Derived from Indian Sources</i>	○	洋洋024
ラベル剥離	佛教心理の研究	○	洋和052
ラベル剥離	科金剛界蓮華部心念誦儀軌	○	和版043

※[ ] はラベルの一部破れや、汚れにより判読が困難な箇所。ラベル表記は仮名と算用数字に統一。

※当館では、状態の悪かった資料をいくつか修復している。この際にラベルが失われたものも多数あると考えられる。末尾の4点は、ラベルが貼られていた跡が確認できるが、判読不能なもの。

以上を概観すると、次の点を指摘することができる。まず、ラベルに振られた番号は、文献の分類番号というよりも、整理番号という役割を果たすものと考えられる（このように仮定すると、文献の整理順が明らかになる可能性がある）。

次に、仏宣会印押印本とラベル添付本とはほぼ一致しているものと考えられる。仏教宣揚会が図書館建立を目指していたことについてすでに言及したが、そのこととの関連も考えられる<sup>(36)</sup>。

また、ラベル番号のうち、例えば「は5.1.1」など、数字部分が3桁になるものは、基本的に和装本資料にみられることがわかる。

なお、東洋文庫所蔵の Śriśa Chandra Vasu & Vāmana Dāsa Vasu 著 *The Siddhānta Kaumudī of Bhattoji Dikshita*. Allahabad, 1904-1907（請求番号：XII-12-B-f-49）全5冊の背表紙には「ろ4.4」から「ろ4.8」までのラベルが付されていること、また東洋文庫所蔵の「チベット語訳『法華経』紺紙金銀泥写本」（蔵外-333）には「へほの三上」のラベルが貼付されていること<sup>(37)</sup>、さらに東洋文庫所蔵の梵文写本、Mādhava 著 *Rugviniścaya* および Vṛnda 著 *Siddhayoga* を中心とする医学文献（SKT-MS-28）には、「へロの一下」のラベルが貼付されていることが指摘されている<sup>(38)</sup>。これら東洋文庫所蔵本に添付された「ろ4.4」「ろ4.5」「ろ4.6」「ろ4.7」「ろ4.8」等のラベルが付された書籍類は、当然とすべきか、当館には見出されない。上掲の一覧表の通り、当館所蔵本は「ろ4.1」以降、「ろ4.12」まで欠けている。

このように、ここで取り上げたラベルをたよりとして、現在各機関に所蔵されている河口慧海旧蔵書群の全体像（あるいはその一部）を再現することが可能であると考えられる。

## 注

- (1) 1923（大正12）年には「12月 東京美術学校にて保管の将来美術品、所蔵のチベット仏典、和漢書籍を、全部宗教大学図書館に委託保管」（高山 [2002: 340] による）との言及がなされているが、そこに記される「和漢書籍」の行き先やその詳細については不明である。あるいは、これらの「和漢書籍」が東西研を通じて当館に収められているのか。
- (2) 後に高山 [2002: 148-161] に再録。また、河口慧海研究会編『和文草稿篇』（『河口慧海著作集』補巻2下巻、USS出版、2011年）に収録されている。
- (3) 河口正「将来梵語原典並びにチベット訳仏典」河口正著『河口慧海』（河口正 [1961: 168-174]）（同 [2000: 216-227]）。
- (4) 東北大学「河口慧海請来品収蔵機関一覧」佼成出版社編『河口慧海請来チベット資料図録』（佼成出版社 [1986: 375]）。これには東北大学版と佼成出版版とがあるが、両者の異同については田中 [1990] に詳しい。

- (5) 立正大学大崎図書館「河口慧海請来文献とその収蔵機関」『立正大学大崎図書館所蔵河口慧海請来資料解題目録』(立正大学大崎図書館 [2013: 78-79])。
- (6) 河口正 [1961: 173]、同 [2000: 225] を参照。東京大学所蔵本の詳細については、Matsunami [1965] (いわゆる「松濤目録」、そしてその利用方法を記した書評、辻直四郎 [1966] を参照。なお、「松濤目録」の前身となるものに、Tokyo University Library [1959] がある。また、東京大学東洋文化研究所「東京大学総合図書館所蔵 南アジア・サンスクリット語写本データベース」<http://utlsktms.ioc.u-tokyo.ac.jp/> (20170501) も参照。
- (7) Kaneko [1979]、また堀 [2012] を参照。
- (8) 立正大学大崎図書館 [2013] を参照。
- (9) 長島 [1975] を参照。
- (10) 河口正 [1961: 168]、同 [2000: 216-217]、また壬生 [1955: 1] を参照。チョーネ版カンギユル目録は壬生 [1959]、ナルタン版カンギユル目録については宗川 [1961] と長島 [1975]、写本大蔵経カンギユル目録は齋藤 [1977] を参照。
- (11) 『慧海伝』によれば「1 史的資料 22点・77部 2 スムブン及び古派文献 17点 3 註釈書 23点・61部 4 その他 3点」とする。資料調査に基づく詳細は東洋文庫 [2002] を参照。
- (12) 東京大学附属図書館「チベット大蔵経ナルタン版・テンギユル カード目録データベース」<http://tibet.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/tibet/> (20170501) を参照。また末木 [2001: 7] を参照。
- (13) 立正大学大崎図書館 [2013] を参照。
- (14) 同目録によれば、北京街版を中心として、Dalai lama VII (Blo bzang bskal bzang rgya mtsho) 全書、Lcan skya I (Lcan skya ngag chos ldan ngag mtsho) 全書、Klong rdol bla ma (Ngag dbang bla bzang) 全書、Blo bzang batan pa'i rgyal mtshan dpal bzang po 全書、Dge slong blo bzang tshul khrim 全書、Blo bzang phrin las 全書、その他を収蔵しているという。佼成出版社 [1986: 375] を参照。また田中公明 [1990] および東北大学文学部東洋・日本美術史研究室 [1986] を参照。また、東北大学総合学術博物館「河口慧海コレクション」[http://webdb2.museum.tohoku.ac.jp/data\\_base/tounitibi/ekai/index.html](http://webdb2.museum.tohoku.ac.jp/data_base/tounitibi/ekai/index.html) (20170501) を参照。
- (15) 庄司 [2014a] を参照。
- (16) 『慧海伝』には「…多羅葉巴理語經典二部 (77枚、116枚)、ネパール語写本一部 (401枚)、多羅葉シャム經典一部 (140枚)」とある (河口正 [1961: 173]、同 [2000: 226]) が、詳細については未だ明らかではない。今後の調査が望まれる。
- (17) 河口正 [1961: 166-167]、同 [2000: 215]、東北大学 [1986]、佼成出版社 [1986]、田中公明 [1990] を参照。
- (18) 河口正没後、慧海のもとに残されていたものは、宮田恵美によって東京国立博物館に寄贈されたという。「さて「河口コレクション」については、あまりにたくさんの分量で、私にもよく分からないのですが、慧海は大正六年 (一九一七年) に、きちんと説明つきの写真集に作ってあります。(中略) これらいろいろな物は「河口コレクション」と言われて、戦後、外国からも買いたいと言われましたが、日本のどこか一カ所にといい、亡き慧海の意向もありましたので、その多くは、私の兄の時代に東北大学に買っていただき、残りの、いつも慧海の身の周りに置いてあった物は、母が亡くなった時、私の意向で東京上野の東京国立博物館に寄贈しました」(宮田恵美 [2007: 302, 304])
- (19) たとえば『河口慧海著作集』第17巻所収「実事録」「日本文書状下校」「私文草稿」「在家仏教修行道場開設の辞」の4点は東洋大学所蔵である。
- (20) たとえば『河口慧海著作集』補巻1英文草稿篇(上)所収「西藏文法書草稿ノート」「サンスクリット研究草稿ノート」(4冊)は大正大学附属図書館所蔵である。
- (21) 立正大学大崎図書館 [2013]。
- (22) 『慧海伝』には「河口正 (かわぐち あきら) 大正7年3月12日、大阪に生まれる。ほどなく東京に移る。昭和15年、東京商大商学専門部を卒業し、日本郵船本社へ入社。同17年、郵船より派遣され、日本製鉄嘱託を兼務。同19年、郵船退社。日本製鉄社員となり、軍需省嘱託となる。同23年、病気のため日本製鉄退社。以来、静養かたがた伯父慧海の業績を整理・研究する。昭和37年4月24日没」と説明されている。
- (23) 『慧海伝』執筆に用いられた資料は以下のとおりである (同著あとがきより)。



『西藏旅行記』上・下、2『河口慧海師伝』、3『河口慧海師略伝並年譜』、4『入蔵記』、5『続、チベット旅行記』、6『第二回チベット旅行』（草稿）、7日記・書翰・手記、8新聞・書籍・雑誌その他の印刷物等。

- (24) 河口正 [1961: 173-174]、同 [2000: 226-227]。  
 (25) 『文化交流』第1巻1号(1952年、31頁)。  
 (26) 引用文中の「高楠順次郎博士の文庫」の内容とその行き先については不明。当館にはそれらは残されていないようである。  
 (27) 石橋 [2001a: 439]。  
 (28) 石橋 [2001a: 441]。  
 (29) 石橋 [2001a: 468]。  
 (30) 石橋 [2001b: 501]。  
 (31) 河口正 [1961: 190]、同 [2000: 250-251]。  
 (32) 『原簿 大崎 和漢書 (88-1518~3147)』登録番号は88-2471から2697まで。  
 原簿 大崎 洋書 (87-1~88-690)』登録番号は88-487から582まで。  
 (33) 「佛教宣揚會之蔵書印」と河口慧海個人の蔵書印とがある。  
 佛教宣揚會とは、「大正7年、雪山會を佛教宣揚會と改め、布教及翻譯に従事、毎日曜仏教講話及少年会を催す」（「年譜」慧海師後援会、昭和2年発行より）とあるように、河口慧海によって設立され、1918-1927年まで存続したものである。つまり、同蔵書印が押印された資料は、河口旧蔵文献といえる。東洋文庫では既に、河口請求資料調査において、この蔵書印の有無を河口本同定の根拠としている（東洋文庫 [2002: 2]）。  
 なお、河口慧海の印譜は、『著作集別巻3』に「印譜」としてまとめられている（著作集別巻3 [2004: 489-496]）。  
 (34) 河口旧蔵書におけるラベルの貼付については、庄司 [2010: 36-38] にて指摘した。その後、堀伸一郎氏は東洋文庫所蔵の梵文写本 SKT-MS-28 に付されたラベル「へろの一下」によって同写本を河口将来とする根拠として用いている（堀 [2013: 3]）。  
 (35) 当館が所蔵する東西研からの寄贈書の中、河口慧海が没した1945年2月24日以降に発行された書籍については、河口慧海旧蔵書ではない可能性がある。該当する資料は洋和005、同029、同054、同062、同142、同151、同152、同153、同154、同155、同156、同157、同158、同166、同177、同181である。なお洋装本の内、洋書はすべて1945以前の発行のものであったため、ここに含まれないことになる。この他に、発行年は慧海の没年以前であるものの、蔵書印や書入れなどから、慧海旧蔵書ではないと推定されるものがある。洋和003、同009、同010、同024、同149、同167、同170、同176、同178、同179、同180、同184である。また、本書に記載する資料の中には、実際には当館において既に除籍され、存在しないものもある。洋和019、同050、同058、同063、同163、同185、同209、同212、同213、同214である。これらについては図書館内「図書原簿」を頼りに書誌情報を記した。  
 (36) 筆者は『請求資料目録』において、慧海が創始した仏教宣揚會の会則にある「図書館建立」と関連させ、彼の蔵書に貼付されたラベルの意図を推定してみたが（立正大学大崎図書館 [2013: 106] の注(59)を参照）、真意は不明なままである。  
 (37) 庄司 [2011] を参照。さらに *The Siddhanta Kaumudi of Bhattoji Dikshita* には「佛教宣揚會蔵書之印」が押印されていることが指摘されている（東洋文庫 [2002: 4]）。  
 (38) 堀 [2013: 3] に指摘されている。注(34)を参照。

\* 本書では、「将来資料」等のように、持って来ることを意味する語を「将来」と表記する。ただし、書名等の場合には「請求」を用いることもある。

## 分類構成

0 総記		
図書館	010	洋和001
一般論文集・講演集	040	洋和002
1 哲学		
哲学各論	110	洋和003
東洋思想	120	洋和004-008 洋洋001-014 和版001-002
西洋哲学	130	洋和009
心理学	140	洋和010-011 洋洋015-016 和写001-002
倫理学	150	洋和012-019
宗教	160	洋和020-024 洋洋017-019
神道	170	洋和025-027
仏教 仏教(全般)	180	洋和028-049 洋洋020-031 和版003-008 和写003
仏教教理	181	洋和050-055 洋洋032-037 和版009
釈迦, 仏弟子	182	洋和056-062 和版010
経典(全般)	183	洋和063-064 洋洋038-039 洋和065-113 和版011-024 洋和114-126 洋洋040-043 和版025-053 和写004-009
日本大蔵経		洋和065-113
黄檗版大蔵経		和版011-024
経および経疏		洋和114-126 洋洋040-043 和版025-053 和写004-009
律および律疏		和版054-060
論および論疏		洋和127 和版061-065 和写010-013
仏会	186	和写014
布教, 伝道	187	洋洋044
各宗	188	
華嚴宗		和版066
天台宗		和版067-072
真言宗		洋和128-129 和版073-094 和写015-035
真宗		洋和130 和版094
禅宗		洋和131-136 和版095-106
日蓮宗		洋洋045
キリスト教	190	洋和137-138 洋洋046

2 歴史		
日本	210	洋和139-143
アジア	220	洋和144-148 洋洋047-050 和版107
アフリカ	240	洋洋051
オセアニア	270	洋洋052
伝記	280	洋和149
地理	290	洋和150-166 洋洋053-069 和版108
3 社会科学		
社会科学総記	300	洋和167-169 洋洋070
法律	320	洋洋071
経済	330	洋和170
社会学, 社会問題	360	洋洋072
風俗・習慣, 民俗学	380	洋和171-172 和写036
4 自然科学		
数学	410	洋和173
天文学	440	和版109
医学, 薬学	490	洋和174-175
5 工学		
工学, 技術	500	洋和176
建築学	520	洋和177-178
製造工業	580	洋和179
6 産業		
産業総記	600	洋和180
交通	680	洋和181
7 芸術		
芸術, 美術	700	洋和182-185 和版110-113
彫刻	710	洋和186
絵画	720	洋和187-192 和版114-125
工芸	750	洋和193-197
諸芸, 娯楽	790	和写037
8 語学		
日本語	810	洋和198-204
中国語	820	和版126
東洋諸語	829	洋和205-214 洋洋073-083 和版127-130 和写038-039
英語	830	洋洋084
その他諸国語	890	洋洋085
9 文学		
日本文学	910	洋和215-221 和版131-138
中国文学	920	洋和222 和版139
東洋文学	929	洋洋086-099
英米文学	930	洋洋100-101

原則 NDC 7版に基づく

# 洋装本目錄

---



## 河口慧海旧蔵 洋装本目録 凡例

- ・本目録は、河口慧海旧蔵書の内、洋装本の和書（222冊）、洋書（101冊）の目録であるが、実質的には非河口慧海旧蔵書を含む、東西文化交流研究所寄贈書目録である。
- ・洋装本和書は「洋和」、洋装本洋書は「洋洋」と略記し、それぞれに資料番号を付す。
- ・掲載順序は、NDC 分類に従う。
- ・これらの中、河口慧海が没した1945年2月24日以降に発行された書籍については、河口慧海旧蔵書ではない可能性がある（詳細は本書「概要」を参照）が、慧海旧蔵書を包摂する東西研寄贈書であることから、ここにあわせて掲載している。
- ・この他に、発行年は慧海の没年以前であるものの、蔵書印や書入れなどから、慧海旧蔵書ではないと推定されるものがあるが、これも同様に掲載している。
- ・これらの中には、当館において既に除籍され、存在しないものもあるが、図書館内の原簿に記載があるものについては情報として掲載している。
- ・各書については、書名（よみがな）、分類記号、著者名、冊数、大きさ、出版社（出版地）、発行年、ページ数の順で記す。
- ・【注記】の項目には、付属資料等の有無や、その他留意点を記す。
- ・【慧海】の項目には、河口慧海の蔵書印や書入れ等に関わる情報を記す。
- ・蔵書印について  
「佛教宣揚會藏書之印」は「仏宣会印」と略記する。  
「東西文化交流研究所」は「東西研印」と略記する。
- ・必要に応じて蔵書印や書入れの写真を付す。
- ・和書、洋書の記載例は次の通りである。



(仏宣会印)

### 和書の部の記載例

洋和001 トウヨウブン コジュウゴネンシ 東洋文庫十五年史 KE018/I-93

岩井大慧 [編纂]。22.2×16.9cm。東洋文庫（東京）、昭和14（1939）年11月19日発行。883頁。

【注記】図書館再製本。

【慧海】見返し蔵書印「河口慧海」（2.3×1.0cm）。寄贈票貼付「謹呈 東京・本郷・駒込上富士前一四七／財団法人東洋文庫／添附受領證ニ御記入ノ上御返送願上候」。寄贈票に「河口慧海殿」と書入れ。

### 洋書の部の記載例

洋洋001 *Principles of Tantra Part 1: The Tantratattva of Śrīyukta* KE129/A 96/1  
*Śhiva Chandra Vidyārṇava Bhattācāryya Mahodaya*

Arthur Avalon (ed.). 23.4×16.2 cm. London: Luzac, 1914. xxvi + lxxxii + 400 p.

【注記】本文中に赤・青鉛筆による書入れあり。

【慧海】ラベル「ろ4、12」。仏宣会印あり。河口製本。背表紙“PRINCIPLES OF TANTRA”、“PART. I BY ARTHUR AVALON”、“EKAI KAWAGUCHI”。

## 和書の部

洋和001

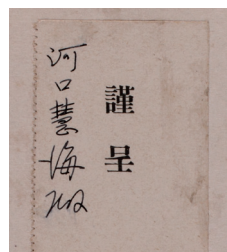
トウヨウブン コジュウゴネンシ  
東洋文庫十五年史

KE018/I-93

岩井大慧 [編纂]。22.2×16.9cm。東洋文庫（東京）、昭和14（1939）年11月19日発行。883頁。

【注記】図書館再製本。

【慧海】見返し蔵書印「河口慧海」（2.3×1.0cm）。寄贈票貼付「謹呈 東京・本郷・駒込上富士前一四七／財団法人東洋文庫／添附受領證ニ御記入ノ上御返送願上候」。寄贈票に「河口慧海殿」と書入れ。



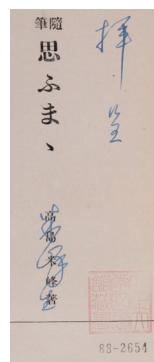
洋和002

オモ ズイヒツ  
思ふまゝ：随筆

KE049.1/Ta54

高島米峰 [著]。19.0×13.4cm。大日本雄弁会講談社（東京）、昭和2（1927）年8月5日発行。426頁。

【注記】内題紙に著者による「拝呈／米峰生」の書入れあるも宛先は不明。220-221頁間にルーズリーフの挟み込み資料あり。本文に赤鉛筆の傍線や丸印あり。



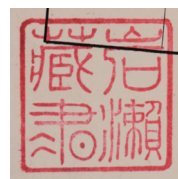
洋和003

シ テキユイブツロン  
史的唯物論

KE116.46/O-63

大森義太郎 [著]。22.4×15.4cm。共立社書店（東京）、昭和7（1932）年7月20日発行。1+275頁。（現代史學大系3）

【注記】図書館再製本。内題紙蔵書印「岩瀬／藏書」（3.0×3.0cm）、押印「市川／24 2 9」（直径1.6cm）。この蔵書印に基づき、非慧海旧蔵と推定。



洋和004

セイケン イゲンコウギ  
靖獻遺言講義

KE121.43/A 86

中山菁莪、落合東堤 [著]、沼田宇源太 [編]。22.3×15.7cm。昭文堂（東京）、明治44（1911）年9月10日発行。379+17頁。

洋和005

トウジョウウイチドウデン  
東條一堂傳

KE121.7/To33

鴫田恵吉 [著]。21.3×15.4cm。東条卯作（東京）、昭和28（1953）年3月19日発行。14+370+6頁。

【注記】出版年に基づき非慧海旧蔵と推定。

洋和006

シ ナ シソウ ケンキョウ  
支那思想の研究

KE122/Ta55

高田真治 [著]。21.5×15.9cm。春秋社（東京）、昭和17（1942）年9月20日第4刷発行（第1刷：1939年11月）。6+578頁。

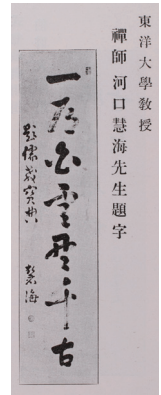
洋和007

カクゲントウイツジュキョウホウテン  
格言統一儒教寶典

KE124.1/Ko97

小柳通義 [著]。22.4×15.9cm。經典刊行會（東京）、大正8（1919）年4月20日発行。8+700+110+5頁。

【慧海】口絵に慧海の書を掲載（「東洋大學教授／禪師河口慧海先生題字」）。



洋和008

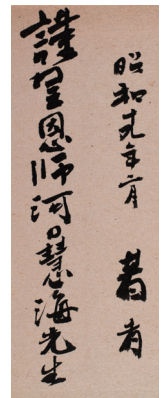
マハーバラタとラーマーヤナ

KE129/I-32

池田澄達 [著]。18.1×13.0cm。日本評論社（東京）、昭和19（1944）年1月10日第1刷発行。2+4+297頁。（東洋思想叢書14）

【注記】図書館再製本。

【慧海】内題紙書入れ「昭和十九年二月 著者／謹呈恩師河口慧海先生」。



洋和009

ハインリッヒ・リッケルト：  
ゲンダイ テツガクナイ オ カレ タイド  
現代ドイツ哲學内に於ける彼の態度

KE134.843/F 16

アウグスト・ファウスト [著]、大江清一 [訳]。22.2×14.8cm。理想社出版部（東京）、昭和3（1928）年5月5日発行。3+80頁。

【注記】非慧海旧蔵か。

洋和010

シゴ セイメイ  
死後の生命

KE147/L 83

ロンブローゾ [著]、中村古峽 [訳]。19.2×12.9cm。内田老鶴圃（東京）、大正5（1916）年10月23日発行。14+9+331頁。

【注記】249頁に赤線あり。非慧海旧蔵か。

洋和011

ナンボクソウホウシュウシンロク  
南北相法修身録

KE148/Mi96

水野南北原 [著]、原田祖岳 [校訂]。18.7×12.5cm。古鏡会（東京）、昭和5（1930）年6月25日発行。151頁。

- 洋和012 ギョウ テツガク  
行の哲学 KE151.2/Ki17  
紀平正美 [著]。22.5×15.9cm。岩波書店（東京）、大正12（1923）年12月5日第4刷発行（大正12（1923）年1月28日第1刷発行）。8+3+410頁。
- 洋和013 レキダイショウチョクゼンシュウ ジョウカン  
歴代詔勅全集 上巻 KE155/Sh18/1  
柴田勇之助 [ほか編]。22.3×15.6cm。大日本皇道館事務所（東京）、明治41（1909）年〔2〕月15日発行。2+4+19+316頁。
- 洋和014 レキダイショウチョクゼンシュウ ゲカン  
歴代詔勅全集 下巻 KE155/Sh18/2  
柴田勇之助 [ほか編]。22.2×15.7cm。大日本皇道館事務所（東京）、明治41（1909）年〔2〕月15日発行。2+1+34+47+4+56+31+133+20+168+33+63+32頁。
- 洋和015 リンリ ゴシンコウソウアン テンノブ  
倫理御進講草案 天之神部 KE155/Su48/1  
杉浦重剛 [撰]、猪狩又蔵 [編]。22.7×16.4cm。杉浦重剛先生倫理御進講草案刊行会（東京）、昭和12（1937）年11月13日発行。12+298頁。
- 洋和016 リンリ ゴシンコウソウアン チョウノブ  
倫理御進講草案 長之神部 KE155/Su48/2  
杉浦重剛 [撰]、猪狩又蔵 [編]。22.5×15.9cm。杉浦重剛先生倫理御進講草案刊行会（東京）、昭和12（1937）年12月13日発行。299-602頁。
- 洋和017 リンリ ゴシンコウソウアン チノブ  
倫理御進講草案 地之神部 KE155/Su48/3  
杉浦重剛 [撰]、猪狩又蔵 [編]。22.6×15.9cm。杉浦重剛先生倫理御進講草案刊行会（東京）、昭和13（1938）年1月13日発行。603-902頁。
- 洋和018 リンリ ゴシンコウソウアン キュウノブ  
倫理御進講草案 久之神部 KE155/Su48/4  
杉浦重剛 [撰]、猪狩又蔵 [編]。22.6×15.9cm。杉浦重剛先生倫理御進講草案刊行会（東京）、昭和13（1938）年2月13日発行。903-1176+8頁。
- 洋和019 カクゲンダイジテン  
格言大辞典 KE159.8/Ka28  
芳賀矢一、安井小太郎、服部宇之吉 [編]。松本商会出版部（東京）、大正9（1920）年1月。  
【注記】除籍のため現存せず。
- 洋和020 シュウキョウシンロン  
宗教新論 KE160.4/Ka86  
加藤玄智 [著]。22.4×15.5cm。博文館（東京）、明治33（1900）年8月20日発行。442+10頁。  
【注記】図書館再製本。2頁赤書入れあり。
- 洋和021 シンブツジンカンノウニョゼ  
神物人感応如是 KE161/Su96  
鈴木力（天眼子） [著]。22.2×14.9cm。隆文館（東京）、明治40（1907）年8月5日発行。4+2+386頁。  
【注記】177頁に青鉛筆の線引きあり。

洋和022

キンダイシユウキョウ シ ソウロンコウ  
近代宗教思想論考

KE161.02/Y 12

矢吹慶輝 [著]。18.6×13.8cm。明治書院（東京）、昭和19（1944）年1月15日発行。16+449頁。（限溪叢書3）

洋和023

シュウキョウテツガク  
宗教哲學

KE161.1/H 33

[エドアード・フォン・ハルトマン原著]、姉崎正治 [訳]。22.4×15.5cm。博文館（東京）、明治36（1903）年12月19日8版発行（明治31（1895）年5月16日発行）。26+8+348+8頁。（帝國百科全書5）

【注記】図書館再製本。

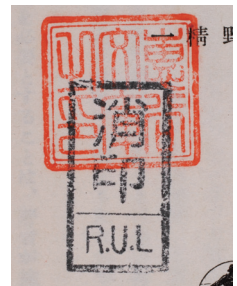
洋和024

シュウキョウテツガク  
宗教哲學

KE161.1/H 42

波多野精一 [著]。17.6×10.7cm。岩波書店（東京）、昭和17（1942）年6月20日第9刷発行（昭和10（1935）年4月16日第1刷発行）。5+316頁。（岩波全書48）

【注記】内題紙蔵書印「恵谷／文庫／之印」（2.4×2.4cm）（100頁にも同印あり）、蔵書印「博」（1.2×1.2cm）。蔵書印（博）に基づき、非慧海旧蔵と推定。



洋和025

シントウシ  
神道史

KE170.2/Mi71

宮地直一 [編]。21.0×15.1cm。四海書房（東京）、昭和18（1943）年12月13日発行。3+366頁。（神道講座）

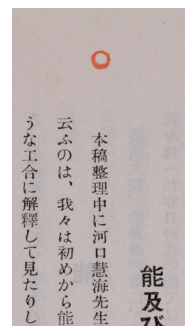
洋和026

マツリ サルガク カスガワカミヤ  
おん祭と猿樂：春日若宮

KE175.965/Mi85

宮武鶴齋 [著]。22.4×15.3cm。宮武佐十郎（奈良）、昭和14（1939）年9月25日発行。12, 156頁。

【慧海】82頁に河口慧海について言及あり。河口慧海による解説文を掲載。また113頁（「能及び三番叟の語源」）に慧海に対する言及、赤丸印あり。



洋和027

フリトシンコウ  
祝詞新講

KE176.4/Ts39

次田潤 [著]。22.6×16.1cm。明治書院（東京）、昭和4（1929）年7月1日5版発行（初版：昭和2（1927）年7月20日発行）。4+4+576頁。

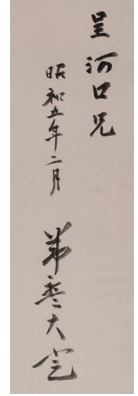
【注記】最終頁貼付「MORIE-SHOTEN / HONGO TOKYO / 東京 本郷 / 森江書店」。



洋和028 <sup>ニホンブツキョウシコウ</sup> <sup>ゲカン</sup> 日本佛敎史綱 下巻 KE180.21/Mu43/2  
 村上專精 [著]。22.1×15.5cm。金港堂書籍（東京）、明治32（1899）年3月29日発行。5+256頁。

洋和029 <sup>ニホン</sup> <sup>ブツキョウ</sup> 日本の佛敎 KE180.21/O-67  
 大野達之助 [著]。18.4×13.3cm。至文堂（東京）、昭和36（1961）年10月5日発行。262頁。  
 （日本歴史新書）  
 【注記】最終頁貼付「篠原書店 ヨコハマ・六角橋」。出版年に基づき非慧海旧蔵と推定。

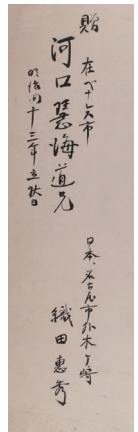
洋和030 <sup>シナブツキョウシ</sup> <sup>セキヒョウカイ</sup> 支那佛敎史蹟評解 5 KE180.222/To33/5  
 常盤大定、關野貞 [共著]。26.0×19.1cm。佛敎史蹟研究會（東京）、昭和3（1928）  
 年3月31日発行。12+243頁。  
 【慧海】見返し書入れ「呈 河口兄／昭和五年二月 常盤大定」。



洋和031 <sup>ブツケンケツジュウ</sup> 佛典結集 KE180.225/Ma81/1  
 松本文三郎 [著]。22.4×15.5cm。文明堂（東京）、明治36（1903）年9月15日発行。3+220頁。（佛敎史論1）

洋和032 <sup>シンゾウシャシン</sup> [神像写真] KE180.225/Sh69  
 19.3×14.5cm。明治45（1912）年6月3日。1葉。  
 【慧海】神像写真（表面）に対する慧海による書入れあり（裏面）。資料紹介・解題2.2.2を参照。

洋和033 <sup>ブツキョウ</sup> <sup>セカイ</sup> <sup>ネンケイ</sup> <sup>コウガイ</sup> 佛敎世界年契梗概 KE180.3/B 87  
 木津無庵 [編]。38.7×27.2cm。佛陀會（東京）、明治43（1910）年2月20日発行。30頁。  
 【注記】図書館再製本。  
 【慧海】内題紙書入れ「贈 在ベナレス市／河口慧海道兄／明治四十三年立秋日」、  
 「日本 名古屋市外木ヶ崎／織田恵秀」。



洋和034

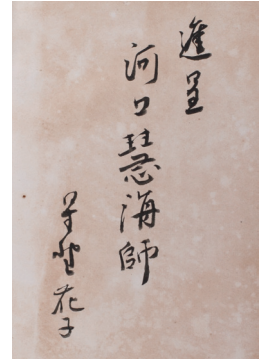
ブツキョウジリン  
佛教辭林

KE180.3/F 57

藤井宣正 [著]、南條文雄 [校]、島地大等 [補]。22.7×16.9cm。明治書院（東京）、大正2（1913）年2月1日4版発行（初版：大正元（1912）年11月30日発行）。4+6+4+8+916+64+102+4頁。

【注記】370-371頁間に名刺挟み込み。表面「許斐信一郎／九州配電株式会社福岡支店／電話〔西〕三〇〇一番」、裏面「福岡懸福岡市船町三十番地／電話西〔2〕四二七番」。

【慧海】見返し書入れ「進呈／河口慧海師／星野花子」。



洋和035

ブツキョウダイジテン  
佛教大辭典 第1卷

KE180.3/Mo12/1

望月信亨 [著]。26.5×20.5cm。佛教大辭典發行所（東京）、昭和6（1931）年11月20日発行。12+18+1011, 函版67頁。

正誤表あり。

洋和036

ブツキョウダイジテン  
佛教大辭典 第2卷

KE180.3/Mo12/2

望月信亨 [著]。26.2×20.0cm。佛教大辭典發行所（東京）、昭和7（1932）年9月28日発行。2+12+1013-1996, 函版68-119頁。

洋和037

ブツキョウダイジテン  
佛教大辭典 第3卷

KE180.3/Mo12/3

望月信亨 [著]。26.1×19.5cm。佛教大辭典發行所（東京）、昭和8（1933）年12月5日発行。2+16+1997-3015, 函版120-185頁。

洋和038

ブツキョウダイジテン  
佛教大辭典 第4卷

KE180.3/Mo12/4

望月信亨 [著]。26.2×19.6cm。佛教大辭典發行所（東京）、昭和10（1935）年3月15日発行。2+14+3017-4017, 函版186-238頁。

洋和039

ブツキョウダイジテン  
佛教大辭典 第5卷

KE180.3/Mo12/5

望月信亨 [著]。26.3×19.8cm。佛教大辭典發行所（東京）、昭和11（1936）年8月20日発行。2+15+4019-5088, 函版239-294頁。

洋和040

ブツキョウダイジテン  
佛教大辭典 第6卷

KE180.3/Mo12/6

望月信亨 [著]。26.4×19.8cm。佛教大辭典發行所（東京）、昭和11（1936）年11月15日発行。13+函版7+192+15+49頁。

【注記】梵語索引21頁に赤鉛筆線（“lavana”の箇所）あり。

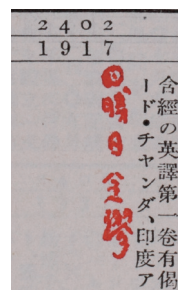
## 洋和041

ブツキョウダイ ジ テン      ダイ      カン      フロクブツキョウダイネンビョウ  
**佛教大辭典 第7卷 附録仏教大年表**

KE180.3/Mo12/7

望月信亨 [著]。26.2×19.8cm。佛教大辭典發行所（東京）、昭和12（1937）年6月30日増訂3発行（明治42（1909）年12月15日発行）。14+10+448+90+86頁。

【慧海】162頁等、義浄に関する記述に赤線引きあり。「仏教大年表」中の1917年「◎河口慧海、ネパールに赴き梵書を蒐む（歐）」（437頁）に赤線引き、書入れあり。



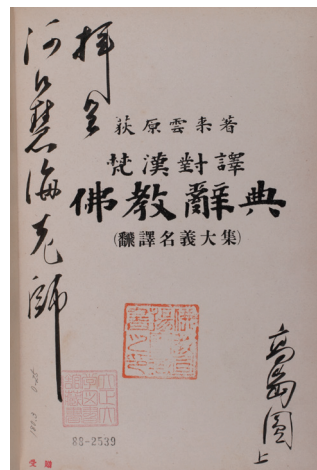
## 洋和042

ボンカンタイヤクブツキョウ ジ テン      ホンヤクミョウ ギ タイシュウ  
**梵漢對訳佛教辭典：翻譯名義大集**

KE180.3/O-25

荻原雲来 [著]。22.4×16.3cm。丙午出版社（東京）、大正4（1915）年3月14日発行。4+11+245+60+208+168頁。

【慧海】ラベル「は [ ]」。仏宣会印あり。内題紙書入れ「拝呈／河口慧海老師」、「高島圓上」。本文の行外に項目見出しをペンで記している箇所あり。



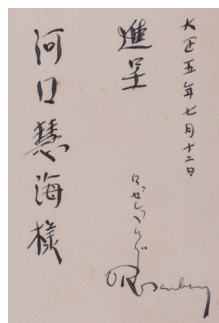
## 洋和043

ブツキョウケンキョウメイ ジ シュウ  
**佛教研究名辭集**

KE180.3/R 72

オ、ロゼンベルグ [編]。26.5×19.5cm。露國ペトログラド帝國大學（東京）、大正5（1916）年6月24日。10+527+17頁。

【慧海】背表紙「慧海蔵書」。内題紙書入れ「大正五年七月十二日／進呈 ロゼンベルグ O Rosenberg／河口慧海様」。河口製本。



洋和044

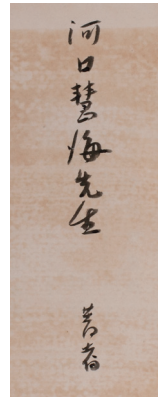
フッキョウ ニ ホン ジカク フジイ ソウセンズイヒツシュウ  
佛教日本の自覚：藤井草宣随筆集

KE180.4/F 57

藤井草宣 [著]。17.1×12.4cm。甲子社書房（東京）、昭和2（1927）年10月31日発行。3+204+5頁。

【注記】奥付頁に、出版社によるはがきの挟み込みあり。

【慧海】見返し書入れ「河口慧海先生 著者」。



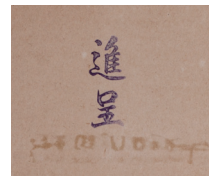
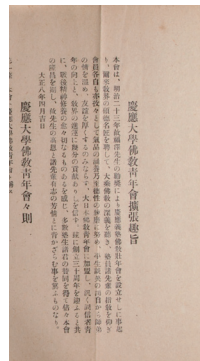
洋和045

ハハ オモカゲ  
母の面影

KE180.4/H 14

柴田一能 [著]。22.4×15.1cm。本立寺（東京）、大正8（1919）年3月28日発行。117頁。

【注記】見返し押印「進呈」（宛先不明）。挟み込み資料1紙に「慶應大學佛教青年會擴張趣旨」（大正8年4月）、「慶應大學佛教青年會々則」「入會申込書」あり。



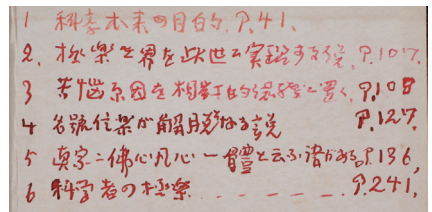
洋和046

フッキョウ カガク  
佛教と科學

KE180.4/J 55

自在丸新十郎 [著]。19.0×13.6cm。甲子社書房（東京）、昭和9（1934）年4月30日発行。248頁。

【慧海】見返し等に慧海による書入れ多数あり。



洋和047

ドクウウンライシ ヨエイ  
獨有雲来師餘影

KE180.4/O-25

荻原博士記念會 [編]。22.2×15.0cm。荻原博士記念會（東京）、昭和13（1938）年12月20日発行。8+220頁。

【慧海】「荻原博士記念會々芳名録」に河口慧海の名あり。

洋和048

コゲツ ヨエイ  
壺月餘影

KE180.4/W 46

渡邊海旭 [著]、壺月全集刊行會 [編]。22.7×15.5cm。壺月全集刊行會（東京）、昭和8（1933）年6月1日発行。1+2+139+191+2頁。

- 洋和049 ショウザンゼンシュウ  
**松山全集** KE180.8/To27  
東條隆哲 [著]、長谷部隆諦 [編纂]。22.3×16.0cm。七寶瀧寺（大阪）、大正14（1925）年9月10日発行。3+2+5+918+2頁。
- 洋和050 コンボンブツキョウ  
**根本佛教** KE181/A 49  
姉崎正治 [著]。博文館（東京）、明治43（1910）年7月。3+9+396+64頁。  
【注記】現存せず。
- 洋和051 ブツダロン  
**佛陀論** KE181/Mu43/3  
村上專精 [著]。22.0×15.5cm。金港堂書籍（東京）。7+548頁。（佛教統一論第3編）  
【注記】図書館再製本。奥付欠。自序の日付は明治37（1904）年9月1日とする。
- 洋和052 ブツキョウシンリ ケンキョウ  
**佛教心理の研究** KE181/Ta13  
橘恵勝 [著]。22.3×15.6cm。丙午出版社（東京）、大正5（1916）年4月8日。2+5+2+3+224頁。  
【慧海】ラベル剥離。仏宣会印あり。
- 洋和053 アウンアキョウ  
**阿吽阿經** KE181/To56  
富岡俊次郎 [著]。18.9×10.7cm。阿吽阿會（東京）、昭和12（1937）年12月25日第2版発行（初版：昭和11（1936）年12月15日発行）。197頁。  
【注記】井上哲次郎の「叙」あり。
- 洋和054 シゴ セカイ  
**死後の世界** KE181.4/W 46  
渡辺照宏 [著]。17.1×10.4cm。岩波書店（東京）、昭和34（1959）年7月5日第2刷発行（初版：昭和34年6月20日第1刷発行）。vii+204+8頁。（岩波新書 青351）  
【注記】最終頁に「80」と鉛筆書き。古本屋で購入か。出版年に基づき非慧海旧蔵と推定。
- 洋和055 ブツダキョウセツ ガイエン  
**佛陀教説の外延** KE181.8/W 46  
渡邊椽雄 [著]。19.0×13.3cm。新光社（東京）、大正11（1922）年5月10日発行。6+274頁。  
【注記】図書館再製本。
- 洋和056 ニユウボサツギョウ  
**入菩薩行** KE182/Sa67  
シャーンティデーブ [著]、河口慧海 [訳]。15.0×8.8cm。博文館（東京）、大正10（1921）年5月15日発行。22+250頁。
- 洋和057 ニユウボサツギョウ  
**入菩薩行** KE182/Sa67  
シャーンティデーブ [著]、河口慧海 [訳]。15.0×8.8cm。博文館（東京）、大正10（1921）年5月15日発行。22+250頁。
- 洋和058 ニユウボサツギョウ  
**入菩薩行** KE182/Sa67  
シャーンティデーブ [著]、河口慧海 [訳]。博文館（東京）、大正10（1921）年5月15日発行。22+250頁。  
【注記】現存せず。



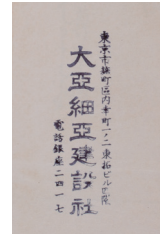
## 洋和059

モウカンガッベキシャクソンショウデン  
蒙漢合璧釋尊聖傳

KE182/Sa85

佐藤富江 [著]。22.3×15.7cm。大亞細亞建設社（東京）、昭和13（1938）年9月1日発行。2+6+3+257頁。

【注記】見返し押印「贈呈 東京市麴町区内幸町一ノ二東拓ビル四階／大亜細亞建設社／電話銀座2417」（宛名不記）。



## 洋和060

シャカ シデン  
釋迦史傳

KE182/Sh12

常磐大定、近角常観、吉田賢龍 [共述]、安藤正純 [編]。22.9×15.1cm。森江書店（東京）、明治37（1904）年8月20日発行。2+2+143頁。

【注記】図書館再製本。再製本時、頁順混乱。

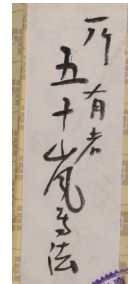
## 洋和061

ホウオウキョウカツロン  
法王教活論

KE182/Ta28

高田道見 [著]。22.2×13.0cm。佛教館（東京）、大正5（1916）年6月10日発行。6+154頁。

【注記】後見返し書入れ「所有者／五十嵐専法」。同蔵書印「五十嵐専法／〔書〕籍商 東京市下谷區谷中初音町四ノ九九」（2.7×4.3cm）。



## 洋和062

シンシャクソンデン  
新釋尊傳

KE182/W 46

渡辺照宏 [著]。18.6×13.5cm。大法輪閣（東京）、昭和41（1966）年4月25日再版（初版：昭和41年2月25日発行）。490+19頁。

【注記】最終頁貼付「篠原書店／ヨコハマ・六角橋」。出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。ただし、本書に椎尾辨匡による「河口慧海送棺式誄文」（和写036）が付されていた。資料紹介・解題2.3を参照。

## 洋和063

ハノ イエントウコウ コ ガクインゲンソウベトナムブッテンリヤクヘン  
河内遠東攷古學院現藏越南仏典 畧編

KE183/C 46

陳文珮 [編]。国際仏教協会、1943年。

【注記】現存せず。

## 洋和064

ダイミンサンゾウショウキョウモクロク

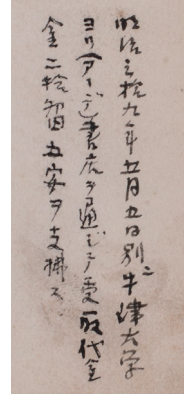
## 大明三藏聖教目録 (A Catalogue of the Chinese Translation of the Buddhist Tripiṭaka: The Sacred Canon of the Buddhists in China and Japan)

KE183/D 23

南條文雄 [訳補]。27.5×21.5cm。英國牛津大學校印書局刊行、明治16 (1883) 年。xxxvi + 480頁。

【注記】図書館再製本。p. 5 に挟み込み資料 (東洋文庫のカード) あり。表面「BKAH HG YUR」、裏面「176 I. / 2. ḥphags-pa rgyal-baḥi- blo-gros-kyis / shus-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi」。

【慧海】内題紙書入れ「明治三拾九年五月五日別ニ牛津大学 / ヨリ (アーデ) 書店ヲ通ジテ受取代金 / 金二拾留五安ヲ支拂ス。」。この他に慧海によるものと推定される書入れ多数あり、解題 1.2 参照。



## 洋和065

ケゴンブショウシヨ  
華嚴部章疏

KE183/N 77/1

日本大藏經編纂會 [編]。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會 (東京)、大正 8 (1919) 年 6 月 15 日再版発行 (初版: 大正 3 (1914) 年 9 月 28 日発行)。817頁。(日本大藏經 1 經藏部 天一)

【慧海】ラベル剥離 [「ろノ三、十四」目録より]。仏宣会印あり。

## 洋和066

ケゴンブショウシヨニ  
華嚴部章疏二

KE183/N 77/2

日本大藏經編纂會 [編]。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會 (東京)、大正 8 (1919) 年 5 月 10 日再版発行 (初版: 大正 3 (1914) 年 11 月 25 日発行)。853頁。(日本大藏經 2 經藏部)

【慧海】ラベル剥離 [「ろノ三、十五」目録より]。仏宣会印あり。

## 洋和067

サンロンシュウショウシヨ  
三論宗章疏

KE183/N 77/3

日本大藏經編纂會 [編]。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會 (東京)、大正 8 (1919) 年 6 月 25 日再版発行 (初版: 大正 4 (1915) 年 1 月 25 日発行)。777頁。(日本大藏經 3 宗典部)

【慧海】ラベル剥離 [「は三、三」目録より]。仏宣会印あり。

## 洋和068

ケゴンブショウシヨノヨ  
ホウドウブショウシヨイチ  
華嚴部章疏之餘; 方等部章疏一

KE183/N 77/4

日本大藏經編纂會 [編]。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會 (東京)、大正 8 (1919) 年 7 月 25 日再版発行 (初版: 大正 6 (1917) 年 8 月 12 日発行)。818頁。(日本大藏經 4 經藏部)

【慧海】ラベル剥離 [「ろノ三、十六」目録より]。仏宣会印あり。

## 洋和069

サンロンシュウショウシヨノヨ  
ホソウショウシヨシヨイチ  
三論宗章疏之餘; 法相宗章疏一

KE183/N 77/5

日本大藏經編纂會 [編]。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會 (東京)、大正 8 (1919) 年 6 月 25 日再版発行 (初版: 大正 6 (1917) 年 7 月 28 日発行)。770頁。(日本大藏經 5 宗典部)

【慧海】ラベル剥離 [「は三、四」目録より]。仏宣会印あり。

- 洋和070 ホウドウブ ショウショニ  
方等部章疏二 KE183/N 77/6  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年5月15日再版発行（初版：大正4（1915）年8月28日発行）。790頁。（日本大藏經6 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「ろノ三、十七」目録より〕。仏宣会印あり。
- 洋和071 ケゴンジョウド ロンショウショ  
華嚴淨土論章疏 KE183/N 77/7  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1920）年10月5日再版発行（初版：大正4（1915）年10月30日発行）。776頁。（日本大藏經7 論藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、十三」目録より〕。仏宣会印あり。
- 洋和072 ソウトウシュウショウショ  
曹洞宗章疏 KE183/N 77/8  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1920）年10月5日再版発行（初版：大正4（1915）年11月30日発行）。758頁。（日本大藏經8 宗典部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は三、十七」目録より〕。仏宣会印あり。
- 洋和073 ホツソウシュウショウショニ  
法相宗章疏二 KE183/N 77/9  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1920）年10月5日再版発行（初版：大正4（1915）年12月30日発行）。786頁。（日本大藏經9 宗典部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は三、五」目録より〕。仏宣会印あり。
- 洋和074 ホウドウブ ショウショサン  
方等部章疏三 KE183/N 77/10  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1920）年10月5日再版発行（初版：大正5（1916）年1月31日発行）。810頁。（日本大藏經10 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「ろノ三、十八」目録より〕。仏宣会印あり。
- 洋和075 カイリツシュウショウショ  
戒律宗章疏 KE183/N 77/11  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1920）年10月5日再版発行（初版：大正5（1916）年2月29日発行）。750頁。（日本大藏經11 宗典部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は三、六」目録より〕。仏宣会印あり。
- 洋和076 ホウドウブ ショウショヨン  
方等部章疏四 KE183/N 77/12  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正5（1916）年3月31日発行。778頁。（日本大藏經12 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「ろノ三、十九」目録より〕。仏宣会印あり。
- 洋和077 カイリツシュウショウショニ  
戒律宗章疏二 KE183/N 77/13  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正5（1916）年4月30日発行。780頁。（日本大藏經13 宗典部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は三、七」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和078 シンゴンミッキョウロンシヨウシヨウ 眞言密教論章疏上 KE183/N 77/14

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正5（1916）年5月31日発行。860頁。（日本大藏經14 論藏部）

【慧海】ラベル剥離〔「は二、十四」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和079 カイリツシヨウシヨウサン 戒律宗章疏三 KE183/N 77/15

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正5（1916）年6月30日発行。784頁。（日本大藏經15 宗典部）

【慧海】ラベル剥離〔「は三、八」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和080 シンゴンミッキョウロンシヨウシヨウ 眞言密教論章疏下 KE183/N 77/16

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正5（1916）年7月31日発行。838頁。（日本大藏經16 論藏部）

【慧海】ラベル剥離〔「は二、十五」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和081 シュゲンドウシヨウシヨウイチ 修験道章疏一 KE183/N 77/17

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正5（1916）年11月3日発行。698頁。（日本大藏經17 宗典部）

【慧海】ラベル剥離〔「は三、十八」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和082 ホツケブシヨウシヨウイチ 法華部章疏一 KE183/N 77/18

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正5（1916）年11月23日発行。810頁。（日本大藏經18 經藏部）

【慧海】ラベル剥離〔「は二、二」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和083 ダイジョウリツシヨウシヨウイチ 大乘律章疏一 KE183/N 77/19

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正9（1920）年3月20日再版発行（初版：大正6（1917）年1月4日発行）。810頁。（日本大藏經19 律藏部）

【慧海】ラベル「は2.9」。〔「は二、九」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和084 サンロンシヨウシヨウイチ 三論章疏一 KE183/N 77/20

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月25日再版発行（初版：大正6（1917）年2月4日発行）。688頁。（日本大藏經20 論藏部）

【慧海】ラベル剥離〔「は二、十七」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和085 ダイジョウリツシヨウシヨウニ 大乘律章疏二 KE183/N 77/21

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月25日再版発行（初版：大正6（1917）年3月13日発行）。732頁。（日本大藏經21 律藏部）

【慧海】ラベル剥離〔「は二、十」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和086 ダイジョウリツショウシヨ ノ ヨ ショウジョウリツショウシヨイチ 大乘律章疏之餘；小乘律章疏一 KE183/N 77/22

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月25日再版発行（初版：大正6（1917）年5月20日発行）。732頁。（日本大藏經22 律藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、十二」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和087 シヨダイジョウロンショウシヨイチ 諸大乘論章疏一 KE183/N 77/23

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月25日再版発行（初版：大正6（1917）年6月28日発行）。722頁。（日本大藏經23 論藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、十六」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和088 ミツキョウ ブ ショウシヨジョウイチ 密經部章疏上一 KE183/N 77/24

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年5月25日再版発行（初版：大正6（1917）年8月12日発行）。700頁。（日本大藏經24 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、五」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和089 ホウドウ ブ ショウシヨゴ 方等部章疏五 KE183/N 77/25

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.6cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月25日再版発行（初版：大正6（1917）年9月27日発行）。680頁。（日本大藏經25 經藏部）  
【注記】  
【慧海】ラベル剥離〔「ろノ三、廿」目録より→目録には「欠」とある〕。仏宣会印あり。

洋和090 ミツキョウ ブ ショウシヨジョウニ 密經部章疏上二 KE183/N 77/26

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月20日再版発行（初版：大正6（1917）年10月23日発行）。738頁。（日本大藏經26 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、六」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和091 ユイシキロンショウシヨイチ 唯識論章疏一 KE183/N 77/27

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月25日再版発行（初版：大正6（1917）年10月31日発行）。636頁。（日本大藏經27 論藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、十九」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和092 ホツケ ブ ショウシヨニ 法華部章疏二 KE183/N 77/28

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月25日再版発行（初版：大正6（1917）年10月30日発行）。576頁。（日本大藏經28 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、三」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和093 サンロンショウシヨ ノ ヨ ショウチン チ ド シュウリンロンショウシヨ 三論章疏之餘；掌珍智度宗輪論章疏 KE183/N 77/29

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月25日再版発行（初版：大正6（1917）年12月30日発行）。744頁。（日本大藏經29 論藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、十八」目録より〕。仏宣会印あり。



- 洋和094** ホツケブショウショサン  
**法華部章疏三** KE183/N 77/30  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年5月25日再版発行（初版：大正6（1917）年8月12日発行）。724頁。（日本大藏經30 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、四」目録より〕。仏宣会印あり。
- 
- 洋和095** リシュキョウシヤクショウシヨイチ  
**理趣經釋章疏一** KE183/N 77/31  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月25日再版発行（初版：大正7（1918）年3月31日発行）。686頁。（日本大藏經31 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「ろノ三、廿二」目録より〕。仏宣会印あり。
- 
- 洋和096** ミツキョウブショウシヨゲイチ  
**密經部章疏下一** KE183/N 77/32  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月25日再版発行（初版：大正7（1918）年4月15日発行）。640頁。（日本大藏經32 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、七」目録より〕。仏宣会印あり。
- 
- 洋和097** ユイシキロンショウシヨニ  
**唯識論章疏二** KE183/N 77/33  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月25日再版発行（初版：大正7（1918）年5月29日発行）。630頁。（日本大藏經33 論藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は三、一」目録より〕。仏宣会印あり。
- 
- 洋和098** ホウドウブショウシヨロク  
**方等部章疏六** KE183/N 77/34  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年11月25日再版発行（初版：大正7（1918）年6月22日発行）。638頁。（日本大藏經34 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「ろノ三、廿一」目録より〕。仏宣会印あり。
- 
- 洋和099** ハンニャブショウシヨ  
**般若部章疏** KE183/N 77/35  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正7（1918）年9月8日発行。686頁。（日本大藏經35 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、一」目録より〕。仏宣会印あり。
- 
- 洋和100** ミツキョウブショウシヨゲニ  
**密經部章疏下二** KE183/N 77/36  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年11月25日再版発行（初版：大正7（1918）年10月23日発行）。638頁。（日本大藏經36 經藏部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は二、八」目録より〕。仏宣会印あり。
- 
- 洋和101** シュゲンドウショウシヨニ  
**修驗道章疏二** KE183/N 77/37  
日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年1月31日再版発行（初版：大正7（1918）年10月23日発行）。655頁。（日本大藏經37 宗典部）  
【慧海】ラベル剥離〔「は三、十九」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和102 シュゲンドウショウシヨウサン 修驗道章疏三 KE183/N 77/38

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年4月28日発行。642頁。（日本大藏經38 宗典部）

【慧海】ラベル剥離〔「は三、廿」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和103 コンシチジュウロンシヨウシヨ ジツク ギロンシヨウシヨ リク ガツシヤクシヨウシヨ 金七十論章疏；十句義論章疏；六離合釋章疏 KE183/N 77/39

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年6月23日発行。618頁。（日本大藏經39 論藏部）

【慧海】ラベル剥離〔「は三、二」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和104 ケゴンシュウシヨウシヨ ジョウ 華嚴宗章疏〔上〕 KE183/N 77/40

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年8月30日発行。696頁。（日本大藏經40 宗典部）

【慧海】ラベル剥離〔「は三、九」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和105 ダイジョウリツショウシヨウサン 大乘律章疏三 KE183/N 77/41

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年9月20日発行。636頁。（日本大藏經41 律藏部）

【慧海】ラベル剥離〔「は二、十一」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和106 ゲゴンシュウシヨウシヨダ 華嚴宗章疏下 KE183/N 77/42

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正8（1919）年11月23日発行。646頁。（日本大藏經42 宗典部）

【慧海】ラベル剥離〔「は三、十」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和107 テンダイシュウミツキョウシヨウシヨイチ 天台宗密教章疏一 KE183/N 77/43

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正9（1920）年1月20日発行。590頁。（日本大藏經43 宗典部）

【慧海】ラベル剥離〔「は三、十三」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和108 テンダイシュウケンギョウシヨウシヨイチ 天台宗顯教章疏一 KE183/N 77/44

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正9（1920）年2月20日発行。614頁。（日本大藏經44 宗典部）

【慧海】ラベル剥離〔「は三、十一」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和109 テンダイシュウミツキョウシヨウシヨニ 天台宗密教章疏二 KE183/N 77/45

日本大藏經編纂會〔編〕。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正9（1920）年4月25日発行。638頁。（日本大藏經45 宗典部）

【慧海】ラベル剥離〔「は三、十四」目録より〕。仏宣会印あり。

洋和110 テンダイシュウケンギョウシヨウシヨニ 天台宗顯教章疏二 KE183/N 77/46

日本大藏經編纂會 [編]。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正9（1920）年5月31日発行。614頁。（日本大藏經46 宗典部）

【注記】「日本大藏經編纂會會報 第四十三號」（大正9年5月発行）10頁あり。

【慧海】ラベル剥離 [「は三、十二」目録より]。仏宣会印あり。

洋和111 シンゴンシュウ ジソウシヨウシヨ 眞言宗事相章疏 KE183/N 77/47

日本大藏經編纂會 [編]。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正9（1920）年7月10日発行。649頁。（日本大藏經47 宗典部）

【注記】「日本大藏經編纂會會報 第四十四號」（大正9年8月発行）4頁あり。

【慧海】ラベル剥離 [「は三、十六」目録より]。仏宣会印あり。

洋和112 テンダイシュウミツキョウシヨウシヨサン 天台宗密教章疏三 KE183/N 77/48

日本大藏經編纂會 [編]。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正9（1920）年8月31日発行。672頁。（日本大藏經48 宗典部）

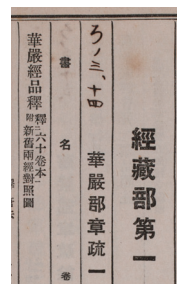
【注記】「日本大藏經編纂會會報 自第四十五號 至第四十七號合冊」（大正9年9月発行）26頁あり。

【慧海】ラベル剥離 [「は三、十五」目録より]。仏宣会印あり。

洋和113 ニホンダイゾウキョウソウモクロク 日本大藏經總目録 KE183/N 77/索

日本大藏經編纂會 [編]。22.4×16.0cm。日本大藏經編纂會（東京）、大正10（1921）年5月25日発行。10+38+6+表+28+80+122+60+7頁。（日本大藏經 索引）

【慧海】各巻の見出しに「ろノ三、十四」などのラベル番号を記す。



洋和114 タイシヨウシンシュウダイゾウキョウサクイン 大正新脩大藏經索隱 ダイイッカン 第一巻 アゴンブ 阿含部 ジョウ 上 KE183/Te24s/1

高楠順次郎 [編]。27.5×20.0cm。大正一切經刊行會（東京）、大正15（1926）年4月8日発行。56頁。

洋和115 ハンニヤシンギョウコウギ 般若心經講義：下 KE183.2/H 48/2

林屋友次郎 [著]。17.7×11.9cm。三省堂（東京）、昭和11（1936）年5月25日発行。262頁。  
東京帝大佛教青年會 [編]。（青年佛教叢書第8編）

洋和116 コンゴウキョウ ロクソダンキョウ ケンキョウ 金剛經と六祖壇經の研究 KE183.2/Ma81

松本文三郎 [著]。22.2×15.7cm。貝葉書院（京都）、大正2（1913）年2月1日発行。166頁。

【慧海】仏宣会印あり。「消印 R.U.L」あり。

洋和117

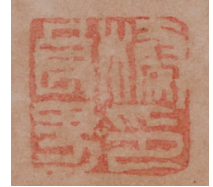
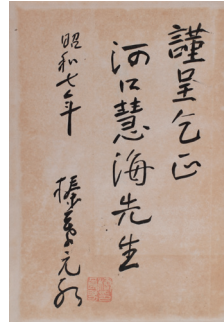
ハンニヤシンギョウダイセイ  
般若心經大成

KE183.2/Sh59

榛葉元水 [編述]。22.4×16.2cm。代々木書院 (東京)、昭和7 (1932) 年11月30日発行。8+3+8+285+230+49頁。

【注記】204-205頁間にメモ入り紙切れ (四分律尼食戒) あり。

【慧海】見返し書入れ「謹呈乞正/河口慧海先生/昭和七年 榛葉元水 [印「榛印/良男」] (1.6×1.6cm)」。解題1.2を参照。「心經異本全集」の86-87頁間に名刺「浅倉屋/書肆文淵閣吉田久兵衛/東京市浅草区雷門二丁目廿五番地/電話浅草二四三一番/振替口座東京二一八三一番」あり。名刺に慧海によると推定される書入れあり。表に赤鉛筆で「九日に来約」、裏にペンで「78」。204-205頁間にあるメモ書きも慧海か。吉田久兵衛は解題3.7参照。



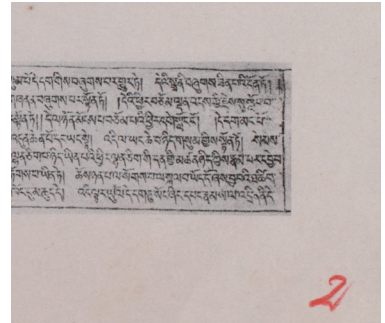
洋和118

ハンニヤシンギョウチュウヤクゼンシュウ チベットブ  
般若心經註譯全集：西藏文

KE183.2/Sh59

榛葉良男 [編]。22.2×15.2cm。相模書房 (東京)、昭和13 (1938) 年5月1日発行。7+3 [+56] 頁。

【慧海】慧海によるものと推定される赤鉛筆での頁数の書入れあり、解題1.2参照。



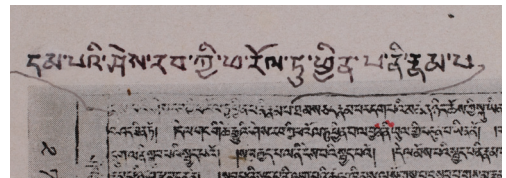
洋和119

ハンニヤシンギョウチュウヤクゼンシュウ チベットブ  
般若心經註譯全集：西藏文

KE183.2/Sh59

榛葉良男 [編]。22.2×15.2cm。相模書房 (東京)、昭和13 (1938) 年5月1日発行。7+3 [+56] 頁。

【慧海】見返し鉛筆「p.32」。印刷不鮮明箇所に対する補足の書入れあり。



洋和120

ハンニヤシンギョウモノガタリ  
般若心經物語

KE183.2/Sh59

榛葉良男 [著]。18.2×12.6cm。同文館 (東京)、昭和16 (1941) 年10月20日発行。2+6+184頁。

洋和121

ボンブン ワヤク ホ ケ キョウ  
梵文和譯法華經

KE183.3/H 82

岡教達 [譯]。14.9×11.1cm。大阪屋 (東京)、大正12 (1923) 年3月10日発行。9+4+3+865頁。

【慧海】見返し書入れ「河口先生/著者拜書」。慧海書入れあり。解題1.4参照。

洋和122

フエイシセンシヨクゴヤクボンブン ア ミ ダキョウ  
和英支鮮四國語譯梵文阿彌陀經：  
フカクシュウ ミ ア ミ ダキョウ  
附各宗より觀たる阿彌陀經

KE183.55/F 64

南條文雄 [ほか譯]。22.6×15.6cm。博文館 (東京)、大正6 (1917) 年1月8日発行。92+93頁。

洋和123 ゾウブンダイニチキョウ  
藏文大日經 KE183.7/H 44/1

服部融泰 [校合]。24.2×17.4cm。西藏譯經典出版所（埼玉）、昭和6（1931）年3月10日発行。12+604頁。

【注記】「二百部ノ内 no. 2」。館外再製本。

【慧海】慧海によるものと推定される多数の書入れあり、解題1.2参照。

洋和124 ゾウブンダイニチキョウゴ  
藏文大日經語彙 KE183.7/H 44/2

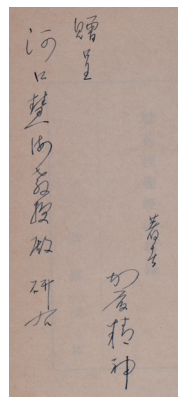
服部融泰 [編]。24.8×17.6cm。服部融泰（[埼玉]）、140頁。

【注記】『藏文大日經』（洋和123）とセット。

洋和125 ハンニヤリ シュキョウケンセイロク  
般若理趣經研精録 KE183.7/Ka86

加藤精神 [述]。18.8×12.6cm。秋溪文庫（東京）、昭和13（1938）年9月30日発行。4+4+244頁。

【慧海】見返し書入れ「贈呈／河口慧海教授殿 研右」、「著者／加藤精神」。



洋和126 ゾウカンタイヤクダイニチキョウジュウシンボン  
藏漢對譯大日經住心品 KE183.7/Z 5

フダイニチキョウゾウカンリョウヤクヒカクケンキョウガイカン  
附大日經藏漢兩譯比較研究概觀

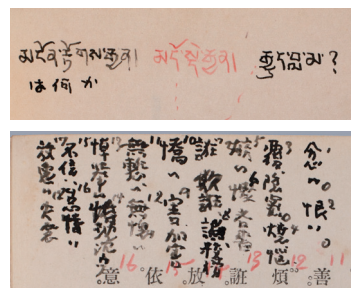
田島隆純 [訳]。19.3×13.0cm。新興社（東京）、昭和2（1927）年9月10日発行。2+3+8+3+168頁。

【慧海】見返し書入れ「謹デ／恩師河口慧海先生ニ捧グ／弟子 隆純」。

洋和127 セシン シュウキョウ フエイシキサンジュウジヨウキ  
世親の宗教：附唯識三十頌講義 KE183.94/Sa14

佐伯良謙 [著]。22.4×15.6cm。藤井左兵衛（京都）、大正13（1924）年12月5日発行。4+2+2+2+124頁。

【慧海】2頁や6頁等に慧海のものとして推定される書入れあり。





洋和128

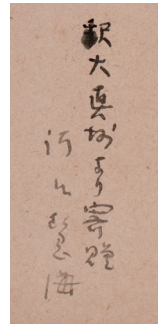
シンゴンシュウコウヨウ  
真言宗綱要

KE188.5/U 81

浦上隆應 [著]。22.1×15.6cm。真言宗聯合大學齋（和歌山）、明治38（1905）年3月15日発行。6+156頁。

【注記】図書館再製本。

【慧海】目次書入れ「釈大眞師より寄贈／河口慧海」。



洋和129

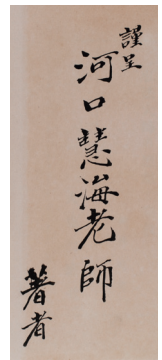
ヨウボウダイシ シソウ シュウキョウ  
弘法大師の思想と宗教

KE188.52/Ku27

神林隆浄 [著]。22.7×16.0cm。大東出版社（東京）、昭和7（1932）年5月15日発行。4+7+398頁。（佛教思想大系16）

【注記】114-115頁間に挟み込み資料「佛教思想体系月報 第四號」あり。

【慧海】見返し書入れ「謹呈／河口慧海老師／著者」。



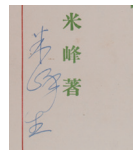
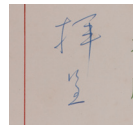
洋和130

ホンガンジモノガタリ  
本願寺物語

KE188.75/Ta54

高島米峰 [著]。19.0×13.5cm。實業之日本社（東京）、昭和6（1931）年1月5日発行。3+6+424頁。

【注記】内題紙書入れ「拝呈 米峰 生」（贈呈宛不記）。



洋和131

ゼンテキタイケンガイトウ ブツキョウ  
禪的體驗街頭の佛教：  
フブンショウセイカツサンジツネン キネンシュク ガカイキジ  
附文章生活三十年記念祝賀會記事

KE188.8/Ku79

來馬琢道 [著]。22.3×15.7cm。佛教社（東京）、昭和9（1934）年11月28日発行。30+2+2+584+20+12頁。

洋和132

ゼンリンショウキセン  
禅林象器箋

KE188.803/D 81

〔無著道忠編〕。22.7×16.4cm。貝葉書院（京都）、明治42（1909）年4月25日発行。2+4+858+34頁。

【慧海】ラベル「は1、4」。仏宣会印あり。

- 洋和133 エイサイゼン ジ  
榮西禪師 KE188.82/E 41  
木宮泰彦 [著]。19.3×13.7cm。丙午出版社（東京）、大正5（1916）年2月10日発行。4+5+236+19+22頁。（禪門叢書5）  
【注記】地に「榮西禪師」とある。
- 
- 洋和134 タイテンゼン ジ  
大典禪師 KE188.82/Ke44  
小島文鼎 [著]。19.1×13.9cm。福田宏一（大阪）、昭和2（1927）年10月5日発行。2+2+9+442+6頁。  
【注記】1頁に、発行者による献本に関する紙あり。1頁に旧蔵印あり。
- 
- 洋和135 タイテンゼン ジ  
大典禪師 KE188.82/Ke44  
小島文鼎 [著]。19.1×13.8cm。福田宏一（大阪）、昭和2（1927）年10月5日発行。2+2+9+442+6頁。  
【注記】1頁に、発行者による献本に関する紙あり。1頁に旧蔵印あり。
- 
- 洋和136 コブツドウゲン  
古佛道元 KE188.82/Ta84  
田中忠雄 [著]。18.5×12.7cm。不二書房（東京）、昭和17（1942）年9月15日発行。5+2+191頁。  
【注記】20-25頁に赤鉛筆線引きあり。
- 
- 洋和137 チョウセン トウ チ キリストキョウ  
朝鮮の統治と基督教 KE190.221/C 54  
朝鮮総督府 [編]。21.9×15.1cm。朝鮮総督府（京城）、大正10（1921）年5月15日再版（初版：大正10年1月31日発行）。2+57頁。
- 
- 洋和138 キリストマツサツロン  
基督抹殺論 KE190.4/Ko94  
幸徳傳次郎 [著]。22.2×15.3cm。丙午出版社（東京）、大正9（1920）年2月11日10版（初版：明治44（1911）年2月1日発行）。4+148頁。
- 
- 洋和139 トウザイ ブン カリュウツウ  
東西の文化流通 KE210.18/G 72  
後藤末雄 [著]。22.4×15.7cm。第一書房（東京）、昭和13（1938）年9月20日発行。371頁。
- 
- 洋和140 セカイテケンキョウ モト ニ ホンタイ コ シ ジョウカン  
世界的研究に基づく日本太古史：上巻 KE210.2/Ki39/1  
木村鷹太郎 [著]。22.5×16.0cm。木村鷹太郎（東京）、明治44（1911）年8月25日再版発行（初版：明治44年4月30日発行）。1+754+12頁。
- 
- 洋和141 ショウトクタイ シ シンコウ シソウ ニ ホンブン カソウギョウ  
聖徳太子の信仰思想と日本文化創業 KE210.33/Ku74/b  
黒上正一郎 [著]。22.3×15.8cm。第一高等學校昭信会（東京）、昭和10（1935）年7月21日発行。5+7+274+19+7頁。  
【注記】「序説附一 上宮御製疏内容の概観」（13～38頁）の項に赤鉛筆線引きあり。
- 
- 洋和142 ニホンセンリョウ セイカ テンボウ  
日本占領：その成果と展望 KE210.76/F 17  
ロバート・A・フィアリ [著]、太平洋問題調査會 [訳]。18.4×12.7cm。弘文堂（東京）、昭和27（1952）年12月15日再版発行（初版：昭和26年7月20日発行）。235頁。  
【注記】出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。

洋和143

ナ ラ ケンキンセキネンビョウ  
奈良縣金石年表

KE216.5/N 51/3

奈良縣 [編]。21.9×16.1cm。奈良縣 (奈良)、大正 5 (1916) 年 3 月 30 日発行。4 + 85 + 6 + 4 + 144 頁。(奈良縣史蹟勝地調査會報告書 奈良縣編 3)

【慧海】背表紙「慧海藏書」。



洋和144

シラギシ  
新羅史

KE221.035/F 74

福田芳之助 [著]。22.6×16.0cm。若林春和堂 (京都)、大正 2 (1913) 年 7 月 20 日再版 (大正 2 年 6 月 4 日発行)。4 + 5 + 12 + 436 頁。

【慧海】「新羅王代表及世系」に、慧海によるものと推定される、サンスクリット語、チベット語の書入れあり (417~419 頁)。

三 新羅王代表及世系			
王號	姓	諱	妃
赫居世居西干	朴	眞	眞
南解次次雄	全上	眞	眞

洋和145

シナコダイシ  
支那古代史

KE222.03/H 75

ヒルト [原著]、西山榮久 [譯]。22.1×15.8cm。丙午出版社 (東京)、昭和 4 (1929) 年 4 月 3 日発行。14 + 4 + 15 + 412 + 27 + 4 + 16 頁。

【注記】図書館再製本。

洋和146

キンダイシ ナシ  
近代支那史

KE222.06/I-51

稲葉君山 [著]。22.2×15.6cm。大阪屋號書店 (東京)、大正 9 (1920) 年 6 月 18 日発行。5 + 528 頁。

洋和147

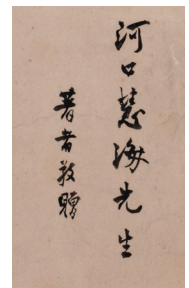
ゲンセイイキジン カ カコウ ジョウ  
元西域人華化考：上

KE222.8/C 46

陳垣 [著]。26.1×18.9cm。勵耘書屋 (不明)、[発行年不明]。81 + 64 頁。

【注記】図書館再製本。

【慧海】内題紙書入れ「河口慧海先生 / 著者敬贈」。



洋和148

チベットシ ケンキョウ  
西藏史の研究

KE222.9/Ku93

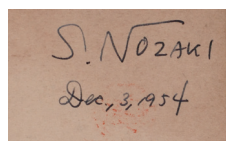
楠基道 [著]。22.2×15.6cm。佛教年鑑社 (東京)、昭和 9 (1934) 年 11 月 15 日発行。118 頁。(佛教大學講座)

【注記】図書館再製本。

洋和149 <sup>ミ ウエバナシ</sup> 身の上話 KE289.1/Mu93

武藤山治 [著]。18.0×12.7cm。[出版者不明]、[1934年3月]。4+344頁。

【注記】図書館再製本。見返し書入れ“S. NOZAKI / Des., 3, 1954”。内題紙蔵書印「野崎」(直径1.4cm)。書入れに基づき、非慧海旧蔵と推定。



洋和150 <sup>ニ ホンフウケイロン</sup> 日本風景論 KE291.013/Sh27

志賀重昂 [著]。22.5×15.4cm。政教社(東京)、明治27(1894)年10月27日発行。219頁。

【注記】図書館再製本。

洋和151 <sup>ニ ホンヘンロ</sup> 日本遍路 KE291.09/B 59

エドマンド・ブランデン [著]、富山茂 [訳]。21.3×15.1cm。朝日新聞社(東京)、昭和25(1950)年7月10日発行。3+141+119+2頁。

【注記】出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。

洋和152 <sup>ニ ホンダイオウコクシ</sup> 日本大王國志 KE291.09/C 21

フランソア・カロン [原著]、幸田成友 [訳著]。21.3×15.3cm。東洋堂(東京)、昭和23(1948)年11月30日発行。6+363頁。

【注記】赤鉛筆線引き。154-155頁の間「伊藤書店はがき」あり。出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。

洋和153 <sup>ニ ホンインショウ</sup> 日本印象 KE291.09/F 45

G.S. フレーザー [著]、平松幹夫 [編]。21.4×15.1cm。朝日新聞社(東京)、昭和27(1952)年9月25日発行。7+173+139+2+7頁。

【注記】出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。

洋和154 <sup>ニ ホンユウシュウキ</sup> 日本幽囚記：下 KE291.09/G61/3

ゴロヴニン [著]、井上満 [譯]。14.1×10.4cm。岩波書店(東京)、昭和21(1946)年6月10日第1刷発行。390頁。(岩波文庫3113)

【注記】出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。

洋和155 <sup>ニ ホン ジン キシャ ニッキ</sup> 日本にいるアメリカ人：ソヴェト記者のニッポン日記 KE291.09/Kr 8

クルガノフ [著]、高木秀人 [訳]。18.2×12.8cm。五月書房(東京)、1952年3月30日発行。253頁。

【注記】出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。

洋和156 <sup>イチエイコクジン ミ ニ ホンオヨビ ニ ホンジン</sup> 一英国人の見たる日本及日本人 KE291.09/L 98

トマス・ライエル [著]、野口啓祐 [訳]。18.9×13.0cm。創元社(東京)、昭和25(1950)年5月15日初版発行。10+349頁。

【注記】鉛筆線引き。出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。

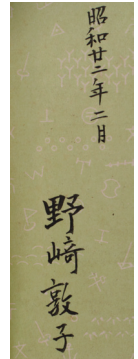
洋和157 <sup>ニホン</sup> 日本：タウトの日記 1 KE291.09/Ta96/1

篠田英雄 [訳]。17.9×12.8cm。岩波書店（東京）、昭和25（1950）年8月1日第1刷発行。9+305頁。  
【注記】鉛筆線引き。出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。

洋和158 <sup>トウキョウト</sup> <sup>ク</sup> <sup>ク</sup> <sup>ブン</sup> <sup>チ</sup> <sup>ズ</sup> <sup>チョウ</sup> <sup>セン</sup> <sup>サイ</sup> <sup>シヨウ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>シツ</sup> <sup>ク</sup> <sup>イ</sup> <sup>キ</sup> <sup>ヒョウ</sup> <sup>ジ</sup> コンサイス東京都35區區分地圖帖：戦災焼失區域表示 KE291.36/N 77

日本地圖株式會社 [著作]、東京空襲を記録する会 [復刻]。18.1×9.1cm。日地出版（東京）、昭和21（1946）年9月15日発行。27頁。

【注記】17頁に書入れ「土川先生宅」。最終頁書入れ「昭和廿二年二月／野崎敦子」。出版年と書入れに基づき、非慧海旧蔵と推定。



洋和159 <sup>ヤ</sup> <sup>バ</sup> <sup>ケ</sup> <sup>イ</sup> <sup>シ</sup> <sup>ヤン</sup> <sup>チョウ</sup> 耶馬溪写真帖 KE291.95/H 75

広津藤作 [著]。13.3×19.2cm。広津藤作（備前）、大正13（1924）年5月1日訂正再版（初版：大正12（1923）年4月25日発行）。

【注記】ページ番号なし。図書館再製本。

洋和160 <sup>サイ</sup> <sup>テ</sup> <sup>ント</sup> <sup>ウ</sup> <sup>ド</sup> 西天東土 KE292.09/Ko99

神月徹宗 [著]。22.3×15.3cm。暁聲社（東京）、大正12（1923）年6月5日。4+232頁。

洋和161 <sup>モク</sup> <sup>ネン</sup> <sup>ゼン</sup> <sup>ジ</sup> <sup>ナン</sup> <sup>ゴク</sup> <sup>ジュン</sup> <sup>レイ</sup> <sup>キ</sup> 黙仙禅師南国巡禮記 KE292.09/Ku79

来馬琢道 [著]。22.4×16.1cm。平和書院（東京）、大正5（1916）年10月28日発行。4+4+24+864+26+24頁。

【注記】図書館再製本。

【慧海】仏宣会印あり。

洋和162 <sup>シ</sup> <sup>ワ</sup> <sup>デン</sup> <sup>セツ</sup> <sup>チョウ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>セン</sup> <sup>メイ</sup> <sup>シヨウ</sup> <sup>キ</sup> <sup>コウ</sup> 史話傳説朝鮮名勝紀行 KE292.109/Ko73

近藤時司 [著]。17.0×10.5cm。博文館（東京）、昭和4（1929）年5月20日発行。2+9+466+7頁。

【注記】最終頁「東洋堂書店／TOKYO KANDA／TOYODO-SHOTEN」。

洋和163 <sup>サイ</sup> <sup>シン</sup> <sup>チュウ</sup> <sup>カ</sup> <sup>ケイ</sup> <sup>セイ</sup> <sup>イチ</sup> <sup>ラン</sup> <sup>ズ</sup> 最新中華形勢一覽圖 KE292.203/Ko11

洪懋熙 [編]。重製版。東方輿地學社、1933年。

【注記】現存せず。

洋和164 <sup>ノウ</sup> <sup>ミ</sup> <sup>カン</sup> <sup>イ</sup> <sup>コウ</sup> 能海寬遺稿 KE292.29/N 93

能海寬追憶會 [編]。22.4×15.9cm。能海寬追憶會（京都）、大正6（1917）年4月30日発行。255頁。

【慧海】ラベル「は1、7」。仏宣会印あり。



洋和165 <sup>ハ セ ベ ス イ サ イ イ コ ウ シ ュ ウ</sup> 長谷部水哉遺稿集 KE292.509/H 35

松永有見 [編輯]。22.6×16.2cm。長谷部隆諦師遺稿刊行会 (和歌山)、昭和5 (1930) 年7月15日発行。4+2+6+448頁。

洋和166 <sup>キ ュ ウ シ ュ ウ サ ン コ ウ ケ ン オ ウ シ セ ッ ギ ョ ウ キ</sup> 九州三侯遺歐使節行記 <sup>ゾクヘン</sup> 續篇 KE293.09/F 48/続

ルイス・フロイス [原著]、岡本良知 [訳註]。21.3×15.3cm。東洋堂 (東京)、昭和24 (1949) 年6月5日発行。8+5+266+10+36+4頁。

【注記】出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。

洋和167 <sup>ダイニッポン</sup> 大日本 <sup>ジョウカン</sup> 上巻 KE302.1/H 45/1

ハウス・ホーフアー [著]、若井林一 [訳]。18.6×12.9cm。洛陽書院 (東京)、昭和17 (1942) 年12月15日発行。417頁。

【注記】見返し東西研印あり。内題紙書押印「贈呈」。蔵書印に基づき、非慧海旧蔵と推定。



洋和168 <sup>サイキンインド</sup> 最近印度事情 <sup>ジジョウ</sup> KE302.25/G 15

在孟買帝国領事館 [編]。23.3×15.9cm。外務省通商局 (東京)・博文館 (東京) 発売、明治41 (1908) 年11月23日発行。3+図版+20+468頁+地図。

【慧海】仏宣会印あり。

洋和169 <sup>シッコク</sup> 桎梏の印度 <sup>インド</sup> KE302.25/Su74

ジェー・テイ・サンダーランド [原著]、[序] ラス・ビハリ・ボース、田辺宗夫 [共訳]。19.3×13.5cm。平凡社 (東京)、昭和8 (1933) 年3月18日発行。図版+6+6+334頁。

【注記】赤鉛筆の書入れ多数。

【慧海】223頁に慧海と推定される書入れあり、解題2.2.1参照。

洋和170 <sup>ケイザイガクタイ</sup> 経済學大意 <sup>カイセイバン</sup> 改正版 KE331/Ts74

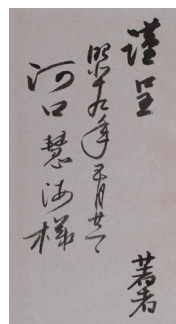
津村秀松 [著]。22.2×15.2cm。寶文館 (東京)、昭和4 (1929) 年1月5日発行。7+14+184頁。

【注記】鉛筆書入れ多数。156-157頁間に新聞切抜き「失業対策を求めて」あり。そこに「1930/6.21」とメモあり。非慧海旧蔵か。

洋和171 <sup>タイヘイヨウ</sup> 太平洋に於ける民族文化の交流 <sup>オ</sup> <sup>ミンゾクブン</sup> <sup>カ</sup> <sup>コウリョウ</sup> KE389/Ki88

清野謙次 [著]。太平洋協會 [編]。21.4×15.8cm。創元社 (東京)、昭和19 (1944) 年4月10日初版発行。図版+3+8+438頁。

【慧海】見返し書入れ「謹呈 著者/昭和十九年五月廿一日/河口慧海様」。



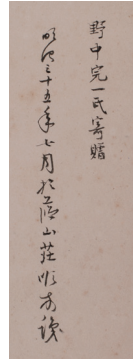
## 洋和172

コウトウシヨドゾクチョウサホウコク  
紅頭嶼土俗調査報告

KE389.224/To67

鳥居龍蔵 [著]、東京帝國大學 [編]。22.2×15.1cm。東京帝國大學（東京）、丸善株式会社書店（東京）売捌、明治35（1902）年7月17日発行。2+2+115頁。

【注記】目次蔵書印「鷺尾」（1.2×0.8cm）。本文冒頭部蔵書印「鷺尾順敬所藏圖書」（2.8×2.0cm）。最終頁書入れ「野中完一氏寄贈／明治三十五年七月於藍山莊順敬識」。



## 洋和173

リュウキョウコライ スウガク  
琉球古来の數學

KE418/Y 49

矢袋喜一 [著]。23.4×16cm。矢袋喜一（沖縄）、寶文館（発売）、大正4（1915）年10月15日発行。図版+2+8+110+20頁。

【注記】図書館再製本。「附録 琉球語の數詞について」（伊波普猷）あり。

## 洋和174

アサダ ソウハクシヨホウゼンシュウ ゼンベン  
淺田宗伯處方全集 前編

KE499.2/A 81/1

世界文庫刊行會 [編輯]。22.5×16cm。世界文庫刊行會（東京）、昭和3（1928）年6月3日発行。4+2+350頁。

## 洋和175

アサダ ソウハクシヨホウゼンシュウ コウヘン  
淺田宗伯處方全集 後編

KE499.2/A 81/2

世界文庫刊行會 [編輯]。22.5×16cm。世界文庫刊行會（東京）、昭和3（1928）年6月3日発行。1+1+317頁。

【注記】末尾に同発行所による書籍紹介あり。そこに河口慧海訳の維摩經、法華經、勝鬘經の紹介あり。

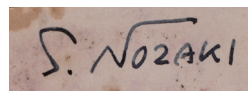
## 洋和176

ギジュツシ  
技術史

KE502.1/Sa18

三枝博音 [著]。22.3×15.8cm。東洋經濟新報社（東京）、昭和15（1940）年10月4日発行。4+8+7+370+48+19頁。（現代日本文明史14）

【注記】図書館再製本。見返し書入れ“S. NOZAKI”。内題紙押印「大原藏書」（1.8×1.8cm）。書入れに基づき、非慧海旧蔵と推定。



## 洋和177

ニホン ケンチク  
日本の建築

KE521/Ta96

ブルーノ・タウト [著]、吉田鐵郎 [譯]。18.1×12.9cm。育生社（東京）、昭和21（1946）年9月15日発行。図版+264+12頁。（タウト著作集2）

【注記】出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。

洋和178 ニホンビ サイハッケン ケンチクガクテキコウサツ 日本美の再発見：建築學的考察 KE521/Ta96

ブルーノ・タウト [著]、篠田英雄 [訳]。17.4×10.5cm。岩波書店（東京）、昭和23（1948）年5月30日第6刷発行（昭和14（1939）年6月28日第1刷発行）。図版+164頁。（岩波新書 赤39）

【注記】内題紙押印「山口藏書」（1.8×1.8cm）（東西研の山口文象か）。出版年に基づき、非慧海旧蔵と推定。



洋和179 ホンボウメン シ ボウセキシ 本邦綿絲紡績史 KE586.221/Ki47/1

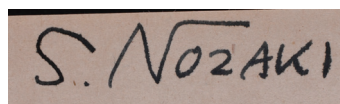
絹川太一 [著]。22.2×15.8cm。日本綿業倶楽部（大阪）、昭和12（1937）年6月30日発行。口絵+7+10+332+8+15頁。

【注記】図書館再製本。34頁以降鉛筆、ボールペンによる書入れあり。非慧海旧蔵か。

洋和180 サンギョウシ 産業史 KE602.1/Ts32

土屋喬雄 [著]。21.2×15.2cm。東洋経済新報社（東京）、昭和19（1944）年5月28日初版発行。2+8+447頁。（現代日本文明史8）

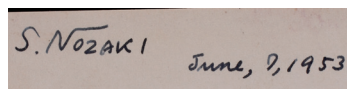
【注記】図書館再製本。見返し書入れ“S. NOZAKI”。書入れに基づき、非慧海旧蔵と推定。



洋和181 コウツウ シホンシュギ ハッテン ニホンコウツウギョウ キンダイカカタイ 交通における資本主義の發展：日本交通業の近代化過程 KE681/To55

富永祐治 [著]。21.2×15.5cm。岩波書店（東京）、1953年1月25日第1刷発行。vi+406+12頁。

【注記】図書館再製本。見返し書入れ“S. NOZAKI/June, 7, 1953”。内題紙押印「野崎」（直径1.4cm）。発行年と書入れに基づき、非慧海旧蔵と推定。



洋和182 ショウトウシュウスイ 松濤秀萃 KE702.098/Ma91

松山與兵衛 [編]。22.0×15.0cm。松濤荘（京都）、昭和10（1935）年5月25日発行。頁数なし。

【注記】付属の帙入り。

洋和183 ホウリョウジヘキガ 法隆寺壁畫 KE702.1/H 89

千早正朝 [編]。29.1×23.1cm。法隆寺々務所（奈良）、大正12（1923）年9月5日発行。図版15枚。

洋和184 ブンカ ギリシヤの文化 KE702.3/G 47

谷口吉郎、村田潔 [編]。21.2×15.4cm。大沢築地書店（東京）、昭和17（1942）年9月15日、図版+25頁。

【注記】非慧海旧蔵か。

洋和185 セカイビジュツゼンシュウ ベツカンダイカン 世界美術全集 別巻第5巻 KE708/Se22/別5

下中彌三郎 [編輯]。平凡社。

【注記】現存せず。

洋和186

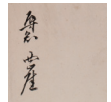
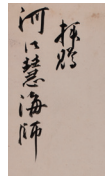
シナ ビジュツ シチョウソノ ヘン  
支那美術史彫塑篇

KE712.22/O-64

大村西崖 [著]。26.4×20.0cm。佛書刊行會圖像部（東京）、大正4（1915）年6月22日発行。6+41+27+661頁。

【注記】図書館再製本。

【慧海】内題紙書入れ「拝贈／河口慧海師 辱知 西崖」。



洋和187

カイガ コッカ セイスイ  
繪畫と國家の盛衰

KE720.1/Su48

杉浦俊香 [編]。22.2×16cm。東京堂（東京）、大正5（1916）年11月18日発行。図版+2+148頁。

【注記】72-73頁間に正誤表の挟み込みあり。

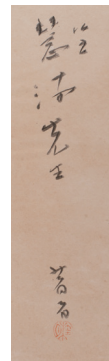
洋和188

タ ノ ムラチクデン  
田能村竹田

KE721.7/Ma73

松林桂月 [著]。27.2×19.9cm。中央美術社（東京）、55頁。

【慧海】内題紙押印「雪山／道人」「慧海」（各10.5×1.0cm）。後ろ見返し書入れ「呈／慧海先生 著者〔印「桂月」（1.3×1.2cm）〕」。



洋和189

コウヤサン エ ハガキチヨウ ダイ シュウ  
高野山繪葉書帖 第1集

KE726.58/N 83/1

西川忍龍 [編]。28.5×30.1cm。金剛峯寺（和歌山）、明治41（1908）年9月20日発行。〔6〕頁。

洋和190

コウヤサン エ ハガキチヨウ ダイ シュウ  
高野山繪葉書帖 第2集

KE726.58/N 83/2

西川忍龍 [編]。28.4×30.2cm。金剛峯寺（和歌山）、明治41（1908）年9月20日発行。〔6〕頁。

洋和191

コウヤサン エ ハガキチヨウ ダイ シュウ  
高野山繪葉書帖 第3集

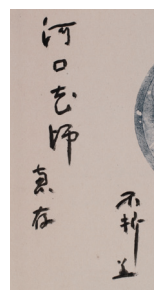
KE726.58/N 83/2

西川忍龍 [編] 28.4×30.1cm。金剛峯寺（和歌山）、明治41（1908）年9月20日発行。〔6〕頁。

洋和192 シヨウドウゼンシュウ 書道全集 ダイ 第2巻 カン 楽浪・前漢・後漢 ラクコウ ゼンカンゴカン 刻石文 コクセキブン KE728.08/Sh95/2

下中彌三郎 [編] 26.6×19.6cm。平凡社 (東京)、昭和5 (1930) 年8月18日発行。折込拓本1枚+272+33頁。

【慧海】内題紙書入れ「不折呈/河口老師 惠存」。



洋和193 シヨウソウインシキモンヨウシュウ 正倉院式文様集 コギレノブ 古裂之部 ダイ 第1集 シュウ KE753/Ku79/1

久留春年 [編]。36.9×27.8cm。木原文進堂 (奈良)、大正14 (1925) 年7月23日発行。解説 [7] 頁。図版20枚。

洋和194 シヨウソウインシキモンヨウシュウ 正倉院式文様集 コギレノブ 古裂之部 ダイ 第2集 シュウ KE753/Ku79/2

久留春年 [編]。36.9×27.8cm。木原文進堂 (奈良)、大正14 (1925) 年9月5日発行。解説7頁。図版20枚。

洋和195 シヨウソウインシキモンヨウシュウ 正倉院式文様集 コギレノブ 古裂之部 ダイ 第3集 シュウ KE753/Ku79/3

久留春年 [編]。36.9×27.8cm。木原文進堂 (奈良)、大正14 (1925) 年10月5日発行。解説7頁。図版20枚。

洋和196 シヨウソウインシキモンヨウシュウ 正倉院式文様集 コギレノブ 古裂之部 ダイ 第4集 シュウ KE753/Ku79/4

久留春年 [編]。36.9×27.8cm。木原文進堂 (奈良)、大正14 (1925) 年11月5日発行。解説7頁。図版20枚。

洋和197 シヨウソウインシキモンヨウシュウ 正倉院式文様集 コギレノブ 古裂之部 ダイ 第5集 シュウ KE753/Ku79/5

久留春年 [編]。36.9×27.8cm。木原文進堂 (奈良)、大正14 (1925) 年12月15日発行。解説7頁。図版20枚。

【注記】寫真一枚 (27.6×21.5cm)。

洋和198 コクゴ 国語のため KE810.4/U 32/1

上田万年 [著]。22.0×15.4cm。富山房 (東京)、明治36 (1903) 年8月10日訂正3版発行 (初版：明治28 (1895) 年6月23日発行)。332頁。

【注記】図書館再製本。

洋和199 コクゴ 国語のため：第2 ダイ KE810.4/U 32/2

上田万年 [著]。22.5×15.4cm。富山房 (東京)、明治36 (1903) 年6月13日発行。2+204頁。

洋和200 ニホンブンボウシンロン 日本文法新論 KE815/Ka48

金沢庄三郎 [著]。19.5×14cm。早稲田大学出版部 (東京)、大正元 (1912) 年12月28日発行。6+350頁。



## 洋和201

ヒョウジュン ニ ホンブンボウ  
標準日本文法

KE815/M88

松下大三郎 [著]。22.5×16.0cm。紀元社（東京）、大正14（1925）年11月1日5版（初版：大正13（1924）年12月11日発行）。2+14+676+2頁。

## 洋和202

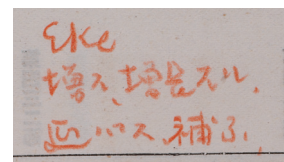
コウ ニ ホンブンテン ゼン  
廣日本文典：全

KE815/O-89

大槻文彦 [著]。23.2×16.1cm。大槻文彦（東京）、明治30（1897）年1月9日発行。336頁。

【注記】図書館再製本。全体にわたる書入れあり。

【慧海】「蔵梵佛典購求会趣意書及会則」（『生死自在』博文館，1904年に付されたもの）、他1点、104-105頁間に挟み込み。蔵書印「上原」（直径0.8cm）（1頁）。赤鉛筆書入れあり（224頁）、慧海か。



## 洋和203

コウ ニ ホンブンテン ゼン  
廣日本文典：全

KE815/O-89

大槻文彦 [著]。22.4×15.9cm。大槻文彦（東京）、明治35（1902）年5月第20版（初版：明治30（1897）年1月9日発行）。336頁。

【注記】図書館再製本。

【慧海】製本前の本来の表紙にラベル「に三、1、10」。仏宣印あり。

## 洋和204

ニ ホンコウ ゴ ホウ ゼン  
日本口語法：全

KE815/Y 92

吉岡郷甫 [著] 22.4×15.7cm。大日本図書（東京）、明治43（1910）年1月15日訂正3版発行（初版：明治39（1906）年1月21日発行）。2+8+236頁。

## 洋和205

チベット ゴ ブンテンコウヨウ  
西藏語文典綱要

KE829.32/A 32

明石恵達 [著]。22.5×15.8cm。弘文堂書房（東京・京都）、昭和12（1937）年10月5日発行。v + xiii + 241頁。

## 洋和206

チベットブンテン  
西藏文典

KE829.32/Ka92

河口慧海 [著]。22.7×16.0cm。大東出版社（東京）、昭和11（1936）年12月10日発行。v + 40 + 275頁。

## 洋和207

チベット ゴ ドクホン ダイイチ  
西藏語讀本：第一

KE829.32/Ka92/1

河口慧海 [著]。22.4×15.3cm。大日本藏梵學會（東京）、昭和12（1937）年7月24日発行。97頁。

## 洋和208

チベット ゴ ドクホン ダイイチ  
西藏語讀本：第一

KE829.32/Ka92/1

河口慧海 [著]。22.4×15.3cm。大日本藏梵學會（東京）、昭和12（1937）年7月24日発行。97頁。

## 洋和209

チベット ゴ ドクホン ダイイチ  
西藏語讀本：第一

KE829.32/Ka92/1

河口慧海 [著]。22.4×15.3cm。大日本藏梵學會（東京）、昭和12（1937）年7月24日発行。97頁。

【注記】現存せず。

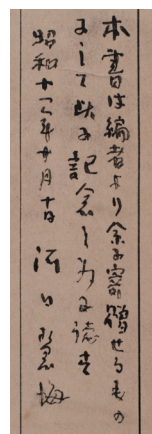
## 洋和210

ゾウボンタイシヨウホンヤクミョウ ギタイシユウチベツト ゴサクイン ブッテンケンキョウダイイチ  
蔵梵對照 翻譯名義大集 西藏語索引 佛典研究 第一

KE829.32/N 86

西尾京雄 [編]。22.1×14.9cm。佛典研究會（京都）、昭和11（1936）年9月20日発行。338+6頁。

【慧海】内題紙書入れ「本書は編者より余に寄贈せるものにして此に記念之為に誌す／昭和十一年十月十日 河口慧海」。



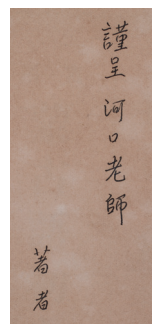
## 洋和211

ジツヨウモウ コ ゴ ショ ホ  
実用蒙古語初歩

KE829.55/Su93

鈴江万太郎 [著]。17.5×13.4cm。鈴江万太郎（香川）、大正7（1918）年8月30日発行。8+100頁。

【慧海】見返し書入れ「謹呈河口老師／著者」。



## 洋和212

ジッシュウボン ゴ ガク プンボウ シツタンシヨホウ プンシヨウ ジ ショ  
實習 梵語學：文法・悉曇書法・文抄・字書

KE829.89/O-25

荻原雲來 [著]。丙午出版、[出版年不明]。

【注記】現存せず。

## 洋和213

ジッシュウボン ゴ ガク プンボウ シツタンシヨホウ プンシヨウ ジ ショ  
實習 梵語學：文法・悉曇書法・文抄・字書

KE829.89/O-25/附

荻原雲來 [著]。丙午出版、[出版年不明]。

【注記】現存せず。

## 洋和214

カイセツボン ゴ ガク  
解説 梵語學

KE829.89/Sa31

榊亮三郎 [著]。真言宗高等中學、1907年2月。

【注記】現存せず。

## 洋和215

エイカ ジザイ  
詠歌自在

KE911.107/Sa75

佐佐木弘綱 [編]、佐佐木信綱 [補]。増補。19.2×13.7cm。博文館（東京）、明治30（1897）年2月40日発行。函版+8+4+526+166+42+4+12頁。

【注記】内題紙鉛筆書き「33」。

洋和216 <sup>ウタノシ</sup> <sup>ゼン</sup>  
歌之志をり：全 KE911.107/Sa75

佐々木信綱 [著]。19.0×13.8cm。博文館（東京）、明治26（1893）年7月24日3版発行（初版：明治25（1892）年4月2日出版）。図版+8+6+14+386+図版+6+104+102+46+34+46+66+186+266+258+17頁。

【注記】図書館再製本。

洋和217 <sup>アサツキ</sup> <sup>カシユウ</sup>  
朝月：歌集 KE911.168/Sh27

四賀光子 [著]。18.9×13.1cm。潮音社（東京）、昭和13（1938）年10月25日発行。380+7頁。

洋和218 <sup>セワキョウゲン</sup> <sup>ケンキョウ</sup>  
世話狂言の研究 KE912.3/Ko25

小山内薫 [ほか著]、古劇研究会 [編]。19×13.7cm。天弦堂書房（東京）、大正5（1916）年11月24日発行。3+398頁。

【注記】内題紙鉛筆書き「37」。

洋和219 <sup>キョウゲンゼンシュウ</sup>  
狂言全集 KE912.3/Ko48

国民文庫刊行會 [編輯]。22.4×15.7cm。国民文庫刊行會（東京）、明治43（1910）年1月15日発行。3+9+804頁。

洋和220 <sup>ヨウキョクツウカイ</sup>  
謡曲通解 KE912.3/O-93

大和田建樹 [編]。増補。22.3×15.5cm。博文館（東京）、明治40（1907）年7月25日12版発行（初版：明治29（1896）年11月27日発行）。4+8+22+200+202+200+194+204+204+206+210+128頁。

【注記】図書館再製本。

洋和221 <sup>ツレヅレグサモンダンシヨウ</sup> <sup>コウチュウ</sup>  
徒然草文段抄：校註 KE914.45/Ki68

北村季吟 [著]、鈴木春湖 [校]。21.5×14.8cm。鈴木常松（大阪）、明治25（1892）年9月20日出版。5+318頁。

洋和222 <sup>チュウゴクシュンレンシュウゲ</sup> <sup>ゴガク</sup> <sup>ブンガク</sup> <sup>キゴウ</sup> <sup>サクシノシオリ</sup>  
中国春聯集解：語学・文学・揮毫・作詩之栞 KE921/Sh54

下永憲次 [著]。22.4×15.2cm。小林又七本店（東京）、昭和8（1933）年6月12日発行。図版+9+334+24頁。

【注記】44-45頁間に正誤表あり。

【慧海】付属の正誤表に従い、16、25、44頁に赤字よる修正あり。

## 洋書の部

洋洋001 *Principles of Tantra Part I: The Tantratattva of Śrīyukta Śhiva Chandra Vidyârnavā Bhattâcâryya Mahodaya* KE129/A 96/1

Arthur Avalon (ed.). 23.4×16.2 cm. London: Luzac, 1914. xxvi + lxxxii + 400 p.

【注記】本文中に赤・青鉛筆による書入れあり。

【慧海】ラベル「ろ4、12」。仏宣会印あり。河口製本。背表紙“PRINCIPLES OF TANTRA”、“PART. I BY ARTHUR AVALON”、“EKAI KAWAGUCHI”。



洋洋002 *The Religions of India* KE129/B 25

A. Barth, Rey J. Wood (tr.). 3rd ed. 21.6×15.6 cm. London: Kegan Paul, Trench, Trübner & CO., Ltd., 1891. xxiv + 309 p.

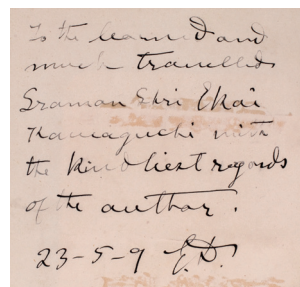
【慧海】ラベル「ろ4、20」。仏宣会印あり。

洋洋003 *Hinduism and India: A Restrospect and a Prospect* KE129/D 43

Govinda Das. 19.0×13.4 cm. London & Benares: Theosophical Publishing Society, 1908. xxvi + iv + 363 + 2 + xxxvii p.

【注記】見返し「P. 2」。

【慧海】見返し書入れ“To the learned and / much travelled / Sraman Shri Ekai Kawaguchi with / the kind best regards / of the author. / 23-5-9 G.D.”。



洋洋004 *Hindustan Review, vol. 22: whole no.131* KE129/H 61/22

Sachchidananda Sinha (ed.). 24.5×16.2 cm. Allahabad, 1910. 140 p.

【注記】見返し「p. 3」。

洋洋005 *Hymns to the Goddess* KE129/H 99

Arthur and Ellen Avalon (tr.). 23.5×16.0 cm. London: Luzac, 1913. xii + 179 p.

【注記】内題紙に“Ekai Kawaguchi”と鉛筆書きあるも、誰によるものか不明。

【慧海】ラベル「ろ4、14」。仏宣会印あり。河口製本。背表紙“EKAI KAWAGUCHI”。



洋洋006 *The Kinship Between Hinduism and Buddhism* KE129/O-59

Henry S. Olcott. 22.1×13.8 cm. Calcutta: Maha-Bodhi Society, 1893. 33 p.

【注記】図書館再製本。IntroductionとAppendixはDharmapálaが記す。

洋洋007

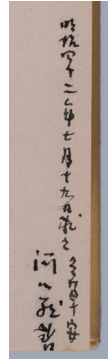
*Sanātana Dharma: An Advanced Text Book of Hindu Religion and Ethics*

KE129/Sa61

Central Hindu College. 17.6×13.7 cm. Benares: Board of Trustees, Central Hindu College, 1904. iii + 402 + xxvii p.

【注記】図書館再製本。

【慧海】前書き (Foreword) に書入れ「明治四十二年七月十九日求之 三留十安／河口蔵書」。



洋洋008

*Tantrik texts*

KE129/Ta89

Arthur Avalon (ed.). 25.1×17.5 cm. Calcutta: Sanskrit Press Depository, London: Luzac. Vol.1: *Tantrābhidhāna with Vijañighantu and Mudrāñighantu*. Tārānātha Vidyāratna (tr.). 1913, viii + 57 + 61 + 2 p. Vol.2: *Shatchakranirūpana and Pādūkāpanchaka*. Tārānātha Vidyāratna (tr.). 1913, iii + 143 + 8 p. Vol.3: *Prapanchasāra Tantra*. Tārānātha Vidyāratna (tr.), 1914. 66 + 259 p.

【注記】1巻から3巻までを合冊。

【慧海】ラベル剥離。仏宣会印あり。河口製本。背表紙“TANRIK TEXTS VOL. I”、“BY ARTHUR AVALON”、“EKAI KAWAGUCHI”。



洋洋009

*Tantra of the Great Liberation (Mahānirvāna Tantra)*

KE129/Ta89

Arthur Avalon (tr. etc.). 23.5×16.6 cm. London: Luzac, 1913. cxlvi + 359 p.

【注記】内題紙“Ekai Kawaguchi”と青鉛筆書きあり。本文中に赤鉛筆による書入れ、多少あり。

【慧海】ラベル「ろ4、13」。仏宣会印あり。河口製本。背表紙“MAHANIRVAN TANTRA”、“BY ARTHUR AVALON”、“EKAI KAWAGUCHI”。



洋洋010

*The Hymns of the Samaveda*

KE129.2/G 85

Ralph T. H. Griffith (tr.). 2nd ed. 22.4×14.9 cm. Benares: E.J. Lazarus, 1907. v + 338 + xxxvii p.

【注記】内題紙“Ekai Kawaguchi”と青鉛筆書きあり。

【慧海】ラベル「イ4、19」。仏宣会印あり。河口製本。背表紙“EKAI KAWAGUCHI”。



洋洋011

*Darśanaṣaṭkam*

KE129.6/D41

20.6×12.8 cm. Benares: Chandraprabha Press, [1899]. 37 + 32 + 15 + 170 + 30 + 154 p.

【注記】表紙裏にシール“BOUND IN TARA PRINTING WORKS, BENARES CITY”。

【慧海】背表紙“ekai kabaguci (デーヴァナーガリー文字)”。





洋洋012 *The Vedānta Siddhāntamuktāvalī of Prakāśānanda* KE129.62/V 53

Arthur Venis. 22.1×13.7 cm. Benares: E J. Lazarus, 1898. 186 + VI p.

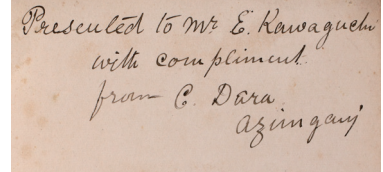
【注記】見返し「p. 6」。

洋洋013 *Jainism, in Western Garb, as a Solution to Life's Great Problems* KE129.7/W 39

Herbert Warren. 18.5×12.4 cm. Madras: Minerva Press, 1912. xi + 127 p.

【注記】見返し「P. 2」。

【慧海】見返し書入れ “Presented to mr. E. Kawaguchi / with compliments / from C. Dara / azimganj”。

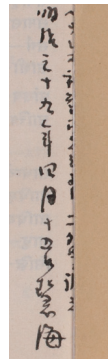


洋洋014 *The Bhagavad Gītā: With Samskrit Text, Free Translation into English, a Word-for-word Translarion, and an Introduction on Samskrit Grammar* KE129.8/B 39

Annie Besant, Bhagavān Dās. 17.6×13.0×2.3 cm. London and Benares: Theosophical Publishing Society, 1905. xxxiii + 348 p.

【注記】図書館再製本。見返し「P. 6」。

【慧海】最終頁書入れ「ベナレス神智学会より二留ニ調之／明治三十九年四月十五日 慧海」



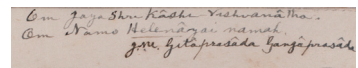
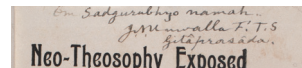
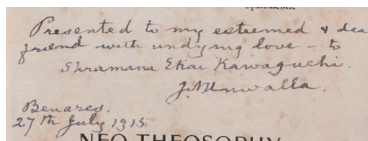
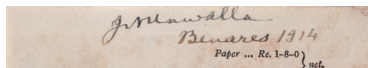
洋洋015 *Neo-theosophy Exposed* KE147/B 76

F. T. Brooks. 18.6×13.1 cm. Madras: Vyasashrama Bookshop, 1914. xxxii + 445 p.

【注記】\*鉛筆書き 他の「P. 2」も同じ。

【慧海】内題紙書入れ “J.N. Unwalla / Benares 1914 /

Presented to my esteemed & dear / friend with undying love-to / Sramana Ekai Kawaguchi. / J.N. Unwalla / Benares. / 27th July 1915”。次頁 “Om sadgurubhyo namah. / J.N.Unwalla F.T.S / Gitāprasāda.” “Om Jaya Shri Kāshi Vishvanātha. / Om Namo Helenāyai namah. / J.N.U. Gitaprasāda Gangāprasāda”。



洋洋016 *Indian Palmistry* KE148.2/D 32

J. B. Dale. 19.0×12.7 cm. London & Benares: Theosophical Publishing Society, 1895. vii + 10-66 p.

【注記】見返し「p. 2」。

洋洋017 *Ādyera Gambhīrā* KE160.2/P17

Haridāsa Pālita. 18.8×13.2 cm. Māladaha: Māladaha-Jātiyaśikshāsamiti; Kalikātā: Ejeṅṭas, Cakrabarti Cyāṭārji eṅḍa Koṃ, 1319 [1912]. xxiii + 326 p.

洋洋018

*Chinese Religion Through Hindu Eyes:  
A Study in the Tendencies of Asiatic Mentality*

KE160.222/Sa69

Benoy Kumar Sarkar, Wu Ting-Fang (introd.). 23.4×16.3 cm. Shanghai: Commercial Press, 1916, xxxii + 331 + 4 p.

【慧海】ラベル「[ろ]、[4]、21」。仏宣会印あり。

洋洋019

*The Eagle and the Captive Sun:  
Indian Pandits in the Land of Snow*

KE162/Ma32

21.0×13.9cm. *The Eagle and the Captive Sun: A Study in Comparative Mythology.*

Jnanendralal Majumdar. Calcutta: Bhattacharya & Sons, London: Kegan, Paul, Trench,

Trübner & Co., Ltd., 1909, xii + 231 p. *Indian Pandits in the Land of Snow.* Sarat Chandra Das, Nobin Chandra Das (ed.). Calcutta: Baptist Mission Press, 1893, 92 + 28 p.

【注記】全2種合冊。見返し「P. 2」。

【慧海】河口製本。背表紙“THE EAGLE & THE CAPTIVE SON AND”、“INDIAN PANDITS IN THE LAND OF SNOW”、“EKAI KAWAGUCHI”。



洋洋020

*Buddhism: Its History and Literature*

KE180.2/D 46

T.W. Rhys Davids. 20.8×14.8 cm. New York and London: G.P. Putnam's Sons, 1896. xiii + 230 p. (American lectures on the history of religions, 1st ser. 1894–1895)

洋洋021

*Acts to Revelation: Tibetan*

KE180.222/A 15

20.1. ×14.0cm. [s.n.], [1---]. iv + 347p.

【注記】見返し「p. 7」。挟み込み資料「仏教普通唱歌」（『仏教』139, 明治31（1898）年10月5日付録）。

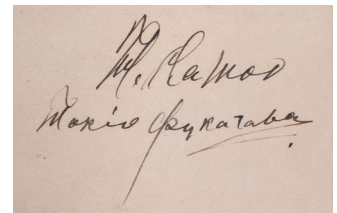
洋洋022

*Buddhism in China*

KE180.222/B 31

S. Beal. 17.2×11.8 cm. London: Society for Promoting Christian Knowledge, 1884. viii + 263 p. (Non-Christian religious systems)

【注記】見返し「P. 2」。内題紙書入れ“■/■”。



洋洋023

*Tāranāthaḥi Chos ḥbyun (Dḥal gyi 'byun gans Dam ḥa'i chos  
rin ḥo che 'Phags ḥa'i yul du ji ltar dar ba'i tshul gsal bar ston  
ḥa Dgos 'dod kun 'byun zhes bya ba bzhugs so)*

KE180.222/H 49

Tāranātha. 24.4×17.0 cm. [s.n.], [1---]. 528 p.

洋洋024 *Tibetan Tales Derived from Indian Sources* KE180.222/Ti 1

F. Anton von Schiefner; W.R.S. Ralston (tr.). 21.4×15.0 cm. London: Kegan Paul, Trench, Trubner, 1906. lxx + 368 p.

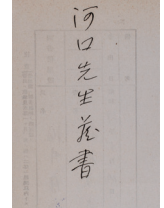
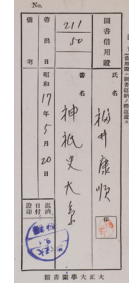
【注記】見返し「P. 4」。

【慧海】ラベル剥離。仏宣会印あり。

洋洋025 *The Buddhist Stūpas of Amaravati and Jaggayyapeta in the Krishna District, Madras Presidency, Surveyed in 1882* KE180.225/B 92

Jas. Burgess, Georg Bühler (tr.). 33.7×26.1 cm. London: Trübner & Co., 1887. ix + 131 p., 69 leaves of plates. (Archæological Survey of Southern India, 1)

【慧海】仏宣会印あり。66-67頁に「河口先生蔵書」と書かれた紙あり。裏は大正大学図書館の「圖書借用證」（福井康順が『紙祇史大系』を借りた記載あり）。「昭和17年5月20日」とある。



洋洋026 *A Collection of Prakrit and Sanskrit Inscriptions* KE180.225/C 84

Bhavnagar Archaeological Dept. 32.7×23.6 cm. Bhavnagar: Bhavnagar Archaeological Dept., [1894]. 10 + 3 + 2 + 233 p., xli leaves of plates.

【注記】書店のラベル貼付“BOUND AT / EDUCATION / SOCIETY'S / PRESS / BYCULLA.”。

【慧海】ラベル「ろ5、2」。仏宣会印あり。

洋洋027 *Inscriptions of Asoka* KE180.225/C 88/1

Alexander Cunningham. 31.3×29.4 cm. Calcutta: Office of the Superintendent of Government Printing, 1879. iii + x + 141 + v p., [35] leaves of plates: ill., map. (Corpus inscriptionum indicarum, 1)

【注記】書店のラベル貼付“BOUND IN / TARA PRINTING WORKS, / BENARES CITY.”。

【慧海】ラベル「ろ5、4」。仏宣会印あり。

洋洋028 *Mahâbodhi, or, The Great Buddhist Temple under the Bodhi Tree at Buddha-Gaya* KE180.225/C 95

A. Cunningham. 32.6×25.6 cm. London: W.H. Allen, 1892. x + 87 p., 31 leaves of plates.

【注記】図書館再製本。

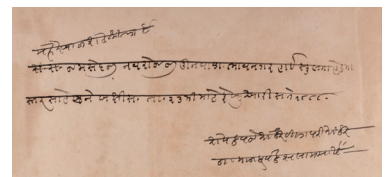
【慧海】仏宣会印あり。

洋洋029 *Bhāvanagaraprācīna Śodhasaṃgraha* KE180.225/D41

34.5 × 25.7 cm. Bhāvanagara: Darabāri Chāpakhānamāṃ Chāpyuṃ, 1885. [4 + ] 98 + 35 [ + 1 ] + 66 p.

【注記】見返しに書入れあり。

【慧海】ラベル「ろ4、1」。仏宣会印あり。



洋洋030

*Journal of the Buddhist Text Society of India*

KE180.225/J 82

Ed. Sarat Chandra Das, C.I.E. 24.0×17.0 cm. Calcutta: Baptist Mission Press. Vol. 3 (1)–(3), 4 (1), (3)–(4), 5 (1)–(4), 1895–1897.



【注記】9冊を合冊。

【慧海】ラベル「イ4、12」。仏宣会印あり。河口製本。背表紙“JOURNAL OF THE BUDDHISTS TEXTS SOCIETY OF INDIA”、“EDITED BY SARAT CHANDRA DAS, C.I.E. VOLs. III, IV & V.”、“EKAI KAWAGUCHI”。

洋洋031

*Saddharmapundarika*

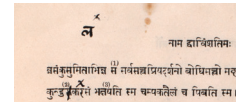
KE180.8/B 41/10

H. Kern, Bunyiu Nanjio. 25.2×17.5 cm. St.-Petersbourg: Imprimerie de l'Academie Imperiale des Sciences, 1912. xii + 507 p. (Bibliotheca Buddhica, 10)



【注記】見返し「P. 1」。

【慧海】河口製本。背表紙“EKAI KAWAGUCHI”。本文紙、赤鉛筆の線引きのほか、書入れあり。363–400頁をクリップ止め。解題1.4参照。



洋洋032

*The Dharma-samgraha: An Ancient Collection of Buddhist Technical Terms*

KE181/D 69

Kenjiu Kasawara, F. Max Müller; H. Wenzel (ed.). 21.0×19.0 cm. Oxford: Clarendon Press, 1885. vii + 89 p. (Anecdota Oxoniensia. Aryan series, v. 1, pt. 5)

【注記】再製本。

洋洋033

*A Buddhist Bible*

KE181/G 55

Dwight Goddard (ed.). 2nd ed. 22.0×14.5 cm. Thetford, Vermont: Dwight Goddard, 1938. viii + 677 p.

【注記】見返し「p. 4」。

洋洋034

*An English Translation with Sanskrit Text of the Yogasara-Sangraha of Vijnana Bhikshu*

KE181.4/E 61

Tr. Ganganatha Jha. 18.6×11.5 cm. Bombay: Tatva-Vivechaka Press, 1894. 102 + 8 + 71 + 4 p.

【注記】見返し「p. 2」。82–83頁メモあり。

洋洋035

*Followers of Buddha*

KE181.8/G 55

Dwight Goddard. 20.1×13.9 cm. Santa Barbara: [J.F. Rowny Press], 1934. vii + 35 p.

【注記】見返し「P. 2」。

洋洋036

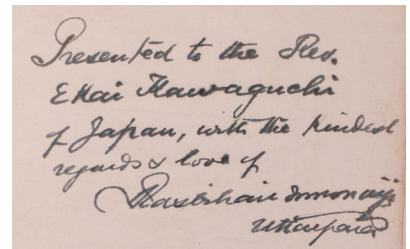
*The Gospel of Buddha, According to Old Records*

KE181.8/C 24

Paul Carus. 19.0×12.8 cm. London: Swan Sonnenschein, 1895. xiv + 275 p. (The Religion of Science Library, 14)

【注記】見返し「P. 2」。本文終了の後、大菩提会の広告あり。スマンガラ、ダルマパーラ、ポールケーラスの名あり。

【慧海】内題紙書入れ“Presented to the Rev. / Ekai Kawaguchi / of Japan, with the kindest / regards love of / ■ / ■”（著者より慧海へ寄贈）。



洋装037

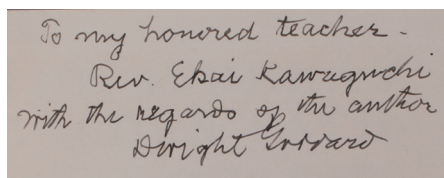
*The Buddha's Golden Path*

KE181.8/G 55

Dwight Goddard. 18.9×13.3 cm. London: Luzac, 1930. xii + 210 p.

【注記】見返し「P. 2」。

【慧海】見返し書入れ “To my honered teacher / Rev. Ekai Kawaguchi / with the regards of the author / Dwight Goddard” (著者より慧海へ寄贈)。



洋装038

*Buddhist Texts of the Buddhists Text Society of India*

KE183/B 83

23.8×16.4 cm. *Bhaktisatakam*, Darjeeling: Bengal Secretariat Press, 1896. iv + 49 p. *Samādhirāja sūtram*, [s.n.], [1---], 42 p. *Lankāvatāra sūtram*, Darjeeling: Government Press, 1900. 3 + 144 p. *Suvarṇaprabhā*, [s.n.], [1---], 76 p. *A Brief Summary of mDo bskal bzang, the Sutra on the Glorious Age*, Sarat Chandra Das, C.I.E., [s.n.], [1---], 26 p.

【注記】5冊を合冊。

【慧海】ラベル「イ4、9」。仏宣会印あり。河口製本。背表紙 “BUDDHIST TEXTS OF THE BUDDHISTS TEXT SOCIETY OF INDIA”、“BHAKTI SATAKA SMADHIRAJ A SUTTRAM LANKAVATARA SUTTRA SUVARNAPRAVA”、“EKAI KAWAGUCHI”。



洋装039

*Buddhist Texts of Buddhists Text Society*

KE183/B 83

23.9×17.1 cm. *Dhammapadam*, [s.n.], [1---], 114 p. *Mādhyamikā vṛitti*, [s.n.], [1--], 224 p. *Visuddhimaggo*, [s.n.], 1894, 56 p. *Karuṇāpuṇḍarikam*, [s.n.], [1--], 129 p.

【注記】4冊を合冊。*Karuṇāpuṇḍarika* (悲華經) 中にチベット語等の書入れあり。

【慧海】ラベル「イ4、10」。仏宣会印あり。河口製本。背表紙 “BUDDHIST TEXTS OF BUDDHISTS TEXT SOCIETY”、“DHAMMAPADAM MADHYAMIKA VRITTI VISUDDHIMAGGO KARUNA PUNDARIKAS”、“EKAI KAWAGUCHI”。



洋装040

*Abhisamayālamkāṛ'ālokā Prajñāpāramitāvyākhyā:  
The Work of Haribhadra*

KE183.2/H 33

U. Wogihara (ed.). fasc. 1. 26.3×19.6 cm. Tokyo: The Toyo Bunko, 1932. 128 p.

洋装041

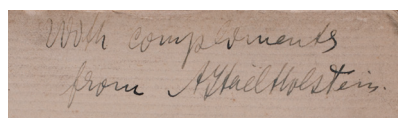
*A Commentary to the Kācyaaparivarta*

KE183.51/St 1

Baron A. von Staël-Holstein (ed.). 26.2×18.9 cm. Peking: The National Library of Peking, 1933. xxiv + 340 p.

【注記】見返し「p. 5」。

【慧海】表紙書入れ “With compliments / from StaëlHolstein” (著者より慧海へ寄贈)。





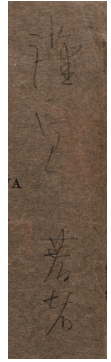
洋洋042

*Bodhisattvabhūmi: A Statement of Whole Course of the  
Bodhisattva (Being Fifteenth Section of Yogācārabhūmi) 2*

KE183.6/O-25/2

Unrai Wogihara (ed.). 23.7×16.8 cm. Tokyo: [s.n.], 1936. 414+2+iv+24+43+12+7 p.

【注記】見返し「p. 1」。表紙書入れ「謹呈 著者」(宛先不記)。



洋洋043

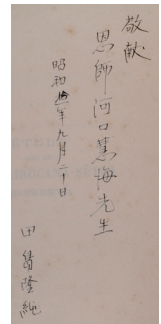
*Étude sur le Mahāvairocana-sūtra (Dainichikyō):  
Avec la Traduction Commentée du Premier Chapitre*

KE183.7/Ta26

R. Tajima. 23.7×18.7 cm. Paris: A. Maisonneuve, 1936. x, 186 [+10] + iii p.

【注記】見返し「P. 1」。

【慧海】見返し書入れ「敬献／恩師河口慧海先生／昭和拾一年九月二十日／田島隆純」。解題1参照。



洋洋044

*The Mission of the Brahma Samaj or the Theistic Church of  
Modern India*

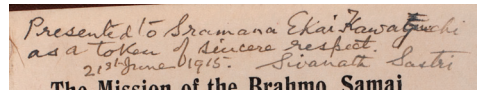
KE187/Sa82

Pandit Sivanath Sastri. 2nd ed. 18.3×13.0 cm. Calcutta:

Kuntaline Press, 1910. 108 p.

【注記】見返し「P. 5」。

【慧海】見返し書入れ“Presented to Sramana Ekai Kawaguchi / as a token of sincere respect. / 21st June 1915. Sivanath Sastri” (著者より慧海へ寄贈)。



洋洋045

*The Awakening to the Truth, or, 'Kaimokushō'*

KE188.93/N 71

Nichiren, [International Buddhist Society (ed.), N.R.M. Ehara (tr.), Bhikkhu Soma & Bhikkhu Kheminda (assisted)], 26.2×18.9 cm. Tokyo: The International Buddhist Society, 1941. v + 122 p.

- 洋洋046 *Chikoro Utarapa ne Yesu Kiristo Ashiri Aeuitaknup Oma Kambi = The New Testament of our Lord and Saviour Jesus Christ in Ainu* KE193.5/C 44

John Batchelor (tr.). 19.3×13.7 cm. [Yokohama], 1897. 706 p.

【注記】見返し「P.」。

【慧海】最終頁書入れ「河口蔵書」。



- 洋洋047 *Gupta and Inscription Galleries* KE225/A 46/2

John Anderson. 22.0×13.6 cm. Calcutta: Indological Book Corp., 1977. xi + 521 p. (Catalogue and handbook of the archaeological collections in the Indian Museum, 2)

【注記】見返し「p. 6」。

- 洋洋048 *The History of India* KE225/C 89

Edward B. Cowell. 9th ed. 22.5×15.5 cm. London: John Murray, 1911. xxxii + 767 p.

【慧海】ラベル「ろ 4、19」。仏宣会印あり。

- 洋洋049 *Ancient India, as Described by Megasthenês and Arrian: Being a Translation of the Fragments of the Indika of Megasthenês Collected by Dr. Schwanbeck, and of the Firstpart of the Indika of Arrian* KE225.03/Ma13

J.W. McCrindle. 20.4×14.0 cm. Calcutta : Thacker, Spink, Bombay: Thacker, London: Trübner, 1877. xi + 223 p.

【注記】図書館再製本。書入れあり。

- 洋洋050 *History of Nepāl* KE225.8/W 94

Munshi Shew Shunker Singh, Pandit Shrī Gunānand (tr.), Daniel Wright (ed.). 27.5×18.9cm. Cambridge: At the University Press, 1877. xv + 324 p.

【注記】見返し「P. 5」。赤鉛筆による線引きあり。

【慧海】ラベル「ろ 5、5」。仏宣会印あり。慧海による解説が裏面に付された神像写真（洋和032参照）の挟み込みあり（70-71頁間）。

containing the tank and shrine of Nīlakantha, which is also famous in Nepalese history.  
At the extremity of the willow avenue, already mentioned, stands a small village named Balaji. This is situated at the foot of the Nāgajūn mountain, which is often mentioned in the History. The mountain has

- 洋洋051 *Egypt: As Seen in Scripture and on the Monuments* KE242/E 33

17.4×12.6 cm. London: G. Morrish, A. Holness, [19--]. xii + 388 p.

- 洋洋052 *The Story of Hawaii* KE276/A 41

Mary Charlotte Alexander. 18.7×14.5 cm. New York, Cincinnati, Chicago: American Book, c1912. 272 p.

【慧海】ラベル「に 1、15」。

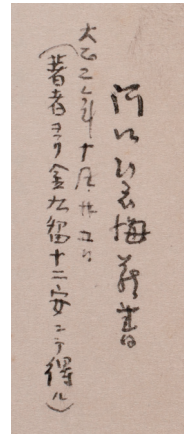
洋洋053

*Journey to Lhasa and Central Tibet*

KE292.29/D 43

Sarat Chandra Das, W. W. Rockhill (ed.). new ed. 22.4×15.0 cm. London: John Murray, 1904. xvi + 368 p.

【慧海】ラベル「イ4、14」。仏宣会印あり。見返し書入れ「河口慧海蔵書／大正二年十月廿五日／著書ヨリ金九留十二安ニテ得ル」。



洋洋054

*Trans-Himalaya: Discoveries and Adventures in Tibet, vol. 1*

KE292.29/H 51/1

Sven Hedin. 22.6×15.5 cm. London: Macmillan, 1909. xxiii + 436 p.

【注記】図書館再製本。

【慧海】仏宣会印あり。著者からの寄贈か。解題2.2.3参照。

洋洋055

*Trans-Himalaya: Discoveries and Adventures in Tibet, vol. 2*

KE292.29/H 51/2

Sven Hedin. 22.6×15.5 cm. London: Macmillan, 1910. 35-423 p.

【注記】図書館再製本。タイトル、目次、34頁まで欠。

【慧海】仏宣会印あり。著者からの寄贈か。解題2.2.3参照。

洋洋056

*Lhasa: An Account of the Country and People of Central Tibet and of the Progress of the Mission Sent There by the English Government in the Year 1903-4*

KE292.29/L 22

Perceval Landon. New and revised ed, 22.3×15.6 cm. London: Hurst & Blackett, 1906. xvi + 530 p., [2] leaf folded map.

【注記】折込の地図あり。

【慧海】ラベル「イ4.18」。仏宣会印あり。

洋洋057

*The Great Closed Land: A Plea for Tibet*

KE292.29/Ma59

Annie W. Marston, Rev. B. La Trobe (preface). 22.5×19.5 cm. London: S. W. Partridge and Co., [1895]. xvii + 112 p.

【注記】図書館再製本。

【慧海】仏宣会印あり。

洋洋058

*With the Tibetans in Tent and Temple: Narrative of Four Years' Residence on the Tibetan Border, and of a Journey into the far Interior*

KE292.29/R 39

Susie Carson Rijnhart. 19.2×13.3 cm. London: Fleming H. Revell, [1901]. 406 p., [14] leaves of plates.

【注記】見返し「P. 4」。

洋洋059

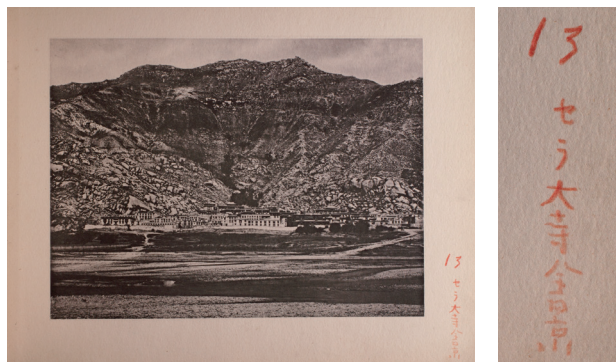
*Tibet and Lhasa*

KE292.29/W 68

J.C. White (photo). 21.1×28.7 cm. Johnston and Noffmann, [1908].

【注記】見返し「P. 3」。図書館再製本。

【慧海】慧海による書入れ（推定）「13セラ大寺全景」。解題2.2.3参照。



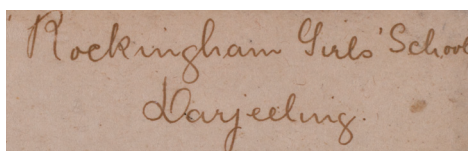
洋洋060

*Longmans' School Geography for India and Ceylon*

KE292.5/C 48

George G. Chisholm. 19.4×13.6 cm. London: Longmans, Green, and Co., 1891. xii + 364 p.

【注記】見返し「p. 4」。見返しに書入れあり。



洋洋061

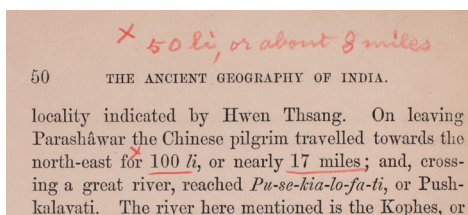
*The Ancient Geography of India, vol. 1*

KE292.5/C 95

Alexander Cunningham. 22.4×14.8 cm. London: Trubner and Co., 1871. xx + 589 p.

【注記】書入れ（本文訂正）あり。

【慧海】仏宣会印あり。



洋洋062

*A Handbook for Travellers in India, Burma and Ceylon : Including the Provinces of Bengal, Bombay, Madras, the United Provinces of Agra and Oudh, the Panjab, Bihar and Orissa, Assam, the Northwest Frontier Province, Baluchistan, and the Central Provinces; and the Native States of Rajputana, Central India, Kashmir, Hyderabad, Mysore, etc.*

KE292.5/H 29

9th ed. 18.0×12.5 cm. London: J. Murray, Thacker, Spink, 1913. clxvii + 664 + 16 p.

【注記】付録の地図に書入れあり。地図上部左右に画びょう穴あり。

洋洋063

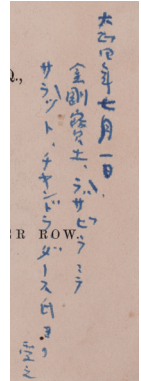
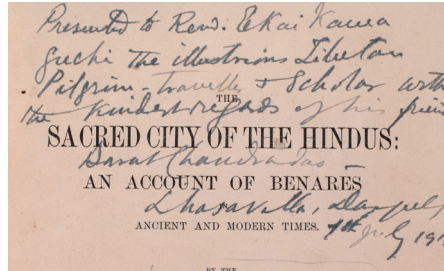
*The Sacred City of the Hindus: An Account of Benares in Ancient and Modern Times*

KE292.5/Sh14

M. A. Sherring, Fitzedward Hall (introd.).  
22.2 × 15.5 cm. London: Trübner, 1868.  
xxxvi, 388 p., [7] leaves of plates.

【注記】図書館再製本。

【慧海】仏宣会印あり。内題紙書入れ  
“Presented to Rev. Ekai Kawa/guchi The  
illustrious Life for / Pilgrim Traveller &  
Scholar with / the kindest regards of his  
kind / Sarat Chandra Das / Lhasavilla,  
Dajeeling, / 1st July 1915”、「大正四年七月  
一日／金剛寶土、ラハサピラニテ／サ  
ラット、チャンドラ ダース氏ヨリ／受之」。



洋洋064

*On Yuan Chwang's travels in India, vol. 1*

KE292.5/W 49

Thomas Watters; T.W. Rhys Davids; S.W. Bushell (ed.). 22.2 × 15.5 cm. London: Royal Asiatic Society, 1904. xiii + 401 p. (Oriental Translation Fund new series, 14)

【注記】1頁に赤鉛筆書入れ（誤植の修正）あり。

【慧海】ラベル「ろ4、15」。仏宣会印あり。

洋洋065

*On Yuan Chwang's travels in India, vol. 2*

KE292.509/W 49

Thomas Watters, T.W. Rhys Davids and S.W. Bushell (ed.). 22.0 × 15.0 cm, London: Royal Asiatic Society, 1905. 357 p., maps. (Oriental Translation Fund new series, 15)

【注記】5頁に鉛筆書入れあり。

【慧海】ラベル「ろ4、16」。仏宣会印あり。

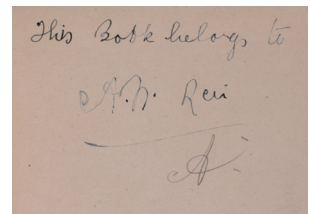
洋洋066

*On the Threshold of Three Closed Lands: the Guild Outpost in the Eastern Himalayas*

KE292.58/G 76

J.A. Graham, Sir Charles A. Elliott (introd.). 19.1 × 13.0 cm. Edinburgh, London: R. & R. Clark. [1897]. x + 166 p.

【慧海】ラベル「に1、14」。内題紙書入れ “This Book belongs to / A. ■ Rev. / J.A.”。



洋洋067

*Among the Himalayas*

KE292.58/W 12

L.A. Waddell. 2nd ed. 21.7 × 15.8 cm. Westminster: Archibald Constable, 1900. xvi + 452 p., [1] folded leaf of plates.

【注記】附録の地図あり。

【慧海】ラベル「[い4]、15」剥離。仏宣会印あり。



洋洋068 *Sikkim and Bhutan: Twenty-one Years on the North-east Frontier, 1887-1908* KE292.58/W 68

J. Claude White. 25.7×15.7 cm. London: Edward Arnold, 1909. xix, 331, 16 p.

【注記】見返し「P. 1」。書入れあり。図書館再製本。

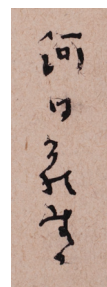
【慧海】仏宣会印あり。折込の地図に書入れ「bud thang / bla ma'i khung」(チベット文字)あり。



洋洋069 *Tibet: A Geographical, Ethnographical, And Historical Sketch, Derived from Chinese Sources* KE292.9/R 57

W. Woodville Rockhill. 23.5×16.2 cm. Peking: Wên tien ko shuchuang, 1939. 291 p., [6] folded leaves of plates.

【慧海】内題紙書入れ「河口蔵書」。

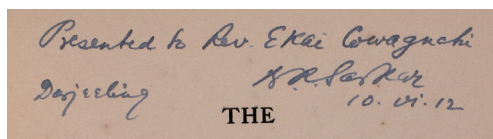


洋洋070 *The Science of History and the Hope of Mankind* KE304/Sa69

Benoy Kumar Sarkar. 18.8×11.6 cm. London: Longmans, Green, 1912. vii + 76 p.

【注記】書入れあり。見返し「p. 5」。

【慧海】内題紙書入れ“Presented to Rev. Ekai Kawaguchi / Darjeeling Sarkar / 10.19.12” (著者より慧海へ寄贈)。



洋洋071 *Manusmṛtiḥ Kullukabhāṭṭakṛta-manvarthamuktāvalīvyākhyāsahitā* KE322.25/Ma48

Manu. 22.2×31.5 cm. Mumbayyāṃ: Śrīveṅkaṭeśvara (Sṭīm) Mudraṇayantrālaye, [1---]. 6, 489, 23 p.

洋洋072 *Self-help: With Illustrations of Character, Conduct, and Perseverance* KE369/Sm 4

Samuel Smiles. rev. and enl. ed. 19.4×13.0 cm. Tōkyō: Maruya, 1885. 449 p.

【注記】押印「第一高等中学校図書」(大正4年消印)。書入れあり。

【慧海】ラベル「に 1、21」。

洋洋073 *Manual of Colloquial Tibetan* KE829.32/B 33

C. A. Bell. 19.1×13.2 cm. Calcutta: Baptist Mission Press, 1905. xiv + 153 + 451 p.

【注記】図書館再製本。書入れあり。

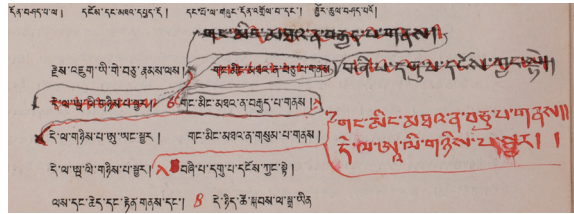
洋洋074

*An Introduction to the Grammar of the Tibetan Language*

KE829.32/D 43

Sarat Chandra Das. 28.0×22.4 cm. Darjeeling: Darjeeling Branch Press, 1915. xxvii + 62 + 50 + vi + 2 + 88 + 3 + 27 + 2 + 35 p.

【慧海】11頁等に慧海による書入れ（本文訂正）あり。



洋洋075

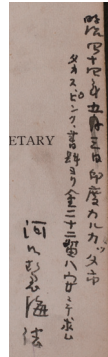
*A Tibetan-English Dictionary: With Special Reference to the Prevailing Dialects: To Which is Added an English-Tibetan Vocabulary*

KE829.32/J 26

H.A. Jaschke. 25.2×18.2 cm. London: The charge of the secretary of State for India in Council, 1881, xxii + 671 p.

【注記】ネパールの切手の貼付あり。解題 2. 2. 2 参照。

【慧海】河口製本。背表紙“A TIBETAN-ENGLISH DICTIONARY”、“BY H. A. JASCHKE”、“EKAI KAWAGUCHI。内題紙「明治四十四年五月三日印度カルカッタ市／タカス、ピソク、書肆ヨリ金二十二留八安ニテ、求ム／河口慧海誌」。



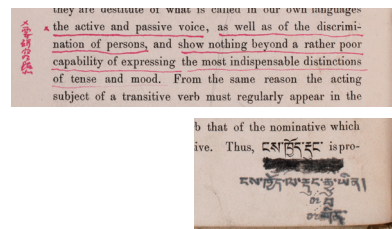
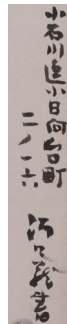
洋洋076

*Tibetan Grammar*

KE829.32/J 26

H.A. Jaschke. 2nd ed. 18.4×13.0 cm. Trubner, 1883. Viii + 104 p. (Trubner's collection of simplified grammars of the principal Asiatic and European languages, 7)

【慧海】内題紙書入れ「小石川区小日向台町／二ノ一六 河口蔵書」。1頁、36頁等に書入れ。



洋洋077

*Hand Book of Colloquial Tibetan: A Practical Guide to the Language of Central Tibet: In Three Parts*

KE829.32/Sa62

Graham Sandberg. 22.2×14.8 cm. Culcutta: Thacker, Spink, 1894. viii + 372 p.

【慧海】ラベル「イ 4、16」。

洋洋078

*The Indo-European Language; Bhāṣā bhāskara*

KE829.8/Mu29

23.6×16.0cm. *The Indo-European Language: Five Lectures Delivered at the Queen's College, Benares.* C.M. Mulnvany. Benares: A.C. Chakravarty at the Mahamandal Shastra Prakasak Samiti Press, 1911. 117 p. *Bhāṣā bhāskara, arthāt, Hindī bhāṣā kā vyākaraṇa: Bhāshā bhāskar; A Grammar of the Hindi Language.* W. Etherington. Lucknow: N. K. Press, 1915. 2 + 116 + 4 + 3 + 4 p.

【注記】2冊合冊。

【慧海】仏宣会印あり。河口製本（合冊後に仏宣会印押印）。

洋洋079 *Padmachandrakosha: An Etymological Sanscrit-Hindi Dictionary for the Use of Schools and Colleges* KE829.8/Sa66

Ganesh Dutt Shastri. 26.5 × 18.5 cm. Lahore: Lala Meharchand Lachmandass, 1914. 8 + 8 + 560 p.

洋洋080 *Dhāturūpaśā: Compiled for the Use of Sanskrit Students* KE829.89/G 19

Dharmarāja Nārāyen Gandhi. 20.3 × 13.5 cm. Delhi: Bakul Press, 1887. 182 + 72 p.

【注記】内題紙「P.」。この他、内題紙や本文に書入れ（鉛筆、紫ペン）あり。

洋洋081 *A Sanskrit Grammar for Beginners, in Devanāgarī and Roman Letters Throughout* KE829.89/Mu29

Max Müller. 24.9 × 16.3 cm. Longmans, Green, 1870. xxiv + 300 p. (Handbooks for the study of Sanskrit)

【慧海】ラベル「ろ 4、23」。仏宣会印あり。背表紙“EKAI KAWAGUCHI”。



洋洋082 *Alphabetical Index to Pāṇini's sūtras; The Bhakti-Ratnāvalī* KE829.89/P 21

24.4 × 16.6cm.

*Alphabetical index to Pāṇini's sūtras*. Allahabad: Kedar Nath Bhargava, at the Oriental Press, [1---]. 106 p. *The Bhakti-ratnāvalī, with the commentary of Viṣṇu Purī*. A professor of Sanskrit (tr.). Allahabad: Pāṇini Office, 1912. (The sacred books of the Hindus, v. 7, pt. 3). x + viii + 153 + vi + 4 p.

【注記】2冊合冊。書入れあり。

【慧海】仏宣会印あり。河口製本。背表紙“INDEX TO PANINI'S SŪTRĀ / DHĀTUPĀTHA”、“EKAI KAWAGUCHI”。

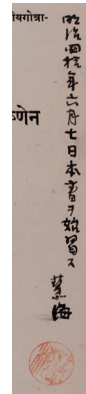


洋洋083 *Second Book of Sanskrit, Being a Treatise on Grammar, with Exercises* KE829.89/R13

Sir Ramkrishna Gopal Bhandarkar. 5th ed. rev. 20.7 × 12.6 cm. Bombay: Govt. Central Book Depôt, 1881. xvi + 257 p.

【注記】Bhandarkar, Ramkrishna Gopal, Sir, <1837-1925>

【慧海】内題紙書入れ「明治四拾年六月七日本書ヲ始習ス 慧海  
[[印]「慧海」(直径1.3 cm)]」。



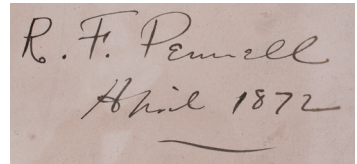
洋洋084

*A Dictionary of the English Language*

KE833/D 72

Joseph E. Worcester. 28.0 × 22.0 cm. Boston: Brewer and Tileston, 1872. lxxviii, 1786 p.

【注記】図書館再製本。見返し書入れ“R.F. Dewall”、“st. Ignatius' College./IHS/Cleveland Ohio.”押印 (2.6 × 3.7cm)。

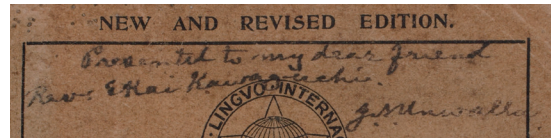


洋洋085

*English-Esperanto Dictionary*

KE899/E 61

J.C. O'Connor and C.F. Hayes. New and rev. ed. 16.4 × 10.5 cm. London: Review of Review Office, 1907. xv + 200 p. (Kolekto Esperanta Aprobata de Do Zamenhof)



【注記】見返し「p. 5」。

【慧海】表紙書入れ“Presented to my dear friend / Rev. Ekai Kawaguchi. / J.N.Unwalla” (著者より慧海へ寄贈)。

洋洋086

*The Buddha-Karita of Asvaghosha*

KE929.8/A 93

E.B. Cowell (ed.). 22.0 × 20.0 cm. Oxford: Clarendon Press, 1893. xv + 175 p. (Anecdota Oxoniensia. Aryan series, v.1, pt.7)

【注記】見返し「P. 3」。

洋洋087

*Uttararāmacharita*

KE929.8/B 39

Bhavabhūti. 3rd. ed. 21.7 × 12.4 cm. Bombay: Tukārām Jāvaji, 1906. 178 + 6 p.

洋洋088

*Daśakumāracharita*

KE929.8/D 36

Daṇḍin. 5th revised ed. 22.2 × 12.5 cm. Bombay: Tukārām Jāvaji, 1906. 284 + 6 p.

【注記】見返し「P.12=P.C」。

洋洋089

*Kumarasambhavam: Cantos I-VII with the Commentary of Mallinatha*

KE929.8/G 69

Tr. Krishnakamal Bhattacharya. 18.8 × 13.6 cm. Calcutta: Kedarnath Bose, 1901. 20 + 698 p.

洋洋090

*A Handful of Popular Maxims (Laukikanyāñjaliḥ, 1-3)*

KE929.8/J 12

20.8×13.9cm. *Laukikanyāñjaliḥ: A Handful of Popular Maxims, Current in Sanskrit Literature*. G. A. Jacob (collected). Bombay: Tukārām Jāvaji, 1900. vi + 49 p. *Laukikanyāñjaliḥ dviṭiyo bhāgaḥ: A Handful of Popular Maxims, Current in Sanskrit Literature*. G. A. Jacob (collected). Bombay: Tukārām Jāvaji, 1902. xiii + 74 + 2 p. *Laukikanyāñjaliḥ tṛtiyo bhāgaḥ: A Handful of Popular Maxims, Current in Sanskrit Literature*. G. A. Jacob (collected). Bombay: Tukārām Jāvaji, 1904. vii + 155p.

【注記】3冊合冊。

【慧海】ラベル「イ4、20」仏宣会印あり。河口製本。



洋洋091

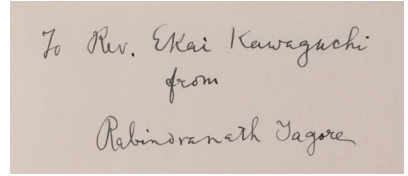
*One Hundred Poems of Kabir*

KE929.8/Ka11

Rabindranath Tagore (tr.). 22.4×14.8 cm. London: India Society, 1914. 67 p.

【注記】見返し「p. 4」。

【慧海】見返し書入れ「To Rev. Ekai Kawaguchi / from / Rabindranath Tagore」（著者より慧海へ寄贈）。解題2.3参照。



洋洋092

*The Meghadūta of Kālidāsa: With the Commentary of Mallinātha, for the Use of High Schools and Colleges, Edited with a Literal English Translation, with Copious Notes in English, and with Various Readings by Gopalr Raghunath Nandargikar*

KE929.8/Ka29

21.5×12.4 cm. Bombay: Gopal Narayen. 1894. 8 + 84 + 100 + 118 + 2 p.

洋洋093

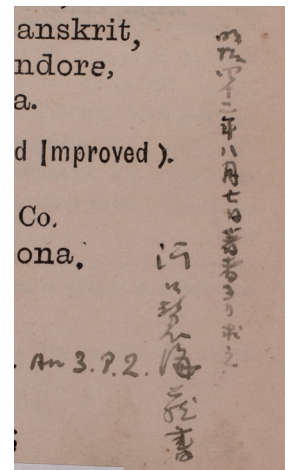
*The Abhijñānaśakuntala of Kalidasa: The Purer Devanagari Text Edited with a Literal English Translation, Various Readings, a Preface Principally Treating of the Relative Value of the Several Recensions, Full Notes and Useful Appendices*

KE929.8/Ka29

P. N. Patankar. 2nd ed. rev. & improved. 21.0×12.0 cm. Poona: Shiralkar, 1902. 19 + 2 + 113 + 89 + 6 + 16 + 3 p.

【注記】書入れあり。

【慧海】内題紙書入れ「明治四十二年八月七日著者ヨリ求之 / 河口慧海蔵書」。





洋洋094

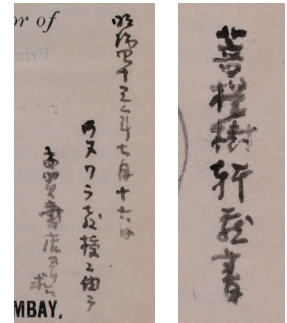
*Sāhitya-darṣaṇa (Paricchedaś I, II, X Arthālanikāras):*  
*with Exhaustive Notes*

KE929.8/Ka52

Pandurang Vaman Kane. 22.0 × 12.0 cm. Mombay: Oriental Publishing Company, 1910. xviii + 75 + 316 + 24 p.

【注記】見返し「p. 3」。

【慧海】内題紙書入れ「明治四十三年七月十六日 / ウヌワラ教授ニ  
テ / 孟買書店ヨリ求ム」、「菩提樹軒蔵書」。菩提樹軒については解題  
2.3 参照。



洋洋095

*The Hitopadeśa of Nārāyaṇa Paṇḍit (a Protégé of King*  
*Mādhavachandra.): Ed. with Explanatory English Notes*

KE929.8/P 21

Nārāyaṇa Bālakriṣṇa Godabole and Kāśīnāth Pāndurang Parab. 6th revised ed. 20.9 × 12.0 cm. Bombay: Tukārām Jāvaji, 1906. 136 + 88 + 6 p.

【注記】見返し「P. 3」。

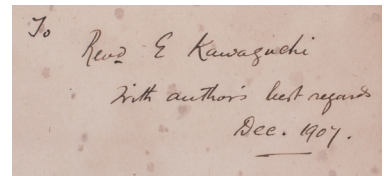
洋洋096

*Nava Ratnamālā*

KE929.8/Te95

Śri Matthendra Ṭhākura. 17.7 × 12.5 cm. [Calcutta]: [Kuntaline Press], [1---]. [226] p.

【慧海】見返し書入れ「To Rev E Kawaguchi / with author's best regards / Dec. 1907」(著者より慧海へ寄贈)。



洋洋097

*The Vedāntatattvasāra*

KE929.8/V 53

Rāmānujāchārya, J.J. Johnson (tr.). 21.2 × 13.8 cm. Benares: E. J. Lazarus, 1898. v + 82 + iii p.

【注記】見返し「P. 6」。

洋洋098

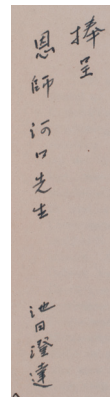
*Das Leben des Buddha von Āśvaghōṣa: tibetisch und deutsch*

KE929.8/W 57

von Friedrich Weller. 24.3 × 17.0 cm. Leipzig: E. Pfeiffer, 1926. xi + 147 + 74 p.

【注記】見返し「p. 3」。

【慧海】内題紙書入れ「奉呈 / 恩師 河口先生 池田澄達」。この他、本文中にも書入れあり。



洋洋099

*The Sanskrit Buddhist Literature of Nepal*

KE929.89/Mi62

Rājendralāla Mitra. 24.2×15.6 cm. Calcutta:  
Asiatic Society of Bengal, 1882. xlvii + 340 p.

【注記】図書館再製本。

【慧海】仏宣会印あり。書入れ「是レハ大  
乘密嚴経ナレト Gaṇḍavyūha ハ四十華嚴ナ  
レバ此説ハ誤リ也」(90頁)。解題 1. 2 参照。

The history of Sudhana in search of the perfect knowledge. The work is reckoned as one of the nine principal scriptures of the Buddhists, and held in high esteem. It was taken to China in the 7th century, and was translated into the Chinese language by Amoghavajra during the reign of the Tang dynasty. Its Chinese name is Ta-shing-mi-yen-king. 一見レハ大乗密嚴経ナレト 加ヨリ四十華嚴ナレハ此説ハ誤リ也  
Once upon a time, while residing with Samantabhadra, Manuśrī

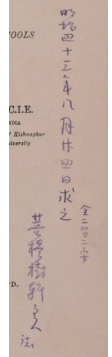
洋洋100

*Selections from Modern English Literature:  
For the Use of Higher Classes in Indian Schools*

KE930.28/L 56

Roper Lethbridge. 18.2×13.5 cm. London: Macmillan, 1896. 7 + 400 + 4 p.

【慧海】ラベル「に 1、13」。内題紙書入れ「金二留二安／明治四十三年八月廿四日求  
之／菩提樹軒主人誌」。



洋洋101

*Zanoni*

KE931/L 99

The Right Hon. Lord Lytton. 19.3×13.6 cm. London: George Routledge, 1901. 472 p. (Lord Lytton's works)

【注記】見返し「P. 4」。



# 和装本目錄

---

## 河口慧海旧蔵 和装本目録 凡例

本目録では、東西文化交流研究所寄贈書中における河口慧海旧蔵書の内、和装本形態のものを版本の部と写本の部に分けて収録する。近代の活字本や複製本も少なからずあるが、洋装本でないものは、おおむね版本の部に収めた。版本の部は139部409冊28帖、写本の部は39部125冊1枚で、和装本の総数は、178部533冊28帖1枚となる。

### 和装本の部の記載例

①和版049 カンチュウ ジュウシンボンショリヤク ゲ ②(冠註) 住心品疏略解 フゲンダン ③(外) 8巻附玄談 ④KE183.7/J 61

⑤妙極〈浄厳〉述、蓮體補闕。⑥大本9冊。28.1×19.3cm。5行10字。⑦前川伊兵衛（ほか3肆）、元禄15年（1702）9月刊。⑧外「(冠/註)住心品疏略解」(題簽)、首「大毘盧遮那成佛經疏」、首(玄談)「大日經住心品疏冠解玄談」、尾「大日經住心品疏冠註略解」、版心「(密宗/本書)大日經住心品疏冠解」。⑨跋、元禄15年10月27日、蓮體。⑩刊記「元禄十五年(壬/午)九月吉日/書肆(前川茂右衛門/長谷川市郎兵衛/村上勘兵衛/前川伊兵衛)」。⑪所持識語「釈慶淳」(第1、5冊表紙)、「慶淳」(第2～3、6～8冊表紙)、「般若寺」(第2冊表紙)、「共九 法信全」(第2冊背)。朱滅印「(愛宕/什物)カ、3.1×3.1cm)。第9冊(玄談)に仕入印「停機堂」(1.5×0.6cm)、「森江」(直径1.2cm)。

⑫【注記】状態悪、紙に変色劣化の箇所あり。綴糸ほつれ。第2冊は取り合わせ本。〔挟〕第2冊、紙片(17.7×5.8cm)に「大日/大日經/共六ノ内」と墨書。巻5まで書入れ多(鉛筆書き、ペン書きあり)。慶淳旧蔵書、解題3.6参照。

⑬【慧海】ラベル「は五、2、2」。仏宣会印あり(第2冊のみなし)。

### ① 番号 ② 請求番号

和装本は、版本の部と写本の部に分かれるが、それぞれ和版001・和写001のように通し番号を付した。目録の記載順序は請求記号順とし、同一請求記号内では書名の五十音順とした。

請求記号は、立正大学品川図書館の2017年現在の方針に順じ、NDC 7版を用いたが、請求記号の頭には、河口慧海のイニシャルである「KE」を付した。統一著者名を補った場合、著者記号はそちらに基づくこととした(統一著者名の補記については④参照)。

### ③ 書名・ヨミ・巻数

江戸時代以前の版本や写本の書名は、基本的に巻首題から採った。他の情報源に基づく場合は、記載例のように、書名の後に〈 〉でその情報源の略称を示した(略称は⑦参照)。書名の表記は資料からの転記を原則とし、角書などは( )に入れた。書名にはルビでヨミを付した。和書のヨミは、国文学研究資料館の「日本古典総合目録データベース」、仏典は『仏書解説大辞典』[小野1964-1988]などを参考にした。書名の後には総巻数を記載し、欠巻がある場合は総巻数の後に、存巻や欠巻の情報を( )に入れて記載した。

### ④ 著者・编者など

著者名と「著」「撰」「述」などの役割を示す語の表記は、基本的に資料から転記した。日本人で、表記が「日本古典籍総合目録データベース」の統一著者名と異なる場合は、記載例のように統一著者名を〈 〉に入れて補った。著者名などを他の情報源によって推定した場合は、[ ]に入れて記載した。著者が中国人の場合、王朝名を( )に入れて著者名の前に記述した。( )内の王朝名については資料からの転記にこだわらない。また、中国人の著作に対して日本人が注釈や訓点な



どを付けている場合、「(唐) 義浄撰、(日本) 如海訓點」のようにした。

### ⑤ 書型・装訂・数量・版種・寸法・行数文字数

大本・半紙本などの書型は、大きさに基づき数量の前に示した。装訂は、袋綴（線装本）の場合は特に記載しなかった。整版本以外の場合には、「折本1帖（活字本）」「1冊（複製本）」などとし、数量の後に（ ）に入れて記述した。寸法は小数点第1位までを縦×横の順で記した。行数文字数は、匡郭がある場合、半丁ごとの本文の行数と字数を字詰めで数えた（鼈頭や注文などはのぞく）。丁ごとに文字数が大きく異なる場合は行数のみを記載した。なお、罫紙を用いている写本の場合は、「10行（罫紙）」などとした。

近代の活字本や複製本については、行数文字数の記載を省略した。

### ⑥ 出版地（書写地）、出版者（書写者）、刊行年・印行年（書写年）

版本の場合は刊記・奥付、写本の場合は書写奥書などに基づき記述した。序跋に基づく場合は「序刊」「跋刊」などと記した。刊行年に続いて蔵版者などの情報を示した場合もある。

刊記に、書肆の出版地の記載がない場合、『改訂増補近世書林板元總覽』[井上1998]、『元禄・正徳板元別出版書総覧』[市古2014]などで判明すれば、[ ]に入れて補った。出版地の表記は転記にこだわらず、「華雒」などとある場合も、「京」とした（「大坂」「江戸」なども同じ）。出版地（書写地）や出版者（書写者）が不明の場合は、特に記載しなかった。

刊行年・印行年（書写年）について、「元文巳未之初冬」のように、刊記に十干十二支や月の異名が用いられている場合も、「元文4年（1739）10月」のように記載した。複数の書肆が列記されている場合、2肆までは併記し、3肆以上は原則的に最後に書かれている書肆名を示し、記載例のように「（ほか3肆）」などとした。ただし、刊行の中心となった書肆が明らかである場合は、最後の書肆名には拘らない。

刊行年・印行年（書写年）を推定した場合は [ ] に入れて記載した。江戸時代の場合、以下の時代区分を目安とした。

江戸初期 慶長～寛永（1596～1643） 江戸後期 寛政～天保（1789～1843）  
江戸前期 正保～元禄（1644～1703） 江戸末期 弘化～慶応（1844～1867）  
江戸中期 宝永～天明（1704～1788）

### ⑦ その他の書名

外題（外）、巻首題（首）、目録題（目）、巻尾題（尾）、見返し題（見）、序首題（序首）、版心題（版心）などを調査し、（ ）内の略称を用いて記載したことがある。ただし、外題がある場合は必ず記述した。外題における刷題簽・書題簽・打付書の区別は、外「添品妙法蓮華經」（題簽）のように（ ）内に示した。刷題簽は「題簽」、打付書は墨書でない場合のみ、「打付朱書」などとした。題簽全体の情報を示す場合は、「題簽「經 大方廣三戒經<sup>上中下</sup> 上 乃」」のように記した。冊ごとに刷題簽・書題簽・打付書が混在する場合は、刷題簽のみを記述し、他は省略した。また、冊ごとの題簽の有無は記述しなかった。

書名の記載方法については、「<sup>註</sup>住心品疏略解」とある場合、記載例のように「(冠/註) 住心品疏略解」とした。

### ⑧ 序跋など

序跋や奥書がある場合、記載例のように、序跋・年号・記載者の順で記述したことがある。著者と序跋の記載者が同一の場合、自序・自跋などとした。年号や月は、⑥の刊行年と同様の方法で記載した。版本の奥書についても、序跋と同様に記載したことがある。なお、複数のタイトルを収録しているものは、この位置に内容を示したことがある。

## 9 刊記（奥付）、蔵版目録・広告

刊記（奥付）、奥書などの情報を転記したことがある。ただし、長文に渡る場合、「[...]」を用いて一部を省略した。奥付などに書肆名が複数列記されている場合、5肆以上は最初と終わりのみを転記し、他は「[...]」で省略したが、転記後に「(全〇肆)」のように注記した。

記載例の刊記は、実際には以下のようにになっている。

元禄十五年<sup>壬午</sup>九月吉日

書肆  
前川茂右衛門  
長谷川市郎兵衛  
村上勘兵衛  
前川伊兵衛

転記に際し、改行は「/」であらわしたが、字間や行間は再現しなかった。「(壬/午)」は割行、「書肆（前川茂右衛門/長谷川市郎兵衛/村上勘兵衛/前川伊兵衛）」は、「書肆」が（ ）内の記述にかかることを示す。

所在地が書肆名の右に小書きされている場合などは、所在地を書肆名の前に入れ、改行として扱わなかった。転記の途中に、目録作成者が注記した情報は〈 〉に入れて示した。

書肆の蔵版目録や広告がある場合は、必要に応じて記載した。

## 10 識語・蔵書印

旧蔵者名や年号が記載されている識語は、可能な範囲で記述した。墨書の場合は特に注記せず、それ以外の場合のみ「朱書」などの情報を記した。旧蔵者の蔵書印は「印」として記述し、その画像を書誌事項の右側に載せた（実寸ではない）。また、書肆の印も、「書肆印」「仕入印」として同様に記載したことがある。仕入印と符牒は、慧海がその本をいつ頃入手したかの目安になると考え、近代の例と思われるものを記録するようにつとめた。印の押されている位置については、特殊な場合を除き記載しなかった。

## 11 【注記】

上記の記載以外で注意すべき情報を記述した。主に、資料の状態や補修状況、書入れの有無やその多少、本に挟まっていたものなどの情報を記載した。記載例の「[挟]」は、挟んであったものを示す際に用いる。

## 12 【慧海】

慧海と、慧海に関連する情報をまとめた。⑩や⑪に含まれる情報も、慧海に関するものであればこちらに記載した（記述方法は同じ）。

記載例の「ラベル」は慧海の蔵書管理ラベル、「仏宣会印」は仏教宣陽会の印（印の画像は洋装本目録凡例を参照）を指し、ラベルと印の情報は必ず記載した。和装本の場合、ラベルは通常、第1冊目の表紙右上に貼られている。ラベルが貼られている冊数や位置の情報は、特殊な場合にのみ示した。仏教宣陽会の印は、表紙や巻頭、冊尾に押されているが、押印位置は一々記載しなかった。また、「東西文化交流文化研究所寄贈図書」のシールが貼られている場合は、その旨も記した（ラベル・印・シールについては本書「概要」を参照）。

慧海の蔵書印やその識語、本文に書入れた慧海の注記などがあれば記載した。また、慧海の書入れでなくとも、寄贈者が慧海に向けて書いた識語などもここに記した。慧海の印や書入れ、寄贈者の識語などは、可能な範囲で画像を掲載した。

本書「概要」（31頁）に記載された判定方法以外で、慧海旧蔵書であることを推定した資料には、「推定慧海旧蔵書」と記載した。和版042・和版055・和写002については、発見時の配置や内容からの推定であり、明確な根拠はない。その他のものは解題3で言及した。

## 版本の部

和版001 カミヨノマサゴト  
神代正語 3巻 KE121.25/Mo88

本居宣長〔述〕。大本3冊。25.8×18.2cm。7行。〔江戸後期刊〕。名古屋、永樂屋東四郎（ほか12肆）、〔明治期印〕。外「神代正語」（題簽）、序首「神代のまさことの序」。序、栗田土満。自序、寛政元年（1789）5月。跋、横井千秋。刊記「板元 尾張名古屋本町通七丁目 永樂屋東四郎」。奥付「（發行／書肆）（京都御幸通姉小路上ル 菱谷孫兵衛／〔…〕尾州名古屋古本町通七丁目 永樂屋東四郎）」（全13肆）。第3冊末尾に広告あり。

【慧海】ラベル「以五、3、22」。仏宣会印あり。

和版002 ヤマトサンキョウロン ゼンベン  
大和三教論〔前編〕 4巻 KE121.3/Ta59

武田大〈武田琴亭〉著、定玄校。大本4冊。10行20字。26.0×18.2cm。〔京〕、小川多左衛門・小川重兵衛、天明6年（1786）9月刊。蓮華室藏板。外「大和三教論」（題簽）。序、天明6年、定玄。奥付「天明六年丙午秋九月／蓮華室藏板／發行所（六角通御幸町西江入町 小川多左衛門／御幸通錦小路上ル町 小川重兵衛）」。印「久仁／賀多」（直径1.7cm）。仕入印「大正（六）年／（六二）號／入（コレトソ）／出（ヨルイ）」（第1冊、2.1×1.7cm、括弧内墨書）。



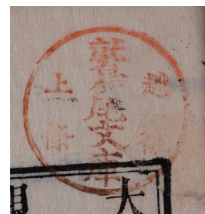
【慧海】ラベル「は五、4、9」。仏宣会印あり。

和版003 ダイトウサイイキ グ ホウコウソウデン  
大唐西域求法高僧傳 2巻 KE180.28/G 43

（唐）義浄撰、（日本）如海訓點。大本1冊。27.2×18.3cm。10行20字。〔京〕、村上平樂寺、元禄9年（1696）4月8日刊。版心「（支那／撰述）大唐西域求法高僧傳」。跋、元禄8年8月8日、如海。刊記「元禄丙子九年佛降生日／書肆村上平樂寺梓」。版心下に「伊五（～六）」。「音釋」（卷下末尾）あり。印「越後／鷲尾文庫／上條」（直径4.0cm）。

【注記】綴糸ほつれ。

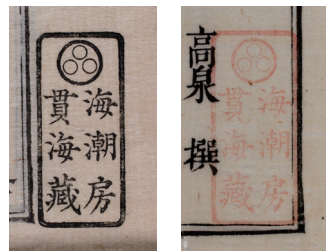
【慧海】ラベル「以五、5、21」。仏宣会印あり。



和版004 トウゴクコウソウデン  
東國高僧傳 10巻 KE180.28/Ko83

高泉性激撰。大本5冊。26.1×18.3cm。9行20字。京、茨木氏方淑〈小川多左衛門〉、貞享5年（1688）刊。京、菅屋宗八、〔江戸後期印〕。外「東國高僧傳」（題簽）。序、貞享4年7月、運敞。自序、同4年5月。刊語「京兆白衣弟子茨木氏方淑發心刻此／〔…〕貞享五戊辰季吉月吉旦 弟子方淑謹識」。第3冊裏見返しに蔵版目録（「京都書林 寺町通三條下ル町 菅屋宗八版」）あり。印「海潮房／貫海藏」（5.5×2.4cm、墨と朱）。

【慧海】ラベル「に五、4、1」。仏宣会印あり。



## 和版005

ギソクジョウ  
義楚六帖 24巻

KE180.3/G 47

(後周)義楚集。大本24冊。27.1×19.1cm。8行18字。[京]、村上勘兵衛、延宝3年(1675)4月刊。外「(支那/撰述)義楚六帖」(題簽)、跋首「重開釋氏六帖後序」「釋氏纂要六帖後序」、版心「義楚」。自序、顯徳元年(954)5月10日。跋、崇寧2年(1103)6月、履中。刊記「延寶三年乙卯孟夏吉日/書林 村上勘兵衛刊行」。印「信古堂/圖書印」(3.4×2.2cm)。

【注記】紙の一部が変色劣化。総裏打補修済み。

【慧海】ラベル「以五、2、2」。仏宣会印あり。



## 和版006

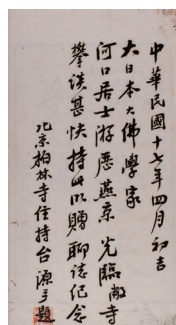
ブツガクダイジテン  
佛學大辭典

KE180.33/Te21

丁福保編。縦長本16冊(排印本)。26.3×15.0cm。上海、上海醫學書局、民国14年(1925)6月再版。外「佛學大辭典」(題簽)。封面「民國十四年六月再版/佛學大/辭典/總發行所上海醫學書局」。第16冊末尾に「佛經書目」あり。

【注記】第16冊、紙の一部が劣化、くずれ。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「中華民國十七年<1928>四月初吉/大日本大佛學家/河口居士游歴燕京 光臨敝寺/攀談甚快持此御贈聊誌紀念/北京柏林寺住持台源手題 [印「台源/之印」(1.4×1.5cm)]」(第1冊、剥離した見返し背面)。



## 和版007

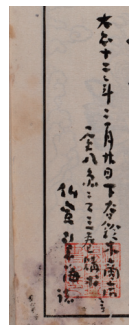
エンザンサンダイゾウモクロク  
緣山三大藏目錄 3巻

KE180.33/Z 6

隨天記。大本3冊。27.0×18.7cm。9行18字。文政2年(1819)跋刊、[明治期印]。三緣山藏版(第3冊最終丁)。外「(緣/山)三大藏目錄」(題簽)、版心「緣山三藏目錄」。序、宝暦13年(1763)7月、定月。跋、文政2年12月8日、實海。第1冊に「緣山三大藏經緣起」(延享5年<1748>、隨天)、第3冊に「附録/宋元麗外大明北藏續補目次」あり。口絵(第1冊)、韋馱天像(第3冊最終丁)あり。所持識語「三巻内 實義藏本 [花押型の印 (2.9×4.2cm)]」(各冊裏見返し)。

【注記】紙の一部が変色劣化。総裏打補修済み。

【慧海】ラベル「に三、4、3」。仏宣会印あり。慧海書入れ「大正十二年<1923>三月廿日下谷鈴木商店ニテ/金八円ニテ三巻購求/仏宣慧海誌」(第3冊最終丁裏)。



## 和版008

ロウニンカバン  
浪忍科判 (外)

KE180.9/Ts83

宗喀巴著、釋大勇譯。縦長本1冊(排印本)。26.0×14.3cm。[民国]16年(1927)跋[刊]。外「浪忍科判」(直刷)、首「覺道次第」、版心「浪忍科判」。跋、[民国]16年12月1日、胡瑞霖。奥書「中華民國十六年陰歷四月二十九日識於孜縣孔馬寺」。「大勇阿闍黎來函」([民国]16年4月28日、大勇)あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「河口先生 慧照 胡瑞霖贈」(表紙)。胡瑞霖は解題2.3を参照。





和版009 ダイゾウ ホ コクシュウ  
大藏輔國集 3巻

KE181/Sh99

釋宗興誌。大本3冊。25.9×18.3cm。10行20字。〔京、永田調兵衛・菱屋卯助、明治2年（1869）4月刊〕。京、貝葉書院、〔明治大正期印〕。外「大藏輔國集」（題簽）、見「〔官／許〕／大藏輔國集」、序首「輔國集脱稿叙」。自序、慶応4年（1868）4月。自跋、同年3月下旬。奥付「各宗御本山及諸學林御用書林／（書籍出版發賣所／禪宗雜誌發行所／（各宗教師／受驗講義錄）發行所）京都市木屋町二條 貝葉書院／〔…〕」。

【注記】刊年は自館所蔵本による。

【慧海】ラベル「に三、2、10」。仏宣会印あり。

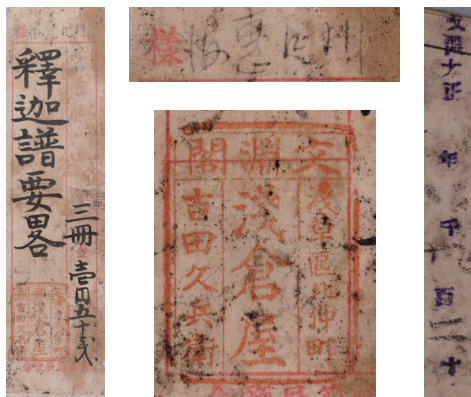
和版010 シヤカ フヨウリヤク  
釋迦譜要略 3巻（存 巻之下）

KE182/Ts32

土屋正道撰、行誠〈福田行誠〉校。大本1冊。26.0×18.4cm。10行20字。大坂、山本真苗、明治13年（1880）8月刊。京、出雲寺文治郎製本。大乘坊藏（版心下）。跋、明治12年11月、新居日薩。跋、同13年、竹澗。奥付（表）「明治十二年五月十九日出版板權御願／同年同月三十一日板權免許／同十三年八月刻成發兌／〔…〕大坂府平民／出版人 山本真苗／南區日本橋四丁／目七十一番地／製本所 出雲寺文治郎／京三条高倉東入〔書肆印「出雲寺／松柏堂」〕」。奥付（裏）「諸國売捌書肆／東京 出雲寺萬治郎／〔…〕全〈名古屋〉 梶田勘助（全8肆）。仕入印「文淵大正 年 千（九）百（二）十」（5.9×0.3cm、括弧内墨書）。

【注記】状態悪。紙が変色劣化。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。〔挟〕古書籍展覧会の札「川口恵海（様）／三冊（金） 壹円五十菱／釈迦譜要略／（古書籍展覧會）」（31.6×6.4cm、括弧内印刷）。札に書肆印「文淵閣／浅草區北仲町／浅倉屋／吉田久兵衛」（5.1×3.8cm）、日付印の一部「11.9.2／印」（大正11年9月23・24日カ）あり。札については解題3.7参照。

和版011 ダイホウコウサンカイキョウ  
大方廣三戒經 3巻

KE183/O-11/[21]

（北涼）曇無讖譯。大本1冊。26.2×18.9cm。20行10字。〔鐵眼、江戸中期刊、後印〕。題簽「經大方廣三戒經<sup>上中下</sup> 上乃」。口絵、「音釋」（各卷末尾）、墨格（卷上末尾）あり。千字文函号「乃」（題簽）、「乃一（～三）」（版心下）。

【注記】黄檗版大藏經、後印本。

【慧海】ラベル「は五、1、4」。仏宣会印あり。

和版012 ブッセツム リョウショウジョウビョウドウカクキョウ  
佛說無量清淨平等覺經 3巻

KE183/O-11/[22]

（後漢）支婁迦讖譯。大本1冊。26.2×18.9cm。20行10字。〔鐵眼、江戸中期刊、後印〕。題簽「經無量清淨平等覺經<sup>上中下</sup> 中乃」。「音釋」（卷下末尾）、墨格（卷上・下末尾）あり。千字文函号「乃」（題簽）、「乃四（～六）」（版心下）。

【注記】黄檗版大藏經、後印本。

【慧海】ラベル「は五、1、5」。仏宣会印あり。



## 和版013

① ブッセツ ア ミ ダ キョウ

佛説阿彌陀經 2卷

② ブッセツ ム リョウジュキョウ

佛説無量壽經 2卷

KE183/O-11/[23-24]

①(呉)支謙譯。②(魏)康僧鎧譯。大本1冊。26.2×18.9cm。20行10字。鐵眼、①寛文11年(1671)秋・②寛文13年(1673)7月中旬刊、[後印]。題簽「經(佛説阿彌陀經/佛説無量壽經)下乃」。各卷の末尾に刊記あり。①下巻の刊記「[...]沙門鐵眼募刻 寛文十一年秋月黄檗山寶藏院識」、②下巻の刊記「[...]沙門鐵眼募刻/寛文癸丑孟秋中浣黄檗山寶藏院識」。千字文函号「乃」(題簽)、「乃七(〜十)」(版心下)。①に「翻譯名義」「音釋」(巻上末尾)、「校訛」「音釋」(巻下末尾)あり。②に「音釋」(巻下末尾)あり。

【注記】黄檗版大蔵經、後印本。刊記は『檗蔵刊記集』584〜587に同じ [大槻1994: 148-149]。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

## 和版014

① ブッセツ ア シュクブツクキョウ

佛説阿閼佛國經 3卷

② ブッセツ ダイジョウジツボウキョウ

佛説大乘十法經

KE183/O-11/[25-27]

③ ブッセツ フ モンボンキョウ

佛説普門品經

①(後漢)支婁迦讖譯。②(梁)僧伽婆羅譯。③(西晋)竺法護譯。大本1冊。26.2×18.9cm。20行10字。[鐵眼、江戸中期刊、後印]。題簽「經(佛説阿閼佛國經/佛説大乘十法經/佛説普門品經)上服」。「音釋」(各巻末尾)あり。千字文函号「服」(題簽)、「服一(〜五)」(版心下)。

【注記】黄檗版大蔵經、後印本。

【慧海】ラベル「は五、1、6」。仏宣会印あり。

## 和版015

① モンジュ シ リブツ ドンジョウキョウ

文殊師利佛土嚴淨經 2卷

② ブッセツ ホウタイキョウ

佛説胞胎經

KE183/O-11/[28-30]

③ ブッセツ ホウキョウキョウ

佛説法鏡經 2卷

①②(西晋)竺法護譯。③(後漢)嚴佛調譯。大本1冊。26.3×18.9cm。20行10字。鐵眼、①②寛文12年(1672)9月・③11月刊、[後印]。題簽「經(文殊師利佛土嚴淨經/佛説胞胎經/佛説法鏡經)下服」、③序首「法鏡經序」。③序、康僧會。③跋。各書の末尾に刊記あり。③刊記「[...]沙門鐵眼募刻/寛文壬子仲冬黄檗山寶藏院識」。千字文函号「服」(題簽)、「服六(〜十)」(版心下)。「音釋」(①②各巻末尾、③巻下末尾)、韋馱天像(冊尾)あり。

【注記】黄檗版大蔵經、後印本。刊記は『檗蔵刊記集』588〜590に同じ [大槻1994: 149-150]。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

## 和版016

コンコウミョウサイショウオウキョウ

金光明最勝王經 10卷

KE183/O-11/[122]

(唐)義淨譯。大本2冊。27.5×19.5cm。20行10字。鐵眼、寛文11年(1671)2月刊、[後印]。題簽「經 金光明最勝王經(巻一/之五)上場」。各巻の末尾に刊記あり。巻第10の刊記「[...]沙門鐵眼募刻/寛文辛亥仲春月黄檗山寶藏院識」。口絵(第1冊)、「校譌」「音釋」(各巻末尾)あり。千字文函号「場」(題簽)、「場一(〜十)」(版心下)。

【注記】黄檗版大蔵經、後印本。刊記は『檗蔵刊記集』747〜756と同文だが、巻1・3・9の木記の形が異なる [大槻1994: 189-191]。

【慧海】ラベル「は五、1、8」。仏宣会印あり。

和版017 コンコウミョウキョウ 金光明經 4巻 KE183/O-11/[123]

(北凉)曇無讖譯。大本1冊。27.4×19.4cm。10行20字。鐵眼、寛文11年(1671)5月刊、[後印]。題簽「經 金光明經(卷一之/四終) 上化」。序、元豊4年(1081)3月、宗頤。各巻の末尾に刊記あり。巻第4の刊記「[...]沙門鐵眼募刻/寛文辛亥仲夏黄檗山寶藏院識」。「音釋」(各巻末尾)、「校訛」(巻第4末尾)あり。千字文函号「化」(題簽)、「化一(〜四)」(版心下)。

【注記】黄檗版大藏經、後印本。刊記は『檗藏刊記集』757〜760に同じ [大槻1994: 192]。

【慧海】ラベル「は五、1、9」。仏宣会印あり。

和版018 コンコウミョウキョウ 金光明經 8巻 KE183/O-11/[126]

(隋)寶貴合。大本2冊。27.2×19.2cm。20行10字。鐵眼、寛文12年(1672)10月刊、[後印]。題簽「經 合部金光明經(卷一/之四) 上被」、序首「合部金光明經序」。序、釋彦琮。各巻の末尾に刊記あり。巻第8の刊記「[...]沙門鐵眼募刻/寛文壬子初冬月黄檗山寶藏院識」。口絵(第1冊)、「音釋」(巻第1〜3、6〜8)あり。千字文函号「被」(題簽)、「被一(〜八)」(版心下)。

【注記】黄檗版大藏經、後印本。刊記は『檗藏刊記集』764〜771に同じ [大槻1994: 193-195]。

【慧海】ラベル「は五、1、7」。仏宣会印あり。

和版019 ミョウホウレンゲキョウ 妙法蓮華經 7巻 KE183/O-11/[130]

(後秦)鳩摩羅什譯。大本2冊。26.3×18.7cm。10行20字。[京、寶藏院、享保文政年間(1716〜1830)刊、明治大正期印]。空題簽。序首「御製大乘妙法蓮華經序」「妙法蓮華經弘傳序」。序、永樂18年(1420)4月17日、[永樂帝]。序、道宣。各巻の末尾に刊記あり。巻第5の刊記「[...]寛文癸丑仲冬月黄檗山寶藏院識 沙門鐵眼募刻」。口絵(第1冊)、「音釋」(各巻末尾)、「校訛」(巻第3末尾)あり。

【注記】黄檗版大藏經、後印本。刊記は『檗藏刊記集』775〜781と比べ、巻4・6の位置が異なる [大槻1994: 196-198]。會谷 [2010a] が指摘する重刊本。刊年は會谷 [2010a: 65] による。

【慧海】ラベル「は五、1、11」。仏宣会印あり。

和版020 テンボンミョウホウレンゲキョウ 添品妙法蓮華經<sup>〈目〉</sup> 8巻 KE183/O-11/[135]

(隋)闍那崛多・(隋)達摩笈多添品譯。大本2冊。27.3×19.4cm。10行20字。鐵眼、延宝7年(1671)5月刊、[後印]。題簽「經 添品妙法蓮華經(卷一/之四) 上頼」、序首「妙法蓮華經添品序」、首「妙法蓮華經」。各巻の末尾に刊記あり。巻第8の刊記「[...]沙門鐵眼募刻/延寶七年仲夏月黄檗山寶藏院識」。口絵(第1冊)、「音釋」(各巻末尾)、「校訛」(巻第4末尾)あり。千字文函号「頼」(題簽)、「頼一(〜八)」(版心下)。

【注記】黄檗版大藏經、後印本。巻第1、6〜7の刊記は入れ木か。刊記は『檗藏刊記集』794〜801に同じ [大槻1994: 201-203]。

【慧海】ラベル「は五、■〈破れ「1」カ〉、12」。仏宣会印あり。慧海所持の『法華經』(解題1.4参照)。

## 和版021

フッセツダイア ミ ダキョウ

## 佛說大阿彌陀經 2卷

KE183/O-11/[199]

(宋) 王日休輯。大本1冊。26.2×18.7cm。20行10字。鐵眼、延宝2年(1674)7月刊、[明治大正期印]。空題簽。序首「大阿彌陀佛經序」。自序、紹興32年(1162)秋。跋、淳祐9年(1249)、空常氏法起。各卷の末尾に刊記あり。下巻の刊記「[...] 沙門鐵眼募刻 延寶甲寅秋七月日黃檗山寶藏院識」。「正訛」「音釋」(巻上末尾)、「校譌」「音釋」(巻下末尾)あり。「禮祝義式」の末尾(7丁裏)に墨格あり。千字文函号「貞三(〜四)」(版心下)。

【注記】黄檗版大蔵経、後印本。刊記は『檗蔵刊記集』937〜938に同じ [大槻1994: 237]。

【慧海】ラベル。「は五、■〈滲み「1」カ〉、3」。仏宣会印あり

## 和版022

① モンジュ シ リ ボ サツモン ボダイキョウロン

## 文殊師利菩薩問菩提經論 2卷

KE183/O-11/[1184-1185]

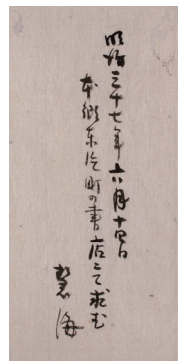
② コンゴウハンニヤ ハ ラ ミツキョウ ハ シュジャク フ エ ケ ミョウロン

## 金剛般若波羅蜜經破取著不壞假名論 2卷

①天親造、(元魏) 菩提留支譯。②功德施菩薩造、(唐) 地婆訶羅譯。大本1冊。27.5×19.5cm。10行20字。[鐵眼、江戸中期刊、後印]。題簽「論 (文殊師利問菩提經論 上下/金剛般若破取著論) 上下 中 弗」、版心①「文殊師利問菩提經論」。寶洲の奥書「[...] 享保三年(1718) 戊戌年九月吉旦/前住瑞龍第二代七十五歳翁興福聰寶洲/手書告<sub>ル</sub>知<sub>ル</sub>於<sub>シ</sub>武藏州豊島郡本所縣天恩山羅漢禪寺/主僧暨<sub>シ</sub>司藏<sub>ル</sub>者<sub>ニ</sub>」。較譌(①巻下末尾)、「音釋」(②各巻末尾)あり。①②各巻の末尾に墨格あり。千字文函号「弗」(題簽)、「弗一(〜七)」(版心下)。

【注記】黄檗版大蔵経、後印本。①下巻〜②の版心題部分に破れ、総裏打補修済み。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。慧海取得識語「明治三十七年(1904)六月十四日/本郷東片町の書店にて求む/慧海」(見返し)。



## 和版023

フッショギョウサンギョウ

## 佛所行讚經 5卷

KE183/O-11/[1344]

馬鳴菩薩撰、(北涼) 曇無讖譯。大本2冊。26.3×18.7cm。20行10字。[鐵眼、江戸中期刊、明治大正期印]。空題簽。「音釋」(巻第1〜4末尾)、墨格(巻第1〜2、5末尾)あり。千字文函号、版心下「典一(〜五)」。

【注記】黄檗版大蔵経、後印本。鉛筆による書入れ(巻1、5丁表)。

【慧海】ラベル「は五、1、2」。仏宣会印あり。

## 和版024

ダイミンサンゾウショウギョウモクロク

## 大明三藏聖教目錄 4卷

KE183/O-11/[1656]

大本2冊。26.2×18.6cm。10行17字。鐵眼、天和元年(1681)上疏。京、印房武兵衛、[明治期後印]。題簽「北藏 大闡三藏聖教目錄(乾/南藏函號附)」、目「北藏目錄總」。第1冊に「進新刻大蔵經表」(延宝6年(1678)7月17日、道光)、「上<sub>ル</sub>經<sub>ヲ</sub>疏<sub>ス</sub>」(天和元年、鐵眼)。第2冊に「刻<sub>ス</sub>大蔵縁起疏文」(寛文9年(1669)7月、鐵眼道光)、「續入經目錄」。奥付「黄檗版其他諸經印刷發賣元/京都市上京區木屋町通二條下<sub>ル</sub>/一切經 印房武兵衛」。口絵(第1冊)、韋駄天像(第2冊末尾)あり。

【注記】黄檗版大蔵経、後印本。12丁裏「唐本朝鮮/藏共闕本」入れ木、會谷 [2010b] 参照。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。印「慧/海」(直径1.3cm)。第2冊(巻第3)の11丁裏から17丁表までの「大乘論」の經典名の下に、青(色鉛筆カ)で「1」から「93」までの数字の書入れあり(解題1.2参照)。



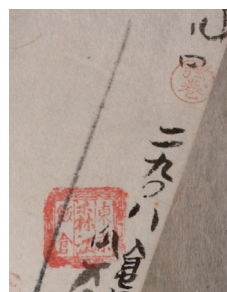
和版025 コンゴウリヤクショ  
金剛畧疏 3巻

KE183.2/G 34

(明)元賢述、[闕名首書]。大本1冊。25.4×18.6cm。9行16字。延宝6年(1678)5月[刊]。[京]、小川多左衛門、[江戸期後印]。刊記「延寶六歲次戊午夏五月吉旦〈書肆名欠〉」、奥付「禪家書林 ■■■〈文字潰れ〉六角通寺町西 ■■■〈文字潰れ〉入町 柳枝軒 小川多左衛門刻〔書肆印「柳枝／軒刻」(1.5×1.5cm)〕」。仕入印「弦巻」(直径0.7cm)、「東京／森江／飯倉」(1.4×1.4cm)。

【注記】綴糸ほつれ。

【慧海】ラベル「以五、4、14」。仏宣会印あり。

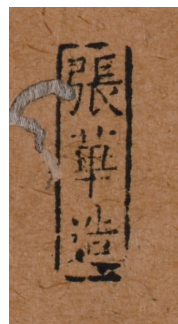
和版026 ダイハンニヤハ ラミッタキョウ マキダイハチジュウイチ  
大般若波羅蜜多經 卷第八十一

KE183.2/G 34

(唐)玄奘譯。折本1帖。30.1×10.3cm。6行17字。明州、王伯序、紹興32年(1162)頃[印]。外「大般若經卷八十一」(打付書)。刊記「明州奉化縣忠義鄉瑞雲山／參政太師王公祠堂大藏經永充四衆看轉／莊嚴報地紹興壬午五月朔男左朝請郎福／建路安撫司參議官賜緋魚袋王伯序題勳／■■■〈破れ〉清涼禪院傳法賜紫慧海大師清憲」。印造者印「張華造」(2.1×0.7cm)。表紙に「160」とペン書きされたラベルあり。

【注記】破れ、虫損あり。総裏打補修済み。補修前は破れた箇所裏から紙をあて墨書。補修後に裏貼りの紙は剥がされ、別に保存。口絵解説参照。野沢[2015]に本書の解説あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり(表紙)。

和版027 カイダイ  
開題〈外〉 5巻

KE183.2/Ku27

[空海編]。縦長本5冊。27.8×17.8cm。8行17字。[京]、中野小左衛門、承応3年(1654)8月刊。外「開題」(題簽)、版心「開題」。内容、「大日經開題〈7種〉」(第1～2冊)、「金剛頂經開題」「仁王經開題」(第3冊)、「法華經[開題]」「最勝王經開題」「梵網經開題」(第4冊)、「一切經開題」「教王經開題」「理趣經開題」(第5冊)。刊記「承應三(甲／午)仲秋吉旦／中野小左衛門刊行」。

【注記】総裏打補修済み。

【慧海】ラベル「は五、4、7」。仏宣会印あり。

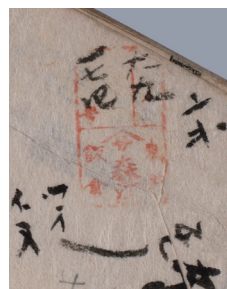
和版028 カ チュウハンニヤシンギョウ ヒケン  
科註般若心經秘鍵 2巻

KE183.2/Ku27

遍照金剛〈空海〉撰、眞賢[註]。大本2冊。27.8×19.5cm。7行13字。京、村上勘兵衛、貞享2年(1685)1月刊。外「秘鍵科」(打付書)、版心「科註心經秘鍵」。序、天和3年(1683)冬、眞賢。刊記「貞享二年乙丑正月上浣／神維 書林平樂寺村上勘兵衛」。仕入印「(大九)／(一七四)号／東京／森江／飯倉」(第1冊、2.7×1.5cm、括弧内墨書)。

【注記】書入れ多。

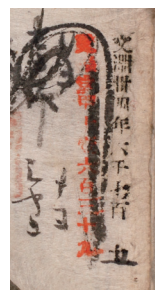
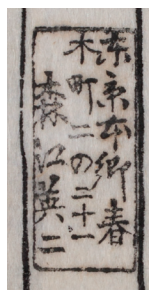
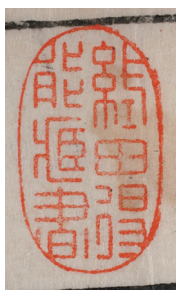
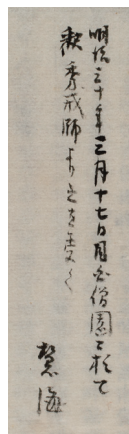
【慧海】ラベル「以五、5、24」。仏宣会印あり。





[探盈編]。大本1冊。25.4×18.2cm。10行20字。宝暦14年(1764)1月刊。京、藤井佐兵衛、[明治25年(1892)印]。外「異譯心經 並 梵本」(題簽)、序首「重彫梵漢心經後序」。跋、宝暦12年(1762)8月、探盈。刊記「寶暦十四年甲申正月吉旦再刺〈書肆名欠〉」。裏見返しに「明治廿五年改正價表略書目」(「京都書林(寺町通/五條上ル)山城屋 藤井佐兵衛」)あり。

【慧海】ラベル「以五、3、1」。仏宣会印あり。慧海の取得識語「明治三十年三月十七日白目僧園ニ於て/釈秀戒師より之を受く」(冊尾)。秀戒は解題3.3参照。



(後秦)鳩摩羅什譯、(元)徐行善科註、(元)必昇校證。大本10冊。28.3×19.5cm。8行17字。[京]、中村五兵衛、延宝4年(1676)7月[印]。外「(科/註)妙法蓮華經」(題簽)、序首「依天台科釋註法華經序」、版心「妙科」。序、元貞元年(1295)、必昇。刊記「延寶第四丙辰天孟秋上浣/寺町二條下ル町/中村五兵衛開板」。所持識語「主清 [印「■〈不詳〉/水」(2.3×2.1cm)]」(裏見返し)。印「織田得能藏書」(5.7×3.3cm)、「實」(2.0×1.6cm)、「璣/山」(2.0×2.0cm)、書肆印「東京本郷春/木町二の二十一/森江英二」(4.3×1.8cm)。仕入印「文淵卅四年六千(七)百(五)」(第10冊、5.5×0.4cm、括弧内墨書)、「■■■〈文淵カ〉堂甲■■■〈判読不能〉六百三十(九)」(第10冊、5.2×0.4cm、括弧内朱書)。

【注記】書入れ多。刊記は入れ木。第1冊裏見返し下方に厚紙(13.7×7.3cm)貼付け、「科註法華經」と墨書。売札か。[挟]第4冊、紙片1紙(6.0×3.9cm)に「中谷基/長野縣/南安曇郡」と鉛筆書き。

【慧海】ラベル「以五、4、12」。仏宣会印あり。慧海所持の『法華經』、慧海の書入れあり(解題1.4参照)。



## 和版031

ミョウホウレンゲキョウカンゼオンボサツフモンボンダイニジュウゴ  
妙法蓮華經觀世音菩薩普門品 第二十五

KE183.3/Ku35

(後秦)鳩摩羅什譯。折本1帖(活字本)。28.7×9.7cm。6行17字。[大正期刊]。東叡山藏板。外「普門品」(直刷)、尾「觀世音菩薩普門品」、版心「妙法華經卷八」。願文「征夷大將軍左大臣源家光公吉祥如意/日本武州江戸東叡山/山門三院執行探題前毘沙門堂大僧正天海願主/正保四年(1647)丁亥曆六月十日/經館分職林氏幸宿花谿居士/使割刷氏而鋟之梓」。千字文函号「鳳」。藏版印「東叡山/藏板」(4.6×4.6cm)。



【注記】天海版の活字を用いた大正5年(1916)の印刷か、国会図書館蔵本(請求記号158-61)参照。『天海版願文集』[松永1999]に同一年月日の願文なし。和版032と同一書だが、7折表14字目「觀」の活字が異なる

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

## 和版032

ミョウホウレンゲキョウカンゼオンボサツフモンボンダイニジュウゴ  
妙法蓮華經觀世音菩薩普門品 第二十五

KE183.3/Ku35

(後秦)鳩摩羅什譯。折本1帖(活字本)。28.7×9.7cm。6行17字。[大正期刊]。東叡山藏板。外「普門品」(直刷)、尾「觀世音菩薩普門品」、版心「妙法華經卷八」。願文「征夷大將軍左大臣源家光公吉祥如意/日本武州江戸東叡山/山門三院執行探題前毘沙門堂大僧正天海願主/正保四年(1647)丁亥曆六月十日/經館分職林氏幸宿花谿居士/使割刷氏而鋟之梓」。千字文函号「鳳」。藏版印「東叡山/藏板」(4.6×4.6cm)。

【注記】天海版の活字を用いた大正5年(1916)の印刷か、国会図書館蔵本(請求記号158-61)参照。『天海版願文集』[松永1999]に同一年月日の願文なし。和版031と同一書だが、7折表14字目「觀」の活字が異なる。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

## 和版033

チュウホケキョウ  
註法華經(外) 10卷(欠開分・結分)

KE183.3/N 71

日蓮註。大本8冊。25.6×18.0cm。10行20字。[延宝9年(1681)7月刊、後印]。外「註法華經」(題簽)、首「妙法蓮華經」、尾「註經」。印「隆/明」(1.3×1.3cm)。



【注記】綴糸ほつれ。第8冊状態悪、紙が変色劣化。刊年は自館所蔵本による。[挟]第1冊、厚紙(7.5×12.6cm)に「註法華經」と横書き。近代販売時の札か。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。慧海所持の『法華經』(解題1.4参照)。

## 和版034

ダイケゴンギョウリヤクサク  
大華嚴經畧策 1卷

KE183.4/C 53

(唐)澄觀述、(日本)謙順校。大本1冊。27.6×19.0cm。10行20字。[京]、丁子屋九郎右衛門、寛政7年(1795)10月刊。序首「再刊華嚴畧策序」、版心「大華嚴畧策」。序、寛政7年10月、謙順。刊記「(正徳元(1711)龍舎辛卯極月吉日舊刻/寛政七年乙卯十月校訂再梓) 東六條下珠數屋町 丁子屋九郎右衛門」。表紙右肩に「檀」と打付朱書。所持識語「コマ 増春」(背)。

【慧海】ラベル「以五、5、16」。仏宣会印あり。

## 和版035

ダイホウコウブツ ケ ゴンギョウジョウギョウボンダイシチソウジン ニ ゲン キ  
大方廣佛華嚴經 淨行品第七搜探二玄記

KE183.4/Ka87

瞎道〈瞎道本光〉科文。大本1冊。26.7×18.1cm。11行19字。江戸、出雲寺和泉、寛延3年(1750)2月刊。石嶽藏梓。外「會本 華嚴經〈以下破れ〉」(題簽)、序首「印行華嚴經淨行品二玄記序」。版心「華嚴經淨行品二玄記」。自序、寛延3年1月。刊記「石嶽藏梓／寛延三年庚午二月吉辰／御書物師 江戸日本橋南壹町目 出雲寺和泉發彫」。冊尾に「助刻勝衆誌」(本光立道判題)あり。所持識語「覚智之」(裏見返し)。

【慧海】ラベル「以五、4、10」。仏宣会印あり。

## 和版036

レキチョウ ケ ゴンギョウ ジ ゲン キ  
歷朝華嚴經持驗紀

KE183.4/Sh99

(清)周克復纂、(清)周石校、(清)陳濟生參。大本1冊。26.0×18.9cm。10行20字。京、永田調兵衛、元禄4年(1691)3月刊。目「歷朝華嚴持驗」、尾・版心「華嚴持驗紀」。刊記「元禄四辛未年三月吉旦／洛陽錦小路通新町西へ入町 書林 永田調兵衛開板」。表紙右肩に「玄」と打付書。

【注記】総裏打補修済み。

【慧海】ラベル「以五、2、11」。仏宣会印あり。

## 和版037

ブッセツ ジ ブウ ボ サツホッシンインエンジュウオウギョウ  
佛說地藏菩薩發心因縁十王經

KE183.58/Z 5

(唐)藏川述、[(日本)得仙圖]。大本1冊。25.8×18.5cm。9行18字。[江戸後期印]。外「地藏十王經」(書題簽)、版心「十王經」。絵図あり。

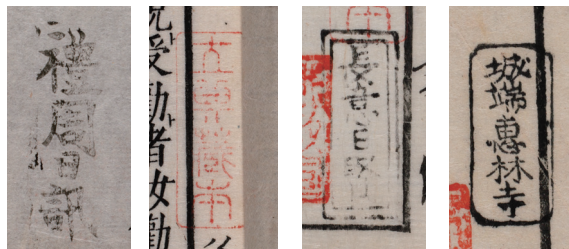
【慧海】ラベル「以五、4、2」。仏宣会印あり。

## 和版038

ナンボンダイハツ ネ ハンギョウ エ ショウ ゲ  
南本大般涅槃經會疏解 36卷

KE183.59/E 58

曇無讖譯、(明)圓澄會疏註、(明)沈豫昌・(明)張顯同校。大本36冊。26.9×17.9cm。10行20字。[京]、秋田屋平左衛門、明暦3年(1657)年3月刊。外「(支那／撰述)大般涅槃經會疏」(題簽)、目「南本大般涅槃經五分圖」、序首「南本大般涅槃經會疏敘」、版心「槃經會疏」。序、万暦39年(1611)。跋、同45年10月1日、沈豫昌。刊記「明暦三(丁／酉)年三月吉辰／寺町通圓福寺前町 秋田屋平左衛門板行」。所持識語「通意日循」「了恕日俊」(第36冊を除く各冊)、「藻原日乘」(第1～2冊)、「長意(之)」(第4～5、9～10、13、17、20、30、32冊)。「三宿(之)」(第7、34冊)。印「禮周日訊」(第36冊を除く各冊、6.8×2.3cm)、「立典藏本」(第36冊を除く各冊、4.9×1.8cm)、「長意日啓」(第15冊、4.3×1.7cm)、「城端惠林寺」(第36冊、3.3×1.5cm)。



【注記】第36冊、総裏打補修済み。書入れあり。序の1丁目と2丁目が逆。

【慧海】ラベル「に五、1、1」。仏宣会印あり。

和版039 センザツゼンアクゴウホウキョウゲンギ  
占察善惡業報經 玄義

KE183.6/C 43

(明) 智旭述。大本 1冊。27.2×18.9cm。9行20字。[江戸後期印]。版心「占察玄義」。取得識語「右卷卷雖離本亦可<sub>レ</sub>以見<sub>レ</sub>其梗概<sub>レ</sub>矣<sub>レ</sub>故加<sub>レ</sub>修理<sub>レ</sub>以珍<sub>レ</sub>於書庫<sub>レ</sub>云尔<sub>レ</sub>明治十年<sub>レ</sub>〈1877〉丁丑夏 月叟叟宗圓〔印「井内/月叟」(直径1.3cm)〕(裏見返し)。

【注記】月叟宗圓(～1882)は宮城県多賀城市の黄龍山西園寺16世か〔多賀城2016: 24, 31〕。

【慧海】ラベル「以五、4、18」。仏宣会印あり。

和版040 センザツゼンアクゴウホウキョウシヨ  
占察善惡業報經 疏 2巻

KE183.6/C 43



(隋) 菩提登譯、(明) 智旭述。大本 2冊。26.7×18.7cm。9行20字。[京]、長谷川市良兵衛、貞享元年(1684)9月刊。外「占察善惡業報經疏」(書題簽)、版心「占察疏」。刊記「貞享元年菊月吉祥日/長谷川市良兵衛開板」。所持識語「修学堂主人/香菴」他(表紙)、○の墨印(直径0.9cm)中に「吉見」と墨書(第2冊末尾)。印「弗」「道」(各1.8×1.0cm)、「来宜堂藏本」(2.5×1.1cm)、「大慈悲/軒藏書」(2.3×1.1cm)。仕入印「文淵甲五號二百七十二番」(第2冊、5.3×0.5cm)。

【慧海】ラベル「以五、4、19」。仏宣会印あり。慧海書入れ「西1684」(刊記の和暦に対して)。

和版041 コンコウミョウサイシヨウオウキョウ  
金光明最勝王經 10巻(存 巻第1、3～8)

KE183.6/G 43

(唐) 義淨譯、(日本) 覺彦・(日本) 密巖假字、(日本) 珂存圖繪、(日本) 岸水菴訂正。折本 7帖。26.9×11.0cm。5行15字。直治寂紫子、[江戸中期刊]。外「金光明最勝王經」(題簽)。各帖の末尾に「陀羅尼假字 覺彦比丘/同假字共授 門弟子/經文假字 密巖和尚/變相圖繪 珂存和尚/文字訂正 岸水菴/真假執筆 辻柳陰/願主 直治寂紫子」あり。絵図あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

和版042 ゲンゴウセンブツゴウ  
賢劫千佛號 2巻

KE183.6/Ke44

大本 2冊。27.6×19.6cm。[清代刊]。外「賢劫千佛號〈他言語の表記略〉」(題簽)。頌中「賢劫千佛名號」。第2冊に彰嘉の頌(「彰嘉國師作此頌/智者丹巴申祈請」)あり。

【注記】梵・藏・漢の3言語を対照。左開き、題簽右肩。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。推定慧海旧蔵書。

和版043 カコンゴウカイレンゲブシンネンジュギキ  
科金剛界蓮華部心念誦儀軌 1巻

KE183.7/E 39

(唐) 不空譯、(日本) 叡尊 [科]。大本 1冊。27.2×19.1cm。10行17字。前川徳右衛門、貞享2年(1685)11月刊。版心「科金剛界儀軌」。奥書、文永8年(1265)2月、叡尊。刊記「右興正菩薩科文儀軌欽刊行焉峇貞享/乙丑仲冬吉旦 前川徳右衛門」。所持識語「義干」(表紙)、「求法 惠看 教傳」(冊尾)。

【注記】状態悪、紙の一部が変色劣化。

【慧海】ラベルなし(剥離跡あり)。仏宣会印あり。

## 和版044

## ①ダイビルシャナジヨウドウキョウシンモク 大毘盧遮那成道經心目

## ②ダイニチキョウシヨシヨウ 大日經疏抄

KE183.7/E 58

圓珍撰。大本1冊。26.0×18.4cm。10行20字。京、明和4年(1767)1月[刊]。同9年[修]。額田一止人藏(見返し)。京、貝葉書院、[明治大正期印]。外「大日經心目/大日經疏抄」(題簽)、見「台密五小部之一/大日經心目」、①版心「心目」。①奥書、明和9年11月、敬光顯道。①刊記「明和四年丁亥正月吉日/台密書房 京師〈書肆名欠〉」、②刊記「明和四年丁亥正月吉旦/台密書房 京師〈書肆名欠〉」。奥付「各宗御本山及諸學林御用書林/〔書籍出版發賣所/禪宗雜誌發行所/〔各宗教師/受験講義録〕發行所〕京都市木屋町二條 貝葉書院/〔…〕」。所持識語「目白臺 釋慶淳」(表紙)。

【注記】冒頭に朱書と鉛筆書きによる訓点の書入れあり。慶淳旧蔵書、解題3.6参照。

【慧海】ラベル「は五、5、5」。仏宣会印あり。

## 和版045

## コンゴウチョウキョウダイユ ガ ヒミツシンジ ホウモン ギケツ マキジョウ 金剛頂經大瑜伽秘密心地法門義訣 卷上

KE183.7/F 74

(唐)不空。大本1冊。28.4×19.5cm。10行20字。貞享4年(1687)4月8日[刊]。京、中野宗左衛門、享保9年(1724)9月[印]。外「金剛頂經義訣」(題簽)、版心「金剛頂經義訣」。刊記「龍飛貞享強圍單闕載佛節日〈書肆名欠〉」、「享保九歲辰九月吉祥日/皇都 書林 寺町五條上ル町 中野宗左衛門藏」。識語「此一巻為録外儀軌之部 ■■■■■/■■■〈墨滅〉」(裏見返し)。

【注記】総裏打補修済み。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

## 和版046

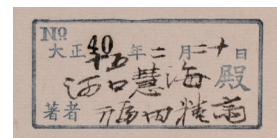
## セイゾウ コシャキョウ 西藏古寫經

KE183.7/F 74

福田精齋[編]。1冊(複製本)。34.7×27.1cm。京、福田精齋、大正15年(1926)2月5日發行。

【注記】左開き。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。冊尾に寄贈印「No.40/大正(十五年)(二)月(二十)日/(河口慧海)殿/著者(福田精齋)」(2.6×5.4cm、括弧内墨書)。福田精齋は解題2.3を参照。



## 和版047

## ダイニチキョウシヨグンダン 大日經疏玄談

KE183.7/G 57

杲寶撰。大本1冊。26.6×18.9cm。10行20字。文化7年(1810)序[刊]。觀智院藏版(最終丁)。序首「大日經口筆玄譚序」。序、文化7年春、東寺觀智院住寶。卷末に「附/温古序」あり。印「寶/島/寺」(6.3×6.3cm)。

【注記】総裏打補修済み、表表紙後補。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。推定慧海旧蔵書、解題3.5参照。



## 和版048

## ダイニチキョウキョウシュ ギ 大日經教主義

KE183.7/J 54

實詮述。大本1冊。27.8×19.2cm。10行20字。[京]、郵上平樂寺、享保12年(1727)3月21日刊。序首「鍔遮那經教主義叙」。序、享保12年1月、法如畔睨。刊記「享保十二丁未年三月二十一日/書肆郵上平樂寺鍔」。印「大雄/雲照」(3.2×3.2cm)。冊尾に「葆■■■〈「イン」カ〉」と墨書。

【注記】朱と墨の書入れあり。雲照旧蔵書、解題3.5参照。

【慧海】ラベル「以五、5、9」。仏宣会印あり。



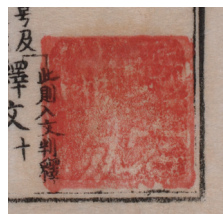


## 和版049

カンチュウ ジュウシンボンショリヤクゲ フゲンダン  
 (冠註) 住心品疏略解<sup>〈外〉</sup> 8卷附玄談

KE183.7/J 61

妙極〈浄厳〉述、蓮體補闕。大本9冊。28.1×19.3cm。5行10字。前川伊兵衛(ほか3肆)、元禄15年(1702)9月刊。外「(冠/註)住心品疏略解」(題簽)、首「大毘盧遮那成佛經疏」、首(玄談)「大日經住心品疏冠解玄談」、尾「大日經住心品疏冠註略解」、版心「(密宗/本書)大日經住心品疏冠解」。跋、元禄15年10月27日、蓮體。刊記「元禄十五年(壬/午)九月吉日/書肆(前川茂右衛門/長谷川市郎兵衛/村上勘兵衛/前川伊兵衛)」。所持識語「釈慶淳」



(第1、5冊表紙)、「慶淳」(第2~3、6~8冊表紙)、「般若寺」(第2冊表紙)、「共九 法信全」(第2冊背)。朱滅印「(愛宕/什物)カ、3.1×3.1cm)。第9冊(玄談)に仕入印「停機堂」(1.5×0.6cm)、「森江」(直径1.2cm)。

【注記】状態悪、紙に変色劣化の箇所あり。綴糸ほつれ。第2冊は取り合わせ本。[挟]第2冊、紙片(17.7×5.8cm)に「大日/大日經/共六ノ内」と墨書。巻5まで書入れ多(鉛筆書き、ペン書きあり)。慶淳旧蔵書、解題3.6参照。

【慧海】ラベル「は五、2、2」。仏宣会印あり(第2冊のみなし)。

## 和版050

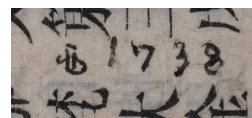
バカ ボンダイコンゴウアジャリ イホッショウダイニチギ  
 薄伽梵大金剛阿闍梨位法性大日義

KE183.7/My 8

妙瑞集。大本1冊。26.3×18.8cm。10行20字。[江戸中期刊]。版心「法性大日義」。奥書、元文3年(1738)8月2日、妙瑞。印「清廉」(直径1.1cm)。

【注記】表紙なし。鉛筆の書入れ多。[挟]1紙(4つ折り)に「咩字義の一多釈前後思想/一多法界論」とペン書き。

【慧海】ラベル「以五、5、19」(1丁表)。仏宣会印あり。慧海書入れ「西1738」(奥書の和暦に対して)。



## 和版051

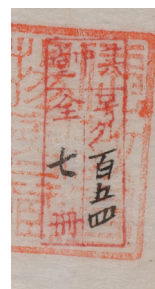
ダイピル シャナキョウジュウシンショウ  
 大毘盧遮那經住心鈔 7卷(欠卷第1)

KE183.7/Sh69

信證撰。大本6冊。27.8×18.9cm。10行20字。京、額田正三郎・八尾清兵衛、宝暦8年(1758)跋刊。外「底瑟吒干栗多鈔」(題簽)、版心「住心鈔」、跋首「刻大毘盧遮那經住心鈔後批」。跋(自跋カ)、宝暦8年夏。刊記「平安城書林(寺町通五條上町 額田正三郎/堀川通松原上町 八尾清兵衛)同行」。表紙上部題簽右の貼紙に「共七卷/黄」と墨書。所持識語「目白臺慶淳」(第1冊表紙、朱書)。仕入印「其中堂/号外(百五四)/全(七)冊」(第6冊、3.1×1.2cm、括弧内墨書)。

【注記】慶淳旧蔵書、解題3.6参照。

【慧海】ラベル「以五、5、26」。仏宣会印あり。



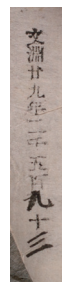
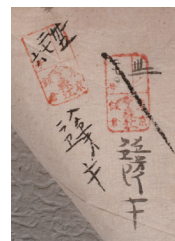
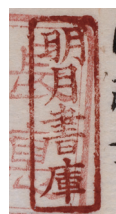
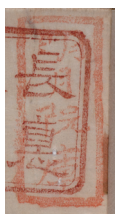


## 和版052

ダイブツチョウニョライミツチンシュウリョウギシヨボサツマンギョウシヨリョウゴンギョウ  
大佛頂如來密因修證了義諸菩薩萬行首楞嚴經  
ガッテン  
合轍 10卷

KE183.7/Ts49

(明) 釋通潤述。大本10冊。26.8×19.0cm。9行17字。[京]、中野是誰、寛文6年(1666)4月[刊]、[後印]。序首「楞伽楞嚴合轍小引」。版心「楞嚴合轍」。序、吳用、天啓元年(1621)10月1



日。自序、同年。原刊記「同元年歲次辛酉仲秋刊板藏於金陵天界/寺月山庵中印廣流通者/[...]」松陵吳壽誕書統梓」。刊記「寛文六(丙/午)年孟夏吉日/中野是誰」。印「長惠/藏寶」(5.0×5.0cm)、「明月書庫」(第1冊除く、4.7×1.7cm)、「明月院庫」(第1冊のみ、5.7×2.6cm)。仕入印「(卅一/二七〇)号/東京/森江/飯倉」「(卅五/二七六)号/東京/森江/飯倉」(第1冊、各2.7×1.5cm、括弧内手書)、「文淵廿九年二千五百(九)十(三)」(第10冊、6.0×0.4cm、括弧内手書)。

【注記】第9冊裏表紙なし。

【慧海】ラベル「は五、2、4」。仏宣会印あり。

## 和版053

ダイショダシギ  
大疏談義 10卷

KE183.7/U 75

運敵筆記、慶宜星點。大本2冊。27.0×18.9cm。10行20字。[江戸中期刊]。外「大疏談義」(題簽)。奥書、貞享元年(1684)4月、運敵。奥書、同年10月、慶宜。表紙右肩に「智共二」と打付朱書。所持識語「共二 増春」(背)。識語「寛政十一(1799)龍集未歲仲秋吉日朱書畢 武陽高麗 隆賢之」(朱書)。印「隆/賢」(直径1.9cm)。

【注記】朱の書入れ多。[挟]第2冊に剥離した題簽と、1紙(26.1×15.4cm)に「往復問答雖盡善美爲法樂[...]」と墨書(6行)。

【慧海】ラベル「は五、4、11」。仏宣会印あり。



## 和版054

シャクモンショウブクギオウボウキ  
釋門章服儀應法記

KE183.8/G 34

(宋) 釋元照述、(日本) 良信 [会]。大本1冊。28.0×19.9cm。11行20字。京、村上平樂寺、正徳3年(1713)跋[刊]。外「■■〈破れ〉釋門章服儀應法記」(題簽)、版心「章服儀應法記會本」、跋首「會章服儀應法記因跋」。序、正徳3年6月、愴眞。自序、紹聖2年(1095)。跋、正恵3年、良信。刊記「平安城 村上平樂寺壽梓[書肆印「村上」]」。識語「享保六年(1721)十月下旬於和之般若窟會以下湛師御本寫之 峻山息慈」(本文末尾に朱書)。印「越後/鷺屋文庫/上條」(直径4.0cm)。

【注記】総裏打補修済み。書入れ多。

【慧海】ラベル「以五、5、23」。仏宣会印あり。



## 和版055

フッセツウ バソク ゴカイソウキョウセンヨウ  
佛説優婆塞五戒相經箋要

KE183.8/C 43

(劉宋) 求那跋摩譯、(明) 智旭箋要、曇昉校并補譯。中本1冊(排印本)。18.8×12.6cm。中華書局、[民国16年(1927) 跋印]。外「佛説五戒相經箋要」(直刷)、序首「校刻佛説優婆塞五戒相經箋要序」、版心「五戒相經箋要」。序、曇昉。跋、丁卯〈民国16年カ〉10月、夏質均。跋に続き「此書紙版存貯在上海靜安寺路哈同路轉角／中華書局印刷所内如有善士印送德無量」とあり。「新集受三歸五戒八戒法式」(曇昉集)あり。表紙右下隅に「25」と鉛筆書き。

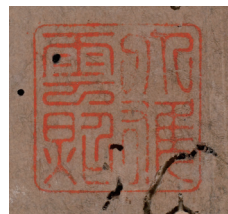
【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。推定慧海旧蔵書。

## 和版056

ジュウジュウハ ラダイモクシャ ワ シヤク  
十重波羅提木叉和釋

KE183.8/J 55

慈山述。大本1冊。26.0×17.5cm。9行18字。[京]、高島屋十右衛門、延宝8年(1680) 跋刊。外「十重波羅提木叉和釋」(書題簽)、版心「十重和釋」。自跋、延宝8年秋。刊記「高島屋十右衛門刻」。表紙右肩の貼紙に「律」と墨書、「律」の右上に小さく「い」と朱書。印「字佐美／賀山／典籍章」(3.2×3.2cm)、「大雄／雲照」(3.1×3.1cm)。



【注記】状態悪、虫損多。綴糸ほつれ。[挟] 1紙(24.5×31.7cm)に「味海經佛告阿難若礼一佛當作是念」(『佛説觀佛三昧海經』卷第10の一部カ)と墨書。雲照旧蔵書、解題3.5参照。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。推定慧海旧蔵書。

## 和版057

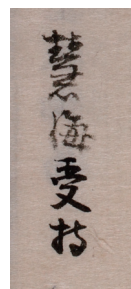
コンボンセツイツサイウ ブカイキョウ  
根本説一切有部戒經

KE183.81/G 43

(唐) 義淨譯。折本1帖。18.5×6.7cm。4行17字。東京、森江佐七、明治13年(1880) 6月17日發兌。轉法輪藏版。外「根本説一切有部戒經」(題簽)。奥付「明治十三年六月十七日出板御届／真言宗法務所／轉法輪藏版／功德主 高野山蓮上院 三枝高範／幹事 樹下覺三／發兌書肆 東京都飯倉町五丁目 森江佐七」。

【注記】。和版059と表紙・題簽が共通(浅葱色表紙、黒色料紙に金泥の双辺題簽)。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。慧海の所持識語「慧海受持」(卷末)。

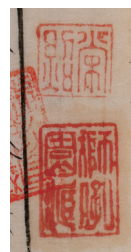
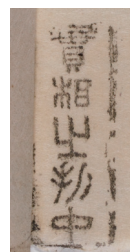


## 和版058

シブンリツギョウ ジシヨウシ ジキ  
四分律行事鈔資持記 42卷

KE183.83/G 19

(宋) 釋元照撰、(日本) 慈光・(日本) 瑞芳校讎。大本42冊。28.5×19.6cm。11行19字。慈鏡、貞享3年(1686) 秋刊。外「(三籍／合觀) 四分律行事鈔資持記」(題簽)、序首「新刻夾註行事鈔序」、跋首「三籍合觀後序」、版心「(支那／撰述) 四分律行事鈔資持記」。序、貞享4年(1687) 8月、元興。跋、貞享3年、慈光。刊記「佛子優婆塞慈鏡實利損資敬刻／〔…〕 貞享三年龍集寅季秋日謹識」(蓮牌木記)。口絵(第1冊)、韋駄天像(第42冊末尾)あり。天保2年(1831) から同5年に校点などを書入れたとの「猛義勇」の識語あり(墨・朱書)。印「實相之利中」(3.3×1.2cm)、「常照」(2.0×2.0cm)、「獅吼／園藏」(3.1×2.1cm)。



【注記】状態悪、紙の一部が変色劣化。書入れ多。

【慧海】ラベル「以五、4、2」。仏宣会印あり。

## 和版059

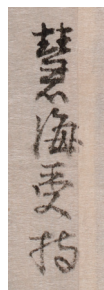
ボンモウキョウ ル シャ ナ ブッセツ ボ サツシン チ ホウモンボンダイジュウ  
 梵網經 盧舍那佛說菩薩心地 法門品第十

KE183.86/Ku35

(後秦)鳩摩羅什譯。折本1帖。18.4×6.6cm。4行17字。[明治期刊]。外「梵網菩薩戒經」(題簽)、序首「梵網經菩薩戒序」、尾・版心「梵網經菩薩戒本」。卷末に「梵網經助刻衆名」(一部に墨格)あり。

【注記】和版060と同版本。和版057と表紙・題簽が共通(浅葱色表紙、黒色料紙に金泥の双边題簽)。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。慧海の所持識語「慧海受持」(卷末)。



## 和版060

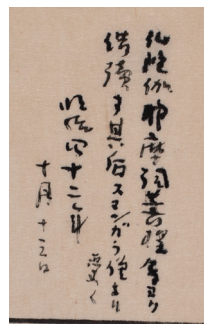
ボンモウキョウ ル シャ ナ ブッセツ ボ サツシン チ ホウモンボンダイジュウ  
 梵網經 盧舍那佛說菩薩心地 法門品第十

KE183.86/Ku35

(後秦)鳩摩羅什譯。大本1冊。25.4×17.2cm。8行17字。[明治期刊]。序首「梵網經菩薩戒序」、尾・版心「梵網經菩薩戒本」。卷末に「梵網經助刻衆名」(一部に墨格)あり。

【注記】和版059と同版本。

【慧海】ラベル「以五、3、19」。仏宣会印あり。慧海の取得識語「仏陀伽耶摩訶菩提會ヨリ／借讀す其後スマンガラ僧より／受く／明治四十二年〈1909〉／十月十三日」(巻頭)。スマンガラ旧蔵書、口絵解説・解題2.2.1参照。



## 和版061

ブッセツニンオウゴコクハンニヤハ ラ ミッタキョウ  
 佛說仁王護國般若波羅蜜經 2卷

KE183.9/Ku35

[(後秦)鳩摩羅什譯]、(日本)慈海掇。折本2帖。26.5×8.4cm。4行17字。京、伊藤次郎兵衛、[江戸中期刊]。外「仁王般若經」(書題簽)、尾「仁王護國般若波羅密經」。奥書「天和三年〈1683〉歲在癸亥臘月穀旦／慈海宋順 校合」。刊記「洛陽書林伊藤次郎兵衛刊行」。印「蓮華／金剛」「常／貫」(各2.2×1.9cm)、「智／道」(3.0×3.0cm)。

【注記】表紙は後補。黄色料紙。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。



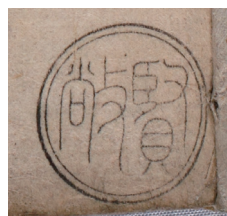
## 和版062

ボダイシンロンキョウソウキ  
 菩提心論教相記 2卷

KE183.9/R 97

亮汰述。大本2冊。27.1×18.9cm。6行13字。[京]、村上勘兵衛・前川茂右衛門、延宝5年(1677)2月刊。外「科菩提心論教相記」(題簽)、版心「菩提心論記」。刊記「延寶五年仲春吉日／書林(村上勘兵衛／前川右衛門)」。第1冊に「菩提心論教相記玄談」(延宝4年3月、亮汰)あり。表紙右肩に「字」と打付書。印「賢／敞」(直径1.8cm)。

【慧海】ラベル「に五、3、3」。仏宣会印あり。



和版063 ボダイシンロンダイサンダンヒキ 菩提心論第三段秘記 KE183.9/R 97

亮汰述。大本1冊。27.8×19.2cm。6行16字。[京]、前川茂右兵衛門、延宝8年(1680)12月12日刊。外「菩提心論第三段秘記」(題簽)、版心「菩提心論秘記」。自序、延宝8年11月3日。刊記「延審八年/雪月十二日/書林前川茂右兵衛門」。表紙右肩に「宇」と打付書。所持識語「全 コマ 良春」(背)。

【慧海】ラベル「以五、2、10」。仏宣会印あり。

和版064 カンドウアビダツマダシャロン 冠導阿毘達磨俱舍論 30巻 KE183.92/Sa14

(天竺)世親造、(唐)玄奘譯、(日本)佐伯旭雅編輯、(日本)杉原春洞・瀬邊惠燈勘文。大本10冊。26.3×19.2cm。10行20字。京、西村七兵衛(法藏館)、明治20年(1887)5月15日刊。外「冠導阿毘達磨俱舍論」(題簽)、序首「冠導俱舍論叙」「刻冠導俱舍論序」。序、明治19年5月、獨園。序、同年夏、徹定。序、同年、旭雅。奥付「明治十九年二月一日出版々權御願/同年二月十七日版權免許/明治二十年五月十五时刻成發兌/[...]法藏館 出版人 京都府平民 西村七兵衛/[...]」。第1冊に「題辭」(明治18年12月、晃親王、同19年6月、山岡鐵舟)あり。

【注記】紙に変色劣化の箇所あり。

【慧海】ラベル「に三、2、9」。仏宣会印あり。

和版065 ダイジョウギンショウ 大乘義章 21巻(存巻1~4、5末~8本、14、16~20本) KE183.95/E 65

(隋)遠<慧遠>撰。大本16冊。27.3×19.2cm。10行20字。[江戸中後期印]。外「大乘義章」(題簽)。第1冊表紙上部の貼紙に「廿六/致中下」と墨書。書肆の符牒「佛部廿六冊明治四十 九・三ウユリ」(第1冊)。墨減印「(江州/守山)圓光寺藏」(5.5×1.9cm)。

【注記】綴糸ほつれ。書入れあり。

【慧海】ラベル「以五、3、4」。仏宣会印あり。



和版066 チュウコンジシショウ 註金師子章 1巻 KE188.3/Sh96

(唐)法藏述、(宋)兼遷註。大本1冊。28.5×19.9cm。7行17字。[京]、武村市兵衛、慶安2年(1648)11月刊。奥書「慶安二己丑載初冬日命工壽梓/寓泉涌比丘某誌」。刊記「慶安二(己/丑)曆霜月吉旦/二條通松屋町/武村市兵衛刊行」。表紙右肩に「全」と打付書。

【注記】表紙四周の表面に破れ。紙の一部に変色劣化。総裏打補修済み。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

和版067 エツゾウチシン 閱藏知津 44巻總目4巻 KE188.4/C 43

(明)釋智旭編。縦長本10冊(排印本)。25.2×16.0cm。10行20字。[南京]、金陵刻經處、光緒18年(1892)4月刊。外「閱藏知津」(題簽)。自序、永曆8年(1654)9月10日。刊語「[...]光緒十八年夏四月金陵刻經處識」。第10冊に「施資名氏列後」あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

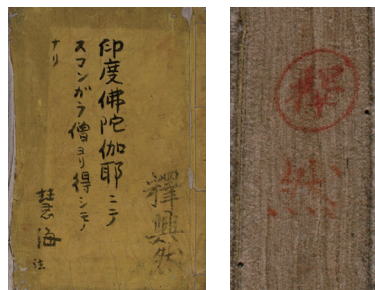


## 和版068

テンダイショウ シカン  
天台小止観 1巻

KE188.4/C 43

(隋) 智顛述、(日本) 山田妙運校。半紙本 1冊。22.8×15.4cm。8行17字。東京、松澤庄次郎(慶元堂)、明治10年(1877)11月刊。序首「翻刻小止観序」、版心「天台小止観校本」。序、明治10年9月28日、韶舜。序、崇禎元年(1628)2月8日、釋真一。原序、紹聖2年(1095)8月、釋元照。跋、明治10年9月、妙運。奥付(表)「明治十年九月十二日板権免許/同年十一月 出版/[...] 出版人 東京府平民 松澤庄次郎/第五大區六小區下谷/南稻荷町七番地」。奥付(裏)「賣弘/書林(西京 出雲寺文治郎/[...] 同(東京) 下谷南稻荷町 和泉屋庄次郎)」(全8肆)。口絵、「天台智者大師教誡銘」あり。所持識語「釋興然」(表紙)。背に「釋」(直径0.7cm)の朱印、その下に「然」と朱書。



【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。慧海の取得識語「印度佛陀伽耶ニテ/スマンガラ僧ヨリ得シモノ/ナリ/慧海 誌」(表紙)。「天台智者大師教誡銘」の冒頭2行に赤鉛筆による圈点あり、慧海によるか。スマンガラ旧蔵書、資料紹介・解題2.2.1参照。

## 和版069

①ボンシツグウダシ ②ケンモンロク  
梵室偶談 見聞録

KE188.4/C 43

①(明) 智旭著、(明) 果海録。②(明) 智旭筆。大本1冊。27.2×17.6cm。9行18字。[京]、山口忠右衛門、延宝7年(1679)2月刊。外「(支那/撰述) 梵室偶談/見聞録」(題簽)。①②原刊記「弟子通瑞較刻/弟子通玄募賞助刻」。刊記「延寶七年/未二月吉日 東之洞院六角下ル町 山口忠右衛門(開/板)」。所持識語「寶幢院南尾一乘藏」(巻頭)。

【慧海】ラベル「以五、3、24」。仏宣会印あり。

## 和版070

①キョウカンコウシュウ ②キョウカンコウシュウシヤクギ  
教觀綱宗 教觀綱宗 釋義

KE188.4/C 43

(明) 智旭述。1冊。27.3×17.7cm。9行18字。[江戸中期印]。外「(支那/撰述) 教觀綱宗/綱宗釋義」(題簽)。①原刊記「嘉興吳智印遺賞刻」。

【注記】書入れ多。裏見返しに書肆の符牒を記したラベルあり。ラベルに「十一ノ十ノ十六、/(トルヤ/キルヤ)(満益/四書)」。

【慧海】ラベル「以五、3、23」。仏宣会印あり。

## 和版071

ショウカン ギ テンソウショウコウシュウ  
聖歡喜天叢書甲集 (目)

KE188.4/G 19

願海集。大本1冊。26.7×19.2cm。11行24字。江戸、和泉屋庄治郎、安政2年(1855)7月刊。叡山常樂院蔵版。書袋「聖歡喜天叢書」。内容、「大聖天歡喜雙身毘那耶迦迦決」(眞源撰。嘉永7年<1854>3月、慈本校訂)、「附録」(嘉永7年4月、願海)、「使咒法經頌註」(眞源註。嘉永7年3月、慈本校訂)。奥付「安政二年乙卯七月刻成/叡山常樂院蔵版/台宗書林 下谷廣徳寺前 和泉屋庄治郎」。冒頭に「慈覺大師將來聖歡喜天像 常住金剛院藏/其龕圖様 并龕扉記文」(享保2年<1717>10月、圓恕)あり。

【注記】[挟] 本書の書袋。書肆の符牒を記したラベルあり。ラベルに「十一ノ十ノ廿三、(トルヤ/ウエ)(歡喜天/叢書)」。

【慧海】ラベル「以五、5、8」。仏宣会印あり。



和版072 <sup>カクチョウソウズゼンシュウ ダイニノジョウ</sup> 覺超僧都全集 第二之上 KE188.41/Ka28

覺超僧都全集刊行會〔編〕。半紙本1冊（活字本）。23.5×16.0cm。滋賀縣、延曆寺事務所、昭和8年（1933）11月1日發行。東京、吉田書店出版部販賣。外「覺超僧都全集第二之上」（題簽）、首「胎藏三密抄」。

【注記】〔挟〕1枚「佛教の研究／國譯祕密儀軌增刷會員募集案内號」（吉田龜吉、昭和8年7月發行。鈴木昇印刷）。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。奥付下部に「東西文化交流文化研究所寄贈図書」のシールあり（1988年に洋装本として図書館登録）。

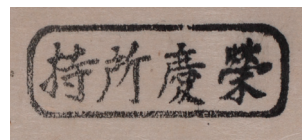
和版073 <sup>シュジシュウ</sup> 種子集 （小口） 2巻 KE188.5/C 57

澄禪書。大本2冊。27.8×17.2cm。京、林正五郎、寛文10年（1670）5月刊。外「金剛界卅七尊種子」（書題簽）。刊記「寛文庚戌夏五月日書／沙門澄禪〔花押〕／洛下書房林正五郎壽梓」。所持識語「共二 惠暁」（背）。

【慧海】ラベル「は五、4、4」。仏宣会印あり。

和版074 <sup>ヒミツネンブツショウ</sup> 秘密念佛鈔 3巻 KE188.5/D 82

道範記。縦長本3冊。28.0×18.0cm。9行19字。〔京〕、長谷川一郎兵衛、正保2年（1645）8月刊。外「秘密念仏鈔」（題簽）。刊記「正保二年八月吉良日／長谷川市郎兵衛開板」（第2冊末尾）。所持識語「榮慶」（表紙・第1冊見返し）、「大道」（第1冊表紙）。榮慶の識語「斯書全部三冊〔…〕 峯審曆九〈1759〉 歲次巳卯初冬念六於武之三保谷悲喜拝聞 而書／金剛密資榮慶（六十／四）」（第3冊裏見返し）。印「榮慶所持」（2.1×6.1cm）。



【注記】総裏打補修済み。書入れあり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

和版075 <sup>ショウジジツソウギクヒツ</sup> 聲字實相義口筆 5巻 KE188.5/G 57

果寶口筆、賢寶抄記。大本5冊。27.9×18.9cm。6行17字。京、井上忠兵衛、元禄7年（1694）2月15日刊。奥書、延文3年（1358）11月3日、賢寶。刊記「元禄七龍集甲戌二月佛涅槃日／華雜書林 井上忠兵衛識」。表紙右肩に「字」と打付書。

【注記】総裏打補修済み。

【慧海】ラベル「以五、2、13」。仏宣会印あり。

和版076 <sup>ボダイシンロンキキガキ</sup> 菩提心論聞書 7巻 KE188.5/G 57

果寶〔述〕。大本6冊。27.5×19.0cm。12行20字。〔京〕、前川茂右衛門尉、〔江戸中後期刊〕。外「菩提心論鈔」（打付書）、版心「菩提心論」。奥書、貞和5年（1349）12月20日、〔果寶〕。刊記「前川茂右衛門尉」。表紙右肩に「字」と打付書。所持識語「共六 江面村 智説房」（背）。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

## 和版077

## 三昧耶戒序資兼記 2巻

KE188.5/H 83

法明撰。大本3冊。26.7×18.4cm。10行22字。宝暦4年(1754)跋[刊]。外「三昧耶戒序資兼記」(題簽)、序首「三昧耶戒序并戒儀資兼記引」、尾「秘密三昧耶佛戒儀資兼記」。自序、宝暦元年10月。跋、同4年春、平春章。刊記(施入記)「越州新發田城主溝口出雲守直温公施金十/五兩以助印刻伏願永永盛家門爭壽於椿桃/更冀以資先亡之冥福法界群黎同沾利益/審曆癸酉(宝暦3年)冬十二月寶林山焔芻瀧明識」。識語「右爲自皎照覺近住速證大覺位/令寄附無等庵了/審林山靈雲支院小比丘義海/明和五(1768)戊子天三月日」(第3冊末尾)。

【注記】総裏打補修済み。

【慧海】ラベル「以五、3、25」。仏宣会印あり。

## 和版078

## 兩部曼荼羅私抄 2巻

KE188.5/I-59

印融抄、空辨校註。大本2冊。27.3×19.1cm。9行16字。[京]、村上勘兵衛、延宝2年(1674)10月刊。外「(首/書)曼荼羅私抄」(題簽)、版心「曼荼羅抄」。奥書、延徳3年(1491)11月、印融。奥書、寛文11年(1671)11月、空辨。刊記「延寶二年(甲/寅)孟冬吉旦/書林村上勘兵衛刊行」。表紙右肩に「玄」と打付書(第2冊)。印「日/■(判読不能)」(3.0×2.9cm)。

【注記】和版079と同版本。題簽の記載(胎藏界・金剛界)が内容と逆。上巻の「胎藏」を「金剛」に、下巻の「金剛」を「胎藏」に墨書で訂正。

[挟]第1冊に1枚(64.0×23.4cm)、「金剛界曼荼羅」「胎藏界曼荼羅」の影印図(何かの本の附録か)。

【慧海】ラベル「以五、2、9」。仏宣会印あり。



## 和版079

## 兩部曼荼羅私抄 2巻

KE188.5/I-59

印融抄、空辨校註。大本2冊。26.8×19.4cm。9行16字。[京]、村上勘兵衛、延宝2年(1674)10月刊。京、菅屋宗八、[江戸後期印]。奥書、延徳3年(1491)11月、印融。奥書、寛文11年(1671)11月、空辨。刊記「延寶二年(甲/寅)孟冬吉旦/書林村上勘兵衛刊行」。奥付「諸宗御經書物製本所/京師書房 向松堂 寺町通三條下ル町 菅屋宗八」。第2冊末尾に蔵版目録(京、菅屋宗八版)あり。

【注記】紙の一部が変色劣化。総裏打補修済み。和版078と同版本。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

## 和版080

## 警覺心續生義 附徧界紅鑑一唾篇

KE188.5/J 54

實詮撰。大本1冊。25.9×18.3cm。10行20字。享保5年(1720)序刊。序首「録警覺心續生義叙」自序、享保5年11月。

【注記】表紙なし。[挟]1紙(13.1×8.4cm)に真言の書入れ。

【慧海】ラベル「以五、5、20」(1丁表)。仏宣会印あり。

## 和版081

## 冠註即身成佛義(尾) 2巻

KE188.5/J 61

[空海著]、妙極(浄厳)[註]。大本2冊。27.3×19.2cm。6行13字。[京]、中川喜兵衛・村上勘兵衛・中川五郎兵衛、元禄11年(1698)春刊。外「即身成佛義」(打付書)、首「即身成佛義」、版心「(密宗/本書)冠註即身成佛義」。奥書、元禄10年10月4日、妙極。刊記「元禄十一戊寅歳季春良辰 書肆(中川喜兵衛/村上勘兵衛/中川五郎兵衛)(藏/版)」。

【注記】総裏打補修済み。書入れあり。

【慧海】ラベル「以五、5、10」。仏宣会印あり。

和版082 <sup>①</sup>アジジュウショウ <sup>②</sup>ミッキョウシュギョウネンジュサホウ <sup>③</sup>ミツゴンインホツロサンゲモン  
 阿字授要鈔 密教修行念誦作法 密巖院發露懺悔文 KE188.5/Ku27

①弘法大師〈空海〉口説、實惠所録。②自性作。③興教大師〈覺鑊〉作。半紙本1冊。23.1×15.3cm。越後、満空・何某、文政8年(1825)印。外「[阿]〈梵字〉字授要抄/秘密念誦作法/密巖院懺悔文」(打付書)。①序首「阿字檜尾記授要鈔序」、版心①「阿字觀鈔」②「念誦作法」③「發露懺悔文」。①序、延宝2年(1674)1月、惠照。③跋、寛政12年(1800)6月、根嶺大傳法院。刊記「文政八乙酉年/印施(越後柏寄護摩堂乞士満空/合力同國 何某)/爲天下泰平正法久住」。書入れ「(■●/■〈墨滅〉師)天保九年(1838)戊年迄六百九十六年歟/寅年七百歳」(冊尾)。所持識語「積慶淳」(表紙)。

【注記】慶淳旧蔵書、解題3.6参照。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。推定慧海旧蔵書。

 和版083 ゴツモンドウ  
 雜問答 (版心) KE188.5/Ku27

[空海著カ]。大本1冊。27.4×19.0cm。10行20字。[京]、中野小左衛門、慶安2年(1649)春刊。外「雜問答」(打付書)。刊記「慶安二稔季春吉旦/中野小左衛門開板」。識語「大藏法數卷一出[…]元文巳未(1739)之初冬公務之餘浪正<sub>レ</sub>於訓点<sub>レ</sub>改<sub>レ</sub>於脱誤<sub>レ</sub>雖<sub>レ</sub>一校之未<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>正本<sub>レ</sub>請以<sub>レ</sub>/校合之本<sub>レ</sub>重改訂之(信恕/芳全)」(裏見返し)。所持識語「堅海」(表紙)、「義関 ■●〈墨滅〉全」(背)。

【注記】書入れ多。

【慧海】ラベル「以五、5、18」。仏宣会印あり。

 和版084 ゴユイゴウシャクギショウ  
 御遺告釋疑鈔 3卷 KE188.5/R11

頼瑜記。大本3冊。27.2×17.7cm。9行18字。高野山、延宝8年(1680)5月刊。外「御遺告釋疑抄」(打付書)、尾「遺告釋疑抄」、版心「釋疑鈔」。奥書、弘長2年(1261)3月、頼瑜。刊記「延寶八庚申年五月日/於高野山開板」。表紙右肩に「宿」と打付書。所持識語「三ノ内 ムサシ 春正房」(背)。印「賢/敞」(直径1.8cm)。



【慧海】ラベル「は五、4、8」。仏宣会印あり。

 和版085 ショシュウキョウリドウイシャク  
 諸宗教理同異釋 KE188.5/R12

頼瑜[著]。大本1冊。26.5×16.5cm。8行18字。[京]、高橋清兵衛、明暦3年(1657)11月刊。版心「同異釈」。序、[頼瑜]。奥書、建治2年(1276)2月1日、頼瑜。刊記「明暦三(丁/酉)歳霜月吉日 四條寺町 高橋清兵衛開板」。

【注記】表表紙の表面剥離。書入れあり。

【慧海】ラベル「以五、3、18」。仏宣会印あり。

 和版086 クヨウホウショリヤクショウ  
 供養法疏略鈔 3卷 KE188.5/R97

亮汰述。大本3冊。27.8×19.1cm。10行20字。[京]、前川茂右衛門、延宝4年(1676)6月刊。序首「供養法疏略鈔玄談」。自序、延宝3年10月8日。版心「供養法鈔」。刊記「延寶四年丙辰六月吉日/前川茂右衛門(板/行)」。

【注記】紙の一部が変色劣化。総裏打補修済み。

【慧海】ラベル「に五、2、1」。仏宣会印あり。

和版087

ゴクヨウゲチュウ  
五供養偈注

KE188.5/R 97

亮汰集。大本1冊。27.4×19.3cm。6行14字。[京]、前川茂右衛門尉、寛文10年(1670)8月刊。刊語「[...] 寛文十年八月日書于摠持寺/前川茂右衛門尉刊之」。所持識語「尊恭」(表紙に朱書)。

【注記】総裏打補修済み。書入れ多。

【慧海】ラベル「以五、2、7」。仏宣会印あり。

和版088

シャリライモンショウ  
舍利禮文鈔

KE188.5/R 97

亮汰述、傳慧註。大本1冊。26.6×18.7cm。6行13字。[京]、前川茂右衛門、天和3年(1683)12月上旬刊。序首「舍利參考序」、版心「舍利禮參註」。序、天和3年冬、傳慧。刊記「天和三癸亥歲臘月上旬日/前川茂右衛門板行」。「凡例」(延宝4年<1676>4月14日、亮汰)あり。表紙右肩に「全」と打付書。

【慧海】ラベル「以五、2、8」。仏宣会印あり。

和版089

ミツゴンショウニンギョウジョウキ  
密嚴上人行狀記 3巻

KE188.52/Mi63

大本3冊。26.4×18.8cm。10行20字程度。京、前川茂右衛門、寛文12年(1672)6月刊。外「密嚴上人行狀記」(題簽)、版心「覚鑊行狀」。刊記「寛文十二壬子年六月吉日/洛陽寺町前川茂右衛門板行〔書肆印〕」。所持識語「西武沙門円意」「沙門円意」(裏見返し)。

【注記】第2冊に虫損多。

【慧海】ラベル「以五、2、4」。仏宣会印あり。

和版090

ミッキョウハツタツシ  
密教發達志 5巻

KE188.52/O-64

大村西崖撰。5冊(活字本)。23.3×16.0cm。大村西崖、大正7年(1918)11月15日發行。外「密教發達志」(題簽)。序、久保得二(天隨)。序、大正7年10月、小林正盛。自序。跋、大正7年8月、芹澤閑。「附録/經軌章疏一覽」あり。蔵版印「瑜加/廬藏/版記」。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。寄贈者識語「擎呈/慧海河口和上 西崖居士〔印「西/崖」(1.4×1.4cm)〕」(見返し)。慧海による朱の圈点あり。目次の「龍猛非密祖」と、その本文にあたる18頁や、21頁の「河口慧海説」の部分など。



和版091

ジュウゼンホウゴ フ ショウボウリツコウフクダイワ ジョウコウソウジヤデン  
十善法語 附正法律興復大和上光尊者傳 13巻

KE188.54/O-66

慈雲<飲光>示。大本13冊。26.0×18.5cm。9行。文政7年(1824)跋刊、[明治期印]。摩尼蓮華蔵版(見返し)。葛城山高貴寺藏(第13冊最終丁)。外「十善法語」(題簽)、見「(王法正論/治國之要)十善法語」。序、文政3年春、豪恕。跋、同7年4月、鈔有。

【慧海】ラベル「は五、3、4」。仏宣会印あり。



和版092 <sup>ギョサン ショウ</sup> 魚山私鈔 3巻

KE188.56/C 52

長惠集、眞源校。大本1冊。27.2×18.9cm。〔京〕、西田勝兵衛尉、正保3年(1646)刊。〔高野山〕、經師八左衛門、寛保3年(1743)7月〔修〕。外「(南山進流/寛保再校)魚山薑芥集」(題簽)、序首「校正魚山薑芥序」、版心「魚」。序、寛保3年5月、



眞源。跋、同3年8月、理峯。刊記「右以法印長惠御正本校證之令刊行者也/正保三丙戌曆姑洗日西田勝兵衛尉/寛保三年癸亥七月重訂 經師八左衛門校刻」。冊尾に「附録」あり。取得識語「岩文化三年〈1806〉丙寅之三月北高野山求(背)。所持識語「師範予与(龍贊/瑞龍)」(表紙)、「師範予与/現持主/知足庵〔印「龍/贊」(1.4×1.6cm)〕/亦予与/持主/旭葦〔印「瑞/龍」(1.9×1.9cm)〕」(裏見返し)、「寛興持」(小口書)。印「鳥/巖」(本文3丁表、直径5.0cm)。

【注記】朱と墨による書入れ多。

【慧海】ラベル「以五、2、12」。仏宣会印あり。

和版093 <sup>シンギ ショウミョウダイテン</sup> 新義聲明大典 (目)

KE188.56/U 25

内山正如編。大本1冊。26.3×18.6cm。神奈川県、内山正如、大正6年(1917)發行。東京、博文館印刷。神奈川県、平間寺出版部發兌。外「(大正/新刻)新義聲明大典」(題簽)。序、大正6年5月、教如。自序、同年2月。跋、同年4月、雷斧。奥付「大正六年 月 日印刷/大正六年 月 日發行/〔…〕發兌所 神奈川県橋樹郡大師河原村 平間寺出版部〔印「平間寺/出版部/之章」(3.6×3.6cm)〕」。〔附録〕(活版印刷)に、「新義聲明傳來記」「三大發見記」「聲明練習初學心得」(内山正如記)あり。

【注記】鉛筆による書入れあり(28丁表、30丁表ほか)。〔挟〕1紙(27.7×19.6cm)「龍女成佛ノ典故(法華提婆達多品)要略」(活版印刷)、袋綴4丁(20.3×14.1cm)「報恩講說艸(抜粋)」(整版の複製カ)、4枚(20.6×27.8cm)「涅槃講式(抜粋)」(整版の複製カ)。

【慧海】ラベル「以五、5、6」。仏宣会印あり。

和版094 <sup>シンランショウニンエシデン</sup> 親鸞聖人繪詞傳 3巻

KE188.72/Sh99

舜恕・慧觀等編、河邊源隆画。大本3冊。25.0×17.6cm。10行18字前後。京、菊屋喜兵衛(ほか3肆)、享和元年(1801)7月刊。高田山御坊御蔵版。外「親鸞聖人繪詞傳」(題簽)、版心「繪詞傳」。序、寛政12年(1800)5月、真淳。奥付(表)「高田山御坊御蔵版/〔蔵版印「高田山/御蔵版」(8.3×5.5cm)〕」。奥付(裏)「享和元年辛酉秋七月/賣弘所(五條高倉東江入町 北村四郎兵衛/御幸町御池下ル町 菱屋孫兵衛/下珠數屋町東洞院西江入町 丁子屋九郎右衛門/寺町松原下ル町 菊屋喜兵衛〔書肆印〕)」。第3冊末尾に「畧目録」、広告(京、菊屋喜兵衛)あり。印「石和」(2.2×1.5cm)。



【慧海】ラベル「以五、3、20」。仏宣会印あり。



## 和版095

サンキョウロウジンショウ ジ ベン  
三休老人生死辯

KE188.8/B 18

道坦〈万仞道坦〉〔著〕、童麟・慧輪等誌。大本1冊。26.0×18.4cm。9行20字。京、貝葉書院、〔明治大正期印〕。外「生死辨」（題簽）。自序、明和9年（1772）7月。奥付「各宗御本山及諸學林御用書林／（慈海版一名宮様本版元／御經并ニ佛教書籍問屋）京都市木屋町二條 貝葉書院／〔…〕」（振替口座と電話番号略）。末尾に「發行略書目錄 禪宗之部 貝葉書院」（活版印刷）あり。

【慧海】ラベル「は五、4、1」。仏宣会印あり。

## 和版096

テイドジキジュボサツカイギキ  
剃度直授菩薩戒儀軌

KE188.8/G 99

流逆水〈逆水洞流〉訂校。折本1帖。23.2×9.9cm。4行12字。京、貝葉書院、〔明治大正期印〕。外「剃度儀軌」（題簽）。跋、宝暦2年（1752）4月8日、流逆水〈逆水洞流〉。奥付「慈海版一名宮様本版元／御經并ニ佛教書籍問屋／發賣元 京都市木屋町二條 貝葉書院」。

【慧海】ラベル「以五、1、3」。仏宣会印あり。

## 和版097

エイヘイコウソサンショウドウエイリヤクゲ  
永平高祖傘松道詠略解 2巻

KE188.8/Ka28

覺巖〈覺巖心梁〉撰。大本1冊。25.8×18.1cm。10行。備中、圓通精舎石窓菴、嘉永5年（1852）6月刊。序首「道詠序」「高祖道詠序」、版心「傘松道詠略解」。序、大晃明覺。自序、嘉永5年6月。奥付「黄備圓通精舎／石窓菴藏板／嘉永五年壬子六月刊成」。所持識語「見性宗般〔印「宗」般〕（各0.8×1.1cm）」（46丁裏）。印「田中／蔵書」（2.4×2.1cm）。

【注記】状態悪、紙の一部が変色劣化。

【慧海】ラベル「以五、5、12」。仏宣会印あり。



## 和版098

カンチュウイチカンミ  
冠註一鹹味

KE188.8/Ki45

木宮恵満編輯、鷲嶺韜谷関。大本1冊。25.5×18.0cm。8行14字。京、出雲寺文次郎・永田長左衛門、明治19年（1886）4月15日刊。外「冠註一鹹味」（題簽）、序首「一鹹味序」。題字、明治17年、伊達春山。序、同16年、山岡鐵舟。奥付「明治十九年三月十九日出版々權御願／同十九年四月七日版權免許／同年四月十五日日刻成發兌／〔…〕出版人 京都府 出雲寺文次郎／下京區第四組枹屋町／四番戸／京都府平民 永田長左衛門／下京區第廿三組山川町／五番戸」。裏見返しに蔵版目錄（「出雲寺松栢堂、活版印刷）あり。目錄中に、〔明治〕31年1月改正の「出雲寺發賣目錄」の記述あり。仕入印「浅倉屋」（1.2×1.0cm）。

【慧海】ラベル「は五、4、3」。仏宣会印あり。



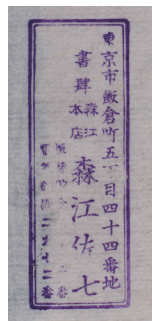
## 和版099

ゼンシュウ ム モンカンショウ  
禪宗無門關鈔 2巻

KE188.8/Se17

西栢〈西柏〉記。大本2冊。26.3×18.5cm。16行24字。京、小川多左衛門〔後印〕。外「（頭書／増補）禪宗無門關鈔」（題簽）、版心「門關抄」。奥付「禪家書林京師六角通寺町西江入町 柳枝軒 小川多左衛門刺」。〔宋〕慧開の『無門関』を上欄に増補。書肆印「東京市飯倉町五丁目四十四番地／書肆（森江／本店）森江佐七〔…〕」（6.8×2.4cm）。

【慧海】ラベル「以五、5、4」。仏宣会印あり。



## 和版100

## 冠註四部録

KE188.8/Su74

駿陽陳人（駿陽山人）鼈頭。大本1冊。26.5×19.0cm。8行14字。元禄11年（1698）跋刊。京、貝葉書院、[大正期印]。外「冠註四部録」（題簽）、版心「首書四部録」。自跋、元禄11年6月。刊記「明治九年五月八日版權免許／京都市下京■〈文字潰れ〉三條通高倉東入／（發行兼／版權／所有者）出雲寺文治郎」。奥付「各宗御本山及諸學林御用書林／（慈海版一名宮様本版元／御經并ニ佛教書籍問屋）京都市木屋町二條 貝葉書院／[…]」（振替口座と電話番号略）。冊尾に「禪宗之部 發行略書目録 貝葉書院」（活版印刷）あり。

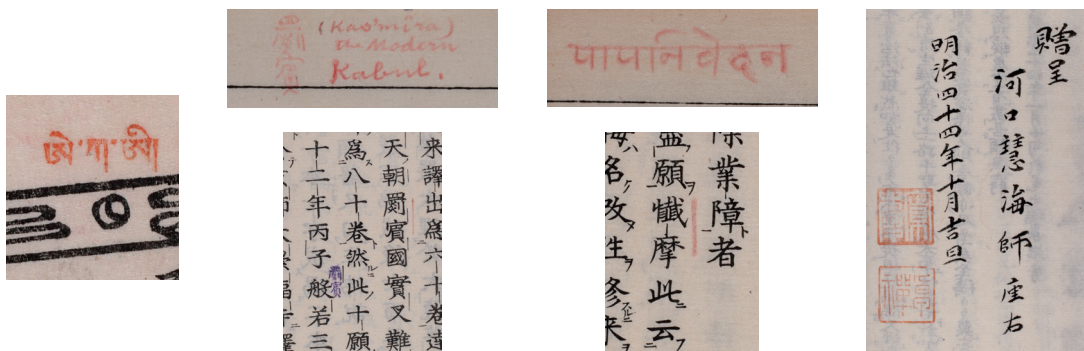
【注記】冊尾の發行略目録中に「禪道俗話」（1914年の出版か）あり。

【慧海】ラベル「以五、5、17」。仏宣会印あり。

## 和版101

## 華嚴普賢行願品宗通畧疏 2卷

KE188.8/To66



東嶺圓慈編。大本2冊。26.1×18.1cm。10行19字。名古屋、矢野平兵衛、明治28年（1895）5月13日發行。瑞泉禪寺樹王軒藏版。外「華嚴普賢行願品宗通略疏」（題簽）、序首「（禪家／堂奥）華嚴經普賢行願品（東嶺／和尚）撰注并碧岩百則辨序」、尾「普賢行願品宗通略疏」。序、明治24年1月、樹王無學。奥付「瑞泉禪寺樹王軒藏版〔藏版印「龍山／紀綱」〕／明治廿八年五月十日印刷／全 五月十三日發行／版權所有（編輯發行／兼印刷者）愛知縣平民 矢野平兵衛／西春日井郡六郷村／大字大曾根十六番戸」。第2冊に「（新／刻）碧岩百則東嶺和尚辨序」（明治24年6月、樹王無學）あり。「（名古屋／大曾根）松屋平兵衛藏版書目」（活版印刷）の「其之貳」（第1冊裏見返し）、「其之參」（第2冊見返し）あり。

【注記】〔挟〕第2冊、ロンドンの書肆バーナード・クオリッチの販売リスト1枚（両面印刷2つ折り4頁）“LIST OF BOOKS FOR SALE / AT THE LIBRARY OF THE / ASIATIC SOCIETY OF BENGAL, / No.1, PARK STREET, CALCUTTA, / AND OBTAINABLE FROM / THE Society's Agent / MR. BERNARD QUARITCH, 11, Grafton Street, New Bond Street, London, W.”、ノート1枚（ペンと鉛筆書き）。

【慧海】ラベル「は五、1、1」。仏宣会印あり。印「e ka i / 〈チベット文字〉」（0.6×1.5cm）。慧海書入れ、序2丁表（「闍賓 […]」）・上17丁表。寄贈者識語「贈呈／河口慧海師座右／明治四十四年十月吉旦／〔印「寛／慶」「卓／禪」（各2.7×2.7cm）〕」（序末）。寄贈者は松岡寛慶、解題2.3を参照。

## 和版102

シュウモンム ジントウロン

## 宗門無盡燈論 2巻

KE188.8/To66

圓慈撰〈東嶺円慈〉、文延・文殊・玄如校訂。大本2冊。25.7×18.0cm。10行20字。名古屋、矢野平兵衛、明治15年(1882)年2月刊。江湖道場徳源禪寺藏版。外「(東嶺/和尚/編輯)宗門無盡燈論」(題簽)、版心「無盡燈論」、跋首「刻宗門無盡燈論緣由」。序、寛政12年(1800)4月、天真。自序、寛延4年(1751)9月。跋、寛政12年3月、霧隱。奥付(表)「江湖道場徳源禪寺藏版/明治十四年十二月廿二日版權免許/明治十五年二月 刻成/[...] 出版人 愛知縣平民 矢野平兵衛/西春日井郡大曾根村/千百四十五番地 [...]」。奥付(裏)「賣/捌(東京通壹丁目 北畠茂兵衛 [...])/同(大阪)心齋橋南壹丁目 松村九兵衛」(全10肆)。各冊裏見返しに「(名古屋/大曾根)矢野兵衛藏版之内佛書目」あり。

【注記】鉛筆による書入れあり。第2冊、表表紙補強の貼紙に『扶桑新聞』3732号附録(明治32年11月2日)を使用。

【慧海】ラベル「は五、3、5」。仏宣会印あり。

## 和版103

ダルマ タラゼンキョウセツツウコウショ

## 達磨多羅禪經說通考疏 17巻首1巻

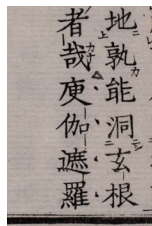
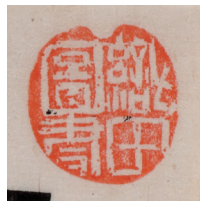
KE188.8/To66

(東晋)佛陀跋駄羅・(東晋)遠〈慧遠〉譯、(日本)東嶺〈東嶺円慈〉[疏]、(日本)足利惠倫校。大本6冊。26.1×19.5cm。13行23字。東京、經世書院、明治26年(1893)12月15日~同27年6月20日[刊]。外「達磨禪經說通考疏」(題簽)、版心「達磨禪經考疏」。序、明治26年11月、匡道。跋、明治27年2月、獨園。奥書、天明元年(1781)6月28日。第1・3冊を除く裏見返しに奥

付あり。第6冊奥付「明治廿七年六月十五日印刷/全年全月廿日發行/(校訂兼/發行者)足利惠倫/東京牛込區市ヶ谷/河田町一番地/印刷者 梶寶順/全淺草區吉野町/十三番地/發行所 經世書院/全上/賣捌所(出雲寺萬次郎/日本橋區横山町一丁目/三倉鉦三郎/淺草區北清島八番地)」。第6冊末尾に「再刻助資」(最後に「發願員」7名)あり。印「織田/圖書」(2.7×2.5cm)。

【注記】[挟]第6冊、短冊(36.0×6.1cm)に「(御講話席の/盛大を宿して)(ひと本て御園/せまゝる牡丹かな)/梅庭」(表)、「能代佛教會員/渡邊久五郎」(裏)と墨書。

【慧海】ラベル「は五、2、5」。仏宣会印あり。慧海による朱引き(赤鉛筆)、書入れあり。第1冊23丁裏の「度伽遮羅浮迷」に対する注記“yogācārahūmi/?”。[挟]菩提樹の葉。インドのものか(解題2.2.1参照)。



## 和版104

シャミトクド ギハン

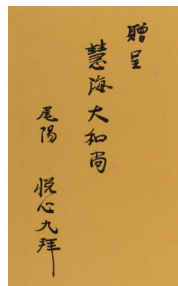
## 沙弥得度儀範

KE188.8/Y 31

山本悦心編輯。折本1帖(活字本)。28.9×16.4cm。愛知、黄檗堂、昭和14年(1939)6月10日發行。序、昭和13年12月、關義道。跋、同14年4月、黄檗子。

【注記】100冊限定(跋中に記載)の第4号。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「贈呈/慧海大和尚/尾陽 悦心九拜」(1折表)。

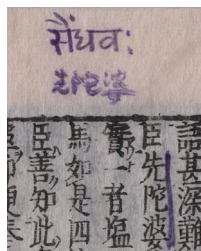


## 和版105

チンシュウリンザイ エ ショウゼン ジ ゴロク  
鎮州臨濟慧照禪師語録

KE188.84/E 56

(宋) 慧然集、(日本) 大智〈大智実統〉鼈頭。大本1冊。26.3×18.6cm。9行13字。京、元禄12年(1699)6月[刊]。京、貝葉書院、[明治大正期印]。外「(首書/増補)臨濟慧照禪師録」(題簽)、版心「増補臨濟録」、跋首「林際録増補鼈頭跋」。序、宣和2年(1120)8月、馬防。跋、元禄12年8月、大智。刊記「元禄十二年(己/卯)六月吉日/花洛書林〈書肆名欠〉」。奥付「各宗御本山及諸學林御用書林/(書籍出版發賣所/禪宗雜誌發行所/(各宗教師/受験講義録)發行所)京都市木屋町二條 貝葉書院/[...]」。



【慧海】ラベル「以五、4、16」。仏宣会印あり。慧海書入れあり。4丁裏の「先陀婆」に対する注記“saiṃdhavaḥ” (青鉛筆)。[挟]厚紙1枚(8.8×5.8cm)にタシルンポ寺院のパンチェン・ラマのものと同定される印を印刷。書入れとパンチェン・ラマの印は解題2.2.3参照。

## 和版106

マイサオウゲゴ  
賣茶翁偈語

KE188.84/Ko11

高遊外[著]、無住編、梅山校。大本1冊。26.2×17.0cm。[京、通書堂]、宝暦13年(1763)跋刊。外「賣茶翁偈語 附名公茶器銘」(題簽)。跋、寛保元年(1741)冬、魯寮子。跋、宝暦13年5月、梅山。見返しに「平安 通書堂梓」。冒頭に「賣茶翁傳」(淡海竺常撰)、「題辭」(宝暦13年5月、敬雄)あり。印「田中/藏書」(2.4×2.1cm)。



【慧海】ラベル「以五、2、1」。仏宣会印あり。

## 和版107

ゲンチャウレキダイテイコウゾウ  
元朝歴代帝后像

KE222.057/O-11

汪印侯 拍照。1冊(単洋装)。25.5×19.9cm。北京、蒙文書社、[民国13年(1924)]12月再版。印刷された枠の中に写真の貼り込み15枚。枠の上部に「北京蒙文/書社藏版」、奥付に「甲子年〈1924カ〉十二月再版」とあり。

【注記】左開き、三つ目綴。元太祖皇帝の写真中の「鐵木真」の部分に朱引き(赤鉛筆)あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。奥付下部に「東西文化交流研究書寄贈図書」のシールあり(1988年に洋装本として図書館登録)。

## 和版108

イズミメイショブエ  
和泉名所圖會 4巻

KE291.63/A 36

穉里湘夕〈秋里籬島〉[著]、竹原信繁畫。大本4冊。25.3×17.6cm。13行27字前後。大坂、高橋平助(ほか4肆)、寛政8年(1796)春刊。外「和泉名所圖會」(題簽)。序、寛政7年10月、花山院愛徳。自跋、同年11月。奥付「寛政八年丙辰春新刻/皇都書林(小川多左衛門/森本太助)/浪華書林(松村九兵衛/柳原喜兵衛/高橋平助)」。

【慧海】ラベル「以五、3、26」(第4冊)。仏宣会印あり。



## 和版109

ホキクデンシヨシンシヨウ  
簠簋口傳初心鈔 2巻

KE449.34/Se17

盛典集。大本2冊。26.2×18.7cm。11行20字。元禄4年(1691)序刊。版心「簠簋口傳」。自序、元禄4年11月。各冊見返しに慈孝の識語あり。識語「此書物無間違乍去依人/有違委細了曾可守名師/行年三十七才法師/慈孝私記」(第2冊)。所持識語「円明」(表紙)。

【注記】総裏打補修済み。[挟]第1冊、紙片(20.3×4.8cm)に「桜井八五郎奥方/おいぬ 子年/正月十日生れ」と墨書。

【慧海】ラベル「以五、4、1」(第2冊)。仏宣会印あり。

## 和版110

シンビキョクチロン  
審美極致論

KE701.1/Mo45

森林太郎(森鷗外)編。半紙本1冊(活字本)。22.3×14.7cm。東京、春陽堂、明治35年(1902)2月24日発行。印「藤井文庫」(3.0×1.4cm)。「審美新説正誤」あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。第1冊の奥付裏に貼紙「正札(二円四十銭)/審美綱領凡四冊/(11726 ラレ)/敬文堂書店」(5.2×4.1cm、括弧内鉛筆書き)、和版111の古書籍展覧会の札と対応。



## 和版111

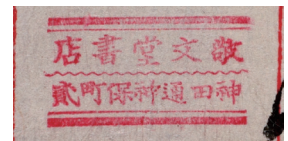
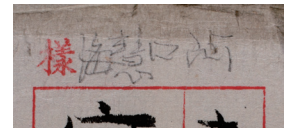
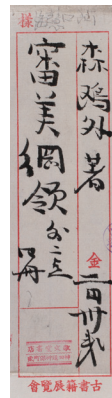
シンビコウリョウ  
審美綱領 2巻

KE701.1/Mo45

森林太郎(森鷗外)、大村西崖編。半紙本2冊(活字本)。22.3×14.7cm。東京、春陽堂、明治32年(1899)6月29日発行。序、明治32年6月、無記菴主(大村西崖)。表紙右肩に「甲」と打付朱書。印「藤井文庫」(3.0×1.4cm)。

【注記】朱の書入れあり。[挟]紙片2枚(16.1×6.7cm、16.1×3.8cm)に鉛筆書き。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。[挟]第1冊、古書籍展覧会の札「河口慧海(様)/森鷗外著(金)二円三十錢/審美綱領 別二点/四冊/(古書籍展覧會)」(31.5×6.6cm、括弧内は印刷)。札に書肆印「敬文堂書店/神田通神保町貳」(1.4×2.7cm)、日付印の一部「11/印」あり。慧海が敬文堂書店から本書と和版110『審美極致論』、和版112『審美新説』を合せて購入。札については解題3.7参照。



## 和版112

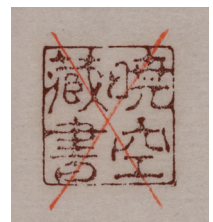
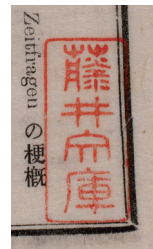
シンビシンセツ  
審美新説

KE701.1/Mo45

森林太郎(森鷗外)編。半紙本1冊(活字本)。22.3×14.8cm。東京、春陽堂、明治33年(1900)2月23日発行。冊尾に「審美綱領正誤」あり。表紙右肩に「丙」と打付朱書。印「藤井文庫」(3.0×1.4cm)、「暁空/藏書」(2.8×2.7cm)。

【注記】朱の書入れあり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。慧海が敬文堂書店より購入した「審美綱領 別二点」の内の1点、和版111参照。





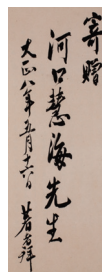
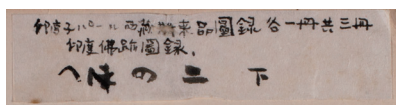
## 和版113

インドブッセキシャシジョウ  
印度佛蹟寫真帖

KE702.25/O-36

岡教遼著。1冊（単葉装結び綴、活字本）。26.7×38.4cm。  
東京、岡教遼、大正7年（1918）12月1日發行。浅井凌雲  
堂印刷。冊尾に「印度佛蹟巡禮記」（第1～2回）、「迦毘羅  
衛城趾考」「優陀延那國橋賞彌大都城趾に就て」あり。

【慧海】貼紙「へ様の二 下」（ラベルに準ず）。仏宣会印  
あり。見返し上部の貼紙に、慧海識語「印度ネパール西藏  
■〈破れ「將」カ〉来品圖録 各一冊共三冊／印度佛跡圖  
録／へ様の二 下」。寄贈者識語「寄贈／河口慧海先生／大  
正八年五月十六日 著者拜」（遊紙）。岡教遼は解題1.4参  
照。



## 和版114

ゾウホ タニブンチョウホンチョウ ガ サンダイゼン ゼンベン  
(増補) 谷文晁本朝畫纂大全 [前編] 2巻

KE721/Ta87

谷文晁輯畫、羽田子雲増補。大本2冊。26.0×18.1cm。明治23年（1890）序 [刊]。東京、博文館藏  
版（見返し）。外「(増/補) 谷文晁本朝畫纂大全」（題簽）。序、明治23年12月、石川井精。

【注記】第1冊の朱色の見返し、色落ち。

【慧海】ラベル「以五、4、5」。仏宣会印あり。

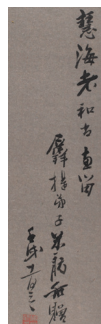
## 和版115

ゴジョウセキショ ガ フ  
吳昌碩書畫譜

KE722.226/Ta19

田口米舫 [編]。2冊（複製本）。35.6×24.1cm。東京、至敬  
堂、大正10年（1921）10月31日發行。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「慧海老和  
尚南留／屢提弟子米舫乖贈／壬戌〈大正11年カ〉十一月三日  
〔印「佛足／研齊」（1.2×1.2cm）〕」（第1冊表紙）。米舫（田  
口米舫）は解題2.3を参照。



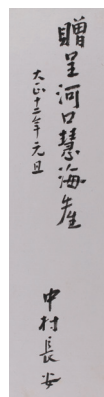
## 和版116

チュウガクレイビョウ ヒ ジョウ  
中嶽靈廟碑帖

KE728.22/C 62

折本1帖（複製本）。31.0×20.0cm。東京、七條愷、大正4年（1915）8月3日發行。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「贈呈河口慧海産／大正十二年元旦  
中村長安」（見返し）。



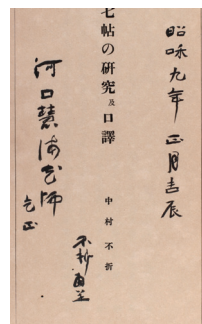
和版117

① ゲンセキショタク ケツジュウシチギョウホンジュウシチジョウ  
**(原石初撮) 缺十七行本十七帖**  
 ② ジュウシチジョウ ケンキョウオヨビコウヤク  
**十七帖の研究 及口譯**

KE728.8/H 81/1

中村不折 [編]。折本 2 帖 (①複製本、②活字本)。28.7×15.3cm。東京、雄山閣、昭和 8 年 (1933) 12 月 5 日發行。帙入り、箱あり。箱に「法帖書論集 第 1 回配本」。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「昭味九年四月吉辰／河口 慧海老師 乞正 不折 拜呈」(②扉)。不折 (中村不折) は解題 2.3 を参照。



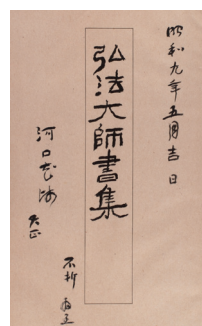
和版118

① コウボウタイ シ ショシュウ **弘法大師書集** ② コウボウタイ シ ショホウゲンリョウ **弘法大師の書法源流**

KE728.8/H 81/2

中村不折 [編]。折本 1 帖 (①複製本)、1 冊 (②単葉装結び綴、活字本)。28.7×15.3cm。東京、雄山閣、昭和 9 年 (1934) 3 月 15 日發行。帙入り、箱あり。箱に「法帖書論集 第二回配本」。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「昭和九年五月吉日／河口 老師 大正 不折 拜呈」(①扉)。不折 (中村不折) は解題 2.3 を参照。



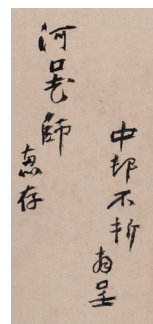
和版119

カンロウニョニンギョウ ギヒユキョウ シンオウケンシ ジョウトウジョウ  
**漢老女人經 魏譬諭經 晋王獻之地黃湯帖**

KE728.8/Ko44/[3]

中村丙午郎 [編]。折本 1 帖 (複製本)。36.3×18.5cm。東京、孔固亭眞蹟法書刊行會、昭和 9 年 (1934) 6 月 10 日發行。帙入り、箱あり (上蓋なし)。解説 1 紙あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「中邨不折 拜呈／河口老師 惠存」(帙題簽下)。中村不折は解題 2.3 を参照。



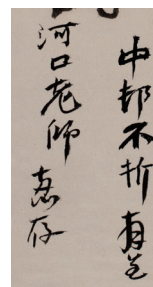
和版120

サイジョウシヨシヤシ ゴシヨシ  
**蔡襄書謝賜御書詩**

KE728.8/Ko44/7

中村丙午郎 [編]。折本 1 帖 (複製本)。36.2×18.4cm。東京、孔固亭眞蹟法書刊行會、昭和 9 年 (1934) 10 月 10 日發行。帙入り、箱あり。箱に「第七回配本／宋 蔡襄 謝賜御書詩／米芾 跋文」の印。「釋文解説」1 紙あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「中邨不折 拜呈／河口老師 惠存」(帙題簽下)。中村不折は解題 2.3 を参照。



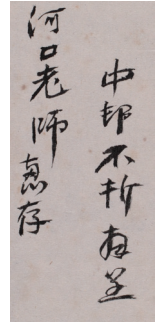
## 和版121

チョウズイトショゴセキヘキフ  
張瑞圖書後赤壁賦

KE728.8/Ko44/9

中村丙午郎 [編]。折本1帖(複製本)。36.0×18.6cm。東京、孔固亭眞蹟法書刊行會、昭和9年(1934)12月10日發行。帙入り、箱あり。箱に「第九回配本/明張瑞圖 詩卷」の印。「後赤壁賦釋文」1紙あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「中邨不折 拝呈/河口老師 惠存」(帙題簽下)。中村不折は解題2.3を参照。



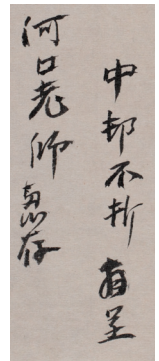
## 和版122

ブンサンキョウソウシヨ シカン  
文三橋草書詩卷

KE728.8/Ko44/11

中村丙午郎 [編]。折本1帖(複製本)。36.0×18.4cm。東京、孔固亭眞蹟法書刊行會、昭和10年(1935)2月10日發行。帙入り、箱あり。箱に「第十一回配本/明文三橋 詩卷」の印。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「中邨不折 拝呈/河口老師 惠存」(帙題簽下)。中村不折は解題2.3を参照。



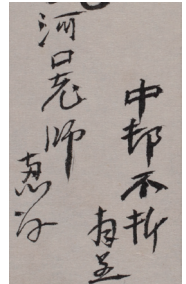
## 和版123

オウタクシヨソウシヨ シカン  
王鐸書草書詩卷

KE728.8/Ko44/12

中村丙午郎 [編]。折本1帖(複製本)。36.1×18.3cm。東京、孔固亭眞蹟法書刊行會、昭和10年(1935)3月10日發行。帙入り、箱あり。箱に「第十二回配本/清王鐸 詩卷」の印あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「中邨不折 拝呈/河口老師 惠存」(帙題簽下)。中村不折は解題2.3を参照。



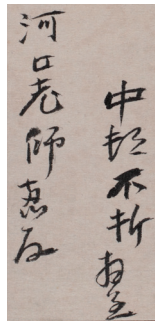
## 和版124

バイドウジンボクチク フ ソウシヨ  
梅道人墨竹譜草書

KE728.8/Ko44/13

中村丙午郎 [編]。折本1帖(複製本)。36.0×18.5cm。東京、孔固亭眞蹟法書刊行會、昭和10年(1935)4月10日發行。帙入り、箱あり。箱に「第十三回配本/元吳鎮(梅道人)墨竹譜」の印。「梅道人書竹譜釋文」1紙あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「中邨不折 拝呈/河口老師 惠存」(帙題簽下)。中村不折は解題2.3を参照。



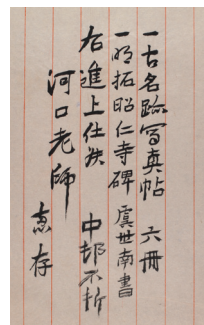
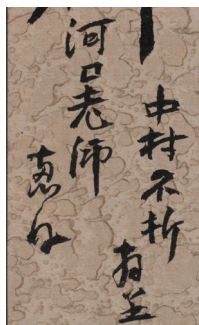
## 和版125

ミンタクショウジンジノヒ  
明拓昭仁寺之碑

KE728.8/Mi47

1冊（複製本）。33.2×18.0cm。東京、西東書房、昭和10年（1935）9月17日発行。奥付（貼紙）に「永壽靈壺齋藏」。ボール紙の帙あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。寄贈者識語「中村不折 拜呈／河口老師／惠存」（題簽下）。〔挟〕 罨紙1枚「一古名跡寫真帖 六冊／一明拓昭仁寺碑 虞世南書／右進上仕候 中村不折／河口老師／惠存」（26.0×17.0cm）。中村不折・罨紙については解題2.3を参照。



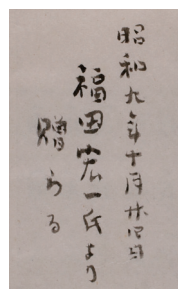
## 和版126

サンギョウシナオンボン  
三經支那音本

KE821.1/F 74

福田宏一編。折本1帖（活字本）。23.9×8.8cm。大阪、福田宏一、昭和9年（1934）10月発行。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。慧海の取得識語「昭和九年十月廿四日／福田宏一氏より／贈らる」（奥付上部）。



## 和版127

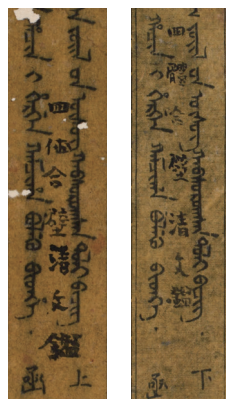
シタイガッペキブンカン  
四體合璧文鑑 32卷附總綱8卷〔首〕1卷

KE829.03/Sh92

大本11冊。25.5×19.0cm。〔清代刊〕。題簽あり（漢字表記なし）。「總綱」の版心「文鑑總綱<sup>(ママ)</sup>」。題簽・目録の卷次「乾卷」（巻1～4）、「坎卷」（巻5～8）、「艮卷」（巻9～12）、「震卷」（巻13～16）、「巽卷」（巻17～20）、「離卷」（巻21～24）、「坤卷」（巻25～28）、「兌卷」（巻29～32）。總綱の題簽の卷次「上卷」（巻1～4）、「下卷」（巻5～8）。總綱の〔首卷〕に題簽なし。

【注記】漢滿蒙蔵の4言語対照辞典。左開き。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。乾卷から震卷、總綱上卷に印「河口」（1.1×0.9cm）。図書館新造の帙に、もとの函（「上函」「下函」）に貼られていた題簽を貼付。題簽に慧海と推測される書入れ「四體合璧清文鑑」。



## 和版128

リクガッシャクセイギ  
六合釋精義

KE829.89/Ka21

快道撰。大本2冊。27.6×19.5cm。10行20字。大坂、松村九兵衛 大和、山田善三郎、寛政10年（1798）3月刊。外「（會／本）六合釋精義」（題簽）。序、戒定。刊記「寛政十年戊午紀號三月吉日／（浪華書林 心齋橋筋南エ二町目 松村九兵衛／豊山書林 大和國初瀬森町 山田善三郎）壽梓」。所持識語「円明」（表紙）。

【注記】表紙に破れ、紙の一部が変色劣化。総裏打補修済み。

【慧海】ラベル「以五、5、27」。仏宣会印あり。



## 和版129

シッタンジモ  
[悉曇字母]

KE829.89/Sh92

折本1帖。28.0×9.6cm。[江戸後期刊]。冒頭「悉曇囉宰觀／■■■■〈梵字 [siddham rastu]〉／成就吉祥」。

【注記】表裏の表紙なし。帖尾に落丁あり。書名は国立国会図書館蔵本（請求記号「亥二-49」）を参照。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

## 和版130

シッタンレンジョウデンジュセツインクケツ  
悉曇連聲傳授切韻口決（尾）

KE829.89/Sh99

大寶〈守脱〉口授、實心筆受。大本1冊。26.0×17.3cm。9行16字。伯耆、前田實心、明治14年（1881）6月25日刊。貝葉書院製本。外「（日本／撰述）悉曇連聲傳授切韻口決」（題簽）。首「■■〈梵字 [siddham]〉連聲傳授切韻口決」。序、明治14年5月、守源。奥付「明治十四年五月九日御届／同年六月廿五刻成／[…]（編輯兼／出版人）嶋根縣平民 前田實心／伯耆國汗入郡大山村／經悟院住職／製本所 [朱印「京都市木屋町二條／貝葉書院」]」。

【慧海】ラベル「は五、4、2」。仏宣会印あり。[挟]名刺「東方時論記者 土田恭治／麴町區平河町四丁目六番地／電話番町 一九九番」。慧海は『東方時論』4巻3号（1919.3）に「西藏と支那と英國」を掲載した経験あり。東方時論社が麴町にあったのは、『朝日新聞』掲載の『東方時論』広告によると、1917年11月号から1922年7月号まで。

## 和版131

コジキ  
古事記 3巻

KE913.2/Sa37

坂田鐵安撰。大本3冊。26.4×18.6cm。8行20字。東京、中西忠誠 甲斐、内藤傳右衛門、明治7年（1874）年1月刊。外「假名古事記」（題簽）、見「假名古事記」、序首「新刻假名古事記の端文」。自序、明治7年1月。序、和銅5年（712）1月、太朝臣安萬侶。奥付「明治七年一月發行（東京 中西忠誠／甲斐 内藤傳右衛門）／伊勢國松坂白粉町 中西嘉助 […]／同（東京）芝大神宮前 和泉屋吉兵衛」（全9肆）。印「祠掌」（3.4×1.3cm）、「奥村」（直径1.1cm）。

【慧海】ラベル「以五、4、4」。仏宣会印あり。



## 和版132

キッソウチャワ  
橘惣茶話 3巻

KE914.5/A 44

雨森芳洲著、笹應道安道校。大本3冊。25.6×18.0cm。10行20字。大坂、高橋平助・同喜助（ほか2肆）、天明6年（1786）5月刊、[後印]。外「橘惣茶話」（題簽）、序首「芳洲先生橘窓茶話序」。序、天明6年5月、笹應道。刊記「天明六年丙午仲夏發行／書林（京都堀河綾小路下町 齊藤庄兵衛／江戸日本橋通三丁目 前川六左衛門／（大阪心齋橋筋南久寶寺町 高橋平助／同心齋橋筋南久太郎町 同喜助）藏板」。第3冊裏見返しに「興文堂發行書目」（大阪、高橋平助）あり。表紙右肩の貼紙に「第十四」と墨書。印「田中／藏書」（2.4×2.1cm）。

【慧海】ラベル「以五、3、21」。仏宣会印あり。





## 和版133

ゴソウマンビツ  
梧窓漫筆 [前編] 2巻

KE914.5/O-69/[1]

大田元貞〈大田錦城〉著、荒井堯民校。大本2冊。25.8×17.8cm。11行24字。江戸、和泉屋金右衛門（ほか11肆）、文政6年（1823）序刊。晴湖氏藏版（見返し）。外「梧窓漫筆」（題簽）。序、文政6年3月、唐公愷（堤它山）。序、同年2月、荒井堯民。跋、同5年12月、出井元凱。跋、同6年1月、加藤善菴。奥付「京都三条通外屋町 出雲寺文次郎／〔…〕同〈江戸〉横山町三丁目 和泉屋金右衛門 版」（全12肆）。見返しに「畏天録 知命録 畏聖録 合刻」「發兌書肆 玉巖堂〔書肆印「江都横山／街玉巖堂／精選古今／書籍發兌」（3.5×3.4cm）】」。

【慧海】ラベル「以五、3、27」。仏宣会印あり。

## 和版134

ゴソウマンビツコウヘン  
梧窓漫筆後編 2巻

KE914.5/O-69/2

大田元貞〈大田錦城〉著、荒井堯民校。大本2冊。25.4×17.9cm。11行24字。江戸、和泉屋金右衛門製本（ほか3肆發兌）、文政7年（1824）序刊。晴湖氏藏板。外「梧窓漫筆後編」（題簽）、序首「梧窓漫筆續編序」。序、文政7年（1824）春、出井元凱。序、同年2月中旬、片倉直薫。序、同7年7月、戸谷惟孝。序、同年閏8月下旬、原澤文伸。序、同年2月、遊佐高幹。跋、同年秋、本多茂徳。奥付「晴湖氏藏板記／發兌書肆（通二町目 山城屋佐兵衛／兩國廣小路吉川町 山田屋佐助／馬喰町三丁目 若林清兵衛）／製本所 横山町三丁目 和泉屋金右衛門」。見返しに「三録 并 啓迪録 合梓」。第2冊末尾に「錦城大田先生著述日記」（門人 荒井繇行堯民識）、「玉巖堂發兌目錄」（東都兩國横山丁三丁目 和泉屋金右衛門梓）あり。印「宮部／監印」（2.6×2.6cm）。



【慧海】ラベル「以五、3、28」。仏宣会印あり。〔挟〕第2冊に洋封筒（15.1×9.3cm）。表に慧海の住所と慧海が飲酒戒について詠んだ句、裏に逸見梅栄の住所を墨書。表に「市内特別郵便」、裏に「■■〈不詳〉會」の印あり。洋封筒については資料紹介、逸見梅栄は解題2.3を参照。

## 和版135

ゴソウマンビツサンヘン  
梧窓漫筆三編 2巻

KE914.5/O-69/3

大田錦城著、唐公愷〈堤它山〉編録。大本2冊。25.7×17.8cm。10行23字。江戸、和泉屋金右衛門、天保11年（1840）1月刊。外「梧窓漫筆三編」（題簽）。序（題辭）、天保10年11月、唐公愷。刊記「天保十一年庚子正月新鐫／東都書林 横山町三丁目 和泉屋金右衛門梓」。第1冊に奥付「三都／發行／書林（京都寺町松原下ル 勝村治右衛門／〔…〕同〈江戸〉浅草茅町二丁目 須原屋伊八）」（全12肆）。見返しに「發兌書肆 玉巖堂〔書肆印「江都横山／街玉巖堂／精選古今／書籍發兌」（3.5×3.4cm）】」。第1冊末尾に「錦城太田先生著述目錄」（門人 荒井繇行堯民識）、「玉巖堂藏梓目錄」（東都兩國横山丁三丁目 和泉屋金右衛門）あり。印「宮部／監印」（2.6×2.6cm）。



【注記】〔挟〕第2冊、紙片1枚（24.3×4.1cm）に「文ハカザルト説ク又紋トモ云フ／即チ五色ノ紋ヲ具ヘシ鳥也」と墨書。

【慧海】ラベル「以五、3、29」。仏宣会印あり。

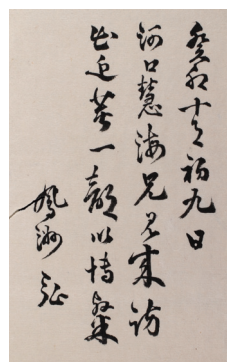
和版136 バンセイロウブンショウ ニヘン  
**晩晴樓文鈔二編** 2巻

KE919.6/Ts32/2

土屋弘〈土屋鳳洲〉著。半紙本2冊（活字本）。22.5×15.1cm。10行20字。東京、五本直次郎、明治34年（1901）4月18日發行。益友社・鹿田靜七発売。外「晩晴樓文鈔二編」（題簽）。内容、「窓燈録」2巻。第2冊に「土屋鳳洲傳」あり。

【注記】奥付の「發行兼／印刷者」の名前に、「五本直次郎」と印刷した紙片を貼って訂正。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。第1冊見返しに、寄贈者識語「癸卯〈明治36年カ〉十月初九日／河口慧海兄見来訪／出迎著一部御博察／鳳洲弘」。土屋鳳洲は解題2.3を参照。解題3.7にて識語に言及。



和版137 バンセイロウシュウダイオンヘン  
**晩晴樓集第四編** 2巻

KE919.6/Ts32/4

土屋弘〈土屋鳳洲〉著。半紙本1冊（活字本）。22.4×15.0cm。東京、高島大圓、大正11年（1922）3月19日發行。外「晩晴樓集第四編」（題簽）。後半に「幽囚録」2巻附載。

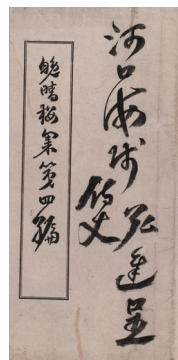
【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。本書の書袋が和版138に挟み込み。

和版138 バンセイロウシュウダイゴヘン  
**晩晴樓集第五編** 5巻

KE919.6/Ts32/5

土屋弘〈土屋鳳洲〉著。半紙本2冊（活字本）。22.5×15.1cm。東京、高島大圓、大正11年（1922）6月30日發行。外「晩晴樓集第五編」（題簽）。第1冊に「鳳洲先生八十壽序」（大正9年5月、古城貞吉）。第2冊に「賀土屋鳳洲先生八十」（前田慧雲）、「讀鳳洲土屋先生文鈔」（菊池武貞）あり。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。〔挟〕第1冊、「晩晴樓集第四編」の書袋。書袋に寄贈者識語「河口海師 侍丈 弘進呈」。



和版139 トウケンゼツク サンタイシ ホウ  
**唐賢絶句三體詩法** 1巻

KE921.43/Sh99

〔（宋）周弼編〕。大本1冊。26.8×19.5cm。8行16字。〔江戸中期刊〕。外「三體詩絶句」（題簽）、版心「三絶」。

【注記】総裏打補修済み。

【慧海】ラベル「以五、4、7」。仏宣会印あり。

# 写本の部

和写001

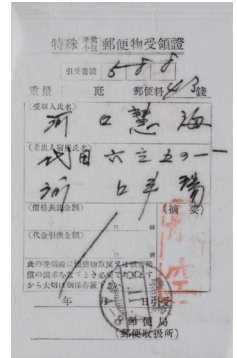
コエキトウシュゼン  
古易陶朱占 (外)

KE148.6/Ko22

半紙本1冊。24.0×17.1cm。[江戸後期写]。10行20字程度。外「古易陶朱占」(書題簽)。「凡例」あり。冊尾に「豊凶米作之刻大法 (安永二年<1773>癸巳算立/今天保十二辛丑年<1841>迄/年数六拾九年<sup>ニ</sup>成)」。

【注記】総裏打補修済み。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。[挟]郵便物受領証1枚(12.6×8.1cm)「特殊<sup>通常</sup>郵便物受領証/引受番號(588)/重量 匜 郵便量(43) 錢 /受取人氏名(河口慧海)/差出人宿所氏名(代田六三五の一/河口半瑞)/價格表課金額/代金引換金額/摘要[印「航空」](括弧内ペン書き)。消印「淀橋/8.11.4/后4-8」(昭和8年<1933>11月4日カ)。河口半瑞は解題2.3を参照。



和写002

カンタクジジツヘン  
揀擇時日編

KE148.8/E 44

慧光誌。半紙本1冊。23.8×17.1cm。9行。金澤徳石菴、宝暦6年(1756)7月14日写。慧光の奥書「此一冊子應<sup>シテ</sup>吾<sup>カ</sup>大檀君高崎城主源輝貞卿家臣/藤原貞真之需<sup>カ</sup>薄誌<sup>ヲ</sup>綱要<sup>シ</sup> [...] 元祿十四年<1701>季春之日 河陽比丘慧光書<sup>ス</sup>於野之上州/高崎城下大染寺<sup>ニ</sup>」。書写奥書「寶暦六丙子孟秋十四日於金澤徳石菴書寫之」。

【注記】表紙裏打補修済み。

【慧海情報】ラベルなし。仏宣会印なし。推定慧海旧蔵書。

和写003

ザツキ  
[雑記]

KE180.4/Z 1

半紙本1冊。22.2×17.2cm。12行前後。[近世中期写]。内容、中国の故事や人物、仏教語や仏者などについての抜書き(各項目に出典の記載あり)。その他、「牡丹燈記」(全文)、「二十四孝目録」<sup>全イニ</sup>「金相二十四孝詩選擇」「大蔵一覽第一」などあり。冊尾に「唵陀羅耶都瑟鴿布羅夜婆婆訶」。

【注記】元の表紙の上に新たに別の表紙を附す。「牡丹燈記」は『剪灯新話句解』の転写。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

和写004

ハンニヤシンギョウイホン  
般若心經異本 (外)

KE183.2/G 34

賢寶[集]。半紙本1冊。24.0×16.8cm。10行18字前後。[江戸霊雲寺]、釋智範、寛延4年(1751)閏6月写。外「般若心經異本」(書題簽)。賢寶の奥書「[...] 貞和六年<1350>正月廿一日 賢寶(生/二九)/觀應二年<1351>七月廿三日書加梵唐對譯本/并異譯本等一一令此按不審處直之」。賢寶の奥書の後に「貞元新定釋教目録第廿九(西明寺賜紫沙門/圓照等奉 詔撰)云/摩訶般若波羅蜜大明咒經一卷(亦云摩訶大明咒經/一紙羅什譯)/般若波羅蜜多心經一卷(亦云般若心經/一紙玄奘譯)/普遍智藏般若波羅蜜多心經一卷(二紙 東天竺國/三藏沙門法月譯)/(貞元新/入目録)/新譯般若波羅蜜多心經一卷(闕賓國三藏賜紫沙門/般若奉 詔譯 貞元新)/(入目録/二紙)/果寶」。釋智範の書写奥書「此之一卷者因靈雲開祖大和尚五十年忌辰結一夏於彼精舍之日以經/庫所藏之本寫焉皆寛延四年<1751>辛未閏六月之吉 釋 智範」(朱書)。

【注記】[挟]1紙(16.5×18.1cm)に「三九秘宿<sup>正月十四日出生</sup> 純戒 [...]」と墨書。中野[1928: 83]の奥書に上記と同じ賢寶の奥書あり。

【慧海】ラベル「以五、3、6<5を6に訂正>」。仏宣会印あり。

和写005 ケゴンゴキョウシヨウゲンダン 花嚴五教章玄談 KE183.4/Ke18

半紙本1冊(共紙表紙、仮綴)。24.4×16.6cm。10行20字。[近世後期写]。外「華嚴五教章玄譚」(打付書)。外題の下に「一校了」と朱書。本文の注記に「宜本私云 […]」(朱書)。所持識語「求學乘門宜本頭陀」(表紙)。

【慧海】ラベル「以五、3、8」。仏宣会印あり。

和写006 ケゴンゴキョウシヨウコウロク 華嚴五教章講録 9巻 KE183.4/R97

釋亮海記。半紙本7冊。24.2×16.4cm。11行20字。智山(京智積院)、長寛、天明4年(1784)閏1月写。首「華嚴五教章卷上講録一」。長寛の書写奥書「[...]天明四<1784>甲辰曆閏正月廿日於智山下野之國覺明/法印写本借用仕書写之也甚麁筆可笑々々/米沢長寛書」。所持識語「共七長寛」(背)。

【注記】状態悪。紙に変色劣化、一部にくずれ。

【慧海】ラベル「に四、2、7」。仏宣会印あり。

和写007 ケゴンゴキョウシヨウチヨウコウロク 華嚴五教章聴講録 3巻 KE183.4/Sh57

[雲照講義]、神瑩記。半紙本(共紙表紙、仮綴)2冊。24.4×16.5cm。東京目白臺僧園、神瑩、明治32年(1899)12月8日～同33年(1900)12月5日[自筆]。外「五教章聴講録」(打付書)。神瑩の奥書「昨年ノの今月八日高田老松町十善戒根本道場の講堂に於て鄔婆陀那上雲下照大和上か本書を/開軸せられしより[...]維時明治三十三年十二月五日於東京目白臺/僧園大鴨脚樹下寮舎記焉/一無道人沙弥神瑩」。所持識語「一無道人」(表紙)。

【注記】[挟]第1冊の表紙の内側に、袋綴2丁(24×16.4cm)を仮綴したものを挿入。神瑩旧蔵書、解題3.4参照。

【慧海】ラベル「以五、3、17」(第2冊)。仏宣会印あり。

和写008 リシュジャククケツシヨウ 理趣釋口訣鈔 2巻 KE183.7/E62

圓光記。半紙本2冊。23.0×15.7cm。10行・12行(野紙)。東京目白僧園、釈隆晃、明治30年(1897)4月9日写。外「理趣釋口訣鈔」「理趣釋經口訣鈔」(打付書)。奥書「弘安六年<1283>八月十四日於洛陽東山白毫院記/所聞不可及他見依窮屈末再治定有謬說歟」。弘暉の奥書「時文保元年<1317>九月十八日於東開鎌倉極樂律/寺僧坊第三室[...]奉寄進大御輪寺經藏沙門弘暉求法金剛仏子■■■<梵字不詳>」。釈隆晃の書写奥書「[...]明治三十年四月九日東京小石川区目白僧園十善戒道場ニテ/釈隆晃」。弘暉の奥書の後に、「本'裏書'云」として「良含<円光>」の法流の記載あり。所持識語「白馬臺慶淳」「目白臺慶淳」(表紙)。

【注記】[挟]第2冊、半葉8行野紙1紙(24.5×31.2cm)に「して真実廣大ノの供養を成するなり今大日尊が親しく/ [...]希望を満呈する事を以て其内證と為す吾人若し」と墨書。慶淳旧蔵書、解題3参照。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。推定慧海旧蔵書。



## 和写009

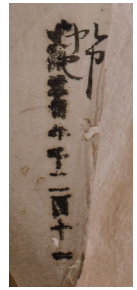
## 慈氏菩薩略修愈識念誦法 2卷

KE183.7/Z 3

(唐)善無畏譯。大本1冊。28.0×19.1cm。10行。[近世中後期写]。外「慈氏儀軌」(打付書)、尾「慈氏菩薩修識法」。印「通／禪」(3.4×3.4cm)。仕入印「■■〈文淵カ〉■■■〈文字潰れ〉千二百十一」(4.8×0.4cm)。

【注記】状態悪。紙の一部が変色劣化、裏表紙左下に破れ。

【慧海】ラベル「以五、4、9」。仏宣会印あり。



## 和写010

## 阿毘達磨俱舍論講要義林 37卷

KE183.92/Ta21

大元述。半紙本36冊。23.2×16.1cm。10行20字。西六條學林(京)、哲巖・圓位[ほか]、弘化2年(1845)8月28日写。外「俱舍論講要義林」(打付書・書題簽)。第12、圓位の書写奥書「弘化二乙巳歲秋八月廿八日西六條學林／藏書摸写畢只恐写誤多後人正之／前書上根覺善寺哲巖後者 圓位書之」。第18、奥書「明和四〈1767〉丁亥二月廿日河陽丹南郡」。

【注記】書写者は複数人。

【慧海】ラベル「に四、1、1」(第1冊)、「に四、2、5」(第27冊)。仏宣会印あり。

## 和写011

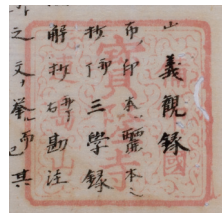
## 釋摩訶論玄談

KE183.95/G 43

義觀録。半紙本1冊。23.3×16.0cm。11行17字。谷上(高野山)、圭譽堯尊房、嘉永3年(1850)3月写。外「釋論玄談」(書題簽)。堯尊房の書写奥書「于時嘉永第三戌三月吉祥日谷上安樂院／明幢大徳師於同院積論常講尺砌同谷三／苦精舎南窓下書寫之畢／秘密乘末資／圭譽堯尊房」。表紙右肩の貼紙に「イ〈朱書〉と」とあり。所持識語「金剛峯寺西室院會下／沙門堯尊房」(見返し紙内側)、「寶隆寺」(裏表紙)。印「備中國／寶隆寺／連島山」(5.8×5.8cm)、「大雄／雲照」(3.2×3.2cm)。

【注記】雲照旧蔵書、解題3.5参照。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。推定慧海旧蔵書。



## 和写012

## 釋摩訶衍論骨髓鈔

KE183.95/Ky2

京榮[著]。半紙本1冊。24.3×16.5cm。8行。[近世後期写]。外「釋論骨髓鈔」(打付書)、尾「釋論骨髓鈔」。卷首題の下に「乘門門聖京榮(二十／九歳)」。所持識語「順覺」(表紙)、「京英」(裏見返し)。

【慧海】ラベル「以五、3、15」。仏宣会印あり。



## 和写013

シャク マ カエンロンイ リュウシュウ  
釋摩訶衍論謂立集〈外〉

KE183.95/Sh12

半紙本1冊。24.1×16.5cm。8行。[江戸後期写]。外「釋摩訶衍論謂立集」(書題簽)、目「釋摩訶衍論義立集」。表紙右肩に貼紙の破れ跡あり。所持識語「金剛峯西室會下/圭譽堯尊房」と墨書。印「大雄/雲照」(3.2×3.2cm)。

【注記】[挟]折紙1枚(23.7×約26.0cm)。雲照旧蔵書、解題3.5参照。

【慧海】ラベル「に四、3、1」。仏宣会印あり。



## 和写014

ソウト カンイノコト  
僧徒官位事

KE186.4/F 88

[舟橋経賢著カ]。半紙本1冊。23.5×17.0cm。8行17字程度。[近世中後期写]。外「僧徒官位<sup>※</sup>衣服之事」(書題簽)。泊壽の奥書「正徳二〈1712〉壬辰九月日 泊壽書之」。所持識語「武陽 芳泉」(表紙)、「常住金剛」(表紙、赤ペン)。取得識語「明治三十四年〈1901〉小林正盛兄之ヲ書肆ニ得タリ予乃ち/懇望す/■■〈不詳〉臺」。仕入印「(三四)/(九〇)号/東京/森江/飯倉」(2.7×1.5cm、括弧内墨書)。

【注記】題簽は近代の厚紙。「浮線綾」などの文様を描いた薄様の貼紙あり。

【慧海】ラベル「に四、3、8」。仏宣会印あり。

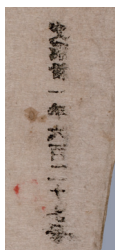
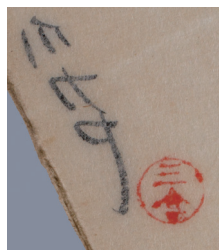


## 和写015

リョウ ブ コンゴウミョウゴウ  
[兩部金剛名号]

KE188.5/G 47

(唐)義操集。大本1冊(共紙表紙、仮綴)。27.0×19.0cm。8行。[近世後期写]。外「胎藏教法密号」(打付書)、首「金剛頂大教王曼荼羅灌頂金



剛名号」「胎藏金剛教法名号」。印「(役/流)和明院藏」(4.5×1.5cm)、「和明院/秀應印」(3.1×1.5cm)、「慈洪」(3.1×1.5cm)、他2印(「慈洪」の印記と重なり判読不能)。仕入印「三倉」(直径1.0cm)、「文淵■■〈卅カ〉一年六百二十七■■〈号カ〉」(5.3×0.4cm)。

【注記】背から綴じ目部分のみを紙で包む。

【慧海】ラベル「以五、2、6」。仏宣会印あり。

## 和写016

フドウフン ヌ ユ ガ ヨウショウ  
不動忿怒瑜伽要鈔 3卷

KE188.5/J 61

浄嚴記。半紙本3冊。23.9×17.1cm。8行14字。[江戸後期写]。外「不動忿怒瑜伽要鈔」「不動尊瑜伽要鈔」(書題簽)。卷1、奥書「以元智和上御本書寫畢」。卷3、妙極(浄嚴)の奥書「峇元祿九年〈1696〉正月日記集此冊子了[…]武都北國靈雲密寺創基五十八老比丘妙極、慧辯の奥書「元祿十四〈1701〉辛巳年五月廿四日以浄嚴大和尚之/真本書寫功成畢/同五月二十七日一狹了 野澤末資慧辯」、元智の奥書「元祿十五年〈1702〉十二月十五日以慧辯直筆本寫/得之也 苾芻元智(六十/四歳)」。所持識語「戒通」「<sup>ア</sup>戒通」(表紙)。

【注記】総裏打補修済み。匡郭や版心に当たる部分を墨書。[挟]第1冊、紙片(12.5×3.1cm)に梵字を墨書。

【慧海】ラベル「に四、2、1」。仏宣会印あり。

## 和写017

## 開心秘決 11卷

KE188.51/Ke44

〔憲深著、親快口決〕、親尊記。半紙本8冊。23.7×16.6cm。10行。秀弘明山、明和6年(1769)9月13日写。外「開心秘決」(書題簽)。第11(第7冊)、親尊の奥書「正嘉元年〈1257〉十二月廿二日於報恩院奉傳畢 親尊」、親玄の奥書「嘉元二年〈1304〉十月十一日此抄一部十一帖終書写之 […] 嘉元二年十月廿七日以此本故傳受座主僧正親ノ玄訖」、定位の奥書「徳治二年〈1307〉正月廿五日於遍智院下賜御所御本書ノ写訖ノ金剛佛子定位卅九」、覺演の奥書「同〈応永19年(1412)カ〉十月廿三日於西往院申出師主前僧正御房ノ御本書写之 […] 同廿一年〈応永21年(1414)カ〉癸亥六月廿三日於地藏院奉傳受之畢ノ覺演」、恭畏の奥書「以先師僧正御本令書写畢ノ口授縷陳更問而已ノ傳法沙門恭畏」、秀弘明山の書写奥書「明和六〈1769〉丁酉年九月十三日写書畢ノ金剛佛子ノ下秀弘ノ明山ノ智積院廿年数ノ下サ久保野谷邑ノ天福寺下リ」。所持識語「共八 明山」(背)。印「仁山」(2.6×2.0cm)、「小嶋」(直径0.9cm)。



【注記】綴糸ほつれ。第7冊は題簽に「十」とあるが、「第十」と「第十一」を収録。第8冊は題簽に「十一」とあるが、本文冒頭に「雑部」とある。

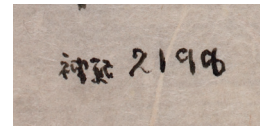
【慧海】ラベル「に四、2、2」。仏宣会印あり。

## 和写018

## 胎蔵界口傳抄 2卷

KE188.5/Ky5

教舜記。半紙本2冊。26.2×19.0cm。8行18字程度。〔近世中後期写〕。首「胎蔵界口傳」。下(第2冊)に、教舜の奥書「文永九年〈1272〉正月十日於西西寺遍智院記之了 […] 金剛乘佛子教舜」、以下「校合他本之奥書」として、奥書「此書日来所持之本元弘以下連人動乱之刻紛失早ノ仍重書寫早畢于時曆應二年〈1339〉七月十四日ノ法務権僧正判」、俊尊の奥書「文龜二年〈1502〉八月三日於上西西家静院谷古本他人交合寫ノ切了同廿五日五更天及交合了 佛子俊尊、玠宥の奥書「永正二年〈1505〉(乙ノ丑)五月十六日以後尊御本合傳寫了ノ後日校合早 金剛佛子玠宥」、俊空の書写奥書「永正十五年〈1518〉(丙ノ刀)十一月九日書寫畢 […] 佛子俊空(生年ノ四十七才)ノ當日交合早」、海雄の奥書「天文七年〈1538〉(戊ノ戊)四月廿六日成願寺以御本書之早ノ佛子海雄」。1印(直径2.7cm)あり。



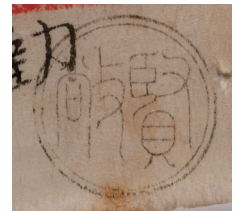
【慧海】ラベル「以五、5、3」(第1冊)、「以五、4、13」(第2冊)。仏宣会印あり。慧海書入れ「神紀2198」(海雄の奥書の天文7年に対する注記)。

## 和写019

## 三教指皈註剛 7卷

KE188.5/U 77

〔運徹著、闕名注〕。半紙本3冊。24.3×16.9cm。12行程度。〔江戸中後期写〕。首「三教指皈註」(第2・6・7)、「三教指皈註第三愚聞記」(第3)、「三教指皈剛補」(第4)。尾「三教指皈註」(第1・2・3)、「三教指皈第五愚聞記」(第5)、「三教歸愚聞記」(第6)。序末に「萬治己亥〈1659〉二月日武城愛阜沙門運徹謹テ書ノ○己亥ハ万治第二載也 […]」。表紙右肩に「高ノ朱書ノ力」と打付書。所持識語「三之内 コマノ 春正」(背)。印「賢ノ徹」(直径1.8cm)、墨減1印あり。



【注記】綴糸ほつれ。第3冊に表紙なし。運徹著『三教指皈註剛補』の注釈書。

【慧海】ラベル「に四、3、■〈墨汚れ「2」カ〉」。仏宣会印あり。

## 和写020

ダイショダイサンジュウケツチャク  
大疏第三重決擇 〈外〉

KE188.53/D 27

半紙本 1冊。27.4×19.0cm。10行（罫紙）。戒猷行明、〔江戸後期写〕。外「大疏第三重決擇」（打付書）。「六大法身」の末尾（5丁裏）に「〔…〕天明第七〈1787〉丁未九月胎通入院論義之日悉點<sub>ニ</sub>檢上來書<sub>ヲ</sub>／記之<sub>ヲ</sub>／東武謙順」。「自證說法」の冒頭（6丁表）に「寛政五年〈1793〉記於按察」。「鐵塔誦誦俱如別抄」の上欄（10丁表）に「寛政五年大衆／多第二義為<sub>レ</sub>正／動潮用<sub>ニ</sub>指南<sub>ニ</sub>〔…〕」。「成佛二利」の上欄（13丁裏）に「〔…〕已上明和九〈1772〉癸巳／題也」。「住心三句」の末尾（15丁表）に、「文化第二年〈1805〉仲春十三日於檜尾山觀心寺心書院写得之<sub>ヲ</sub>／〔…〕戒猷行明〔花押〕」。「〔…〕予現<sub>レ</sub>之憲師義劣<sub>ニ</sub>快師義<sub>ニ</sub>」の後（32丁表）に、双行で注記「天保十一〈1840〉庚子十月二条日本郷宝藏院諸法談論義両方構<sub>テ</sub>勤<sub>レ</sub>之／舟本山方丈圓亮代教主也尤入法談也」。表紙右肩に「俱<sub>ニ</sub>三<sub>ニ</sub>雲<sub>ニ</sub>矢<sub>ニ</sub>五<sub>ノ</sub>二<sub>ニ</sub>」と打付書。版心下に「一止人藏」とある罫紙を使用。所持識語「戒猷行明珍本」（表紙）。印「行明藏本」（3.5×1.7cm）、「小嶋」（直径0.9cm）。



【注記】綴糸ほつれ。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印あり。

## 和写021

シシュマンダラギ  
四種曼陀羅義

KE188.53/Ku27

〔空海著〕。半紙本 1冊（単葉装）。23.0×16.6cm。8行。増憲、正保2年（1645）5月写。増憲の書写奥書「奉酬三寶妙道四恩廣徳自他同證無上／菩提年／正保二年（乙／西）閏五月重日書之増憲云云」。表紙右肩の貼紙に「イ〈朱書〉た」とあり。所持識語「備州住僧／純<sub>ニ</sub>不詳<sub>ノ</sub>房」（扉）、「宥巖」（表紙）。印「大雄／雲照」（3.2×3.2cm）。

【注記】雲照旧蔵書、解題3.5参照。

【慧海】ラベル「以五、3、12」。仏宣会印あり。



## 和写022

ホウキョウインダラニクドクシュウ  
宝篋印陀罗尼功德集

KE188.54/Ko41

光海記。半紙本（共紙表紙、仮綴）1冊。24.4×16.3cm。12行16字。恭英、明治16年（1883）11月4日写。外「寶篋印陀罗尼功德集」（打付書）。序、法明。光海の奥書「〔…〕／宝曆四年〈1745〉甲戌 秋 比丘光海記」。恭英の書写奥書「明治十六年十一月十四日書写畢／護持主／沙弥恭英」。所持識語「恭英護持」（表紙）。

【注記】刊写本か。〔挟〕富田敦純「秘密曼荼羅」（『加持世界』附録「教壇」第9、明治42年〈1909〉7月）。

【慧海】ラベル「以五、3、11」。仏宣会印あり。



## 和写023

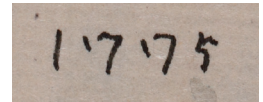
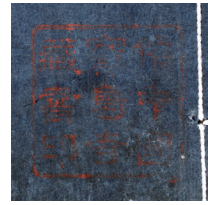
アジカンショウケツ  
阿字觀正訣

KE188.56/G 32

月海述。大本1冊。27.2×18.8。9行20字程度。備中連嶋、大悟、安永4年(1775)6月写。外「阿字觀正訣」(打付書)。大忍の奥書「元文元年(1736)星飛 秋於摂州大坂以月海比丘之御本拜寫之畢 密門後學大忍」、大悟の書写奥書「安永四乙未夏六月於備中連嶋寫畢/金剛佛子大悟」。印「備中國/寶島寺/蔵書印」(2.7×2.7cm)。

【注記】総裏打補修済み。匡郭を墨書。宝島寺旧蔵書、解題3.5参照。

【慧海】ラベル「は五、4、6」。仏宣会印あり。慧海書入れ「1775」(書写奥書の安永4年に対する注記)。



## 和写024

ショソソボウケツ  
諸尊法口決 (外) 11卷

KE188.56/G 57

杲宝 [著] (第1冊=第1~5)、賢賀 [著] (第2~3冊=[第1~6])、法英校。半紙本3冊。23.4×16.5cm。8行。宝山寺(大和)、乗空、安政6年(1859)5月15日写。外「諸尊法口決」(書題簽)。第5(第1冊)、乗空の書写奥書「右諸尊法口決十一卷宝山寺宝庫以御本書写了/安政六己未歳五月十五日/勸<sup>勸</sup>法禅房乗空」。[第2](第2冊)、法英の奥書「文政十二丑年(1829)十一月廿二日令明尊沙禰拜写自朱校早/宝山寺第十二世法英(朱書)」。[第5](第3冊)、賢賀の奥書「今此書之朱点治一向予所為也[...]寶曆四歳次(1754)甲戌二月十日/(東寺定額僧貫首/傳法勸学内讀師)/僧正賢賀(春秋七十一/法夏六十二)」。仕入印「東京本郷/英二/森江書房」(2.6×2.1cm)。

【注記】書題簽に「(勸一/杲一) 一二三四五」(第1冊)、「(勸一/賢一) 一二三四」(第2冊)、「(勸一/賢一) 五六」(第3冊)。

【慧海】ラベル「に四、2、6」。仏宣会印あり。



## 和写025

ヘイホウシエン  
乘法四縁

KE188.56/H 51

半紙本1冊。24.7×17.7cm。[江戸中後期写]。9行19字。外「乘法四縁」(打付朱書)。

【慧海】ラベル「以五、3、3」。仏宣会印あり。

## 和写026

アイゼンサイジンヒケツ  
愛染最深秘訣

KE188.56/J 61

浄嚴 [著]。大本1冊。27.3×19.4cm。20行10字。[江戸後期写]。外「愛染最深秘訣」(打付朱書)。浄嚴の奥書「[...]天和三歳次癸亥(1683)首夏鬼宿/河陽延命蜜侶浄嚴欽識」、宥譽の奥書「元禄五癸申(1692)中夏如意日依當用南山住山之破/書寫畢 肥前五嶋住僧 宥譽」。峻興の奥書「享保十九年(1734)甲寅年五月日以宥譽之本書寫之了[...]華洛因幡當藥王院峻興」。奥書「延享元(1744)甲子初秋智積院住山之砌於洛下因幡堂以峻興之本書寫之」。所持識語「高■(擦れ「麗」カ)栗坪郷/隆海」(表紙に朱書)。印「法螺洞」(5.2×2.7cm)。

【慧海】ラベル「以五、5、22」。仏宣会印あり。

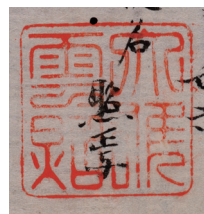


## 和写027

ダイニチキョウオクノショ ヌライ  
大日經 奥疏由来

KE188.56/Ka21

〔快全述〕・永遍聞書。半紙本1冊。23.5×16.5cm。9行18字。照惠、寛延元年(1748)閏10月29日写。冒頭に「應永廿五年〈1418〉四月廿日始之」。深海(源海の誤字カ)の奥書「本■(虫損)云應永廿五年四月廿二日於大樂院奉對快■(ママ)」。成雄の奥書「永享六年〈1434〉十二月十一日讚授乘賢早/訪印權大僧都成雄 在判」。法宜の奥書「文明十六年〈1484〉八月三日於三井寺中院尊教坊以東岩/藏真性院御本寫之訖」。「同十九年〈1487〉六月廿四日於越中國新河郡寺田莊横腰觀真寺以北臺極樂寺本寫之早 筆者匡乘/法宜 七十九」。照惠の書写奥書「寛延元年〈1748〉(歳次/戊辰)閏十月廿九日於燈下書寫之訖偏為人法榮榮也 西院末資照惠(生年/廿六)/改名照焉」。表紙右肩の貼紙に「イ〈朱書〉り」とあり。印「大雄/雲照」(3.2×3.2cm)。



【注記】状態悪、虫損多。雲照旧蔵書、解題3.5参照。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。推定慧海旧蔵書。

## 和写028

① マンダラ ク サ ホウ ② オウエイ ニ ジュウイチネン マンダラ クリャッキ  
曼荼羅供作法 [応永二十一年] 曼荼羅供畧記

KE188.56/Ka28

① [覚濟著]。半紙本1冊。24.0×17.1cm。10行。京東山智積院、傳應房宥遷、貞享2年(1685)6月中旬・7月3日写。外「曼荼羅供作法/曼荼羅供畧記」(打付書)。①、奥書「從弘尊預候畢(ママ)京徳二年〈1453カ〉癸酉二月廿/八日弘専之」、「應永卅一年〈1424〉甲辰霜月十三日/攝州柴嶋明王院談議所書写畢/私云[…]」、宥遷の書写奥書「貞享二年〈1685〉乙丑六月中旬於洛東智積教院住山之/折南寮書写之了/下野国那須澤村傳應房/宥遷卅五歳」。②、冒頭に「應永廿一〈1414〉年甲午十二月廿一日於當寺金剛輪院/新御堂為前淨覺寺一品卅三廻御追善被行之矣」、奥書「課隆増僧都如形令記會儀今所座主貴命写一本/所令進上之也[…]西溪隱老在判」、「永祿元年〈1558〉四月十六日於上醍醐西溪水本殿南以/隆淙僧正御自筆書写之了」、宥遷の書写奥書「貞享二〈1685〉乙丑年七月三日於京東山智積院/南寮書写之了 下野那須澤村 傳應房/宥遷卅五歳」。所持識語「傳應」(表紙)。

【注記】状態悪、虫損多。

【慧海】ラベル「以五、3、14」。仏宣会印あり。

## 和写029

コンゴウク  
金剛供

KE188.56/Ko74

横本1冊(共紙表紙、仮綴)。16.7×24.1cm。青地善親、明治7年(1874)3月写。8行。外「金剛供」(打付書)。青地善親の書写奥書「紀元貳千五百三十四年〈明治7年〉戊初春/第三月望日謹写得終<sup>矣</sup>/青地善親護持」。所持識語「法主/青地善親識」(表紙)。

【慧海】ラベル「以五、3、10」。仏宣会印あり。



## 和写030

## 駄都法口決抄 2卷

KE188.56/Ky5

教舜 [著]。半紙本 2 冊。23.7×16.9cm。10 行。山城国真如寺、明山秀弘、安永元年 (1772) 写。外「駄都口決抄」(書題簽)。卷頭に「文永五年〈1268〉九月十六日ヨリ記之」。本 (第 1 冊)、印融の奥書「于貶文明七年〈1475〉正月上旬書之 金剛仏子印融 / [...]」、明山秀弘の書写奥書「安永元年〈1772〉辰年 山城国相楽郡木屋邑 / 真如寺ニテ写 / 下サ大寺邑 / 聖禪寺住 / 明山 / 実 秀弘」(朱書)。末 (第 2 冊)、奥書「文治五年〈1189〉年九月十七日於宝池院奉受口決之畢 [...] 同月ヨリ草記之」、「弘安六年〈1283〉六月十七日彼草本重抄記了」、「弘安六年二月四月於宝池院座主御房御前相承之宝 / 珠奉拜見之 [...] / 求法沙門教舜 / 愚案云 [...] 祖師日記口傳等如上注之」、明山秀弘の書写奥書 (第 1 冊とほぼ同文、年号なし)。所持識語「明山」(背)。印「仁山」(2.6×2.0cm)、「小嶋」(直径0.9cm)。

【慧海】ラベル「に四、2、3」。仏宣会印あり。



## 和写031

## 愛染王法口傳抄 2卷

KE188.56/Ky5

教舜記。半紙本 2 冊。23.7×16.7cm。9 行。山城国真如寺、秀弘明山、安永元年 (1772) 写。外「愛染王口決抄」(書題簽)、扉「愛染王口訣」。本 (第 1 冊)、秀弘明山の書写奥書「安永元辰年 / 山城国相楽郡木屋村真如寺ニテ写 / 下サ国大寺村 / 聖禪寺住 / 秀弘 / 明山」(朱書)。所持識語「上 (下) 明山」(背)。印「仁山」(2.6×2.0cm)、「小嶋」(直径0.9cm)。

【慧海】ラベル「に四、2、4」。仏宣会印あり。



## 和写032

## 秘抄問答 19卷

KE188.56/R 12

頼瑜 [撰]。大本24冊。28.0×19.8cm。10行。[近世後期写]。永仁5年(1297)3月3日～正安2年(1300)2月29日の頼瑜の奥書(第1[末]、第6、第9末、第16[本]、第17～18)。永徳元年(1381)6月22日～応永3年(1397)9月4日の聖増の奥書(第1[末]～第4、第6～7、第9[本]～13、第16[本]、第17末～第19)。第17末、正忠の奥書「明應二年〈1493〉(癸/丑)九月十二日 已上二十二帖 / 以中性院聖増御筆本并彼傳写本 / 奉書写早 [...] / 権少僧都正忠 五十歳」。第19、成純の奥書「御本云 / 文龜三年〈1503〉(癸/亥)八月於泉州堺念佛寺乞請 / 根来寺知足院正忠入寺之本 (所写聖法印 / 清書之本之本也) / 書写之以十輪院道瑜法印直頼瑜法印 / 御草所写之本引合校合早 / 未資成純」。印「法螺洞」(5.2×2.6cm)。

【注記】綴糸ほつれ。

【慧海】ラベル「に五、2、4」。仏宣会印あり。



## 和写033

ヨウホウジュケツショウ  
要法授訣鈔 (尾) 3巻

KE188.56/R 99

[隆誉著]。半紙本3冊。23.7×17.1cm。10行前後。[江戸中期写]。外「抜次第之聞書」(書題簽、第2冊)、目「抜次第聞書」。卷上(第1冊)、奥書「元禄十七〈1704〉甲申年正月日」。所持識語「沙門教長」(第3冊末尾)。墨減印「比企/岩殿山/〈以下判読不能〉」(4.9×2.1cm)、「小嶋」(直径0.9cm)。

【注記】和写034と同内容。

【慧海】ラベル「に四、3、3」。仏宣会印あり。



## 和写034

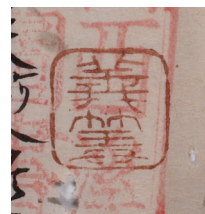
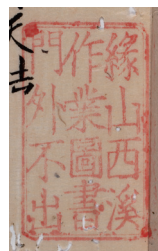
ヨウホウジュケツショウ  
要法授訣鈔 (尾) 3巻

KE188.56/R 99

[隆誉著]。半紙本3冊。23.7×16.7cm。10行程度。宗纂、正徳3年(1713)5月初旬写。外「要法授訣鈔」(書題簽)。卷下(第3冊)、宗纂の書写奥書「維時正徳三(癸/巳)歳五月初旬写之早/金剛佛子/宗纂」、「右急キ写之卒給之至文字誤/下假名筆重可校合者也/筆者/寶永」。卷上(第1冊)、「出家授戒作法鈔」の末尾に識語「享保三戊年〈1718〉林鐘中旬於西西傳受之砌加筆了/筆耕悪筆之故文字疎畧也得意可看之耳」(緑色)。表紙に白墨で「四十四」と打付書。所持識語「宗纂」(背)、「慶淳」(表紙)。印「天攸」(直径3.8cm)、「緣山西溪/作業圖書/門外不出」(7.3×4.2cm)、「義纂」(1.7×1.7cm)。

【注記】第3冊、虫損多。和写033と同内容。慶淳旧蔵書、解題3.6参照。

【慧海】ラベル「に四、3、■〈表面剥離〉」。仏宣会印あり。



## 和写035

ヤタクサンジュウロクリュウインジンルイジュ  
野澤三十六流印信類聚

KE188.58/Sh99

[舜政編]。半紙本1冊。23.0×15.7cm。10行(罫紙)。[明治中期写]。外「野澤三十六流印信類聚」(打付書)、目「野澤三十六流印信」。奥書「右野澤三十六流訶佉血脉/類聚以示之/寶曆八年〈1758〉戊寅四月三日授與/阿闍梨」。剥離した裏見返し背面に、雲照の仁和寺門跡大僧正稟受の記事と、「妙瑞」から「雲照」までの南山真別所嫡流血脈相承の記載あり。所持識語「白馬臺主人慶淳」(表紙)。

【注記】慶淳旧蔵書、解題3.6参照。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。推定慧海旧蔵書。

## 和写036

カワグチ エ カイソウカンシキルイブン  
[河口慧海送棺式誄文]

KE385.6/Sh32

椎尾辨匡[記]。1枚。26.0×36.7cm。椎尾辨匡、昭和20年(1945)3月2日[自筆カ]。冒頭に「奉誄 雪山道人 奉誄慧海菩薩摩訶薩」。末尾に「昭和二十年三月二日/大正大學長椎尾辨匡/和南」。

【慧海】ラベルなし。仏宣会印なし。立正大学の封筒に二つ折りにされた状態で保管されていた。封筒に鉛筆書きで「東西研/大正大学々長/椎尾辨匡文書」。封筒内に「業務日誌」1枚あり。その裏面に鉛筆書きで「63.7.1./松本課長より」(右上)、「東西研旧蔵印〈函書の略記号カ〉/新釋尊傳(渡辺照宏著)/より発見/大正大学々長椎尾辨匡 和南著」。椎尾辨匡や鉛筆書きなどは資料紹介・解題2.3を参照。

## 和写037

チャソ シュコウデン フ チャケイ  
茶祖珠光傳 附茶系

KE791.2/Ky5

[巨妙著]。大本1冊。  
27.7×19.5cm。[近世後  
期写]。外「茶祖珠光  
傳」(書題簽)。「茶系」  
に川上宗雪(号圓頓  
齋)、川上宗雪(号日々  
菴)、不羨(号白雲亭)  
あり。日々菴の記事中  
に「文政五年〈1822〉



午七月五日八十五才卒」。所持識語「下谷鯉山/蔵本〔印「佩/光」(1.7×2.8cm)「浅印/與精」(1.9×1.9cm)〕」(冊尾)。印「龍延屋」(2.1×1.0cm)、「田中/蔵書」(2.4×2.2cm)、「玉/磨」(1.8×1.9cm)。

【慧海】ラベル「以五、9、17」。仏宣会印あり。

## 和写038

ハッテンジョウキ  
八轉聲記 [ほか]

KE829.89/H 43

半紙本1冊。23.8×17.0cm。8行程度。[江戸中後期写]。内容、「八轉聲記」(一章如幻作)、[抜書]「十句義諸門分別 述記一末<sup>四十六葉</sup>」「六句十句相攝 出<sub>レ</sub>俱舍光記第五之九昏<sub>レ</sub>」ほか)、「數論二十五諦記<sup>解俱舍光記</sup>」([道空著])、「八轉聲聞書」(是心道光聞書)、「八轉聲事」(宜春英岳記)。「八轉聲聞書」に、是心道光の奥書「元禄十六歳〈1703〉丑ノ春三月於高野山奥院清淨心院北之坊曼荼羅堂聞書 此泉州大鳥山神鳳律寺會下小沙彌是/心道光受具之後改覺林堂光」。「八轉聲事」に、宜春英岳の奥書「寛文七〈1667〉丁未秋九月十七日於豊山東軒書之記 宜春英岳、奥書「岾享保第十三〈1728〉戊申冬霜月廿八日於豊山壁陰寓舎投之/武陽■■〈名前を切取った上に貼紙〉」。

【慧海】ラベル「以五、3、16」。仏宣会印あり。

## 和写039

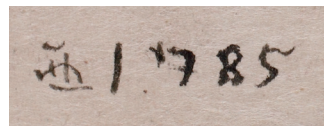
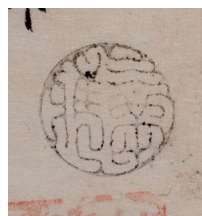
フンベツリクガツシャクベンギ  
分別六合尺弁義 2卷

KE829.89/R 48

頼鏝〈理天〉記。半紙本2冊。24.0×16.5cm。10行20字。[近世後期写]。外「分別六合尺弁義」(書題簽〈剥離〉)。頼鏝の奥書「天明七〈1787〉未四月 於西峯ノ端記之畢」(上)、「天明七五月於<sub>レ</sub>西峯 書之己/苾芻 頼鏝記」(下)。印「■■〈不詳〉/雅」(直径1.6cm)、「泰/甚」「頼/峯」(各2.2×2.2cm)。

【注記】[挾]第1冊、同書の題簽あり。

【慧海】ラベル「以五、5、2」。仏宣会印あり。慧海書入れ「西1785」(下巻末尾)。天明7年に対する注記か。ただし天明7年は1787年。



# 解題

---





ここでは、立正大学品川図書館所蔵河口慧海旧蔵書について、仏教学者としての河口慧海にスポットをあてる①「慧海と仏典研究—法華経を中心として—」(庄司担当)、そして河口慧海に対する寄贈書をたよりに、彼に関わる様々な人々との交流を紹介する②「旧蔵書にみる慧海の事績—寄贈書類を中心として—」(庄司担当)、最後に彼の旧蔵書中における釈雲照や目白僧園との関わりについて論じる③「慧海旧蔵書中の目白僧園関係書について」(小此木担当)の3つの主題のもとに解説する。

## 1 慧海と仏典研究—法華経を中心として—

### 1.1 はじめに

河口慧海の主要な事績として、彼による入蔵(チベットに入ることを)あげることができる。彼はその生涯において2度の入蔵(1900-1902年と1913-1915年)を果たしている。そして、1度目の入蔵より帰国後、彼はその旅行の様を毎日新聞にて連載し、それらをまとめて『チベット旅行記』(1904年)、その英訳版(抄訳)を *Three Years in Tibet* (1909年)として刊行した。特に後者の公刊により、彼は入蔵者として海外でも良く知られることとなった。しかしながら、彼は入蔵者にして仏典将来者であるとともに、仏典の翻訳とそれに基づく文献学的研究を行った近代的な仏教学者でもあった。本項では、仏教学者としての慧海という側面に光をあて、当館が所蔵する彼の旧蔵書の紹介とあわせて解説を試みることにしたい。

さて、『チベット旅行記』の冒頭において慧海は、自らのチベット行き(1)の動機について、次のように述べている。波線は引用者による(以下同様)。

**西藏探検の動機** 私が西藏へ行くようになった原因はドウか平易にして読み易い佛教の經文を社會に供給したいと云ふ考へから明治二十四年の四月から宇治の黄檗山で一切藏經を讀み始めて二十七年の三月まで外の事はソソなにしなないで専ら其事に許り従事して居りました、其間に私が一つ感じた事があります ソレは素人にも解り易い經文を拵へたいと云ふ考へで漢訳を日本語に翻譯した所が果してソレが正しいものであるかドウか、サンスクリットの原書は一つありますが、漢譯の經文は幾つにもなつて居りまして其文の同じかるべき筈のものか或は同じのもあれば又違つて居るものもあります……何にしても其原書に依つて見なければ此經文の孰れが眞實で孰れが偽りであるかは分らない、是れは原書を得るに限ると考へたです

**原書の所在地** 所で此頃原書は印度には殆どないらしい、尤も錫崙には小乗の佛典はあるけれどもソレは勿論我々に取つて餘り必要のものでない、最も必要なのは大乘教の佛典であります、然るに其大乘教の佛典なるものは佛法の本案なる印度には跡を絶つて今はネパール或は西藏に存在して居ると云ふその原書を得る爲には是非ネパール或は西藏に行かなくてはならぬ、尚ほ歐米の東洋學者の説に依ると西藏語に譯された經文は文法の上から云うても意味の上から云うても支那譯よりも餘程確かであると云ふ其説は殆ど西洋人の間には確定説のやうになつて居ります、果して西藏語の經文が完全に譯せられてあるものならば今日の梵語の經文は世界に其跡を絶つたにしても其又西藏語に譯された經文に依て研究することが出来る、尚ほ西藏の經文と

漢譯の經文とを比較して研究するのも餘程學術上面白い事でもあり又充分研究すべき價值のある事であるから之を研究するには是非西藏に行つて西藏語を遣らなければならぬと云ふ考が起りました、此考がつまり入藏を思ひ立つた原因でありまして（以下略）。

既に知られているように、慧海によって達成された入藏の動機として、漢訳仏典に対する疑念があったことがわかる。後に彼は、チベット語訳『法華經』をチベットより日本へと將來し、その全訳を成し遂げ、その成果を『梵藏伝訳法華經』として1924年に世界文庫刊行會より刊行するが、その「はしがき」で次のように述べている。<sup>(2)</sup>

今、梵藏傳譯法華經を公刊するに當つて、まづ想出することは、三十餘年の昔、余が西藏旅行を決意したる動機これなり。顧みれば當時余は、漢譯の佛典を重譯し、わが國人に讀み易く解し易き聖典を提供せんことを発願して、熱心に一切藏經を涉讀せり。而して法華經の漢譯三本を讀むに及んで、心に疑惑を抱くに至れり。（以下略）。

このように、先に引用した『チベット旅行記』には明記されていなかったが、彼が疑念を抱いた漢訳經典とは、具体的には『法華經』であったことがわかる。ところで、彼の著述中には『法華經』からの援用と推定される文言が見出される。一例を挙げると次の通りである。<sup>(3)</sup>

如来出世の本懐は一大事の因縁たる仏の智見（哲學的見識）に人をして開示悟入せしめ、人類真正の目的を達せしむるにある。（以下略）。

以上は、「漢語未訳の仏典に就いて」と題する慶應大学仏教青年会主催邦文欧文仏書展覽會特別講演の冒頭部分である。以上の引用文は『法華經』第2章「方便品」の所説内容「諸佛世尊。唯以一大事因縁故出現於世。舍利弗。云何名諸佛世尊唯以一大事因縁故出現於世。諸佛世尊。欲令衆生開佛知見使得清淨故出現於世。欲示衆生佛之知見故出現於世。欲令衆生悟佛知見故出現於世。欲令衆生入佛知見道故出現於世。舍利弗。是爲諸佛以一大事因縁故出現於世」（鳩摩羅什訳『妙法蓮華經』『大正新脩大藏經』第9卷、7a21-28より）に基づくものであろう。このような点から、彼は伝統的な『法華經』理解を基礎とした上で、独自の思想を形成していったものと推定される。

また、『梵藏伝訳法華經』（1924年刊）の「はしがき」において彼は、「……また法華經の真面目は何に存するか、これらの問題を究むることは頗る興味の深きを覺ゆるも、尺幅の裡、萬峰を収め描き難きをもつて目下起稿中なる拙著「法華經研究」に總てを譲ることとなし、本書に於ては、前述の如く西藏譯を根拠として梵文を参照せる和譯の本文のみを掲ぐべし<sup>(4)</sup>」と述べ、後に「法華經研究」の出版を予定していたことがわかる。同著の出版はかなわなかったが、大正4（1915）年から東京朝日新聞に連載された『入藏記』には、「西藏の宗教（其三）」の章において「經典の比較」に続き「法華經研究」と題する項がある。その中で彼は次のように述べている。<sup>(5)</sup>

#### 「經典の比較」

……第四雜部に至つては大乘小乘兼ね備へて日本で有名な法華經、大涅槃經が此中に納めら

れてある、こゝ等は日本佛教と西藏佛教との異同を判明にする點で學者の留意すべき處である、即ち日本で無上最尊の妙典とする法華や涅槃が西藏では僅に小乗教と一緒に雜部の中に入れて特殊の位置を占めて居らぬのである、抑西藏の論部の發達を探求するに印度に於けると同じく般若教の中道論を以て究竟となし、法華の中道論や涅槃の中道論は西藏佛教に於て夢想だも爲す能はざる所である。

「法華經研究」

漢譯法華經は八卷二十八品の組織であるが西藏の法華經は十二卷二十七品である、かく編輯の上には異なりがあるが内容の量には餘り變りはない、但し其意義の上には彼此大に異なりがあるを見るが同一根元よりして異同を生じたと云ふことは注意を要する點である、… (中略) …要するに西藏本に依つては天台の教理の生ずる道がなく法華の眞意を彰すに不十分である、この外彼此藏經を比較して見るならば色々發明する處があるだらうと思ふ。(以下略)。

このように、彼はチベット語訳『法華經』の檢証により、チベット語訳が必ずしも漢訳よりも優れていると考えているわけではないようである。彼は上記引用と同じ頃、つまり第二回チベット旅行からの帰国後、日印協会に招かれた際の講演「印度人と西藏人」(1915年)の中で次のようにも述べているのである。<sup>(6)</sup>

例へば茲に法華經と云ふものがある。それが西藏の翻譯の法華經は支離滅裂で、決して意味を成して居らぬ。法華經と云ふものがどう云ふことの為に説かれたものかと云ふことすら、西藏の翻譯者には十分には分かつて居らぬ。所が漢訳の方の翻譯者は、其御經の意味が分かつて居る。之を説かれた時の仏の御心と云ふものは斯う云ふ御心で、斯う云ふ訳で説かれたのであると云ふことを、すっかり吞込んで、御經の眞諦と云ふものがすっかり翻譯者の心に現はれてそれから翻譯して居る。だから意味の上から云ふと、漢訳は生きて居る。西藏訳は死んで仕舞つて居る。総てさうであると私は断言しませぬ。西藏訳の中にも頗る立派なものがございます。固より翻譯者が皆違ふ。漢訳の中にも詰まらぬものがあつて、翻譯者に依つては随分杜撰な翻譯をして居る人もございます。けれども大体から言ふと漢訳は勝れて居つて、西藏訳は劣つて居ると云ふことだけは確かである。

このように、『法華經』を例として示しつつ、漢訳仏典を高く評価していることがわかる。

ところで、この他に『法華經』に関する彼の研究として『宗教研究』新10卷3号(1933年)掲載の「法華經中妙音語義の研究について」<sup>(7)</sup>がある。同論中に触れられている通り、これは泉芳璟「法華經に於ける(妙音)語義について」(『大谷學報』第14卷第2号所収)とそこに引用される本田義英「妙音の語義と其の神話と題して(四)」(『龍谷大學論叢』第302号所収)に対して、意見を述べたものである。

## 1.2 仏典の翻訳と研究

ところで、慧海は『法華経』の他に、数点の仏典を翻訳しているが、彼は1919（大正8）年に、全288点（大乘経典や、主として龍樹に帰せられる論書等）に及ぶ「一切藏經中漢譯未翻經書表」<sup>(8)</sup>を作成し、それらを全7名にて30年間かけて全訳する事業を企図していた。<sup>(9)</sup>これらの全訳は未だかなえられていないが、彼が実際にチベット語より翻訳し、公表した主な仏典を一覧で示すと次の通りである。<sup>(10)</sup>

1921（大正10）年	①『入菩薩行』
1922（同11）年	②『西藏伝印度仏教歴史上 一名釈迦牟尼仏之伝』
1924（同13）年	③『梵蔵伝訳法華経』
”	④『漢蔵対照勝鬘経』
1927（昭和2）年	⑤『蔵漢対訳大日経住心品』
1928（同3）年	⑥『漢蔵対照国訳維摩経』
”	⑦『（ナルタン版）西藏大蔵経甘珠目録』
1930（同5）年	⑧『西藏伝唯識三十頌』
1931（同6）年	⑨『梵蔵和英合璧浄土三部経』
1934（同9）年	⑩『蔵文和訳大日経』
”	⑪『法心経』（未刊行、原稿のみ現存）
1940（同15）年	⑫『般若心経』（『佛教日課』所収）

慧海は以上の仏典を翻訳したが、彼にとってそれは前掲の『チベット旅行記』冒頭で述べられた「平易にして読み易い佛教の經文を社會に供給したい」<sup>(11)</sup>との考えに基づいたものであろう。

さて、以上のリストのうち、①『入菩薩行』は『河口慧海著作集』の第5巻に収められている。これはインド後期中観派の寂天（Śāntideva、685-763年頃）著『入菩提行論』（*Bodhicaryāvatāra*）の全和訳である。本書の「内容を一言でまとめると、六波羅蜜を中心とした菩薩の実践ならびに大乘思想のエッセンス」といわれ、<sup>(12)</sup>慧海によって本邦初訳されたものである。同書は当館所蔵の慧海旧蔵書中にも見出される（目録番号 洋和056～058）。なお、この『入菩薩行』（1921年）を翻訳・出版の後、彼の主著である『在家佛教』（1926年）の姉妹篇として『菩薩道』（1926年）を刊行している。『菩薩道』は、『入菩薩行』の内容を「當今の言語句調に翻案して譯した」（後掲）ものである。「菩薩道の序」において、彼は次のように述べている。<sup>(13)</sup>

大正9年靜天大徳の入菩薩行（大正10年2月博文館發行）を梵蔵語から翻譯した時に感じたことは、本書は約千三百餘年の昔に著述せられたもので、非常な名著であるけれども時代が古いだけに、今の人には耳遠い修辭や引例が多くあつて、一寸解し難い點も多い。さればこれを當今の言語句調に翻案して譯したならば、世人を利益すること甚だ多いであらうと思つた。



このように、『菩薩道』は『入菩提行論』の単なる翻訳ではなく、現実社会に即した言葉でその内容を記したものといえる。例えば『菩薩道』における六波羅蜜多の説明の箇所では、「経済行布施波羅蜜多」、「道徳行持戒……」、「成功行忍辱……」、「革新行精進……」、「秘密行禪定……」、「放光行般若……」<sup>(14)</sup>としている。「経済行布施波羅蜜多」については、「【布施度の経済行】菩薩は布施度に住して各自の職業を営む時に、權の布施度即ち經濟行を成就する。……世俗の職業に従事しながら行うた權の布施度とは、どのような行爲であるかと云ふに、例せば世人を利益する事業を起こさんとするには資金を要する。その資金を世間の正しい方法に随ひ、儲けて貯蓄し遂にそれを公益業に用ふるが如き……」<sup>(15)</sup>と説明する。

②『西藏傳印度仏教歴史上 一名釈迦牟尼之伝』は、同著作集の第7巻に収められている。同書は、その序においても触れられているが、チベットに伝えられる「『大方廣遊戯経（ギャーチェル・ロールパ、方広大莊嚴経、西藏大蔵経ゲルゲ版九五番）』の經典、歴史書で著者がゲール派の『如意宝樹（パクサム・ジョンサン）』カーギュ派のパーボ・ツクラクテンバ著『転正法輪史（タム・チョエ・コルギュウル、学者の宴）』『善逝教法史（テーセク・チョエチュン、プトン仏教史）』

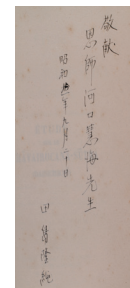


[図1]

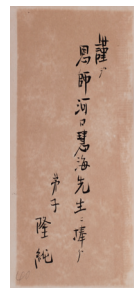
ゲール派の伝燈史『道順傳燈史伝（ラムナム・ンガパ）』同派サンギェ・ギャムツォの曆法等の書『白瑠璃除銷（ヤーセル）』を資料とし<sup>(16)</sup>た仏伝である。なお、同書の序「西藏傳印度佛教歴史序」の草稿が当館に所蔵されている（ただし、これは2017年に古書店から新たに購入したものである。[図1]、また本書の資料紹介を参照）。

③『梵蔵伝訳法華経』（著作集第8巻所収）、④『漢蔵対照勝鬘経』（同9巻所収）、⑥『漢蔵対照国訳維摩経』（同10巻所収）は、聖徳太子（574-622）に帰される所謂「三経義疏」（『法華義疏』、『勝鬘経義疏』、『維摩経義疏』）の所依となる經典である。彼が掲げる「ウパーサカ仏教の開祖は釈尊、第二祖は文殊菩薩、第三祖は弥勒菩薩、第四祖で、わが国における宗祖は聖徳太子である」と彼の主著『在家（ウパーサカ）佛教』において規定されていることが既に指摘されている<sup>(17)</sup>。当館所蔵の彼の旧蔵書中には黒上正一郎著『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』（洋和141）を見出すことができる。

⑤『蔵漢対訳大日経住心品』は、密教經典『大日経』住心品の蔵漢対照テキストと和訳、ならびに蔵漢両訳の比較研究を取めたもの（著作集9巻所収）<sup>(18)</sup>で、著者は慧海の弟子、田島隆純（1892-1957）である。当館には、田島隆純が慧海へと贈った *Étude sur le Mahāvairocana-sūtra*（洋和043）と、『蔵漢對譯大日経住心品』（洋和126）が残されている。両者にはそれぞれ書入れがある（[図2]、[図3]を参照）。



[図2]

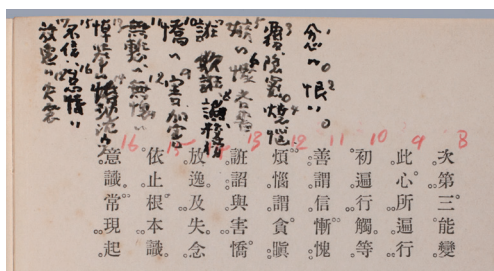


[図3]

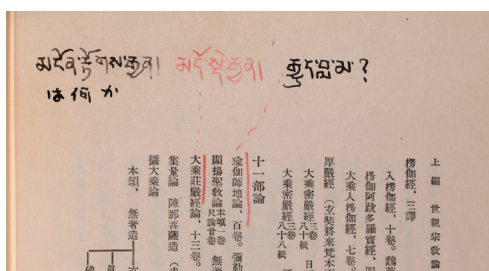


⑦『(ナルタン版) 西藏大蔵経甘珠目録』は、「昭和3年12月に宗川宗満師によって謄写版でチベット語研究者のための参考書として非売品のかたちで出版」されたもので、ナルタン版チベット大蔵経「経部(カンギユル)」(河口慧海将来、大正大学所蔵本)の目録の和訳である。なお、当館には慧海将来ナルタン版チベット大蔵経「論部(テンギユル)目録」(請来007)が所蔵されている。<sup>(19)</sup><sup>(20)</sup>

⑧『西藏伝唯識三十頌』は世親(Vasubandhu、4-5世紀頃)による、所謂『唯識三十頌』のチベット語訳からの全和訳である。同書は「チベットにおける唯識関係の文献が知られていない時代に、中国、日本において、仏教研究の重要な基礎の一つであった」という。<sup>(21)</sup>当館には、慧海旧蔵の佐伯良謙著『世親の宗教：附唯識三十頌講義』(大正13年)があり(洋和127)、そこには慧海によるものと推定される多数の書入れがある([図4]、[図5]を参照)。



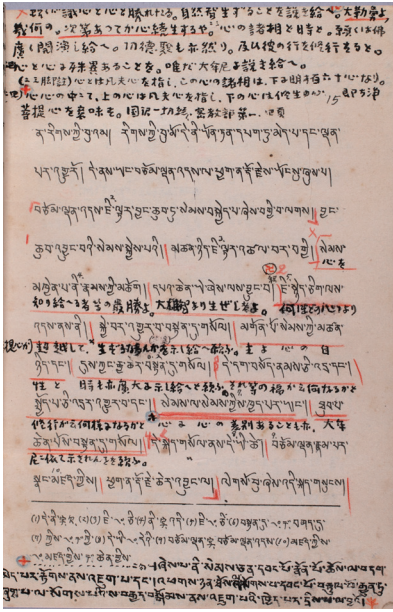
[図4]



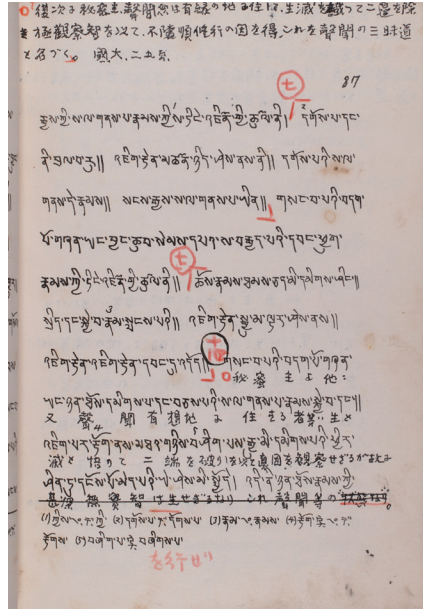
[図5]

⑨『梵蔵和英合璧浄土三部経』は、所謂『浄土三部経』を対象としたものであるが、河口慧海が実際に携わっているのは、『無量寿経』と『阿弥陀経』とである。「慧海師が序文で述べている様に浄土門の人々がチベット訳を研究するのに益することを目的として作成され、この二つの蔵和对訳経は左ページに蔵文テキストを出し、右ページにその和訳を各行ごとに対照させたスタイルになっていて、慧海師が自ら国訳して浄土宗の学僧の宗川宗満師がそれを筆記して出版させたものである」。<sup>(22)</sup>

⑩『蔵文和訳大日経』は、チベット語訳『大日経』からの全和訳である。「本書は従来の漢訳『大日経』に基づく研究のみならず、広く『大日経』を研究する立場から、チベット訳『大日経』を全和訳して後学の者たちのために公刊されたものといえる」。<sup>(23)</sup>当館には、昭和6年に服部融泰が校合して刊行した『蔵文大日経』と『蔵文大日経語彙』とがある(洋和123、洋和124)。この『蔵文大日経』は『大日経』のチベット文が記されたテキストであるが、当館所蔵のものは、河口慧海によるものと推定される多数の書入れが見られる([図6]、[図7]を参照)。



〔図6〕

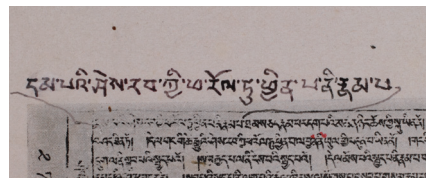


〔図7〕

このように、慧海はチベット文テキストに対して、和訳を付したり、注釈文を書入れたりしている。なお、同書について彼は「西蔵語四本引照校訂の大日経に寄せる語」を記している。<sup>(24)</sup>

⑩『法心経』は自筆原稿のみが現存する。「チベット語訳「法心経」(Udānavarga)を邦訳されたもので、1934(昭和9)年5月23日に執筆し始め、8月11日に終筆し、同月14日に校了したと最終頁に記してあり、これは「法句経(Dhammapada)、経集(Suttanipāta)とともに初期仏教を研究する基本的文献」であり、これは著作集第12巻に収められている。<sup>(25)</sup>

⑪『般若心経』の和訳は1940(昭和15)年在家佛教修行團より発行された『佛教日課』に収められる<sup>(26)</sup>ほか、チベット文と和訳の手書き原稿が残されている。<sup>(27)</sup>同經典には日本を含む東アジアで広く流布している「小本」の他に、チベットで読誦される「大本」があるが、この和訳は後者からの翻訳である。なお、当館には慧海旧蔵の『般若心経』関連書籍が所蔵されている(請来012、洋和115、洋和117、洋和118、洋和119、洋和120、和版028、和版029等)。そのうち、洋和119『般若心経註譯全集：西蔵文』には、慧海のものと同定される書入れがみられる(〔図8〕を参照)。



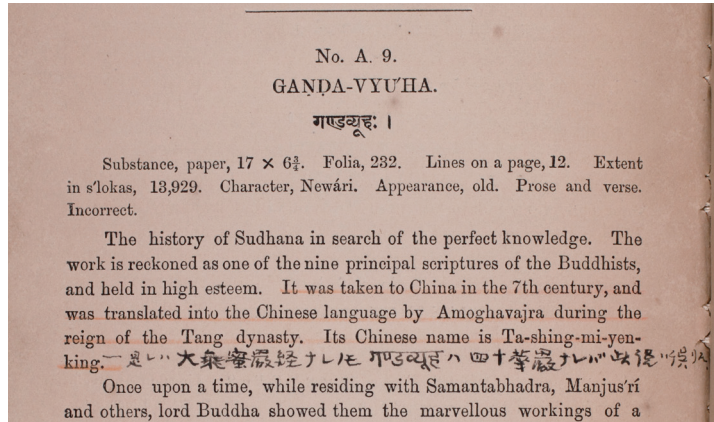
〔図8〕

以上の他、結果的に成し遂げられることはなかったが、彼は1925年の時点で『華嚴経』の翻訳も企図していた。そのことは、彼が亡くなるまで『華嚴経入法界品』(Gaṇḍavyūha)をその手元においていたことからも知られ得る。<sup>(28)</sup>

当館には同經典の梵文写本が所蔵されているが、その他に同經に関する資料として、The Sanskrit

*Buddhist Literature of Nepal* (洋洋099) がある。同書は、著名な仏教学者でもあるラージェンドララーラ・ミトラが1882年に刊行したもので、ネパールにおける仏教梵文写本をまとめたものである。その中には、慧海によるものと推定される引き線の他、次の通り書入れが見出される（[図9]を参照）。

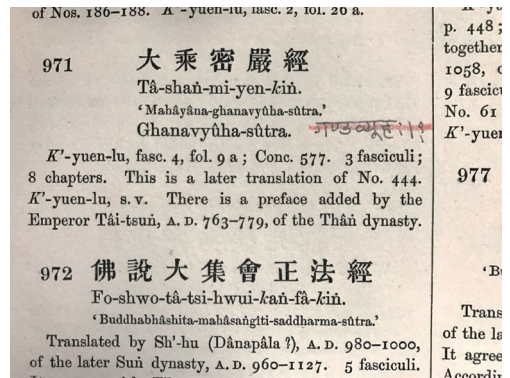
是レハ大乘密嚴經ナレ氏 ganḍavyūha ハ四十華嚴ナレバ此説は誤り也。



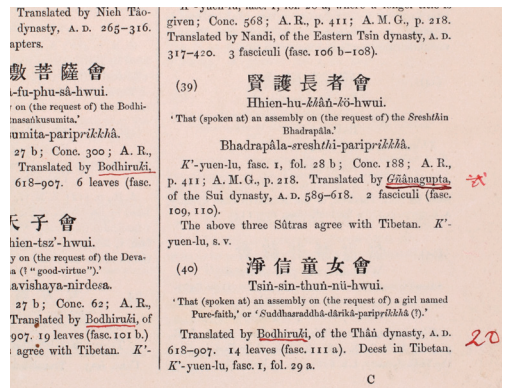
[図9]

以上のように、河口慧海はミトラが記した解説の誤りについて指摘している。先にも触れたように、慧海は、書籍の誤植等に頻繁に赤入れを行っている。

なお、以上と関連して、彼の旧蔵書中にある『大明三蔵聖教目録』（洋和064）にみられる書入れが注目される。同書は『大明三蔵聖教目録』に基づきながら、南條文雄が当時最新の仏教学の研究成果を盛り込み編纂したものであるが、そこに「ganḍavyūha / ?」と書入れがある（[図10]を参照）。この書入れは、先のミトラ本の誤りと関連して記されたものであることがわかる。この他、同書には訳者ボーディルチとジュニャーナグプタの名が記されるごとに赤線が付され、付番されている（pp.9-25、[図11]を参照）。



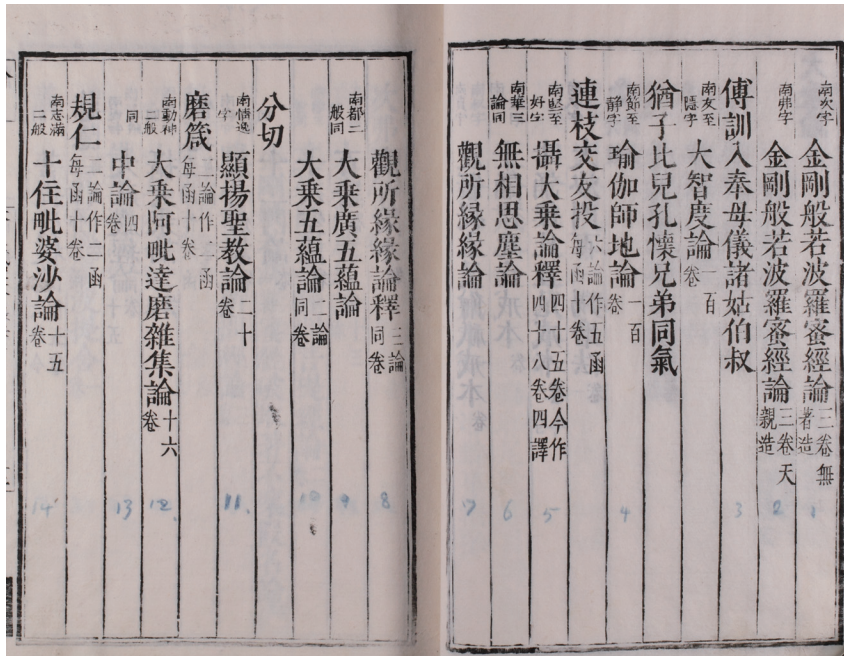
[図10]



[図11]



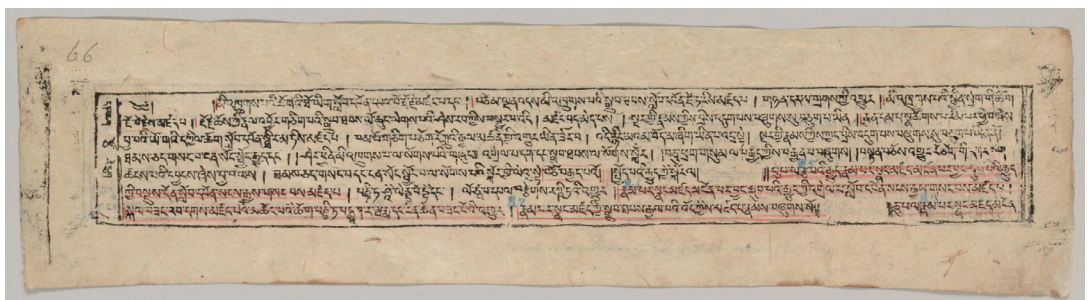
このことから、慧海はこの二人の訳者に何らかの興味関心をいだいていたことが推定される。  
また、当館所蔵の慧海旧蔵書の中に、黄檗版の『大明三蔵聖教目録』（和版024）があるが、「大乘論」の經典名の下に1から93の付番がなされている（巻3、11丁裏～17丁表、[図12]を参照）。



[図12]

以上のように、目録中の三蔵中、大乘論の箇所番号を付している。先の南條文雄の編著にも多くの書入れが見出された。

この他に、当館はチベット大蔵経のナルタン版テングル目録を所蔵しているが、そこにも書入れが見出される（[図13]を参照）。



[図13]

以上の漢訳大蔵経や、チベット大蔵経といった目録類にみられる書入れから、彼は翻訳リストを作成したと推定することも不可能ではないと思われる。詳細については、今後も検討が必要である。

### 1.3 慧海が将来した法華経

慧海がチベットやネパールなどから将来した文献の内容とその現在の所蔵機関については、すでに先行研究によってまとめられている。<sup>(29)</sup> その中には、慧海によって日本へと将来された梵文『法華経』写本や、チベット語訳『法華経』がある。それらをまとめて記すと次の通りである。

#### 1.3.1 梵文写本『法華経』

慧海によって日本へと将来された梵文『法華経』(Saddharmaṃṣṍṍarika) 写本は、その入手地により大別して2種となる。一つはネパールにて入手され、現在東京大学に所蔵されている写本計7点であり、もう一方はチベットで入手され、現在東洋文庫に所蔵されている写本1点である。

##### ① 東京大学所蔵写本(ネパールより将来)

東京大学には、慧海と高楠順次郎(1866-1945)によってネパールより将来された梵文写本が収められている。それらの写本は、松濤誠廉(1903-1979)によって目録化されている。それが所謂『松濤目録』であり、そこには不完全なものも含め、計8点(目録番号408、409、410、411、412、413、414、415)の梵文『法華経』(Saddharmaṃṣṍṍarika)が掲載されている。<sup>(30)</sup> それらのうち、415番の写本のみが高楠順次郎によって将来された写本であり、それ以外の7本は慧海によって将来されたものである。<sup>(31)</sup> このうち、414番の写本はすべてローマ字化され、刊行されている。

##### ② 東洋文庫所蔵写本(チベットより将来)

東洋文庫には、慧海によって将来された梵文写本が16点(数え方によっては28点)所蔵され、それらはすでに目録化されている。<sup>(32)</sup> その中に、1点『法華経』があり、慧海はそれをチベットのシャル寺にて入手したことが知られている。<sup>(33)</sup> この写本の写真版が、池田澄達(1876-1950)編として、1926年に河口慧海が創始した仏教宣揚会より刊行されている。

#### 1.3.2 チベット語訳『法華経』

慧海が将来したチベット語訳『法華経』(Dam pa'i chos pad ma dkar po zhes bya ba theg pa chen po'i mdo)には、チベット大蔵経(カンギェル)所収のもの他、単独で流布している写本もある。カンギェルに関するならば、彼はナルタン版(東洋文庫、大正大学所蔵)、デルゲ版(東洋文庫所蔵)、<sup>(34)</sup> チョネ版(同所蔵)、ギャンツェ写本(同所蔵)を日本へと将来している。この他、単独で現存するチベット語訳写本には、東洋文庫に所蔵される紺紙金泥写本(蔵外-333、大正3年4月20日にタシルンポのスルシャル氏より寄贈されたもの)がある。<sup>(35)</sup>

ところで、チベット語訳『法華経』諸本は、第11章「寶塔示現章(mchod rten brtan pa'i le'u)」における経文付加の有無により、系統分類が可能であることが指摘されている。<sup>(36)</sup> 慧海はチベット語訳『法華経』からの全和訳を行っているのであるが、<sup>(37)</sup> この系統分類に基づいて彼が和訳の際に使用したテキストについて検証すると、それはナルタン版所収本であったものと推定されている。<sup>(38)</sup>

また、慧海は同訳において『法華経』の経題を『妙法白蓮華経』とするが、そのように訳す意図について次のように述べている。<sup>(39)</sup>



題して法華経と云ふは、この名称の世人に親好深きに随ふのみ。梵語の題目を羅馬字によつて書せば、Saddharma, puṇḍarīka mahāyāna sūtram 即ち薩(サド)は妙の義にして、達磨(ダルマ)は法なり。芬陀利迦(ブンダリーカ)は白蓮華にして、摩訶衍那(マハーヤーナ)は大乗、素担覧(スートラム)は経なり。而して西藏訳は全くこれに合し、タムパチョェ妙法、ペツマカルポ白蓮華、テヘクパチェンポイドー大乗経と訳せり。古来漢訳にはブンダリーカを華または蓮華となすも、これにては妙法の譬喩として純潔白洋の妙味を示すこと能はず、原語に白蓮華といふ所に一目瞭然妙法の浄相を觀ることを得るなり。これ本書に於て妙法白蓮華経の訳語を採る所以なり。

なお、その後の研究成果として、チベット語訳『法華経』の校訂本には中村瑞隆<sup>(40)</sup>、ツルティム・ケサンによるものがある<sup>(41)</sup>。この他に辛嶋静志、鈴木隆泰による研究がある<sup>(42)</sup>。

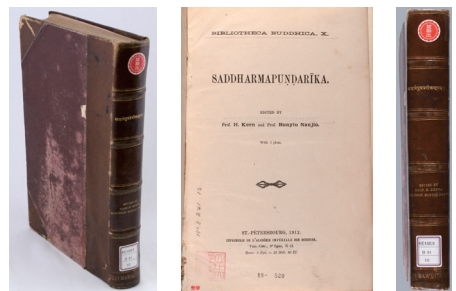
#### 1.4 慧海の手元にあった法華経

立正大学品川図書館に所蔵される慧海旧蔵文献のうち、『法華経』に関するものを提示すると、(1)梵文『法華経』校訂本、(2)『科註妙法蓮華経』、(3)岡教達訳『法華経』、(4)黄檗版『妙法蓮華経』と『添品妙法蓮華経』等である。以下に若干の解説を付す。

- (1) 【洋洋031】 梵文『法華経』(ケルン・南條本) *Saddharmapuṇḍarīka* / edited by H. Kern & Bunyiu Nanjio. St.-Petersbourg : Imprimerie de l'Academie Imperiale des Sciences, 1912.

これは、所謂「ケルン・南條本」と呼ばれるものである。同書については本文校訂の際に生じた問題点が指摘されているが<sup>(43)</sup>、現在に至るまで、学術研究にて梵文『法華経』を参照する際、世界的に標準テキストとして使用されているもので、1912年に現ロシア科学アカデミーより出版されたものである。校訂者はオランダのケルン(Hendrik Kern, 1833-1917)と、大谷大学教授を務め、また日本最初の文学博士となった南條文雄(1849-1927)である。南條は、慧海が現東洋大学の前身となる哲学館でサンスクリット語を学んでいた際の師でもある。

本書が慧海旧蔵書であることは、その装丁(背表紙下部に Ekai Kawaguchi と刻印あり)からうかがい知ることができる([図14])。この他にも当館所蔵の慧海旧蔵書中、洋装本の中にはその背表紙に彼の名が記されたものがある。その表記方法は、和書ならば「河口慧海」、洋書ならば Ekai Kawaguchi、デーヴァナーガリー表記の本には、同文字でその名が記されている。本書には若干ではあるが、河口慧海による書入れが見られる。この他、経文部分に下線が引かれた箇所、またクリップで

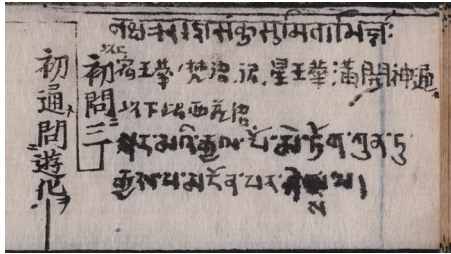


[図14]

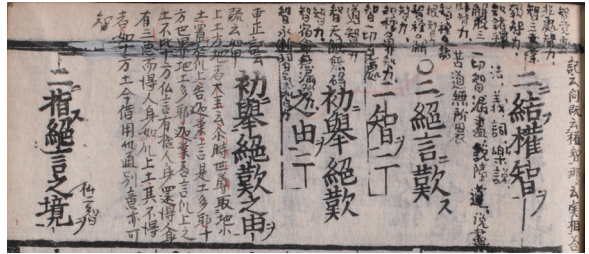
閉じられていたページもある。以上のことから、同書は慧海が梵文『法華經』を読む際に使用されていたものと考えられる。

(2) 【和版030】科註妙法蓮華經 8巻／(姚秦訳)鳩摩羅什訳、(元)徐行善依科入註、(元釈)必昇校證。10冊。[桐花堂]中村五兵衛、延寶4(1676)年。

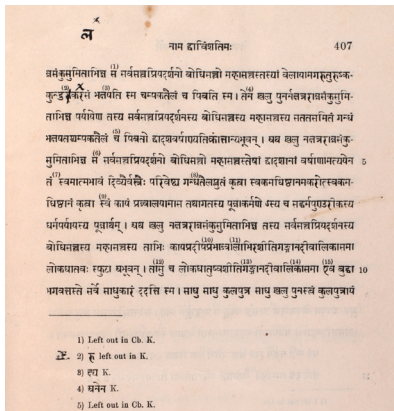
本書は、延寶4(1676)年に桐花堂より刷られ、一般によく流布しているものである。本書にもまた、慧海による書入れが見られる([図15]、[図16]参照)。



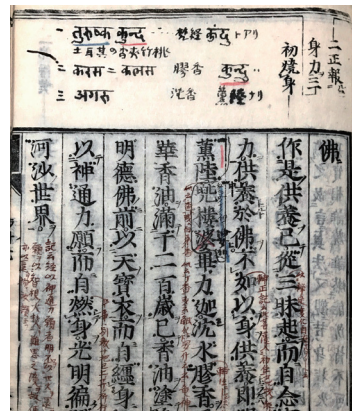
[図15]



[図16]



[図17]

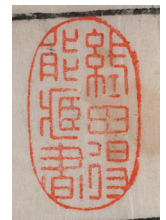


[図18]

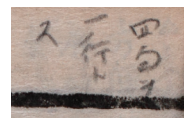
以上のように、彼は(2)『科註妙法蓮華經』の漢訳語について、(1)「ケルン・南條本」にてその原語を確認していたようである。つまり、(1)と(2)の両者には共通の書き入れが見出されるのである([図17]、[図18]参照)。

ところで、同書の巻首には、次の蔵書印(織田得能蔵書)が押印されている(図19)。以上のことから、本書は慧海以前には、織田得能(1860-1911)によって所有されていたものであったことがわかる。本書には、慧海による書入れとは別に、鉛筆による書入れ「四句ヲ一行トス」([図20])も見られる。この書入れが誰の手によるものであるかは明らかではないが、その内容から、織田によるものである可能性がある。

織田は1899(明治32)年に『法華經講義』を光融館より出版しており、ここに紹介している同書を底本として、『法華經講義』を執筆していたと推定することも不可能ではないであろう。詳細については、調査が必要である。なお、慧海は哲



[図19]



[図20]

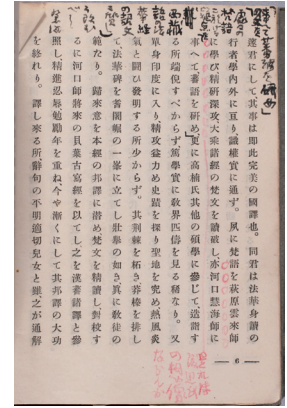
学館において織田の講義を受講している。

(3) 【洋和121】岡教遠訳法華經（岡教遠訳『梵文和訳法華經』東京：大阪屋、1923年）

立正大学教授であった岡教遠（-1945）は、大正4（1915）年から大正6（1917）年にかけて日蓮宗によってインド・ネパールに派遣され、仏跡調査を実施した。「岡教授は、日蓮宗管長（小泉日慈宛下）の下命をうけ、インド滞在中に梵語の研究を続けながら釈尊の諸遺跡を二回にわたって訪れ、親しく調査を実施された。とくに、タイの地の調査に努力を注がれ、カピラ城跡をバルクルコート（Barkurwa kot）遺跡に比定するなど独自の見解を示された」人物である<sup>(44)</sup>。

当館には、岡教遠が慧海へと寄贈した書籍が二点収められている。その中の一点が『梵文和訳法華經』（洋和121）である。同書には、その序文等におり、慧海によると考えられる書入れが確認される（〔図21〕参照）。

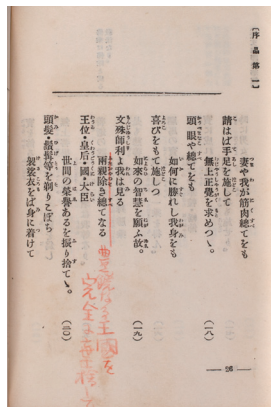
この他、本文には次のような書入れが見られる。



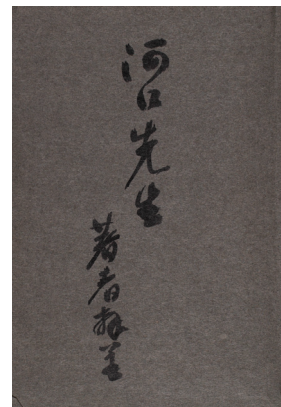
〔図21〕



〔図22〕



〔図23〕



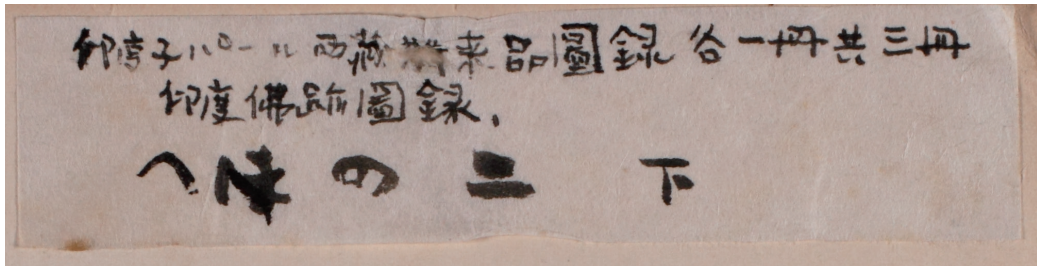
〔図24〕

このように、岡による訳文に対して、慧海はサンスクリット語原文を書入れている（18頁）ことがわかる（〔図22〕）。また、教遠による翻訳を修正している箇所（26頁など）も見受けられる（〔図23〕）。

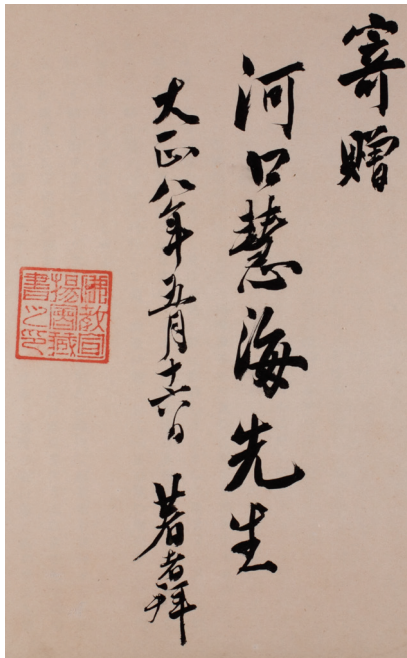
さらに本書見返しには、本書を著者が慧海に贈ったことを示す一言が添えられている（〔図24〕）。

なお、教遠が慧海へ贈ったもう一点は、インド等の仏跡調査の写真をまとめた『印度佛蹟寫真帖』（和版113）である（同書には、教遠の写真が掲載されている。〔図27〕を参照）

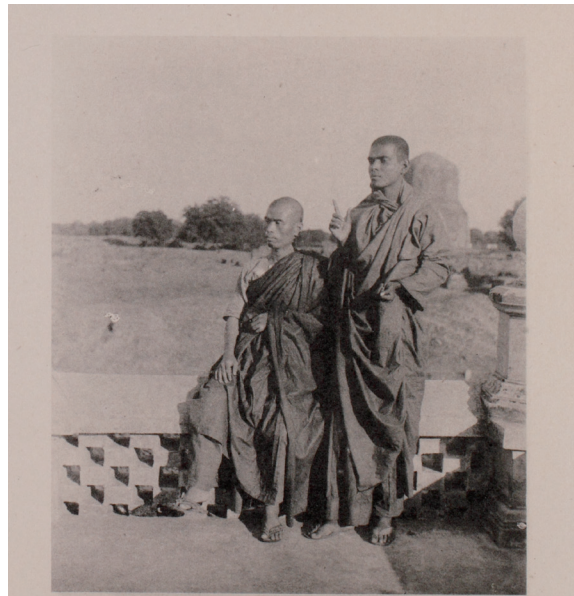




[図25]



[図26]



達教と丘比ハンシ持住苑野鹿

(2) Singha Bikku and Kyozei Siramana at the Migadava temple

[図27]

同書には、教達による慧海への寄贈の旨が記され（[図26]）、また慧海自身によるメモが付されている（[図25]）。メモには「印度子パール西藏将来品圖録各一冊共三冊／印度佛跡圖録／へほの二下」とあり、同書は慧海が生前に出版した二冊の図録とともに保管されていたことがわかる。

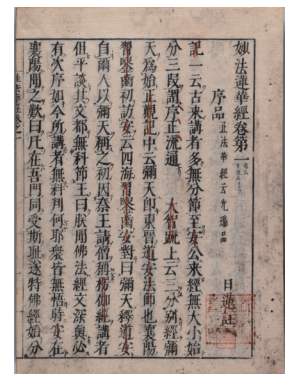
(4) 【和版020】黄檗版『添品妙法蓮華經』など

妙法蓮華經 7巻／鳩摩羅什訳。2冊。[黄檗山法蔵院 沙門鉄眼募刻]、寛文13 [1673] 年。

添品妙法蓮華經／(隋) 闍那崛多、達摩笈多添品訳。2冊。沙門鉄眼募刻、延喜7 (1679) 年。

当館所蔵の『法華經』として、黄檗版『添品妙法蓮華經』（隋の闍那崛多、達摩笈多添品訳）がある。本書に対する書入れは何等見当たらない。

ところで、慧海がネパール首相チャンドラ・シャムシェールへと黄檗版一切経を贈っていることがすでに知られている<sup>(45)</sup>。彼の旧蔵書の中には<sup>(46)</sup>



[図28]

同經典の他にも、黄檗版大蔵經の一部が見出される（和版011～024）。それら旧蔵書中の黄檗版大蔵經と、チャンドラ・シヤムシェールへと贈ったそれとの関係は、現時点では不明である。刊記等をもとに、検討する必要があるであろう。また『評伝』によれば、慧海は積雲照（1827-1909）のもとでともに戒律を学んだ積大眞（1873-1916）から寄贈された黄檗版大蔵經をパンチェン・ラマに贈り、それと交換でナルタン版カンギユルとテンギユルを得ているという<sup>(47)</sup>。

なお、以上の他に、当館が所蔵する慧海旧蔵書中の『法華經』に関するものとして、日蓮註『註法華經』がある（和版033）（〔図28〕）。これには、仏教宣揚会印が押印されているものの、その中に慧海によるものと推定される書き入れは見出されない。

## 1.5 おわりに

既にみてきたように、慧海の入蔵（チベット行き）の動機として『法華經』の存在は欠かすことのできないものであった。彼による入蔵（ネパール行きも含む）は、日本への仏典の将来のみならず、将来文献に基づく彼自身による翻訳と研究、それをふまえた一般に対する仏教の普及まで、一連のものとしてとらえるべきであろう。彼は単なる仏典将来者にとどまるものではなかった。慧海による仏典の将来、そしてその研究を基礎として、後の仏教学が発展したといえよう。また先述した、慧海が「法華經研究」を進めていたことを勘案するならば、当館に所蔵される彼の旧蔵書『法華經』関連書とそれらへの書入れが見出されることは、帰国後も必要に応じて『法華經』を読み込んでいたことを裏付けているといえよう。具体的には、当館所蔵の慧海旧蔵書中の『法華經』のうち、梵文テキストは先の(1)「ケルン・南條本」を、漢訳は(2)『科註妙法蓮華經』を参照していたと考えられる。

なお、慧海は「チベットへ入ったとき、折れ本で浄土宗の三部經や法華經などを携えていったので、チベットに滞在中チベット訳のそれらと対照して読みましたが（以下略）」と述べているが<sup>(48)</sup>、当館所蔵書の中には、そのような折本の『法華經』は、見出されない。

### 注

- (1) 著作集1 [1998: 1-3]、著作集別1 [1999: v-viii]。
- (2) 著作集8 [2002: 1]。
- (3) 著作選集10 [2015: 133-135]。
- (4) 著作集8 [2002: 3-4]。
- (5) 著作集14 [2004: 72-74]。
- (6) 著作選集10 [2015: 63-65]。
- (7) 著作集16 [2002: 714-720]。
- (8) 「藏梵藏經和譯趣意書」著作集16 [2002: 666-677]。
- (9) 著作集16 [2002: 664]。
- (10) このリストは庄司 [2015a] を修正したものである。
- (11) 著作集1 [1998: 1-3]。
- (12) 米澤 [2001: 4]。
- (13) 著作集5 [2001: i-ix]。
- (14) 著作集5 [2001: 80-118]。
- (15) 著作集5 [2001: 82]。



- (16) 金子 [1999a: 329]。
- (17) 奥山 [1999: 12-13]。
- (18) 大塚 [2002]。
- (19) 木村 [2002b: 3-5]。
- (20) 立正大学 [2013: 90]。
- (21) 金子 [1999b: 163]。
- (22) 松濤 [2002: 14]。
- (23) 大塚 [2001: 1]。
- (24) 著作選集10 [2015: 140-141]。
- (25) 木村 [2002a: 1-2]。
- (26) 著作集3 [2000: 8-14]。
- (27) 著作集別巻3 [2004: 221-232]。
- (28) 河口正 [2000: 235]、庄司 [2013]、同 [2015a]、同 [2016] 等。
- (29) 立正大学大崎図書館 [2013: 73-80]。
- (30) Matsunami [1965: 146-148]。
- (31) 小槻 [2003]。
- (32) 金子 [1977]、Kaneko et al. [1979]、掘 [2012]。
- (33) 田中 [2001: 327-332]。
- (34) 立正大学大崎図書館 [2013: 78]。
- (35) 庄司 [2011]、堺市博物館 [1993: 20]。
- (36) 梶山 [2001: 20-24]。
- (37) 著作集8 [2002]。
- (38) 庄司 [2011: 29-31]。
- (39) 著作集8 [2002: 3]。
- (40) 中村 [1976-1997]。
- (41) Khangkar [2009]。
- (42) Karashima [2005-2008]、鈴木 [2008-2016]。
- (43) 石田 [2006: 5] 等。
- (44) 中村 [2000: 116]、高山 [2011: 48]。
- (45) 會谷 [2010a] 他。
- (46) 高山 [1999: 55-71] 等。
- (47) 奥山 [2009: 402]。
- (48) 高山 [1999: 162]。

(庄司史生)

## 2 旧蔵書にみる慧海の事績—寄贈書類を中心として—

### 2.1 はじめに

河口慧海は、入蔵者にして仏典将来者でもあり、さらには仏典の翻訳とそれに基づく研究を行った仏教学者でもあった。このような彼の元には、さまざまな人々から多くの書籍が贈られていたようである。当館が所蔵する慧海旧蔵書類が、彼の遺品であったことは既に述べた。その中から寄贈書の類を抜き出すと、それらがインド、チベット、ネパール、中国、そして日本というように、彼と関係のあるさまざまな地域、人々から贈られたものであったことがわかる。

本項では、当館所蔵慧海旧蔵書の中から、まず慧海が実際に足を踏み入れたインド、チベット、ネパールに関連する書籍を提示し、次いで彼が交流をもった人々との痕跡を裏付ける資料となる、慧海に対する寄贈書類を紹介する。

### 2.2 河口慧海とインド、チベット、ネパール

#### 2.2.1 インド

慧海はなぜ、仏教の原典を求めてインドではなく、チベット行きを企てたのであろうか。このことは、当時の仏教学界の動向を知ることによってその意図を理解することができる。つまり、彼の哲学館（現東洋大学）時代の師である南條文雄（1849-1927）の世代の時点ですでに、仏教誕生の地であるインドではすでに仏典は失われ、今やそれらはネパールとチベットに残されている、ということが明らかになっていた。<sup>(1)</sup>このような状況の中で、彼はチベット、そしてネパールを目指したのであった。しかしながらこのことは、彼がインドに無関心であったことを意味しない。彼はチベット行きの前にインドを訪れ、そこで梵語の研究を行い、また後にはブッダ成道の地であるブッダガヤーにおける仏教復興運動に力を注いでいる。

さて、当館が所蔵する河口旧蔵のインドに関する書籍として、A. Cunningham の *Mahābodhi, or, The Great Buddhist Temple under the Bodhi Tree at Buddha-Gaya* (W.H. Allen, 1892, 洋洋028) や、Edward B. Cowell の *The History of India* (John Murray, 1911, 洋洋048)、そして *A Handbook for Travellers in India, Burma and Ceylon* (J. Murray, Thacker and Spink, 1913, 洋洋062) などがある。

この他に、在孟買帝国領事館編『最近印度事情』（博文館、1908、洋和168）がある。同書は、外務省通商局が博文館より出版したもので、多くの写真の他、最後にインドの地図が付されている。同書には、仏教宣揚會の蔵書印が押印されているが、その他に書き入れなどは見出されない。

さらに、『桎梏の印度』（平凡社、1933、洋和169）がある。同書の原著者は来日経験もある J.T. Sunderland 博士であり、その著書をラス・ビハリ・ポースと田邊宗夫が共訳したもので、最後に「印度研究参考文献」を付す。口絵にはラビンドラナート・タゴール (Rabindranath Tagore, 1861-1941) の写真、そして同書冒頭にはタゴールの詩「祖國への禱り」も付されている。本書には、蔵書印や署名は見出されないが、慧海によるものと推定される書入れが見られる。同書第18章「印度に自治能力ありや」は、「(略) 過去において偉大な足跡を残した印度國民が、異國の利益の爲に非ずして、彼ら自身の生活と世界における彼ら自身の使命の爲に政治を行ふ日は來ないであろうか」という

一文で締めくくられているのであるが、その直後に慧海による書入れ（筆跡より推定）が、次のように記されている。

それハ来るであらう、もし印度人にして各人利己心を／棄て、国家のために實際■■■■■に團結が出／来ればである

慧海は、インド人との対話の中で、彼らがイギリスではなく、日本に統治されたいと望んでいることについて、「慧海師もこれにはいささか呆れて、『事もあろうに、自分の国を他国人に取れというのは何ごとか』と反問すると、『でも今の我々には、自力でイギリスの重圧を覆すだけの力はない。どうせ外国人の支配下に置かれるなら、まだもしヨーロッパ人より、同じアジア人たる日本人の制御を受ける方がましだから』と相手は平気で答えたという<sup>(2)</sup>」と述べていたことがすでに知られている<sup>(3)</sup>。

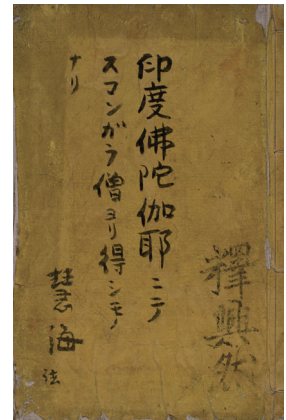
以上の書入れはそのような彼の考えを裏付ける記述といえる。この他、本書には赤鉛筆による線引きや誤植に対する修正がなされている。

以上の他、インド関連書籍としては A. Barth が著し Rey J. Wood が翻訳した *The Religions of India* (Kegan Paul, Trench, Trübner, 1891, 洋洋002)、Govinda Das による *Hinduism and India* (Theosophical Publishing Society, 1908, 洋洋003)、J.B. Dale 著 *Indian Palmistry* (Theosophical Publishing Society, 1895, 洋洋016)、J.W. McCrindle 著 *Ancient India, as Described by Megasthenés and Arrian* (Trübner, 1877, 洋洋049)、George G. Chisholm による *Longmans' School Geography for India and Ceylon* (Longmans, Green, and Co., 1891, 洋洋060)、Alexander Cunningham 著 *The Ancient Geography of India* (Trubner and Co., 1871, 洋洋061) などがある。

また、慧海はインドにおいて、次の和装本（『天台小止観』和版068と『梵網經』和版060）を入手していた。

ナリ  
印度佛陀伽耶ニテ  
スマンガラ僧ヨリ得シモノ  
慧海誌  
釋興然

[図2]のように、本書表紙には書入れがみられる。このことから、彼は本書をインドのブツダガヤにて、スマンガラなる人物より入手したことがわかり、これをインドで入手したことは興味深いことである。そこに、スマンガラはどのようにして同書を手に入れたのか、という疑問が生じるからである。そのように考えると、同書表紙右下に「釋興然」という署名があることに気がつく。釋興然は、



[図2]

日本人としてはじめてセイロン（現スリランカ）に留学僧として足を踏み入れた人物であり、日本へ帰国後は横浜の三会寺の住職となり、そこに慧海がパーリ語をならいに行っていたことが知られている<sup>(4)</sup>。このことは『チベット旅行記 上』（「先つ印度を知る必要」の項）において述べられている<sup>(5)</sup>。

後に、慧海と興然は考え方の相違により、結果的に仲違いすることになるのではあるが、本書の表紙からは、同書が興然からスマンガラへ、そしてスマンガラから慧海へ贈られたものと推定する

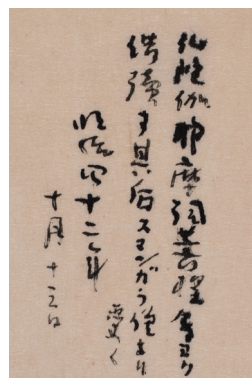
明治四十二年  
十月十三日

佛陀伽耶摩訶菩提會ヨリ  
借讀す其後スマンガラ僧より  
受く

ことができる。同書の入手時期は不明であるが、次の『梵網經』への書入れから、明治42(1909)年の入手と考えるとよいであろう(〔図3〕)。

このように、この『梵網經』もまた、慧海がインドより日本へと将来した点において、特徴的な資料といえる。

なお、すでに『請求資料目録』にて記したが、当館には、世界的に著名なチベット学者であり、『チベット旅行記』にも登場するサーラット・



〔図3〕

チャンドラ・ダス (Sarat Chandra Das, 1849-1917) が、1911年5月17日にインドのダーズリンにて慧海へと贈ったチベット語文法書『語の解説、三十頌の語義「燈の鏡」』(sGra'i bstan bcos sum cu pa'i tshig don gsal ba'i me long) が所蔵されている(請求020)。

ところで、インドのものかはわからないが、当館所蔵の『達磨多羅禪經説通考疏』(和版103)には菩提樹の葉が挟み込まれていた。菩提樹の葉については、南條文雄宛の書簡の中で「庭の菩提樹の新芽封入致し候」と記している<sup>(6)</sup>。また同書には音写語「庾伽遮羅浮迷」(第1冊23丁裏)に対して慧海がその原語を想定し、デーヴァナーガリー文字で「yogācārabhūmi?」と注記をつけていることを確認することができる(本書和装本目録参照)。

## 2.2.2 ネパール

慧海は、ネパールへ足を踏み入れた最初の日本人としても知られる。『ネパール・ヒマラヤ探検記録』所収「業績記録」(1899年1月)の最初の項目は「1チベット旅行のためのヒマラヤ越え」とあり、そこに慧海の事績が紹介されている<sup>(7)</sup>。

ネパールのボーダナートには「ここに日本とネパールの友好がはじまる 河口慧海」という日本語とネパール語、英語による説明板とともに、河口慧海のレリーフが残されている<sup>(8)</sup>。この他に、彼は<sup>(9)</sup>大正4年10月23日に図書館協会にて、「西藏及ネパールに於ける圖書」という講演も行っている。また、慧海は第1回入蔵からの帰路ネパールに立ち寄り、ネパール首相チャンドラ・シャムシェールより、梵語仏典を下付されている。それらは現在、東京大学、東洋文庫、立正大学に所蔵されている。さらにその際に、彼は梵文写本と引き換えにネパールへと黄檗版大蔵経を贈っており、それらが今もなお、ネパール国立古文書館に欠けることなく所蔵されていることが確認されている<sup>(10)</sup>。この他にも、慧海は「覚書 (The Memorial)」(1905年10月22日付)をチャンドラ・シャムシェールの求めに応じて提出している<sup>(11)</sup>。また、彼の『入蔵記』には「ネパール(其一)」から「ネパール(其三)<sup>(12)</sup>」といった章もあり、このことから慧海はネパールと深い関わりを持っていることがわかる。

当館が所蔵する慧海旧蔵書中のネパール関連書籍として、ダニエル・ライト (Daniel Wright) 編者の『ネパールの歴史』(History of Nepāl, At the University Press, 1877, 洋装050)がある。同書はネパールの歴史についての解説書である。これには特に固有名詞について、慧海によるものと推定される、引き線が見られる。また誤植を修正している箇所もある。

なお、同書には写真が一枚、挟み込まれていた(洋和032)。写真は、本書冒頭の旧蔵資料紹介に掲載している。この写真の裏面には慧海直筆の解説が記されている。翻刻を示すと次の通りである。



明治四十五年六月三日

金剛寶土ニテ

jigs byed /  
圖解  
慧海誌

子パール國カタマンド市ヨリ東  
二哩余ノ地ニ「パス、パチ」ト  
云フノ印度教ノ有名ナル靈跡ア  
リ大自在天ヲ祭レリ(傳ニ此自  
在天堂ハ佛教ノ靈地ナリシガ  
「サンカラ・アチャリヤ」来テ  
印度教ノ祠堂トナセシト云)  
此祠堂ヨリ二丁程東ノ山中ニ祭  
レル神像ニシテ俗ニ(ビヒサー  
ラ)ノト云フ、現今ノ參詣人ノ  
多クハ印度教徒ナリ 西藏語ニ  
ヂク、チェトノ云フ、此寫眞ハ  
ダアザリンノ佛具商ヨリ同神像

以上のように、この神像は、ネパールのカトマンドゥ（パシュパティナート近くの祠堂）からインドのコルカタにあるインド博物館へと移動したことが知られる。それが現在、上記博物館に所蔵されているかどうかの事実確認はしていない。

また、慧海は1903年に、当時ネパールの首相であったチャンドラ・シャムシェールより梵文写本を得ている。そのほとんどは東京大学に所蔵され、その他に東洋文庫、そして、わずかながら立正大学にも所蔵されている<sup>(13)</sup>。立正大学が所蔵する梵文写本とは、大乘經典『華嚴經入法界品』(Gaṇḍavyūha) である ([図4])。



[図4]

同写本についてはすでに、『請来資料目録』等にて解説を付した<sup>(14)</sup>。この写本は完本であり、また東大所蔵とされながらもその後所在不明となり、鈴木大拙 (1870-1966) がこのことを「関東大震災で焼失した」と説明しているものであった。同写本は、慧海によってネパールより将来された後、泉芳環 (1884-1947)、隈部慈明 (1881-1919)、玉代勢法雲 (1881-1956) の3名によって謄写が行われ、1924年、それに基づいて鈴木大拙が世界に先駆けて校訂本を出版したのであった。この校訂テキストの底本が現在は当館に所蔵されている同写本であったわけである<sup>(15)</sup>。

なお、当館所蔵の H.A. Jaschke 著 *A Tibetan-English dictionary* (The charge of the secretary of State for India in Council, 1881, 洋洋075) には、内題紙への書入れの他に、ネパールの切手が貼付されている ([図5])。同一の切手が、東北大学所蔵「河口コレクション」に収められている<sup>(16)</sup>。



[図5]

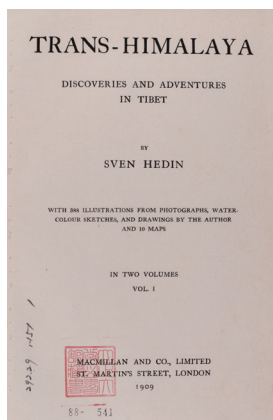


## 2.2.3 チベット

当館所蔵の慧海旧蔵書中には、チベットに関する書籍も多数見出される。例えば、Sarat Chandra Das 著 *Journey to Lhasa and Central Tibet* (John Murray, 1904, 洋洋053) があるが、これには「河口慧海蔵書／大正二年十月廿五日／著書ヨリ金九留十二安ニテ得ル」との書入れがある。また著者自身から寄贈されたものと推定される Sven Hedin 著 *Trans-Himalaya, vol. 1 & 2* (Macmillan, 1909-1910, 洋洋054・055) がある。そして Perceval Landon 著 *Lhasa* (Hurst & Blackett, 1906, 洋洋056)、また Woodville Rockhill 著 *Tibet* (Wên tien ko shuchuang, 1939, 洋洋069) がある。

これらの中で特筆すべきものに、スヴェン・ヘディン (Sven Hedin, 1865-1952) 著にして著者自身より寄贈されたと推定される『トランスヒマラヤ』(洋洋054・055) がある ([図6]、[図7])。

同書は全3巻よりなり、当館所蔵のものは2巻までであるものの、それらは、ヘディンが慧海に贈ったものと推定される点において、極めて重要である。ヘディンが同著2冊を慧海に贈るつもりでいたこと、そして実際に2冊受領の礼状を慧海がヘディンに送っている



[図6]



[図7]

ことは、ドイツの大出版社主 A・ブロックハウス宛の書簡に「私は河口に、彼の本のお返しに、(トランスヒマラヤ) 英語版の見本を送るつもりです。遺憾ながら彼の本をまだ読む時間がないのです。不思議なことに、彼は日本では全く尊敬されていないのです。東京の地理学界では、彼がどこにいるか全く知らせていないと皆言っています」(1909年11月2日付 ヘディンからブロックハウス宛) と指摘されている<sup>(17)</sup>。

1910年3月2日付でベナレスのヒンドゥー大学から慧海がヘディンに宛てて投函したという手紙の和訳を引用すると次の通りである。<sup>(18)</sup>

拝復

1909年10月21日付のご親切なご返事、ありがとうございます。またロンドンのマクミラン社を通して貴重なご著書、『トランスヒマラヤ』を拝受いたしました。この約三カ月ほど、インドの仏蹟を巡礼いたしておりましたものですから、すぐにご返事を差し上げることができず、誠に申し訳ございませんでした。

(中略)

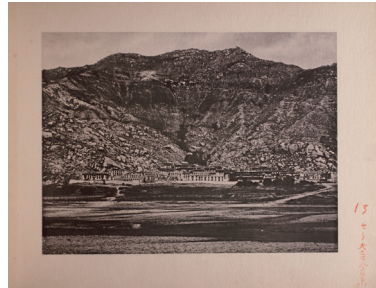
ご親切な贈物に、心からお礼申し上げます。あなたの言われます通り、いつかどこかでお目にかかれませば、うれしい限りです。心より敬意をもって。

敬具  
河口慧海

ヘディンが慧海に贈ったとされる『トランスヒマラヤ』2冊の所在について、これまで言及されたことはなかったが、今回の調査により、それが現存していることが確認されたといえる。

この他に、J.C. White が撮影した *Tibet and Lhasa* (Johnston and Noffmann, [1908], 洋洋059) がある。同書は、稀覯本として知られるようであるが、当館所蔵のものには、さらに慧海による書き入れも見られる。そこにキャプションと図表番号のようなものが見られることから、彼はそれを何かに使用した（あるいはしようとしていた）ようである（〔図8〕、〔図9〕）。

またチベット語の文法書には、C.A. Bell 著 *Manual of Colloquial Tibetan* (Baptist Mission Press, 1905, 洋洋073) や、Sarat Chandra Das 著 *An Introduction to the Grammar of the Tibetan Language* (Darjeeling Branch Press, 1915, 洋洋074)、H.A. Jaschke 著 *Tibetan Grammar* (Trubner, 1883, 洋洋076)、そして Graham Sandberg 著 *Hand Book of Colloquial Tibetan* (Thacker, Spink, 1894, 洋洋077) があり、辞書には H.A. Jaschke 著 *A Tibetan-*



〔図8〕

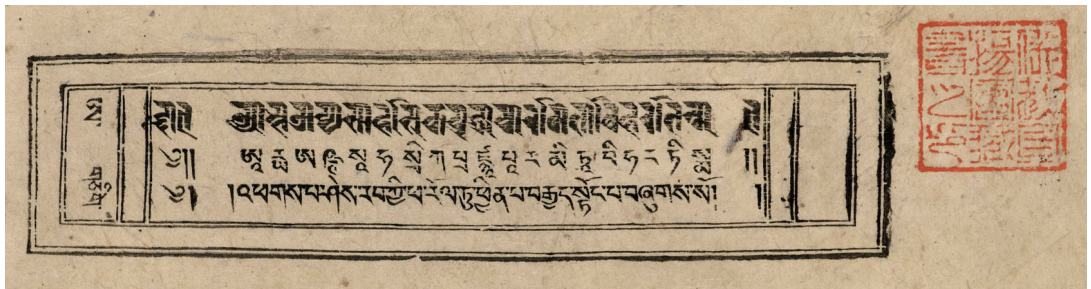


〔図9〕

*English Dictionary* (The charge of the secretary of State for India in Council, 1881, 洋洋075) がある。

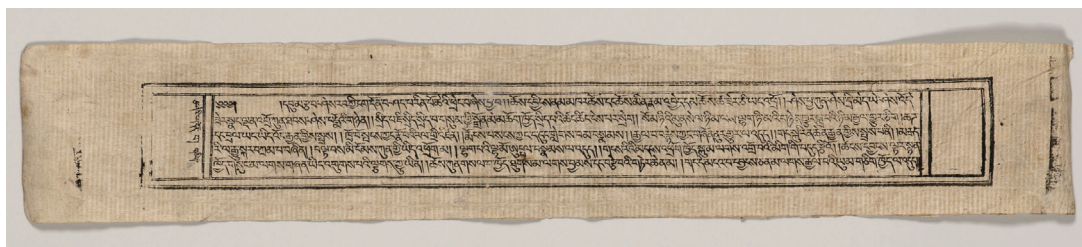
ところで、慧海がチベットより将来した文献資料には、チベット大蔵経と、蔵外文献等とがあり、それらの現所在については本書でもすでに「概要」に示した。このうち、後者について、特に彼の第1回入蔵時に入手された文献リストは、通称「Walsh リスト」として知られ、それは公表されている。<sup>(19)</sup>ここでは、同リストに記載され、また当館が所蔵する2点の文献資料について紹介する。

まずはチベット語訳『八千頌般若』(*'Phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa brgyad stong pa*, 請来008) である（〔図10〕）。同書については、他において詳細を記した。<sup>(20)</sup>これは「Walsh リスト」に記載されるものと書誌が一致し、かつ他の機関に所蔵が確認されていないものである。このことから、慧海旧蔵書中に見出される同書は、慧海第1回入蔵時に入手されたものであると考えられる。



〔図10〕

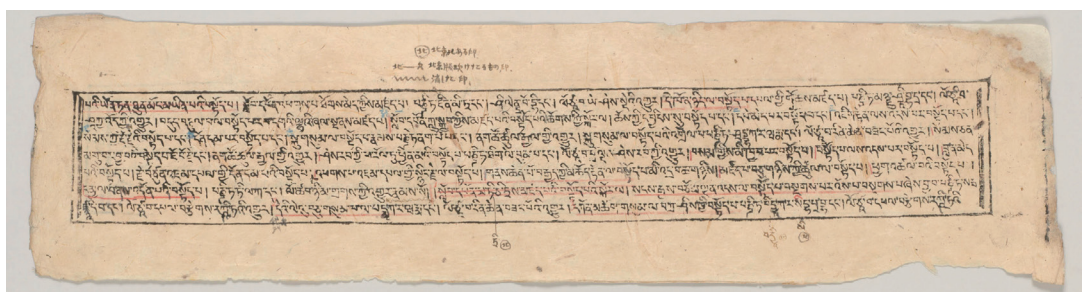
次にダライ・ラマ5世 (dGe 'dun grub pa) 著『根本中般若の語義解釈「寶鬘」』(*dBu ma rtsa ba shes rab kyi ngag don bshad pa rin po che'i phreng ba*, 請来013) である。これもまた、「Walsh リスト」に記載されながら、その所在が不明なものであった。当館所蔵のそれとリスト記載のそれとは、書誌が一致している（〔図11〕）。なお、同論の全和訳が出版されている（ツルティム・ケサン&三木 [2017]）。



[図11]

このように、当館所蔵の旧蔵書は、その存在が未確認であったものが含まれている点に特徴があると見える。

なお、以上の他に当館には、『ナルタン版テンギユル目録「梵声」』(*bsTan bcos 'gyur ro cog gsung bar du bsgrubs pa'i dkar chag tshangs pa'i dbyangs*, 請来007)がある([図12])。



[図12]

ところで、慧海はチベットのパンチェン・ラマとナルタン版カンギユルとテンギユルを黄檗版大蔵経と交換している。<sup>(21)</sup>この黄檗版大蔵経は釈大眞(1873-1916)が準備したものであり、同氏は興然のもとで慧海とともにパーリ語を学んだものであるが、河口慧海はこの人物から浦上隆應著『真言宗綱要』(真言宗聯合大學叢、1905年、洋和128)を受け取っており、それが当館に所蔵されている。そこには「釈大眞師より寄贈／河口慧海」と書入れがある(本書洋装本目録、洋和128を参照)。

この他、『鎮州臨濟慧照禪師語録』(和版105)には、タシルンポ寺のパンチェン・ラマの印が印刷された厚紙1枚(8.8×5.8cm)が挟み込まれている。同印は東北大学所蔵「河口コレクション」や、河口慧海著作集にも収められている。<sup>(23)</sup>また同書には「先陀婆」に対して、慧海によってデーヴァナーガリー文字で“saimdhavaḥ”と注記されている(青鉛筆、4丁裏、本書和装本目録、和版105に写真を掲載)。慧海は「法華經中妙音語義の研究について」において、『大涅槃經第九』(大正藏21頁A)からの引用としてこの「先陀婆」について言及し、その原語について“saindhava”として説明している。<sup>(24)</sup>このような書入れはその際になされたものの可能性もある。



## 2.3 慧海の事績と寄贈書 附年表

ここでは、当館所蔵の慧海旧蔵書における書入れの内、寄贈や入手等に関するものを年表形式で提示する。日付のないものは該当書の発行年などを記したが、当然のことながらこれは慧海の入手時期を示すものではない。ただし、著者が刊行と同時に慧海へ贈ってれば、発行年と入手時期が一致する場合もあるだろう。また慧海の蔵書整理ラベルが見られるものは、日付の下にラベル番号を記載している。

なお、以下の記録の中には慧海の蔵書印が押印されたものもある。彼の印譜についてはすでにまとめて紹介されたものがあり、それらを参照されたい（以下の表は小此木・庄司が共同で作成したものである）。

年月日	書入れ	書名等
[1895年発行]	Presented to the Rev. Ekai Kawaguchi of Japan, with the kindest regards love of ■ ■	Paul Carus <sup>(26)</sup> , <i>The Gospel of Buddha, According to Old Records</i> , 1895 (洋洋036)
1897 (明治30) 年 3月17日 「以五、3、1」	明治三十年三月十七日目白僧園ニ於て積秀戒師より之を受く <sup>(27)</sup> 積秀戒は積大真か、解題3.3を参照。洋和128は大真による寄贈。	[探盈編]『異譯心經』1892年(和版029)
[1897年発行] 「に1、14」	This Book belongs to A. ■ Rev. J.A.	J.A. Graham, <i>On the Threshold of Three Closed Lands</i> , [1897] (洋洋066)
1902 (明治35) 年 7月	野中完一氏寄贈 明治三十五年七月於藍山莊順敬識	鳥居龍蔵『紅頭嶼土俗調査報告』1902年(洋和172)
	本書には「鷺尾順敬所蔵圖書」が押印。野中完一氏による寄贈は鷺尾宛の可能性あり。鷺尾順敬は「河口慧海老師後援会」の発起人の一人。鳥居龍蔵(1870-1953)は明治～昭和期の考古学者、人類学者。 <sup>(28)</sup> <sup>(29)</sup>	
1903 (明治36) 年 10月9日	癸卯(明治36年)十月初九日 河口慧海兄見来訪 出迎著一部御博粲 鳳洲弘	土屋弘『晚晴樓文鈔二編』1901年(和版136)
	土屋弘(1842-1926)は江戸時代末期～大正期の教育者。鳳洲は土屋弘の号。慧海は15歳の時に鳳洲の晚晴書院で漢学を学んでいる。同氏の葬式は神式であったが、遺言により通夜では慧海が経をあげたという。 <sup>(30)</sup> <sup>(31)</sup>	
1904 (明治37) 年 6月14日	明治三十七年六月十四日 本郷東片町の書店にて求む 慧海	天親『文殊師利菩薩問菩提經論』[ほか] [江戸中期] (和版022)
[1905年発行]	積大真師より寄贈 河口慧海	浦上隆應『真言宗綱要』1905年(洋和128)
	積大真は慧海がパンチェン・ラマへ黄檗版大蔵経を贈る際にその準備にあたった。 <sup>(32)</sup> 浦上隆應(1856-1926)は明治～大正期の真言宗僧侶。無量寿院門主、御室派管長。 <sup>(33)</sup>	

1906 (明治39) 年 4月15日	ベナレス神智学会より二留ニ調之 明 治三十九年四月十五日 慧海 <sup>(34)</sup>	Annie Besant, <i>The Bhagavad Gītā</i> , 1905 (洋洋014)
1906 (明治39) 年 5月5日	明治三拾九年五月五日別ニ牛津大学ヨ リ (アーデ) 書店ヲ通ジテ受取代金金 二拾留五安ヲ支拂ス。  南條文雄 (1849-1927) は明治~大正期の梵語学者 <sup>(35)</sup> 。哲学館にて慧海に梵語を 教えた。	南條文雄『大明三藏聖教目録』1883 年 (洋和064)
1907 (明治40) 年 6月7日	明治四拾年六月七日日本書ヲ始習ス 慧 海 [印「慧海」]	Sir Ramkrishna Gopal Bhandarkar, <i>Second Book of Sanskrit, Being a Treatise on Grammar, with Exercises</i> , 1883 (洋洋083)
1907 (明治40) 年 12月	To Rev E Kawaguchi with author's best regards Dec. 1907	Śrī Matthendra Ṭhākura, <i>Nava Rat- namālā</i> , [1---] (洋洋096)
[1907年発行]	Presented to my dear friend Rev. Ekai Kawaguchi. J.N. Unwalla	J.C. O'Connor and C.F. Hayes, <sup>(36)</sup> <i>English-Esperanto Dictionary</i> , 1907 (洋洋085)
[1908年発行]	To the learned and much travelled Sra- mana Shri Ekai Kawaguchi with the kind best regards of the author. 23-5-9 G.D.	Govinda Das, <i>Hinduism and India</i> , 1908 (洋洋003)
1909 (明治42) 年 7月19日	明治四十二年七月十九日求之 三留十 安 河口蔵書	Central Hindu College, <i>Sanātana Dharma</i> , 1904 (洋洋007)
1909 (明治42) 年 8月7日	明治四十二年八月七日著者ヨリ求之 河口慧海蔵書	P.N. Patankar, <i>The Abhijñānaśakun- tala of Kalidasa</i> , 1902 (洋洋093)
1909 (明治42) 年 10月13日 「以五、3、19」	仏陀伽耶摩訶菩提會ヨリ借讀す其后ス マンガラ僧ヨリ受く 明治四十二年十 月十三日  摩訶菩提會 (Mahābodhi Society) は「1891年、セイロンの仏教運動家ダルマ パーラが、インド仏跡の復興を目指してコロomboで設立した団体 <sup>(37)</sup> 」。	鳩摩羅什『梵網經盧舍那佛說菩薩 心地 法門品第十』[明治期刊] (和 版060)
1909 (明治42) 年カ	印度佛陀伽耶ニテスマンガラ僧ヨリ得 シモノナリ 慧海 誌	智顛『天台小止觀』1877年 (和版 068)
1910 (明治43) 年 7月16日	明治四十三年七月十六日 ウヌワラ教 授ニ■テ孟買書店ヨリ求ム 菩提樹軒 蔵書  「菩提樹軒」とは、インドの中央ヒンドゥー学院の教授寄宿舎のことで、河口 慧海がこのように名付けたものである。彼はここに滞在し、同学院のウヌワラ (Unwalla) 教授から梵語を学んだ <sup>(38)</sup> 。この寄宿舎の写眞が、東北大学文学部「河口 コレクション」中に残されている <sup>(39)</sup> 。	Pandurang Vaman Kane, <i>Sāhi- tya-darpaṇa</i> , 1910 (洋洋094)
1910 (明治43) 年 8月24日 「に1、13」	金二留二安 明治四十三年八月廿四日 求之 菩提樹軒主人誌	Roper Lethbridge, <i>Selections from Modern English Literature</i> , 1896 (洋 洋100)



1910 (明治43) 年 9月	贈 在ベナレス市 河口慧海道兄 明治四十三年立秋日 日本. 名古屋市外木ヶ崎 織田恵秀	木津無庵『佛教世界年契梗概』1910年 (洋和033)
	織田恵秀 <sup>(40)</sup> は名古屋の臨濟宗長母寺の住職で、1909年に慧海にあてた手紙が残っている。	
1911 (明治44) 年 5月3日	明治四十四年五月三日印度カルカッタ市 タカス、ピンク、書肆ヨリ金二十二留八安ニテ、求ム 河口慧海誌	H.A. Jaschke, <i>A Tibetan-English Dictionary</i> , 1881 (洋洋075)
1911 (明治44) 年 5月17日	“rdo rje gling lha sa bi lla la bzhug pa'i skabs su phun sum tshogs pa shar phyogs bhang ga la'i yul gyi paṅ ḍi ta shri sha ra ta tsan dras ja pan yul gyi mkhan chen bla ma shes rab rgya mtsho ming can e ka'i ka ba gu ci la phul lo 17th may 1911.” (ダージリンのラサ・ヴィラに滞在したときに、円満な西ベンガルのパンディタ・シュリー・サーラット・チャンドラが、ジャパンの偉大な賢人・ラマであるシェーラブ・ギャンツォという名をもつエカイ・カワグチに差し上げたのである。1911年5月17日)	『語の解説、三十頌の語義「燈の鏡」』(sGra'i bstan bcos sum cu pa'i tshig don gsal ba'i me long) (請来020)
	シュリー・サーラット・チャンドラ (・ダス) は『チベット旅行記』にも登場し、慧海は同氏からチベット語等を学んでいる。 <sup>(41)</sup>	
1911 (明治44) 年 10月 「は五、1、1」	贈呈 河口慧海師座右 明治四十四年十月吉旦 [印「寛慶」「卓禪」]	東嶺圓慈『華嚴普賢行願品宗通畧疏』1895年 (和版101)
	印記から、寄贈者は妙興寺住職、のち臨濟宗大学学長、大徳寺七代管長、大徳僧堂師家となる松岡寛慶 (1876-1934) と考えられる (卓禪は字)。慧海はこの時ベナレスに滞在中だったが、松岡は積大真と1910年10月から翌6月 (小島 [1973: 575]) まで仏跡巡礼のためインドに赴いている。 <sup>(42)</sup> 同書は帰国後、慧海へ贈ったものか。	
1912 (明治45) 年 6月3日	明治四十五年六月三日 金剛寶土ニテ 慧海誌	[神像写真] (洋和032)
1912 (明治45) 年 10月19日	Presented to Rev. Ekai Kawaguchi Darjeeling Sarkar 10.19.12	Benoy Kumar Sarkar, <i>The Science of History and the Hope of Mankind</i> , 1912 (洋洋070)
[1912年発行]	Presented to mr. E. Kawaguchi with compliments from C. Dara azimganj	Herbert Warren, <i>Jainism, in Western Garb, as a Solution to Life's Great Problems</i> , 1912 (洋洋013)
1913 (大正2) 年 10月25日 「イ4、14」	河口慧海蔵書 大正二年十月廿五日 著書ヨリ金九留十二安ニテ得ル	Sarat Chandra Das, <i>Journey to Lhasa and Central Tibet</i> , 1904 (洋洋053)

[1913年発行]	進呈 河口慧海師 星野花子	藤井宣正 <sup>(43)</sup> 『佛教辭林』1913年(洋和034) 慧海は晩年の冬、伊東の星野花子氏の別荘(竹影荘)で世話になることもあったという。 <sup>(44)</sup>
[1914年発行]	To Rev. Ekai Kawaguchi from Rabin-dranath Tagore	Rabindranath Tagore, <i>One Hundred Poems of Kabir</i> , 1914 (洋洋091) アジア人としてはじめてノーベル賞を受賞したラビンドラナート・タゴール(1861-1941)は、インドの詩人、思想家。1915年に河口慧海は「亡國的思想家としてのタゴール」を『中外日報』誌上において連載している。 <sup>(45)</sup> この他に「ガガネンダラ・ナート・タゴール氏に就いて」という一文も残しているが、この人物は同じタゴール一族の別人。 <sup>(47)</sup> またタゴールの写真は東北大学の「河口コレクション」にも収められている。 <sup>(48)</sup>
1915(大正4)年 6月21日	Presented to Sramana Ekai Kawaguchi as a token of sincere respect. 21st June 1915. Sivanath Sastri	Pandit Sivanath Sastri, <i>The Mission of the Brahma Samaj or the Theistic Church of Modern India</i> , 1910 (洋洋044)
1915(大正4)年 7月1日	Presented to Rev. Ekai Kawaguchi the illustrious Life for Pilgrim Traveller & Scholar with the Kindest regards of his Kind Sarat Chandra Das Lhasavilla, Darjeeling, 1st July 1915 大正四年七月一日 金剛寶土、ラハサピラニテ サラット、チャンドラダース氏ヨリ 受之。	M. A. Sherring, <i>The Sacred City of the Hindus</i> , 1868 (洋洋063)
1915(大正4)年 7月27日	J.N. Unwalla Benares 1914 Presented to my esteemed & dear friend with undying my love-to Sramana Ekai Kawaguchi. J.N. Unwalla Benares. 27th July 1915	F. T. Brooks, <i>Neo-theosophy Exposed</i> , 1914 (洋洋015)
[1915年発行] 「は [ ]」	拝呈 河口慧海老師 高島圓上	荻原雲来『梵漢對訳佛教辭典：翻譯名義大集』1915年(洋和042) 荻原雲来(1869-1937)は明治～昭和期の仏教学者、梵語学者。大正大学教授。 <sup>(49)</sup>
[1915年発行]	拝贈 河口慧海師 辱知 西崖	大村西崖『支那美術史彫塑篇』1915年(洋和186) 大村西崖(1868-1927)は明治～大正期の美術史家。東京美術学校教授。 <sup>(50)</sup> 慧海はチベット仏教、特にチベット密教の理解について、大村西崖撰『密教發達志』(1918年)への批判を内実とする「密教發達志批判」を著している。 <sup>(51)</sup>
1916(大正5)年 7月12日	大正五年七月十二日 進呈ロゼンベルグ O Rosenberg 河口慧海様	オ、ロゼンベルグ『佛教研究名辭集』1916年(洋和043)
[1918年発行]	謹呈河口老師 著者	鈴江万太郎『実用蒙古語初歩』1918年(洋和211)
[1919年発行]	進呈(宛名なし)	柴田一能『母の面影』1919年(洋和045)

1919 (大正8) 年 5月16日 「へ様の二 下」	寄贈 河口慧海先生 大正八年五月十六日 著者拜 (印度ネパール西藏将来品圖録 各一冊共三冊 印度佛蹟圖録 へ様の二下)	岡教遂『印度佛蹟写真帖』1918年(和版113)
1922 (大正11) 年 9月23・24日頃	「古書籍展覽會」の札に「川口恵海(様)三冊(金)老円五十匁 釈迦譜要畧」日付印の一部「11.9.2■ 印」あり	土屋正道『釋迦譜要畧』1880年(和版010)
1922 (大正11) 年 11月3日	慧海老和尚南留 屬提弟子米舫乖贈 壬戌十一月三日 [印「佛足研齋」]	田口米舫『吳昌碩書畫譜』1921年(和版115)
	田口米舫(1861-1930)は明治~昭和初期の書家。 <sup>(53)</sup>	
1923 (大正12) 年 3月20日 「に三、4、3」	大正十二年三月廿日下谷鈴木商店ニテ金八円ニテ三卷購求 仏宣 慧海誌	隨天『緣山三大藏目錄』[明治期](和版007)
1923 (大正12) 年 1月	贈呈河口慧海産 大正十二年元旦 中村長安	『中嶽靈廟碑帖』1915年(和版116)
[1923年発行]	河口先生 著者拜書	岡教遂『梵文和譯法華經』1923年(洋和121)
	岡教遂は「河口慧海老師後援会」の発起人の一人。 <sup>(53)</sup>	
1926 (大正15) 年 2月20日	No.40 大正(十五年)年(二月)二十日(河口慧海)殿 著者(福田精齋)	福田精齋『西藏古寫經』1926年(和版046)
	福田精齋は京都中京区大宮通り三条の福田精齋薬房と関連か。同書の奥付の住所は同房と同じ大宮通り三条とある。 <sup>(54)</sup>	
[1926年発行]	奉呈 恩師 河口先生 池田澄達	von Friedrich Weller, <i>Das Leben des Buddha von Āśvaghoṣa: tibetisch und deutsch</i> , 1926 (洋洋098)
	池田澄達は「河口慧海老師後援会」の発起人の一人。 <sup>(55)</sup>	
[1927年発行]	謹デ恩師河口慧海先生ニ捧グ 弟子 隆純	田島隆純『藏漢對譯大日經住心品』1927年(洋和126)
	田島隆純(1892-1957)は、大正~昭和期の真言宗豊山派僧侶。仏教学者、大正大学教授。 <sup>(56)</sup> また巢鴨拘置所教誨師も務めた慧海の弟子 <sup>(57)</sup> (洋和126も同氏からの寄贈)。	
[1927年跋]	河口先生 慧照 胡瑞霖贈	宗喀巴『浪忍科判』1927年跋(和版008)
	胡瑞霖(1876-1943)は日本への留学経験もある在家の仏教学者。 <sup>(58)</sup>	
[1927年発行]	呈 慧海先生 著者 [印「桂月」]	松林桂月『田能村竹田』1927年(洋和188)
	松林桂月(1876-1963)は大正・昭和期の日本画家。「河口慧海老師後援会」の発起人の一人。 <sup>(60)</sup>	

[1927年発行]	河口慧海先生 著者	藤井草宣『佛教日本の自覚：藤井草宣随筆集』1927年（洋和044）
[1927年発行]	拝呈（宛名なし）	高島米峰『思ふまゝ：随筆』1927年（洋和002） 高島米峰（1875-1949）は明治～大正期の仏教運動家。東洋大学教授。また同氏は哲学館の出身で、後に丙午出版社を創立し、さらには東洋大学学長を務めた人物である（洋和130、同042も同氏からの寄贈 <sup>(61)</sup> ）。
1928（昭和3）年	中華民國十七年四月初吉 大日本大佛學家 河口居士游歴燕京 光臨敝寺 攀談甚快持此御贈聊誌紀念 北京柏林寺住持台源手題 [印「台源之印」]	丁福保『佛學大辭典』1925年（和版006） 台源（-1937）については『中國佛教近代史』を参照 <sup>(63)</sup> 。
1930（昭和5）年2月	呈河口兄 昭和五年二月 常盤大定	常盤大定・關野貞『支那佛教史蹟評解 5』1928年（洋和030） 常盤大定（1870-1945）は明治～昭和期の仏教学者、真宗大谷派の僧。東京帝国大学教授、東洋大学教授 <sup>(64)</sup> 。
[1930年発行]	不折呈 河口老師 惠存	下中彌三郎『書道全集 第2巻 樂浪・前漢・後漢刻石文』1930年（洋和192） 中村不折（1866-1943）は明治～昭和期の洋画家、書家。太平洋美術学校校長。同氏は「河口慧海老師後援会」の発起人の一人 <sup>(65)</sup> 。
[1930年発行]	To my honored teacher Rev. Ekai Kawaguchi with the regards of the author Dwight Goddard	Dwight Goddard, <i>The Buddha's Golden Path</i> , 1930（洋洋037） ゴダード（1861-1939）は同書の序文において自分が仏教徒になるきっかけとなったのが河口慧海だと述べるほか、著作の中で慧海について言及している <sup>(67)</sup> 。
[1931年発行]	拝呈 米峰 生	高島米峰『本願寺物語』1931年（洋和130）
1932（昭和7）年	謹呈 正 河口慧海先生 昭和七年 榛葉元水 [印]	榛葉元水『般若心經大成』1932年（洋和117） 榛葉元水（1866-1954）は還暦後、般若心經研究に励んだという <sup>(68)</sup> 。
[1932年発行]	謹呈 河口慧海老師 著者	神林隆浄『弘法大師の思想と宗教』1932年（洋和129） 神林隆浄（1876-1963）は明治～昭和期の真言宗豊山派僧侶、仏教学者、大正大学教授、真言宗豊山派事相専門道場長 <sup>(69)</sup> 。
1933（昭和8）年11月4日	「特殊郵便物受領証」の「受取人氏名」に「河口慧海」、差出人宿所氏名に「代田六三五の一 河口半瑞」、消印は「淀橋 8.11.4 后4-8」	『古易陶朱占』[江戸後期写]（和写001） 河口半瑞（善七）は慧海の実弟 <sup>(70)</sup> 。『古易陶朱占』には、半瑞が慧海へと送った郵便物の受領証が挟み込まれていた。

[1933年発行]	With compliments from Staël-Holstein	von Staël-Holstein, <i>A Commentary to the Kācyapaṭarivarta</i> , 1933 (洋洋041)
1934 (昭和9) 年 4月	昭和九年四月吉辰 河口慧海老師 乞正 不折拜呈	中村不折『(原石初搦) 缺十七行本十七帖・十七帖の研究及口譯』1933年 (和版117)
1934 (昭和9) 年 5月	昭和九年五月吉日 河口老師 大正 不折 拜呈	中村不折『弘法大師書集・弘法大師の書法源流』1934年 (和版118)
1934 (昭和9) 年 10月24日	昭和九年十月廿四日 福田宏一氏より贈らる	福田宏一『三經支那音本』1934年 (和版126)
[1934年発行]	河口慧海先生 著者敬贈	陳垣『元西域人華化考 上』[1934年] (洋和147)
[1934年発行]	中邨不折 拜呈 河口老師 惠存	中村丙午郎『漢老女人經』[ほか] 1934年 (和版119)
[1934年発行]	中邨不折 拜呈 河口老師 惠存	中村丙午郎『蔡襄書謝賜御書詩』1934年 (和版120)
[1934年発行]	中邨不折 拜呈 河口老師 惠存	中村丙午郎『張瑞圖書後赤壁賦』1934年 (和版121)
[1935年発行]	中邨不折 拜呈 河口老師 惠存	中村丙午郎『文三橋草書詩卷』1935年 (和版122)
[1935年発行]	中邨不折 拜呈 河口老師 惠存	中村丙午郎『王鐸書草書詩卷』1935年 (和版123)
[1935年発行]	中邨不折 拜呈 河口老師 惠存	中村丙午郎『梅道人墨竹譜草書』1935年 (和版124)
[1935年発行]	一古名跡寫真帖 六冊 一明拓昭仁寺碑 虞世南書 右進上仕候 中邨不折 河口老師 惠存 (野紙1枚)	『明拓昭仁寺之碑』1935年 (和版125)
	「古名跡寫真帖 六冊」が和版119~124、「明拓昭仁寺碑」が和版125にあたるか。	
1936 (昭和11) 年 9月20日	敬献 恩師河口慧海先生 昭和拾一年九月二十日 田島隆純	R. Tajima, <i>Étude sur le Mahāvairocana-sūtra</i> , 1936 (洋洋043)
1936 (昭和11) 年 10月10日	本書は編者より余に寄贈せるものにして此に記念の為に誌す 昭和十一年十月十日 河口慧海	西尾京雄『藏梵對照翻譯名義大集 西藏語索引 佛典研究第一』1936年 (洋和210)
[1936年発行]	謹呈 著者	Unrai Wogihara, <i>Bodhisattvabhūmi</i> , 1936 (洋洋042)
[1938年発行]	贈呈 東京市麴町区内幸町一ノ二東拓ビル四階 大亜細亜建設社 電話銀座2417	佐藤富江『蒙漢合璧釋尊聖傳』1938年 (洋和059)



[1938年発行]	贈呈 河口慧海教授殿 研右 著者 加藤精神	加藤精神『般若理趣經研精録』1938年(洋和125)
加藤精神(1872-1956)は明治~昭和期の僧侶、仏教学者。真言宗、同宗豊山派管長。豊山大学長、大正大学、東洋大学長を歴任。 <sup>(71)</sup>		
[1939年発行]	贈呈 慧海大和尚 尾陽 悦心九拜	山本悦心『沙弥得度儀範』1939年(和版104)
[1939年発行]	謹呈 河口慧海殿 財団法人東洋文庫	岩井大慧『東洋文庫十五年史』1939年(洋和001)
岩井大慧(1891-1971)は昭和期の歴史学者。財団法人東洋文庫長。慧海は晩年、東洋文庫にて蔵和辞典の編纂にあっていた。 <sup>(72)</sup>		
1942(昭和17)年 5月20日	河口先生蔵書(表) 図書借用証(裏)「福井康順」[昭和17年5月20日]。	Jas. Burgess, Georg Bühler, <i>The Buddhist Stupas of Amaravati and Jaggayyapeta in the Krishna District, Madras Presidency, Surveyed in 1882, 1887</i> (洋和025)
「図書借用証」は大正大学図書館のものである。このことから、同書はここに記される昭和17年の時点で同図書館に保管されていたものと推定される。関東大震災後の1923年12月には東京美術学校(現東京芸術大学)に保管してあった将来美術品、所蔵のチベット語仏典、和漢書籍を、全部宗教大学(現大正大学)図書館に委託保管したという。 <sup>(74)</sup>		
1944(昭和19)年 2月	昭和十九年二月 著者 謹呈恩師河口慧海先生	池田澄達『マハーバラタとラーマーヤナ』1944年(洋和008)
1944(昭和19)年 5月21日	謹呈 著者 昭和十九年五月廿一日 河口慧海様	清野謙次『太平洋に於ける民族文化の交流』1944年(洋和171)
清野謙次(1885-1955)は明治~昭和期の病理学者、人類学者。 <sup>(75)</sup>		
1945(昭和20)年 3月20日	昭和二十年三月二日 大正大学長椎尾辨匡 和南	椎尾辨匡 [河口慧海送棺式誄文] 1945年(和写036)
椎尾辨匡(1876-1971)は大正~昭和期の仏教学者、大正大学長、増上寺法主。同資料は慧海の葬儀のために準備されたものである。1945年3月2日の慧海の送棺式には同氏が参列したことが、昭和20年3月16日付『中外日報』に次の通り掲載されている。「河口慧海先生は昭和二十年二月十六日より半身不随となられ二十二日頃一寸起き出された模様であったが、それがわるかったか遂に二十四日正午頃八十歳の高齢で入寂された。送棺式が三月二日(初七日)に行われ、眼疾で御入院中の椎尾弁匡博士が恰も増上寺法主就任などで御多忙の大正大学々長たる御友情から御来謁、御■下さったのには一同感激した。[中略]告別式には更に四月十五日浅草寺で盛大に行われる筈である」。 <sup>(76)</sup> また、当館内部資料(本書冒頭の「旧蔵資料紹介」参照)によると、これは1966年発行の『新釈尊伝』(洋和062)の間に付されていたとのことで、慧海没後、また東西研へ寄贈後に同書に挟み込まれたものと推定される。 <sup>(77)</sup>		

以上の他、『梧窓漫筆後編』(和版134)には洋封筒が挟み込まれていた。表には「本郷区弥生町／三木二七／河口慧海」、裏には「東片町百五十二／逸見梅栄／山■〈墨滅〉形縣谷地町／逸見梅栄」[327]とあるが、表には住所と名前に重ねて飲酒戒について詠んだ五七五の句を書いている(句は

「旧蔵資料紹介」参照)。逸見梅栄(1891-1977)は大正～昭和期の仏光美術学者、多摩美術大学教授であり<sup>(78)</sup>、神林隆浄、干瀉龍祥、橋本凝胤、田島隆純、服部融泰、橋本光宝、壬生台舜らとともに、慧海の元でチベット語を学んでいたことも知られている<sup>(79)</sup>。

## 2.4 おわりに

本項では、当館が所蔵する旧蔵書をたよりとして、慧海の事績や人々との交流を示す資料を提示した。慧海旧蔵のインド、ネパール、チベットに関する書籍には地理や歴史、宗教に関するものが多いことがわかる。

特に注目すべき資料としては、インドのブッダガヤーにおいてスマンガラより入手した『天台小止観』(和版068)や、ネパール首相チャンドラ・シャムシェールより下付された梵文『華嚴経入法品』写本(請求001)、そしてスヴェン・ヘディンより贈られた『トランスヒマラヤ』(洋洋054・055)、チャンドラ・ダスより贈られた『語の解説、三十頌の語義「燈の鏡」』(請求020)などを取り上げることができる。この他にも、資料への書入れから彼の事績を裏付けるものや、弟子らをはじめとする慧海への寄贈書類が存在する。これらは彼の人的交流を知る上で貴重な記録といえよう。

### 注

- (1) 高本 [2010: 49-81]。
- (2) 清見 [1945: 207]。
- (3) 河口正 [1961: 123-124]、同 [2000: 152-153]、奥山 [2009: 312-313]。
- (4) 河口正 [1961: 35-36]、同 [2000: 37-39]、奥山 [2008]、同 [2016]。
- (5) 著作集1 [1998: 5-6]。
- (6) 河口正 [1961: 129]、同 [2000: 161]。
- (7) 日高&川喜田 [1967: 2]。
- (8) 高山 [1999: 61]。
- (9) 著作集15 [2001: 89-113]。
- (10) 高山 [1999: 62-68]。
- (11) 著作集15 [2001: 572-643; 656-659]、高山 [1999: 55-59]。
- (12) 著作集14 [2000: 8-20]。
- (13) 立正大学大崎図書館 [2013: 73-81]。
- (14) 立正大学大崎図書館 [2013: 81-85]。
- (15) 庄司 [2013]。
- (16) 佼成出版社 [1986: 290 (河5-093-I ~ VIII)]。
- (17) 高山 [1999: 154]、同 [1999: 112] ほか。
- (18) 金子 [2002: 245-246]。
- (19) Walsh [1904]。
- (20) 庄司 [2009]。
- (21) 奥山 [2009: 402]。
- (22) 奥山 [2009: 328]。
- (23) 佼成出版社 [1986: 176 (河2-169-I)] 著作集別巻3 [2004: 395]。
- (24) 著作集16 [2002: 716]。
- (25) 黄檗文化研究所 [1998: 27-32]、著作集別巻3 [2004: 491-496]。
- (26) 奥山 [2009: 160-161]。
- (27) 本書解題3.3を参照。

- (28) 河口正 [1961: 180]、同 [2000: 235]、高山 [1999: 8, 93, 147]、奥山 [2009: 100, 109, 418] ほか。
- (29) 日外アソシエーツ編集部 [2000b: 1395]。
- (30) 日外アソシエーツ編集部 [2000b: 1312]。
- (31) 高山 [1999: 3, 6]、同 [2002: 148-150, 205-206]、奥山 [2009: 26-27, 32, 289]。
- (32) 高山 [1999: 81-82, 101-102]、高山 [2011: 41, 82] ほか。
- (33) 日外アソシエーツ編集部 [2000a: 324]。
- (34) 高山 [1999: 106-107, 128, 132]、同 [2011: 248-249] ほか。
- (35) 日外アソシエーツ編集部 [2000b: 1500]。
- (36) 高山 [2002: 228]。
- (37) 奥山 [2009: 178] ほか。
- (38) 河口正 [1961: 132]、同 [2000: 165]、奥山 [2009: 326]。
- (39) 佼成出版社 [1986: 286 (河5-081)]、奥山 [2009: 323]。
- (40) 河口正 [2000: 161]、奥山 [2009: 327-329]。
- (41) 高山 [1999: 15, 20, 35, 90, 93, 102, 111, 114, 116-120, 122-123, 126-127, 131, 140, 142]、同 [2002: 21, 27, 31, 40, 84, 89, 118, 120, 139, 140, 156, 174, 180, 206, 207, 215, 217, 230]、奥山 [2009: 178-190, 213, 220, 227, 239, 240, 256, 274, 283, 285-286, 301, 303-304, 308, 312, 330, 337, 382, 386, 388-391, 419, 444, 476, 477, 482]、高山 [2011: 26, 39, 51, 220, 238, 240, 247, 254, 255, 264, 269, 293] ほか。
- (42) 高山 [2011: 41, 82]。
- (43) 高山 [2002: 28-29, 90, 113-117]。奥山 [2009: 247, 261, 264-265, 396]。
- (44) 河口正 [1961: 212]、同 [2000: 285, 306]。
- (45) 著作集15 [2001: 526-531]。
- (46) 著作選集10 [2015: 38-40]。
- (47) 高山 [1999: 25, 131-132, 196] ほか。
- (48) 佼成出版社 [1986: 283 (河5-071)]。
- (49) 日外アソシエーツ編集部 [2000a: 456]。
- (50) 日外アソシエーツ編集部 [2000a: 409]。
- (51) 著作集16 [2002: 32-48]。
- (52) 日外アソシエーツ編集部 [2000b: 1188]。
- (53) 河口正 [1961: 180]、同 [2000: 235]、本書解題 1.4 も参照。
- (54) 鈴木昶 [2005: 254]。
- (55) 河口正 [1961: 180]、同 [2000: 235]。
- (56) 日外アソシエーツ編集部 [2000b: 1220]。
- (57) 田嶋信雄 [2006]、奥山 [2009: 433, 435, 485]。
- (58) 于凌波 [1995: 450-452]。
- (59) 日外アソシエーツ編集部 [2000b: 1856]。
- (60) 河口正 [1961: 180]、同 [2000: 235/284/306]、高山 [2011: 289] 奥山 [2009: 473]。
- (61) 日外アソシエーツ編集部 [2000b 1150]。
- (62) 高山 [2002: 53, 138, 140]、奥山 [2009: 290, 390]。
- (63) 東初 [1974: 843-844]。
- (64) 日外アソシエーツ編集部 [2000b: 1357]。
- (65) 日外アソシエーツ編集部 [2000b: 1476]。
- (66) 河口正 [1961: 180]、同 [2000: 235]、奥山 [2009: 41]。
- (67) 高山 [2015: 354 (F0127), 356 (F0140)]。
- (68) 高山 [2015: 114 (E0489)]。
- (69) 日外アソシエーツ編集部 [2000a: 641]。
- (70) 高山 [1999: 2, 5, 96, 102] ほか。
- (71) 日外アソシエーツ編集部 [2000a: 557]。
- (72) 日外アソシエーツ編集部 [2000a: 257]。
- (73) 河口正 [1961: 182-185]、同 [2000: 239-243]。

- (74) 高山 [2015: 13]。
- (75) 日外アソシエーツ編集部 [2000a: 704]。
- (76) 日外アソシエーツ編集部 [2000a: 963]。
- (77) 浅田一 [1945]、河口正 [1961: 216-217]、同 [2000: 292] 奥山 [2009: 85]。
- (78) 奥山 [2009: 433]。
- (79) 奥山 [2009: 433]。

(庄司史生)

## 3 慧海旧蔵書中の目白僧園関係書について

### 3.1 はじめに

本書42頁の「分類構成」を見ても分かるように、立正大学所蔵の河口慧海旧蔵書中には仏教関係書が多い。その中でも「経典」類の数が群を抜くが、「各宗」を見ると真言宗に分類される和装本の数が際立っていることが分かる。真言宗の和装本が多いのは、慧海が真言宗関係者の蔵書を入手したことが原因ではないだろうか。ここで想定される真言宗関係者とは、目白僧園の開設者であった雲照や、神瑩・慶淳といったその弟子たちを指す。本解題では、慧海旧蔵書中の和装本に見られる目白僧園関係者の蔵書を、もとの持ち主の経歴に触れながら紹介していく。加えて、慧海がそれらの蔵書を入手した経路についても合わせて検討したい。

なお、本文の奥書などを記載する際、双行は（ / ）で表し、〈 〉内は解題執筆者による注記を示すこととする。また、立正大学所蔵の河口慧海旧蔵書については、庄司史生氏の先行研究がある<sup>(1)</sup>。本解題はそれらを前提としていることを断っておく。

### 3.2 雲照について

慧海と目白僧園の関係を述べる前に、僧園の開設者である雲照について触れておく<sup>(2)</sup>。雲照は、文政10年（1827）に現在の島根県出雲市に生まれ、明治42年（1909）に没した真言宗の僧である。天保7年（1836）に同県多聞院の真言僧慈雲を師として得度し、大雄房雲照を名乗った。弘化元年（1844）には高野山で伝法灌頂を受け、慈雲没後の嘉永元年（1848）には高野山金剛峯寺の衆徒となっている。

雲照は戒律主義を唱え、明治16年（1883）に十善会を発足した。同19年（1886）には、青木貞三の勧めにより、目白に建立された新長谷寺の住職となり、翌年になるとその地に戒律学校を設立した。この学校を明治23年（1890）に拡充・改称したのが目白僧園である。

雲照は国内だけでなく海外へも目を向けていた。雲照の甥に興然という人物がいる<sup>(3)</sup>。興然は、南条文雄のもとでサンスクリットを学び、雲照の命で明治19年（1886）9月18日<sup>(4)</sup>にセイロン（現スリランカ）へ向けて渡航した。雲照は興然とたびたび書状のやりとりを行っており、同地の仏教について質問したりしている〔草繫1914a: 43-47他〕。また、興然により、ブッダガヤ（釈迦の悟りの地）がヒンドゥー教徒の管理下にあることや、ダルマパーラの大菩提協会が同地の買取りのため奮闘していることを知ると、印度仏蹟復興会を設立し、買取りのための資金集めを行った〔外川2016: 197-199〕。結局、この買取り計画は実現せず、大菩提協会と土地の権利者であったマハントとの間で、長期に渡る抗争に発展したとされる〔同: 200〕。

明治時代、戒律を堅守し、仏教の改革を唱えた雲照は、良くも悪くも高い知名度を誇った。明治期の大手出版社であった博文館は、明治32年（1899）、自社の創業12周年を記念して『明治十二傑』という本を出版している。博文館は、明治時代における日本発展の実相を知るべく、12の部門を設定し、投票により部門ごとの代表者を選んだ。その伝記を掲載したのが『明治十二傑』である〔岸上1899: 凡例 1-2〕。その投票用紙は『太陽』『少年世界』『文芸倶楽部』『中学世界』といった博文



館の雑誌に挿入された。政治家では伊藤博文、教育家では福沢諭吉が選ばれているが、宗教家では南条文雄を押さえて雲照が最多得票を獲得した [坪谷1937: 134-135]。児童雑誌である『少年世界』などにも投票用紙が挿入されていたということは、雲照の知名度が若年層にまで及んでいたことを意味するだろう。

雲照の伝記を担当した長谷川天溪は、雲照を様々な視点から評価しているが、その中で「十善十悪を平易に説明し、因果應報を通俗に解釋し、以て墮落せる現社會を救はむことを務め、一方には僧侶の道徳を清めんと志求するは即ち釋雲照其人なり」と述べている [長谷川1899: 308]。

### 3.3 慧海と目白僧園

慧海と目白僧園の關係に話を戻す。慧海は、明治28年（1895）4月に目白僧園に入園したことが指摘されている [奥山2009: 154]。和版029『異譯心經』の冊尾には、「明治三十年三月十七日目白僧園ニ於て／釈秀戒師より之を受く」という慧海の識語が見られる。この『異譯心經』は、慧海が目白僧園にて入手したことが確実である。

慧海が目白僧園に入園した目的の一つは、興然と顔をつなぎ、興然からパーリ語やインド事情を学ぶことだったと推測されている [同: 155]。慧海が目白僧園に入園した明治28年、興然はすでに帰国しており<sup>(5)</sup>、神奈川県の三會寺で住職を務めていた。慧海は、同年の秋に早くも目白僧園から三會寺に移り、興然からパーリ語を学んでいたとされる [同: 157]。しかし、興然と慧海の關係は良好とは言えなかった。慧海自身の発言によると、小乗教を信奉する興然とたびたび議論となり、明治30年（1897）2月には同寺を追い払われたという [河口1914: 5-6]。

『異譯心經』の識語は、慧海が三會寺を去った翌月に書かれたことになる。さらにそこから3ヶ月ほど経た6月26日、慧海はチベット行きのために神戸港を出港した [奥山2009: 493]。慧海は、三會寺を追われてからチベットに向かうまでの間、再び目白僧園に通うようになった可能性はないだろうか。あるいは、三會寺で学んでいる間も継続して目白僧園に出入りしていたということも考えられる。

ところで、慧海に『異譯心經』を譲った秀戒は、西山禾山（1837～1917）の門弟で獅子林の四哲に数えられた大真秀戒のことだと思われる。<sup>(6)</sup>『続近世禅林僧宝伝』によれば、秀戒は京都府宮津の出身で、明治6年（1873）1月15日の生まれである。同14年（1881）に真言宗の成相寺に入り、翌年に剃髪した。明治21年（1888）に高野山中学林に入り、同25年（1892）には目白僧園にて雲照に師事している [小島1973: 359]。

明治26年（1893）、雲照は外護者であった三浦梧楼<sup>(7)</sup>（1847～1926）の熱海の別荘から、僧園宗徒に向けて書簡を出している。その書簡には、「僧園上中下座」30人の名前が列挙されているが、その最後に「秀戒」の名前が見られる。23人目からは「界内近住」とあるので、秀戒は僧園の近くに住んで通っていたと思われる [草繫1914a: 282-283]。

秀戒は、慧海に『異譯心經』を譲った前後の年に病にかかり、僧園を離れている。明治29年（1896）には鎌倉の扇谷で、同31年（1898）には大阪の箕輪でそれぞれ療養しているが、雲照のもとを去ったのは、京都天竜寺の橋本峨山（1852～1900）のもとに赴いた翌32年（1899）のことだろう。その後、臨濟宗の西山禾山のもとで3年間修行して印可を受けることとなる [小島1973: 359-360]。秀

戒の名は雲照の書簡中に散見されるが、明治37年（1904）11月4日には、雲照が秀戒へ帰園を促す書簡を出している〔草繫1914a: 402-403〕。雲照は秀戒をかなり評価していたのだろう。

秀戒は明治39年（1906）、槇尾山西明寺の副住職となり、同42年（1909）には大阪の了徳院に移った。その翌年には、松岡卓禅と共に渡航し、ベトナム北部・ベトナム中部・カンボジア・タイ・ビルマ（現ミャンマー）・セイロン諸国を巡り、インドへ渡っている<sup>(8)</sup>。なお和版101『華嚴普賢行願品宗通畧疏』は、卓禅が慧海に贈ったものと思われる（解題2.3参照）。秀戒は、大正5年（1916）に再びビルマに赴いたが、アキャブにて病にかかり、同年5月25日にその地で没した<sup>(9)</sup>。

秀戒は興然とも交流があったようで、「興然文献資料」中には、「釈秀戒書状」が2通掲載されている〔伊藤1974: 361〕。1通目の差出人には、「東京小石川目白僧園／秀戒拜」とあるため、ここでも秀戒が目白僧園にいたことが確認できる。あるいは、秀戒が興然に慧海を紹介した可能性もあるのではないかと考えられる。なお、明治38年（1905）出版の洋和128『真言宗綱要』に書かれた慧海の識語によると、この書は「大真師」より寄贈されている。秀戒の字は大真なので、この書も秀戒より贈られたものと考えられる。なお、明治42年（1910）以降の大真（秀戒）と慧海の交流については、奥山〔2009: 328, 353, 388, 402, 404〕にて言及されている。

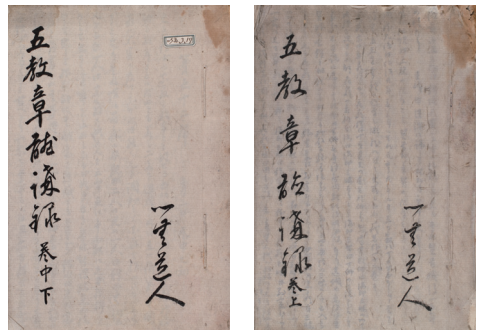
### 3.4 雲照の講義録——『華嚴五教章聴講録』

本目録に収録されている蔵書の中で、慧海が目白僧園の名を記しているのは、先の『異譯心經』のみである。しかし、目白僧園に着目した場合、他にもその関係書を見出すことができる。その一つが、和写007『華嚴五教章聴講録』である。これは、雲照が行った『華嚴五教章』の講義を、弟子の神瑩が記録した書だと考えられる。まずは、神瑩について確認したい。

神瑩は、丹波国松尾寺の懸空の法資で、高野山へ入山の後、明治24年（1891）6月に目白僧園に入園した<sup>(10)</sup>。先に引いた「僧園上中下座」では16番目に名前がある〔草繫1914a: 282〕。明治30年（1897）ごろからは、僧園の後進のために講義を行う立場にあり、同31年（1898）1月からは『法の母』の主筆を務めた。『法の母』は、雲照が明治26年（1893）に設立した夫人正法会の会誌である〔草繫1913a: 年譜25〕。また、明治34（1901）から翌35年（1902）にわたり、慶淳（第6節で後述）と共に、在家の人々のために日曜講義会を開いていたという。しかし若くして肺炎にかかり、明治39年（1906）に34歳で没した。

以上の経歴を見ていくと、神瑩は、雲照の弟子の中でもかなり優秀な人物だったと言えるだろう。

雲照も神瑩をかなり評価していたと思われる。雲照は、明治37年（1904）10月20日付で、インドへ留学中だった快祐に僧園の後事を相談する書簡を出している。その中で雲照は、高田老松町の十善会寺を神瑩に任せるつもりでいたが、今年の春に神瑩が肺炎にかかり全快しないことを述べ、心を痛めている〔草繫1914a: 399〕。また、明治39年（1906）の5月7日に快祐へ送った手紙では、4月4日に神瑩が没したことに触れ、神瑩の行く末を頼もしく思い、頼りにしていたため、その病



『華嚴五教章聴講録』表紙

死に酷く落胆したと記している [同:407]。

『華嚴五教章聴講録』3巻2冊は、共紙表紙の仮綴、袋綴の半紙本(24.4×16.5cm)で、表紙左には「五教章聴講録巻上(巻中下)」、右下には「一無道人」(神瑩の号)と打付書きされている。慧海の旧蔵書であることを示す蔵書管理ラベル(「以五、3、17」)は第2冊目の右上に確認でき、仏教宣陽会の印も1丁表に見られる(ラベルと印については本書「概要」参照)。

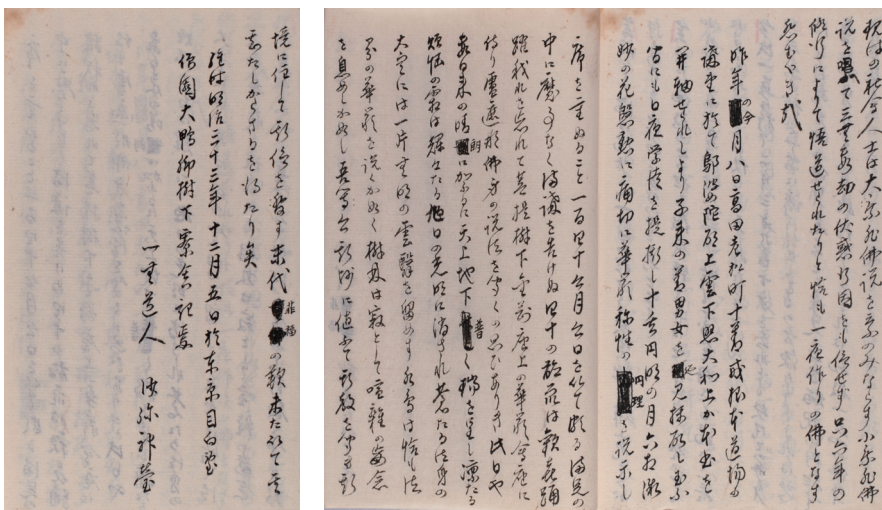
第1冊の表紙にあたる袋綴の内側には、さらに仮綴された袋綴2丁(24.4×16.4cm)が、少し折り曲げられた状態で挿入されている。これには、漢字平仮名交じりの文章が墨書きされているが、筆者は同じく神瑩だろう。表紙の補強のために入れられたか。

第1冊は墨付75丁で後遊紙が3丁、第2冊は墨付62丁で後遊紙が2丁、前付には「華嚴経唯心偈」(1丁表)、「新譯八十華嚴」(1丁裏)、「五教章末疏」(2丁)がある。本文は字高約23.5cm、漢字平仮名交じりで朱による庵点や注記が見られる。

以下長文ではあるが、第2冊に見られる神瑩の奥書を載せておく。文字を墨滅して訂正してある箇所が多いが、訂正後の文字に従い、句読点・濁点を私に補った。

昨年の今年八月、高田老松町十善戒根本道場の講堂に於て、鄔婆陀那上雲下照大和上が本書を開軸せられしより、子來の善男女を延見撰取し玉ふ間にも、日夜学徒を提撕し、十玄円明の月、六相微妙の花、愍愍に痛切に、華嚴称性の円理を説示し、席を重ぬること一百四十、今年今日を以て頗る満足の中に魔事なく、満講を告げぬ。四十の聴衆は歡喜踊躍、我れを忘れて菩提樹下、金剛座上の華嚴會座に侍り、盧遮那佛身の説法を聞くの思ひありき。此日や数日来の晴朗に加ふるに、天上地下普く瑞を呈し、凜たる煩惱の霜は輝々たる旭日光明に消され、蒼たる法身の大定には、一片無明の雲翳を留めず、水鳥は恰も法累の華嚴を説くが如く、樹林は寂として喧雜の歳念を息めしが如し。吾等今斯師に値ふて斯教を聞き、斯境に住して斯信を習す。末代非福の嘆末だ以て其甚だしからざるを得たり矣。

維時明治三十三年<1900>十二月五日於東京目白臺 僧園大鴨脚樹下寮舎記寫  
一無道人 沙弥神瑩



奥書によると、雲照の講義は「高田老松町十善戒根本道場」で行われている。この道場とは、雲照が神瑩に継がせようと考えていた十善会寺(吉祥院)のことだろう。十善会寺は高田老松町十七



番地に位置し、目白僧園との距離は近い〔風俗画報1907: 34〕。神瑩がこの書を記した場所は目白僧園の学寮で、そばには「大鴨脚樹」(=大銀杏)があったようである。大銀杏については、僧園がなくなった後にその跡地を訪れた戒光が、残された「大公孫樹」(=大銀杏)を見てありし日の僧園をしのんでいる〔蓮実1929: 261〕。

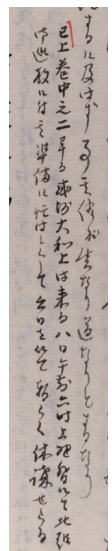
神瑩は、明治35年(1902)10月に『集義廻章』という本を編集発行しているが、その奥付では自身の住所を「東京都小石川区関口駒井町六番地寄留」としている。関口駒井町六番は新長谷寺の住所であり、同じ敷地内にあった目白僧園の住所でもある〔風俗画報1907: 13, 15〕。神瑩は僧園の学寮で生活していたと考えられる。

雲照の講義は、明治32年(1899)12月8日から翌33年(1900)12月5日まで行われた。講義の開始は、巻首題の下に「明治三十二年十二月八日午前七時／於東京小石川区老松町根本道場」とあることでも確認できる。奥書に聴講者は40人とあるが、目白僧園で学んでいた学僧たちだろう。講義は全140回で完結している。『華嚴五教章聴講録』では、第2回目から講義の回数を「第〇席」という形で示し、その講義内容を記述している。最後は第140席となっているので、奥書に示された回数と一致する。ただし、回数の表示だけで内容が記されていないものも多い<sup>(12)</sup>。また、第27席と第31席は回数の表示そのものがない。

神瑩は雲照の講義を記録だけでなく、各回の冒頭などに講義が行われた日付や開始の時刻、天気などを記している。例えば、「第二席」には「九日午前七時より快晴」とある。また、その日行われる講義がテキストのどこから始まるかを示す、巻数や丁数のメモも見られる。第62席には「十七日 中之二初丁」とある。これは中巻第2冊の1丁目から講義が開始されたことを意味するだろう。雲照が講義に用いたテキストは何であったのか。それは、観応が注を附し、宝永3年(1706)に刊行した『華嚴五教章冠註』10巻10冊(上之一～三、中之一～三、下之一～四)だったと考えられる。第62席には、「一丁左註五行の下に能起業の業は果の誤りなり」という記述がある。『華嚴五教章冠註』中之二の1丁裏注文の5行目を見ると、確かにその行末に「能起業」の3文字が確認できる。『華嚴五教章冠註』には、明治18年(1885)4月に刷られた補刻本があるので、<sup>(14)</sup> 入手は容易だったのではないか。

この他にも、次のような休講の記録を注記した例がある。

- ① 先月三十日より埼玉縣千葉縣御巡教にて今日迄休講せり(第2冊、第71席、明治33年4月25日)。
  - ② 已上巻中之二早る戒師大和上は来る八日午前六時上野発にて北越地方／御巡教に付其準備に忙はしくして今日を以て暫らく休講せらる(第2冊、第76席、明治33年5月2日末尾)。
  - ③ 十七日以来秋季授戒乞前行として休講廿一日授戒廿二日布薩(第2冊・第112席・明治33年12月23日)。
- ①の注記によると、雲照は明治33年(1900)3月30日から埼玉と千葉を巡教していた。そのため、4月24日まで講義を休んでいたことが分かる。実際、3月29日は第70席、4月25日は第71席で、この間講義は行われていない。第76席の末尾に記された②には、雲照が5月8日から北陸へ巡教に赴くための準備に忙しく、5月2日の講義後、しばらく休講になったとある。講義が再開された第77席は9月2日に行われているため、およそ



第76席  
注記

4ヶ月も休んでいたことになる。雲照は、明治33年（1900）5月10日に北陸巡教へ向かったことが知られており、新潟の萬善寺で戊辰戦争33回忌、日清戦争7回忌の追善法会などを行った〔石川2008: 93-96〕。神瑩の注記はこの北陸巡教を指すのだろう。③では、受戒の儀式を行う関係で12月17日から22日まで休講したことが分かる。

講義の内容について詳述できる見識はないが、第49席と第52席で「元良博士」を名指しで批判している点が目についた。第52席では、同博士の「宗教と教育とを明せる書」を引いているが、これは、心理学者であった元良勇次郎の『教育と宗教との関係』を指すと思われる。第49席は明治33年2月25日、第52席は同年3月2日に行われている。『教育と宗教との関係』は同年2月5日の刊行<sup>(15)</sup>なので、出版されて間もないものを読み、講義で批判したと考えられる。雲照の仏教教育者としての一面がうかがえる。

「雲照和上著書解題」「論文講義目録」には、『華嚴五教章』に関するものの記載はない〔草繫1913: 附録33-50〕。雲照の著作は多いが、そのすべてが公にされたわけではないだろう。『華嚴五教章聴講録』は雲照の思想や、その活動を確認する上でも有効な資料となる可能性がある。

### 3.5 雲照の蔵書

次に、目白僧園の設立者であった雲照の旧蔵書と推定される蔵書をあげる。

和版048	大日經教主義	ラベル「以五、5、9」。仏宣会印あり。
和版056	十重波羅提木叉和釋	ラベルなし。仏宣会印なし。
和写011	釋摩訶論玄談	ラベルなし。仏宣会印なし。
和写013	釋摩訶衍論謂立集	ラベル「に四、3、1」。仏宣会印あり
和写021	四種曼陀羅義	ラベル「以五、3、12」。仏宣会印あり。
和写027	大日經奥疏由来	ラベルなし。仏宣会印なし。

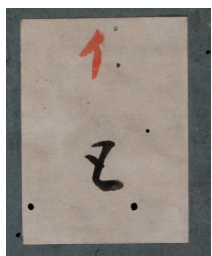
これらの蔵書には、表紙の右下や冊尾に「大雄／雲照」という印が押されている。雲照の印については、「雲照大和上印譜」〔草繫1914b: 口絵〕や、伊藤〔1974〕掲載の雲照の遺墨に押されているもので確認できるが、その中に右の印記は見られない。しかし、雲照は出家時から「大雄房」を名乗っていたとされるため〔石川2008: 19〕、この印が雲照の蔵書印であった可能性は高い。雲照の関係書が多く残されている岡山県倉敷市の宝島寺には、「大雄雲照ノ印記」が押された『四分律行事鈔資持記』があるとされる〔矢上山宝島寺1987: 263〕<sup>(16)</sup>。現物は未見だが、この印記が「大雄／雲照」と一致する可能性もある。確認は後日としたい。



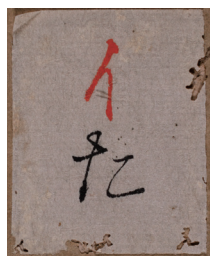
雲照の印 3.2×3.2cm

また、6点中5点には、表紙の右肩に貼紙が見られる点が共通する。『大日經教主義』のみ表紙表面が剥がれてしまっているため、貼紙は確認できない。貼紙には、『釋摩訶論玄談』が「いと」、『四種曼陀羅義』が「いた」、『大日經奥疏由来』が「イリ」と書かれている。片仮名の「イ」はいずれも朱書きである。『釋摩訶衍論謂立集』の貼紙は破れてしまっているが、わずかに朱筆の跡が見られるため、他の3点と同様に朱書きの「イ」と平仮名の組み合わせが書かれていた可能性がある。『十重波羅提木叉和釋』のみは墨書きで「律」とあり、その右上に平仮名の「い」が朱書きされている。





和写011  
釋摩訶論玄談  
4.4×3.3cm



和写021  
四種曼陀羅義  
5.2×4.1cm



和写027  
大日經奥疏由来  
5.7×4.3cm



和版056  
十重波羅提木又和釋  
4.2×3.9cm



和写013  
釋摩訶衍論講立集  
5.7×3.4cm

このような貼紙の文字は蔵書の整理のために書かれている場合が多い。版本の『十重波羅提木又和釋』のみが片仮名と平仮名の組み合わせでないのは、版本と写本が別々に整理されていたためと見ることできる。これらの貼紙は、雲照によって貼られた可能性もあるだろう。ただし、『十重波羅提木又和釋』には宇佐美賀山（施檀林吉祥寺の住職か [川合・宇佐美1897: 緒言]）という人物の印も見られるため、貼紙も宇佐美の手によるということも考えられる。いずれにしても、この貼紙は慧海によるものではないだろう。慧海は、和装本の表紙に「以五、5、9」のように書かれたラベルを貼り、蔵書の管理をしていたことが指摘されている [庄司2015b: 284]。

印や貼紙という共通点がある一方で、『十重波羅提木又和釋』『大日經奥疏由来』『釋摩訶論玄談』の3点には、慧海旧蔵書の証拠となるラベルや仏教宣揚会の印が見られない。慧海旧蔵書の認定基準（本書「概要」31頁参照）を満たしていないが、本目録ではこれらを推定慧海旧蔵書として掲載した。

本書の「概要」にて述べられているように、庄司史生氏が調査に入った段階で、東西文化交流研究所（以下、東西研）寄贈の和装本は、立正大学品川図書館が所蔵する他の未登録本と混配され、その一部は慧海旧蔵書と認識されないまま登録されていた。東西研と無関係な未登録本は、立正大学関係者や日蓮宗寺院から寄贈されたものが大半である。雲照の旧蔵書が東西研と別のところから寄贈された、という可能性も完全には否定できないが、雲照の印が押されている6点のうち、3点が慧海旧蔵書と判明している。証拠のない3点に慧海旧蔵書であることを否定する要素がない以上、雲照の印記が見られる未登録本も慧海旧蔵書に含めてもよいと考える。

以下、4点の写本について簡単に述べておく。

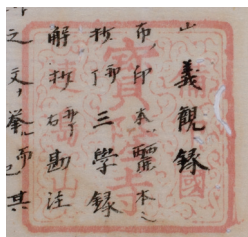
### 和写011『釋摩訶論玄談』1冊

『釈摩訶衍論』の解説書。著者は冒頭に「高野山 義観」とある。浅葱色の無地表紙で、左肩の書き題簽（15.2×3.6cm）に「釋論玄談 全」と書かれている。装訂は袋綴の半紙本（23.3×16.0cm）で四つ目綴。本文は墨付17丁で、毎半丁11行17字前後、字高は20.6cm。漢文で訓点があり、上欄に本文と同筆の注記が見られる。書名は巻首題による。奥書は以下の通り。

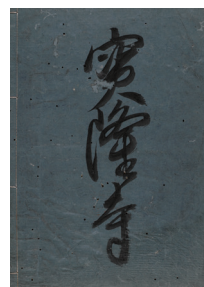
于時嘉永第三（1850）戊三月吉祥日谷上安楽院／明幢大徳師於同院積論常講尺砌同谷三／苦精舎南窓下書寫之畢／秘密乘未資／圭譽堯尊房

見返し紙（袋綴）の内側に、「金剛峯寺西室院會下／沙門堯尊房」と書かれているため、奥書の堯尊は、高野山金剛峯寺の西室院の僧であることが分かる。

この本の巻頭には、「備中國／寶隆寺／連島山」の印が押されており、裏表紙には大きく「寶隆寺」と書かれている。そのため、この本が宝隆寺の旧蔵書であったことは確実である。この宝隆寺は、現岡山県倉敷市連島町西之浦に所在する寺院だろう〔全国寺院大鑑1991: 下1612〕。



宝隆寺の印 5.8×5.8cm



裏表紙

雲照と宝隆寺に直接的な関係があるかは不明だが、雲照は明治7年(1874)3月に、宝隆寺と同じ連島町の矢柄にある宝島寺の住職に就任している。江戸時代、仁和寺の末寺であった宝島寺は、寺中に7の院坊を持ち、連島に10の末寺を有した〔寺院本末帳1981: 上1220-1221〕。雲照は、目白僧園の設立後の明治31年(1898)2月に、この宝島寺に連島僧園を開いている〔草繫1913: 年譜25〕。宝島寺と宝隆寺は、大正11年(1922)の「寺院調」によると本山と末寺の関係にあったことが分かる<sup>(17)</sup>。そのため、両寺間で蔵書のやりとりが行われた可能性もあるだろう。宝島寺は現在も多くの文書類を所蔵している。『宝島寺所蔵歴史資料目録』によると、宝隆寺のものや、本書の奥書に見られる「堯尊房」の写本などが多数あることが分かる(現物未見)<sup>(18)</sup>。和写011の『釋摩訶論玄談』は、雲照が宝島寺の住職時代か、連島僧園経由で入手したものと考えられる。ちなみに雲照は、奥書の嘉永3年(1850) 当時は24歳で、2月には高野山で大日経の講伝を受けている。

慧海旧蔵書中には、宝島寺の旧蔵書も2点ある。1点目は和写023『阿字觀正訣』である。表紙右下と裏表紙左下には、見えづらいが「備中國／寶島寺／藏書印」という印が押されている。この印記と同じものは、『宝島寺所蔵歴史資料目録』にも原寸で掲載されている〔矢上山1987: 16〕。この本の書写奥書には、「安永四〈1775〉乙未夏六月於備中連嶋寫畢／金剛佛子大悟」とある。「備中連嶋」としかないが、蔵書印から見て、宝島寺にて写されたものではないか。この写本には、慧海のラベル(「は五、4、6」)や仏教宣揚会の印、奥書の和暦に対する「1775」という慧海の書入れが見られる。慧海の旧蔵書であることに間違いはないが、雲照の印はない。しかし、雲照と宝島寺の関係から見て、『阿字觀正訣』も雲照関係の蔵書である可能性が高い。



宝島寺の印①  
2.7×2.7cm

2点目は、和版047『大日經疏玄談』である。これには、『阿字觀正訣』と異なる「寶／島／寺」という印が押されている。この印記も『宝島寺所蔵歴史資料目録』に原寸掲載されている〔同: 16〕<sup>(19)</sup>。『大日經疏玄談』については、慧海のラベルや仏教宣揚会の印といった慧海旧蔵書の痕跡がまったくないが、立正大学や日蓮宗に関連する印なども見られない。雲照と宝島寺の関係や、慧海旧蔵書に宝島寺の旧蔵書があることを考慮し、本目録に推定慧海資料として掲載した。



宝島寺の印②  
6.3×6.3cm

#### 和写013『釋摩訶衍論謂立集』1冊

茶色の無地表紙で、表紙左肩の書き題簽に「釋摩訶衍論謂立集 完」(15.2×3.0cm)とあり、右下には「金剛峯西室會下／圭譽堯尊房」と書かれている。圭譽堯尊房は、『釋摩訶論玄談』に嘉永3

年(1850)の奥書を書いた人物だが、こちらには宝隆寺の印などは見られず、『釋摩訶論玄談』と文字の印象はかなり異なる。

装訂は袋綴の半紙本(24.1×16.5cm)で四ツ目綴。本文は墨付き65丁で毎半丁8行、字高は21.0cm。漢文で、本文と同筆の訓点が墨書きされているが、それとは別に朱による訓点や庵点、異本注記が見られる。前付に「釋摩訶衍論義立集目次」(1～3丁)、「空題一百有餘」(4～7丁表)、「宗釈通題」(7丁裏)がある。

この本には、以下のように書かれた折紙一紙(23.7×約26.0cm)が挟み込まれている。

初日(直入中道・／遍計所・)	講士英賢一	門天靈
ゝ夕座(仏果斷／大日經教主)	ゝ	定元一
二日朝一(立解二分／三妄同時)	ゝ諦範一	真順一
同夕一(自躰斷／發心即到)		天靈
三日朝(清淨本覺／二乘斷惑)		定元一
ゝ夕(相識俱滅／初地即極)	士亮寬一	門真順一
四日朝(業識能所／草木成佛)		天靈一
ゝ夕(金剛寶藏／度生願滿)		定元一

翌日所作人

唱士 英賢一 唱礼 諦範一  
前読 亮寬一 経頭 天靈一  
後讚 定元一 金打 真順一

はじめに書かれているのは、「初日」から「四日」の朝夕に行われる論議の問題と「講士」の記録か。最後の「翌日所作人」は、何らかの法会の際に務める役割を書いたものだろう。ここに出てくる名前の中に目白僧園関係者はいないと思われる。圭譽堯尊房の繋がりから考えると、西室院か、宝隆寺や宝島寺で書かれたものか。

### 和写021『四種曼陀羅義』1冊

四種曼荼羅(摩訶・三昧耶・羯磨・達磨)の義を問答体で解説した書。空海の撰とも言われるが偽作とされる[密教大辞典1983:1024]。

香色の無地表紙。装訂は単葉装の半紙本(23.0×16.6cm)で四つ目綴だが、綴じ目寄りの文字が見にくくなっている。粘葉装を改装したか。表紙左肩には題簽が剥離した跡(15.3×4.2cm)、右下には雲照の印、その下に「宥嚴」と打付書きがある。

扉には、左上に「四種曼陀羅義」、右下綴じ目寄りに「備州住僧／純■〈不詳〉房」とある。本文は9丁で毎半丁8行17字前後、紙面をへこませて枠と界線を引いている。内匡郭に当たる部分はおよそ20.8×14.5cm。線がずれて引き直した箇所もあるため、押界などではない。本文は漢文で、墨書きの訓点があるほか、朱による訓点(ルビ・返点・合符)や庵点が加えられている。奥書には「奉酬三寶妙道四恩廣徳自他同證無上／菩提年／正保二年〈1645〉(乙／酉)閏五月重日書之増憲云」とある。

### 和写027『大日經奥疏由来』 1冊

大楽院にて、快全（1424没）が述べたものを永遍が聞書きした書。『大日経疏』の歴史的な問題について書かれている〔長谷1997: 480〕。

紺色表紙で刷毛目跡がある。右肩には題簽が剥離した跡（16.0×3.5cm）が見られる。裏表紙の右下隅に「大乘法」と墨書きされている。装訂は袋綴の半紙本（23.5×16.5cm）で四つ目綴。本文は9丁で奥書の一部は裏見返しに及んでいる。毎半丁9行18字前後で字高は21.7cm。漢文で訓点がかかっている。状態は虫損が多く、膠着も見られる。巻首題の下に「應永廿五年〈1418〉四月廿日始之」とある。奥書は以下の通り。

本■<sup>(虫損)</sup>云應永廿五年四月廿二日於大楽院奉對快■■<sup>師主</sup>〈虫損〉筆之／同聽永遍聞書之云云<sup>(ママ)</sup>深海  
永享六年〈1434〉十二月十一日讚授乘賢早／訪印権大僧都成雄 在判  
文明十六年〈1484〉八月三日於三井寺中院尊教坊以東岩／藏真性院御本寫之訖  
同十九年〈1487〉六月廿四日於越中國新河郡寺田莊橫腰<sup>(ママ)</sup>觀真寺以北臺極樂寺本寫之早 筆者  
匡乘／法亘 七十九  
寛延元年〈1748〉（歳次／戊辰）閏十月廿九日於燈下書寫之訖偏為人法繁榮也 西院末資照惠  
（生年／廿六）／改名照焉

『長谷寶秀全集』第3巻に収録されている本文によると、応永25年の傍線部の虫損箇所は「奉對快全口筆之」、「深海」は「源海」の誤写だと思われる。また、文明19年の傍線部「觀真寺」は「觀音寺」が正しい〔長谷1997: 217〕。

最後の奥書によると、26歳の照惠（改名後は照焉）が寛延元年（1748）に書写したとある。「西院」は高野山の西室院か。本書は照惠の写本か、その転写本なのか判断できないが、雲照の自筆ではないと思われる。「大雄／雲照」の印は、表紙の右下と、寛延元年の奥書の「照焉」の上に押されている。

この本と直接の関係があるかは不明だが、雲照は25歳の嘉永4年（1851）年の春に、高野山の隆鎮和上より安祥院流の許可を受け、『大日経奥疏』の講伝を受けている〔草繫1913: 年譜8〕。また、77歳の明治36年（1903）4月には自身で同書の講伝を行っている〔同: 年譜32〕。

## 3.6 宮崎慶淳について

次に、目白僧園関係者の蔵書として注目されるのは、宮崎慶淳の識語が見られる本である。まず、宮崎慶淳について確認したい。『現代仏教家人名辞典』は、慶淳について以下のように述べている。

師は東京市小石川区関口駒井町、豊山派新長谷寺住職。目白僧園主、二等司教、少僧正。明治二年九月十七日を以て、長野県更級郡東福寺村に生る。八宗の学、梵語に精通し、事教二相及戒律を研究すること多年。現に豊山派大学教授兼学監及び同派尋常小学院長にして、更に豊山大学寮監を兼任す。師は明治三十八年、沢柳博士、三浦子爵等の推選によりて釈雲照和上の法継となりしが故に釈氏を通称とす。〔現代仏教1917: 551〕

大正8年（1919）3月21日の『中外日報』に、「釋慶淳氏逝く」の記事が載る。これにより慶淳の没年が同年3月21日であることが分かる。この記事には、『現代仏教家人名辞典』にはない慶淳の経歴も紹介されている。それによると、慶淳は15歳で剃髪すると興然に仕え、興然がセイロンに留



学した際に雲照の弟子となったという。雲照以外にも、梵語を「南條博士」（南条文雄か）に、唯識を浦上隆応に学んでいる<sup>(20)</sup>。明治38年（1905）には新長谷寺の住職となり、同年に豊山大学の前身である音羽大学林の教師となったとある。慶淳（1869～1919）は、興然・雲照の弟子で、新長谷寺の住職を勤める一方、豊山大学で教鞭をとり、学監まで勤めた人物ということが分かる。

『現代仏教家人名辞典』は、慶淳が明治38年に「沢柳博士、三浦子爵等」の推薦によって「釈雲照和上の法継」となったとする。『中外日報』の記事を見ると、慶淳はこの年に新長谷寺の住職に就任している。「法継」とは、雲照から新長谷寺の住職を引き継いだことを指すと思われる。推薦者の2人は、雲照の外護者であった沢柳政太郎と三浦梧楼のことだろう。『中外日報』の記事でも、「三浦子爵、柳澤博士<sup>(ママ)</sup>」らが慶淳の熱心な信者であったと書かれている。

『現代仏教家人名辞典』の記事で疑問なのは、慶淳を「目白僧園主」としている点である。このほか『真言密教聖典』でも、慶淳を「目白僧園の復興者、第二の雲照和上」などと述べている〔小野1915: 大正僧宝篇60〕。雲照死語の目白僧園はどのような状態にあったのか。明治42年（1909）6月18日の『読売新聞』を見ると「目白僧園は分離か解散か」という記事が見られる。この記事によると、僧園は後継問題で揉めており、興然派と浦上隆応派に分かれて対立し、興然派が優勢であるといった内容になっている。すでに見たように、興然と隆応はともに慶淳と関わりの深い人物である。彼らを差し置いて、慶淳が目白僧園の主となったわけではないだろう。

雲照没後の状況については、『獅子林餘影<sup>(22)</sup>』にも記載がある。僧園のあった土地は新長谷寺の所管であり、雲照の威光によって無償で提供されていた。そのため、雲照没後もそのまま維持できる保証はないと考えた戒光と靈澄は、僧園の後継に推された隆応に、僧園学寮を吉祥院（十善会寺）に移すことなど提言した。隆応は、この提言を前提にした覚書きを明治42年（1909）7月12日付で僧園の居士会に提出したという。しかし、現状維持を提唱する者たちがおり、この覚書きは合意に至らず、隆応は横浜東福寺に移り、僧園は「真戒師等が法灯を継続」したとある〔蓮実1929: 259-261〕。ここに慶淳の名前はまったく出てこない。

結局、目白僧園は、大正11年（1916）に代々幡村西ヶ原へ移転することになる。名称も雲照寺となり、目白僧園は事実上消滅した。これは、新長谷寺からの貸地返還の請求があったためにとられた措置という〔同: 261〕。慶淳の没年は大正8年（1919）であるため、慶淳が新長谷寺の住職をしていた間、土地の返還請求は行われなかったことになる。慶淳が僧園主の位置にいたかは不明だが、新長谷寺住職の立場から、僧園の存続に貢献していたと見ることはできるだろう。そうでなければ、「僧園の復興者」という呼ばれ方はしないとされる。ちなみに、僧園の学寮は移転されずに豊山大学の寄宿舎となったという〔同: 261〕。

慶淳の旧蔵書と想定されるものには、表紙に「慶淳」の名前が打付書きされている以下の7点がある。

和版044 大毘盧遮那成道經心目 大日經疏抄 1冊

表紙「目白臺 釋慶淳」。ラベル「は五、5、5」。仏宣会印あり。

和版049 （冠註）住心品疏略解 8巻 附玄談 9冊

表紙「釈慶淳」「慶淳」。ラベル「は五、2、2」。仏宣会印あり（第2冊のみなし）。

和版051 大毘盧遮那經住心鈔 7巻（欠巻第1） 6冊

表紙「目白臺慶淳」（第1冊、朱書）。ラベル「以五、5、26」。仏宣会印あり。



和版082 阿字授要鈔 密教修行念誦作法 密嚴院發露懺悔文 1冊

表紙「釈慶淳」。ラベルなし。仏宣会印なし。

和写008 理趣釋口訣鈔 2巻2冊

表紙「白馬臺慶淳」「目白臺慶淳」。ラベルなし。仏宣会印なし。

和写034 要法授訣鈔 3巻3冊

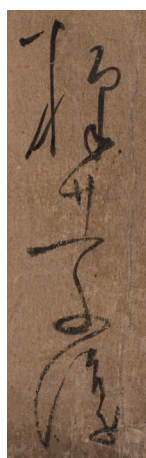
表紙「慶淳」。ラベル「に四、3、■〈表面剥離〉」。仏宣会印あり。

和写035 野澤三十六流印信類聚 1冊

表紙「白馬臺主人慶淳」。ラベルなし。仏宣会印なし。



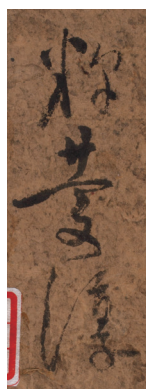
和版044



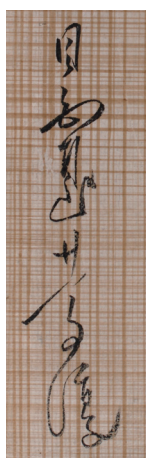
和版049



和版051



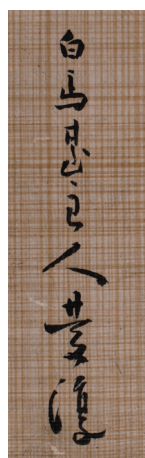
和版082



和写008



和写034



和写035

7点中3点には、慧海旧蔵書の証拠となるラベルと仏教宣陽会の印が確認できない。慶淳の書入れは同筆と考えられるため、3点が慧海旧蔵書であれば、他の3点も同様である可能性が高い。これは雲照の旧蔵書の場合と同じである。

この「慶淳」を目白僧園の宮崎慶淳とする根拠の一つに、打付書きに見られる「目白臺」「白馬臺」があげられる。目白台は、目白僧園や新長谷寺があった「関口駒井町の辺」を指す。白馬台は、目白が白馬の産地だったことに由来し、もとは「馬白」(=目白)と表記したという説から来ている[風俗画報1907: 11-12]。雲照にも、目白台を「白馬臺」と書いている例がある[伊藤1974: 84]。また、風俗画報[1907: 12]は、「目黄不動」の所在を慶淳に問い合わせ、それに答えた慶淳の手紙を翻刻掲載している。その署名は「小石川目白臺 釋慶淳」となっている。慶淳が自身の手紙に目白台と書いていたことが確認できる。また、『野澤三十六流印信類聚』の「白馬臺主人」は、新長谷寺の住職であることを示しているのだろう。慶淳の筆跡については、参照すべきものがほとんど確認できないが、伊藤[1974: 201]に慶淳の書が一点掲載されている。署名は「釈慶淳拜書」とあり、筆跡は上記の書入れに近い。

次に、上記6点のうち、3点の写本について紹介したい。

## 和写008『理趣釋口訣鈔』2巻2冊

香色と白色の格子表紙で、中央に打付書きで「白毫院圓光薩埵述／理趣釋口訣鈔上巻」（第1冊）、  
「共二／圓光薩埵／理趣釋經口訣鈔巻下」（第2冊）とある。これらの書入れは、すでに示した慶淳  
の識語と同筆である。装訂は袋綴の半紙本（23.0×15.7cm）で、四つ目綴。第1冊と第2冊で別々  
の青色罫紙を使用している。罫紙はどちらも四周双辺有界だが、第1冊は10行（内匡郭18.9×12.9cm）、  
第2冊は12行（内匡郭19.3×13.0cm）となっている。第1冊は墨付91丁、第2冊は墨付が22丁でそ  
の後に77丁の無記入の罫紙が綴じられている。

本文は漢文で訓点があり、上欄にわずかに同筆の注記がある。朱の書入れはほとんどないが、第  
2冊に数箇所、朱の庵点が確認できる。

第2冊には、青色の罫紙1枚（24.5×約31cm）が挟み込まれている。この罫紙は8行で内匡郭は  
18.9×12.8cm。8行に渡り漢字平仮名交じりの文章が書かれているが、何かの原稿の途中の部分だ  
と思われる。

第2冊の巻末には、奥書と裏書の写し、書写奥書がある。奥書と裏書の写しは以下の通りである。

弘安六年八月十四日於洛陽東山白毫院記  
所聞<sup>ヲ</sup>不可及他見<sup>テ</sup>依<sup>テ</sup>窮屈<sup>ナルニ</sup>末再治定有<sup>テ</sup>謬説<sup>ス</sup>歟  
時文保元年九月十八日於<sup>ニ</sup>東開鎌倉極樂律  
寺僧坊第三室<sup>ニ</sup>為<sup>シ</sup>利生興法拭老眼馳筆畢此  
書者題京都東山白毫院円光上人御草  
奉寄進大御輪寺經藏沙門弘暉 求法金剛仏子■■■■〈梵字不詳〉  
本裏書云

良含（円光東山白毫院長者／院宣云此人末世金剛薩埵）

法流長者

広沢 西院 弘教 円融 良含

覚成保寿院 守覚北御室 道法 道助 道深 法助

隆証理智院 良含

成賢 憲深 光賢 思忠勝万院 良含

道教 深賢 思忠 良含

実賢 隆証 良含 如実 思忠 良一

此良含於諸流<sup>ニ</sup>無不<sup>ニ</sup>通達<sup>ス</sup>云云

已上裏書

奥書によると、弘安6年（1283）に京都東山の白毫院で書かれたものを、文保元年（1317）に大  
御輪寺の弘暉が極楽律寺にて書写したという。大御輪寺は現奈良県桜井大字三輪にあった寺だが、  
明治初年に廃寺となっている [平凡社1981: 437]。極楽律寺は、正元元年（1259）に北条重時が現  
神奈川縣鎌倉市に移した真言律宗の極楽寺のことだろう [密教大辞典1983: 580]。弘暉によると、  
この書は円光の手になるものという<sup>(25)</sup>。円光は法諱を良含という天台宗の僧で、弘安6年ごろに白毫  
院を活動の拠点としていたことが指摘されている [牧野2011: 34-39]。裏書の写しは、その良含の<sup>(26)</sup>  
法流について記したものである。

裏書に続き、以下のような書写奥書がある。句読点は補った。

于時明治卅年正月初旬ヨリ、東京小石川区関口駒井町新長谷寺道場ニ於テ、雲照大和上、弟子・諸求寂ノ為メニ般若理趣經ヲ開講セラレ、幸ニ愚宿縁ノ感アリテ此ノ一会聴講ノ末席ニ列スルコトヲ得タリ。隨喜ノ余アリ此ノ秘書ヲ写シ畢ス。

明治三十年四月九日東京小石川区目白僧園十善戒道場ニテ 釈隆晃  
これによると、雲照は明治30年（1897）1月より、弟子や在家信者のために『般若理趣經』の講義を行った。その講義を聴講する機会を得た隆晃は、感激してこの本を写したという。『理趣釋口訣鈔』は『般若理趣經』の注釈書なので、両者は無関係ではないが、この奥書だけではなぜ『理趣釋口訣鈔』を写すのか判然としない。あるいは、雲照が自身の所持していた『理趣釋口訣鈔』を用いて講義を行っており、隆晃がそれを書き写させてもらったということか。書き写した場所が「東京小石川区目白僧園十善戒道場」とあるのも、そのような事情であれば頷ける。

隆晃は、「幸ニ愚宿縁ノ感アリテ此ノ一会聴講ノ末席ニ列スルコトヲ得タリ」と述べているので、目白僧園に在住していたわけではなかったようだが、雲照の弟子の一人だったと考えられる。草摺[1914: 上]には、雲照の葬儀の様子がかなり詳細に記述されているが、236頁に「此日都鄙より集合し靈柩を擔げる遺弟」として、興然を筆頭に25名の弟子の名前が列挙されている。その中の17番目に隆晃の名前がある。当時目白僧園にいた弟子たちは、「現在の僧園清衆」として分けて書かれているため、隆晃は雲照の弟子であったが、その没年時に目白僧園に居なかったことは確かだろう。

この本の書写者は隆晃だと思われるが、表紙は慶淳の筆である。表紙の打付書きは、慶淳がこの本を入手した後に元の表紙に書入れたか、表紙を付け替えた後に書入れたかしたものだろう。

### 和写034 『要法授訣鈔』 3巻3冊

隆誉の撰で、諸尊法・作法から要法三十種を抜き出し、幸心院流の秘訣に基づいて記載した書[密教大辞典1983: 2217]。香色の無地表紙で、右肩に書き題簽があるが、第1冊と第3冊には「要法授訣鈔 上(下)」(16.0×3.1cm)、第2冊は「中」とのみ書かれている。表紙中央の下方には白墨で「四十四」とある。また、題簽の右隣上方に小さく「十八」と墨書きされているのを、白墨で消し、改めて「八」と墨書きしている。

装訂は袋綴の半紙本(23.7×16.7cm)で四つ目綴。状態は良くない。虫損が多く、膠着している部分もある。第1冊は51丁、第2冊は67丁(67丁目は裏見返しに剥離)、第3冊は47丁(見返しに目録、裏見返しに奥書)。本文は10行から11行で20字前後、字高は20.1cm。前付として目録が各冊に見られるが、目録題や巻首題はない。ただし尾題や小口書に「要法授訣抄 上(中・下)」とある。背には「三 宗纂」と書かれている。

下巻(第3冊)の書写奥書には、「維時正徳三癸巳歳(1713)五月初旬写之早/金剛佛子/宗纂」とあり、各冊の背に書かれた「三 宗纂」の記載と対応するため、この本は宗纂のものと考えられる。ただし、第3冊の裏見返しには「右急キ写之卒給之至文字誤/下假名筆重可校合者也/筆者/寶永」とも書かれている。寶永と宗纂は同一人物か、宗纂の命でこの本を写した筆耕者か。

本文は漢文で双行の注文がある他、上欄にも同筆の注記が見られる。訓点には墨と朱によるものがあり、朱書には文字の訂正や庵点などもある。この他に、わずかだが青色の墨による書入れが見られる。第1冊の「出家授戒作法鈔」の末には、青色の墨で「享保三戊年(1718)林鐘中旬於西酉傳受之砌加筆了/筆耕惡筆之故文字疎畧也得意可看之耳」と書かれている。青色の注記は第3冊に

は見られないが、第1冊と第2冊には僅かに確認できる。先の例の他にも「於西酉見了」などの記載がある。青色の注記は本文と同筆であるため、宗纂が正徳3年に写した本に、享保3年時点で加筆した本であることが分かる。

この本には、仏教宣揚会の印の他、「天攸」「義筭」「縁山西溪／作業圖書／門外不出」の印がある。「天攸」と「義筭」は不明だが、「縁山西溪／作業圖書／門外不出」は増上寺の印であることが知られている〔渡辺・後藤2013: 536〕。増上寺の蔵書は、明治から大正に市場で出回っていたようで、立正大学品川図書館の和装本の中にも、明治・大正期に購入した増上寺の旧蔵書が確認できる〔小此木2017a: 16〕。慶淳が増上寺の旧蔵書を購入していてもおかしくない。

### 和写035『野澤三十六流印信類聚』1冊

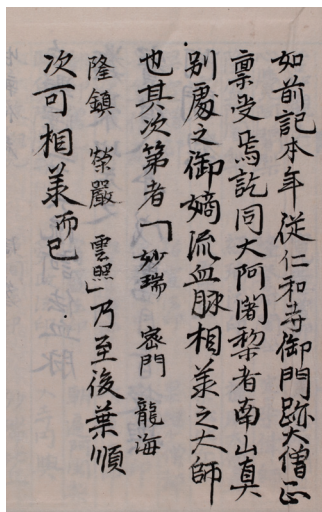
三十六の真言宗の流派において、阿闍梨が秘法伝授の証として弟子に与える許可証を、高野山の舜政がまとめた書。

香色と白色の格子表紙で、外題は中央に打付書きで「野澤三十六流印信類聚」とある。装訂は袋綴の半紙本（23.0×15.7cm）で四つ目綴。この表紙は『理趣釋口訣鈔』と同じもので、外題も慶淳の署名と同筆である。四周双辺有界10行の青色の罫紙（内匡郭は18.9×12.9cm）を使用しており、墨付95丁（95丁目は裏見返しが剥離）、遊紙1丁となっている。冒頭に目録が2丁ある。本文は漢文だが訓点はない。

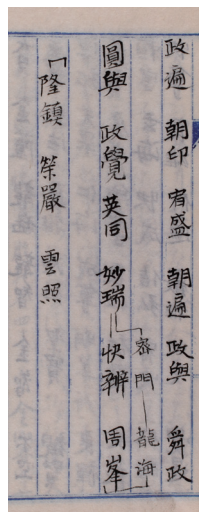
奥書に、「右野澤三十六流訶佉血脉／類聚以示之／寶曆八年（1758）戊寅四月三日授與／阿闍梨」とあるが、中院流の法脈に、雲照までの流れ追加しているところが二箇所ある。一つは5丁裏に朱書きで、もう一つは8丁裏に墨書で、どちらも妙瑞から快辨への系譜と別に、妙瑞から密門・龍海・隆鎮・栄巖・雲照の順で繋いでいる。

また、95丁目に当たる剥離した裏見返しの背面（罫紙ではない）には以下の記述がある。

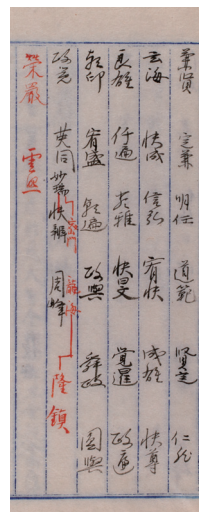
如前記本年從仁和寺御門跡大僧正／稟受焉訖同大阿闍梨者南山真／別処の御嫡流血脈相承之大師／也其次第者「妙瑞 密門 龍海／隆鎮 栄巖 雲照」乃至後葉順／次可相承而已  
この丁は、裏見返しを剥離した状態なので、記載のある背面は、本来裏表紙に貼り付けられて見え



95丁裏（裏見返しの背面）



8丁裏



5丁裏



ない箇所である。冒頭に「如前記」（前に記す如く）とあるが、これに当たる記述は直前にない。おそらく、反故紙を再利用したのだろう。

記載内容は、雲照が仁和寺門跡に就任したことと、南山真別処の嫡流でもあったことがその系譜とともに書かれている。この系譜は、先に見た5丁と8丁の記述と同一のものである。雲照が仁和寺門跡となった年を「本年」としているが、これは明治32年（1899）に当たる。ちなみに、雲照はその翌年の4月には早くも門跡を辞している〔草繫1914: 年譜30-31〕。

この紙が裏見返しに使われていることから、この本の書写年次は、明治32年以降であると考えられる。書写者は雲照に対してこだわりがあるようなので、目白僧園の関係者だろう。おそらく、『理趣釋口訣鈔』と同じく隆晃の書写で、後に慶淳の手に渡ったものではないか。

### 3.7 蔵書の入手経路

慧海は目白僧園関係者の蔵書をどのように入手したのだろうか。単純に考えて、入手の方法には大きく二通りあるだろう。一つは購入した場合、もう一つは譲り受けた場合である。あくまで推測の域をでないが、どのような可能性があるかを探っておきたい。

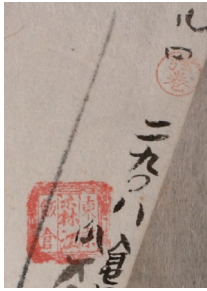
書店からの購入について考えてみたい。すでに見たように、雲照の印や慶淳の署名がある蔵書だけでも13点を数える。これらを、異なる時期に別々に得たとは考えがたい。仮に購入したとすれば、まとめて入手したと見る方が自然ではないか。例えば、蔵書の売立が行われた際に競り落とした、といったことが考えられる。仮定を重ねるが、その場合、慶淳の旧蔵書として売りに出たのではないか。雲照が没した翌日、目白僧園内で開かれた居士会で、雲照の葬儀などについて3項目の取り決めがなされている。その中の一つには、「和上遺物分配は一に律文に拠るべき事」とある〔蓮実1929: 252〕。「律文」には法律の条文の意味がある。具体的に何を指しているのか不明だが、分配された遺物の中に蔵書が含まれていてもおかしくない。慶淳であれば雲照の死後に蔵書を貰うこともできたろうし、生前に譲られる機会もあっただろう。また、神瑩の『華嚴五教章聴講録』についても、神瑩と慶淳は目白僧園の日曜講義会を一緒に行っていた間柄なので、神瑩の生前・死後を問わず入手するタイミングがあったと思われる〔無相1906: 50〕。

慧海旧蔵書には、慧海が書店で購入した旨を記した本がある。和版022『文殊師利菩薩問菩提經論（他）』には、「明治三十七年六月十四日／本郷東片町の書店にて求む／慧海」とあり、和版007『縁山三大蔵目録』には、「大正十二年三月廿日下谷鈴木商店にて／金八円にて三巻購求／仏宣 慧海誌」と書かれている。和版010『釋迦譜要略』と和版111『審美綱領』には、慧海の名前が書かれた「古書籍展覧會」の売り札が挟んであったため、その展覧会で慧海が購入した本であることが分かる<sup>(27)</sup>。洋装本にも、慧海が本の値段を記録しているものが複数ある。しかし、ここまでで紹介してきた雲照や慶淳の蔵書には、慧海が購入したことをうかがわせるような書入れなどは見られない。

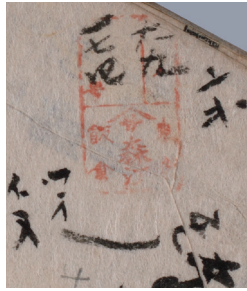
和装本が売りに出されていたかを判断する際に注目されるのは、仕入印や符牒の存在である。書肆は、本を仕入れた際に目立たない部分に小型の印を押し、仕入れた年や値段、仕入れ先などを符牒として記載する〔鈴木2012: 48-49〕。和装本の場合、裏見返しの四隅がめくれる部分の裏側などによく見られる。慧海旧蔵書の中は、明治・大正期の仕入印と考えられるものが複数ある。特に目立つのは、森江書店（山口屋擁萬閣）と浅倉屋（文淵閣）である。



まず、森江書店の仕入印や書肆印が押されたものを確認しておく（括弧の中は墨書き）。和版049に薄く見える「森江」という丸型の印は、森江書店のものである確証はないが、ひとまず加えておいた。



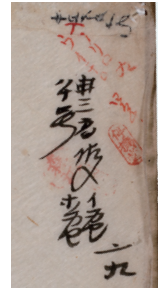
和版025  
『金剛畧疏』  
「東京／森江／飯倉」  
(1.4×1.4cm)



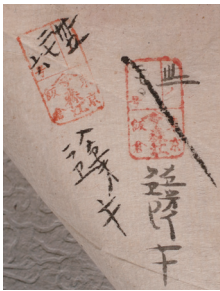
和版028  
『科註般若心經秘鍵』  
「(大九)／(一七四)号／  
東京／森江／飯倉」  
(2.7×1.5cm)



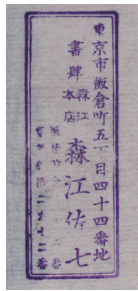
和版030  
『科註妙法蓮華經』  
「東京本郷春／木町二の  
二十一／森江英二」  
(4.3×1.8cm)



和版049  
『(冠註)住心品疏略  
解 附玄談』  
「森江」(直径1.2cm)



和版052  
『大佛頂如來密因修證了義諸菩  
薩萬行首楞嚴經合轍』  
「(卅一／二七〇)号／東京／  
森江／飯倉」「(卅五／二七六)  
号／東京／森江／飯倉」  
(第1冊、各2.7×1.5cm)



和版099  
『禪宗無門關』  
「東京市飯倉町五丁目  
四十四番地／書肆(森  
江／本店)森江佐七  
[...]' (6.8×2.4cm)



和写014  
『僧徒官位事』  
「(三四)／(九〇)号／  
東京／森江／飯倉」  
(2.7×1.5cm)



和写024  
『諸尊法口決』  
「東京本郷／英二／森江  
書房」(2.6×2.1cm)

森江書店は、文政9年(1826)から営業していた書肆である。近代には、主に仏教書を出版していたことで知られ、東京の麻布区飯倉町に店を構えていた。和版099に記載のある主人の森江佐七<sup>(28)</sup>(1854~1917)は、明治35年(1902)から同41年(1908)まで東京書籍商組合の評議員を務めた人物である[出版タイムス1930:112]。和版30・和写024に見える森江英二(1874生)は、森江書店に養子に入った人物で、明治35年8月に本郷区春木町に店を開いている[同:113]。飯倉の店と本郷の店は本店と分店の関係だった。<sup>(29)</sup>和版099の印には「本店」とあるので、分店が開店して以降に作られた印と考えられる。

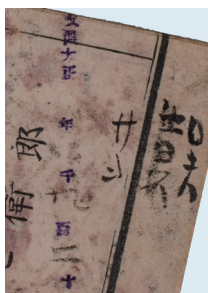
和版028の「大九」や和版052の「卅一」「卅五」、和写014の「三四」の書入れは、それぞれ大正9年、明治31・35・34年のことだろう。和版052には2つの仕入印が見られるので、明治31年に森江書店が仕入れて販売したものが、同35年に再び森江書店に売却されたことを意味するか。

次に、浅倉屋(文淵閣)の仕入印を確認したい。和版010の「文淵閣／浅草區北仲町／浅倉屋／吉



和版010  
『釋迦譜要略』

「文淵閣／浅草區北仲町  
／浅倉屋／吉田久兵衛」  
(5.1×3.8cm)



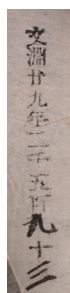
和版030

『科註妙法蓮華經』  
「文淵卅四年六千七百  
(五)」(5.5×0.4cm)  
「■■〈文淵カ〉堂甲■  
■〈判読不能〉六百三  
十(九)」(5.2×0.4cm)



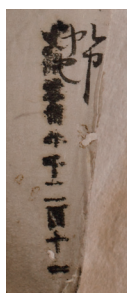
和版040

『占察善惡業報經疏』  
「文淵甲號二百七十二番」  
(5.3×0.5cm)



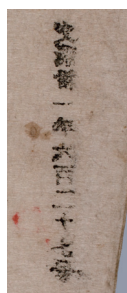
和版052

『大佛頂如來密因修證了義  
諸菩薩萬行首楞嚴經合轍』  
「文淵廿九年二千五百  
(九)十(三)」  
(6.0×0.4cm)



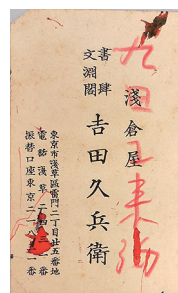
和写009

『慈氏菩薩略修愈識念誦法』  
「■■〈文淵カ〉■■〈文字  
潰れ〉千二百十一」  
(4.8×0.4cm)



和写015

『[两部金剛名号]』  
「文淵■■〈卅カ〉一年六百  
二十七■■〈号カ〉」  
(5.3×0.4cm)



洋和117

『般若心經大成』に  
挟まっていた「吉  
田久兵衛」名刺

田久兵衛」の印は、挟まっていた古書籍展覧会の札に押されている。浅倉屋は、貞享年間（1684～1688）の創業で現在も営業している書肆だが、「文淵閣」の呼称を用いるようになったのは明治に入ってからのことである [吉田1981: 162-163]。和版010の仕入印には「文淵大正」とあるが、年数は分からない。しかし、この札には、端で一部欠けているが「11.9.2■■」と日付のある印（領収印か）が押されている。大正11年（1922）9月21日の『官報』3043号には、同年の9月23・24日に第44回古書籍展覧会が開催されるという広告が掲載されている。主催は東京書林聯合会である。慧海は、この展覧会で『釋迦譜要略』を購入したのだろう [小此木2017b]。

札の印に見られる吉田久兵衛（1863～1939）は、明治27年（1894）に浅倉屋の家督を継いだ10代目に当たるだろう [日外2013: 428]。8代目は明治38年（1905）に、9代目は明治27年に没している [吉田1981: 163]。慧海は、浅倉屋の主人と面識があったようで、洋和117『般若心經大成』には吉田久兵衛の名刺が挟まっていた。この名刺には、慧海の筆跡だと思われる赤鉛筆で「九日に來約」と書かれている。

浅倉屋の仕入印は、全体的に文字がつぶれて見えにくいものが多いが、最初の二字には「文淵」

とある。この「文淵…」の印については、13代目である吉田茂樹氏が、戦後には押していないことを証言しており、明治から大正年間に使用していたものと考えられている<sup>(30)</sup>。和版030・052、和写015の印には、「文淵」の後に「卅四年」「廿九年」「卅一年」と数字の記載がある。これらは、明治34・29・31年を指すと思われる。和版030や和版052には森江書店の仕入印もあるので、それぞれの店で売買が行われたことが分かる。和版052の場合、森江書店の仕入れ年は、明治31年（1898）と35年（1902）だと考えられるため、明治29年（1896）の浅倉屋の方が早い。浅倉屋で売られたものが、後に森江書店に売却されたのだろう。

本に見られる仕入印や符牒によって、慧海がその本をいつごろ入手したかを推測することができる。例えば和版028の場合、森江書店の仕入印の「大九」が大正9年（1920）であれば、慧海が和版028を入手した時期は、大正9年かそれ以降と考えるのが妥当だろう。

ここで、雲照や慶淳の旧蔵書の中で、近代の仕入印や符牒が見られるものを確認したい。一つは和版049の「停機堂」（1.5×0.6cm）・「森江」（直径1.2cm）、もう一つは和版051の「其中堂／号外（百五四）／全（七）冊」（3.1×1.2cm）である。2点とも慶淳の旧蔵書である。「森江」については、森江書店の可能性があるという以上は分からない。「停機堂」の方も詳細は不明である。しかし、明治28年（1895）に発行された野間朝次郎『洞津みやげ』の奥付を見ると、「津市賣捌書林」中の一店に「停機堂」が確認できるため、三重の書肆である可能性が高い。「其中堂」は、明治10年（1877）に三浦兼助（1856～1917）が名古屋に創業し、仏書の古書販売を行った店だろう。其中堂には京都に支店もあり、そちらは明治39年（1906）に開店している〔出版タイムス1930: 199, 247〕。

これらの印とその周囲に書かれている符牒からは、年号が判断できないが、和版49『冠註）住心品疏略解 附玄談』巻1には「大正七年夏／第二学期始め／九月十八日」（18丁表の上欄）というペンによる書入れがある。これは慧海の筆跡でないため、慶淳が和版49を豊山大学の講義で使用した際に記入した可能性がある<sup>(31)</sup>。慶淳は、書入れから一年もたない大正8年（1919）3月21日に没している。そのため、慶淳が生前に和版49を手放した可能性は低いのではないかな。もちろん、慶淳の没後に売りに出されたことも考えられるが、先の仕入印については、慶淳が入手した時点ですでに押されていたとも考えられる。そのため、慧海が書店で購入したかどうかの決め手にはならない。

この2点以外は、それらしい仕入印や符牒が見受けられない。もちろん、仕入印や符牒が残っていないからといって、その本が書肆で扱われていないと考えるのは乱暴であるが、やはり譲り受けた可能性の方が高いのではないかな。そこで、慧海が目白僧園関係の蔵書を譲り受けた場合についても考えてみたい。寄贈の場合も購入と同じく、特定の個人により一度に寄贈されたと考えたい。目白僧園の秀戒から得た『異譯心經』のように、個別に贈られたものに関しては、慧海が取得識語を書入れている場合がある。一時とはいえ、師事していた雲照から直接蔵書を得たのであれば、その事を書入れているともよいのではないかな。

具体的に、神瑩の『華嚴五教章聴講録』で考えてみたい。神瑩が生前、慧海にこの本を手渡せるタイミングは限られる。『華嚴五教章聴講録』が書かれたのは明治33年（1900）で、神瑩の没年は明治39年（1909）である。この期間、慧海はほぼ海外で過ごしている。慧海が日本にいたのは、明治36年（1906）5月20日の帰国から、同37年（1907）10月11日の出国までである。チベットから戻った慧海は時の人となり、取材や講演、『西藏旅行記』の連載などで忙しく立働いていた〔奥山2009: 269-270〕。



慧海旧蔵資料の中には、この間に日本で得た本もある。例えば、土屋鳳洲の『晚晴樓文鈔二編』があげられる。この本には、著者の鳳洲による、「癸卯十月初九日／河口慧海兄見来訪／出迎著一部御博覧／鳳洲弘」という識語がある。これにより、慧海が鳳洲のもとを訪ねた際に、鳳洲の著書である『晚晴樓文鈔二編』を贈られたことが分かる。「癸卯」は、土屋の生没年から判断すると、明治36年にあたる。つまり、慧海が鳳洲を訪問した日は、明治36年10月9日であることが分かる。慧海は、鳳洲の塾である晚晴書院で15歳から23歳まで学んだ。奥山 [2009: 33] は、独学の人であった慧海にとって、鳳洲が唯一の師と言える人物だったと評している。慧海が恩師のもとを訪れることに違和感はない。

一方、神瑩の場合はどうか。先にも述べたように、神瑩は明治24年（1891）から目白僧園で学んでいた。慧海が目白僧園で雲照に師事したのが明治28年（1895）なので、神瑩と慧海は面識があった可能性は高い。しかし、慧海が神瑩のもとを訪れ、神瑩から講義ノートを譲られるような間柄であったかは疑問である。講義ノートは私的なものであり、通常、他人に譲ったりはしないのではないか。

一括で譲った人物がいたとすれば、有力なのはやはり慶淳だろう。理由は購入の場合と同じで、雲照や神瑩の蔵書を所持していても不自然でない人物という点にある。しかし、神瑩の場合と同じく、慧海が慶淳と親交があったという明確な証拠はない。あるいは、慶淳の蔵書を得た人物が間に入っていた可能性もある。そこで注目されるのが豊山大学である。すでに述べたように、慶淳は大正8年（1919）で亡くなるまで、豊山大学の教授だった。また、同大学の学監を初代の小林正盛（1876～1937）<sup>(32)</sup>から引継ぎ、大正3年（1914）10月から同7年5月まで務めている [大正大学五十年史1976: 174]。

慶淳の没後、慧海は豊山大学と関わりを持っている。大村西崖は、大正9年（1920）5月31日に『密教發達志』<sup>(33)</sup>（大正7年刊）で帝国大学学士院賞を受賞したが、同年7月8日にその批判講演会が開かれた。慧海は、チベット仏教の立場から見た『密教發達志』についての講演を依頼され、登壇している [河口1920: 36]。その講演会の他のメンバーは「豊山大學長」の加藤精神と「豊山大學名譽學長」の権田雷斧<sup>(34)</sup>であった。また、講演の内容は、『密教發達志批判講演集』として出版されているが、その手書き原稿の一部が大正大学に残されている [河口2004: 41-52]<sup>(35)</sup>。慧海が用いた原稿用紙には「豊山大學用紙」と印刷されているので、慧海への原稿の依頼は豊山大学を通して行われたのではないか。

慧海は、大正15年（1926）に大正大学で教鞭をとっている。大正大学は、宗教大学（浄土宗）・天台宗大学・豊山大学（真言宗豊山派）が総合し、大正13年（1924）に設立、同15年に（1926）認可された大学で、初代学長は沢柳政太郎であった [斎藤1979: 221]。沢柳は、すでに述べたように雲照の外護者で、雲照が設立した十善会の発起人の一人であり、慶淳の熱心な信者であったとも言われている。沢柳をはじめ、大正大学には豊山大学時代に慶淳と親しくしていた人々が多数いたと思われる。そのような人物の中に慶淳の蔵書を引き継いだ者がおり、それを慧海に寄贈した可能性もあるだろう。立正・庄司 [2013: 106] や庄司 [2015: 20-21] にて指摘されているように、慧海が立ち上げた仏教宣揚会では、図書館の建設を視野に入れていた。その考えに賛同した仏教宣揚会の会員であれば、慧海に蔵書を贈ることもあり得る。あるいは、慶淳の死が突然であったため、その蔵書が豊山大学に引き取られ、大正大学となった後に、慧海の手に渡ったということも考えられる。



現状では、入手ルートを明確にすることはできないが、慧海や慶淳とも関わりが深い大正大学に何らかのヒントが残されている可能性があるだろう。

### 3.8 おわりに

慧海旧蔵書にあった目白僧園関係者の旧蔵書について紹介し、その入手経路を推測した。僧園関係者としては、雲照・神瑩・慶淳らに注目したが、蔵書印などの調査が進めば、他にも取り上げるべき人物が特定できる可能性があるだろう。僧園関係者の蔵書をどのように入手したのかについては、慶淳の周辺、もしくは大正大学関係者から譲られた可能性を示唆したが、これについては推測の域を出ない。蔵書の入手経路を検討することは、慧海の交友関係や、どのように蔵書を収集していったかという問題に繋がる。今後は、和装本だけでなく、洋書や洋装本も含めて考える必要があるだろう。

本解題では、僧園関係者の旧蔵書を慧海がどのように読み、活用したかといった問題には立ち入っていない。蔵書が残されているということは、慧海の学習態度や思想形成を、その蔵書から裏付けることも可能なはずである。今後、研究が進む中で、貝葉携帯の資料だけでなく、版本や写本がどのように読まれたのかも検討されるべきだろう。

#### 注

- (1) 庄司 [2010-2016]、立正大学・庄司 [2013]。
- (2) 雲照の事績については、草繫 [1913-1914] [1961]、佐藤 [1975]、石川 [2008] に詳しい。
- (3) 興然の留学や雲照との関わりについては、東元 [1982]、奥山 [2008] [2016ab] などの研究がある。また、本解題2.2.1も参照。
- (4) 日付は奥山 [2008: 26] による。
- (5) 明治26年(1893)9月6日に横浜着とされる [東元1982: 61]。
- (6) 田鍋 [1977: 250, 404, 501] などを参照。四哲の一人である戒光も、目白僧園から西山禾山の門下となった人物。
- (7) 軍人。政治家。明治28年(1895)、朝鮮における閔妃殺害を主導したことで知られる。
- (8) 原文には「與妙興寺卓禪。航南清。歴交趾、安南、東浦塞、暹羅、緬甸、錫崙諸國。飛錫印度」とある [小島1973: 360]。松岡卓禪は、禾山のもとで秀戒らとともに学んだ獅子林の四哲の一人。『続近世禪林僧宝伝』に伝がある。松岡の伝では、秀戒との渡航について、「四十三年庚戌十月。將與眞公(筆者注 大真) 俱赴印度巡瞻佛蹟。(中略) 明年六月還錫」と記されている [小島1973: 575]。
- (9) 没年や没した場所については「釋大眞師入寂」『東京朝日新聞』(1916年6月16日) による。
- (10) 以下、没年までの神瑩の経歴については、無相 [1906] による。
- (11) 雲照の生涯の安住所として、森村市左衛門が中心となり、高田老松町雲照寺の境内を購入し、近江石山寺の塔中であつた吉祥院を移転して建設された [蓮実1929: 147]。
- (12) 以下は回数のみ。第18～19、21、41～42、44～45、69、74～75、90～92、103、113、118～119、121、124、127、131。
- (13) 本学古書資料館所蔵 A65/5 を参照。書名は序首題による。
- (14) A65/5 には、「寶永三年丙戌九月吉日」の刊語に続き、「明治十八年四月 補刻/京都書林 永田文昌堂愛道居士謹白」とある。また、京都山城屋文政堂、藤井佐兵衛の奥付もある。
- (15) 国会図書館所蔵本の奥付では「五日」を「十五日」に筆書きで訂正している [元良1900奥付]。
- (16) 『宝島寺所蔵歴史資料目録』には、「大雄雲照ノ印記」は一例のみだが、他に「雲照蔵印」と注記された例も多い ([矢上山宝島寺1987: 277] など)。これらが別の印記であるかは現物を確認する必要がある。

- (17) 浅口郡 [1925: 296]。同書には「寶隆寺 (薬師院)」とある。いつごろから、両寺が本山末寺の関係にあったのかは確認できなかった。寺院本末帳 [1981: 上1220-1221] には、宝島寺の末寺中に宝隆寺は含まれていない。
- (18) 矢上山宝島寺 [1987: 270, 287, 298, 301, 306, 337] に宝隆寺、同 [1987: 153, 160, 164, 170, 204, 214, 236, 240, 245, 300] に堯尊房のものあり。また、年代未詳の563番『葬送行列次第』の備考欄に「圭誉法印葬送」とあるのは堯尊のことか [同: 324]。3289番『十住心義林』の備考欄に「備中国連島山法隆寺ノ蔵印」とある「法隆寺」は宝隆寺の誤植か [同: 270]。
- (19) 同書掲載のものは、印の外周の下側が大きく欠けている。
- (20) 慧海旧蔵書には、以下の浦上隆応の著作がある。洋和128『真言宗綱要』(真言宗聯合大学叢、1905年)。
- (21) 目白僧園関係の記事には、他にも「目白僧園の紛擾 二万円の宝什奪合ひ」などがある [読売新聞 1909.12.27]。
- (22) 目白僧園で学んだ戒光の伝記で、戒光の日記を基に書かれている。
- (23) 「写真解題」の104番には「藕 (はす) 糸弘法大師尊影開眼記」(東京代々木雲照寺蔵) [伊藤1974:237]。
- (24) 「写真解題」の257番には「釈慶淳筆 (逆筆) 「諸悪莫作」云々四行」[伊藤1974: 240]。
- (25) 密教大辞典 [1983: 2266] の「理趣釋口訣鈔」の項目によると、醍醐の先徳円光上人や中川の円光房実範などの説がある。
- (26) 良含は天台宗の僧侶で生没年未詳。法諱は良含、通称は円光上人 [市古1998: 752-753]。
- (27) 和版111『審美綱領』2冊に挟んである札には、「審美綱領 別二点／四冊」とあるので、和版110『審美極致論』1冊と和版112『審美新説』1冊を合わせて購入したことが分かる。この3点には同じ「藤井文庫」の印が押されているため、出所も同一だったと推定される。
- (28) 没年は、日外 [2013: 396] による。
- (29) 森江英二が発行者となっている赤松大励『修養小話』(1906)の奥付には、発兌元が「森江分店」、発売元が「森江本店」とある。ただし、反町 [1990: 100] には「森江書房、仏書専門書店として盛業。後に本郷春木町に移る」とある。佐七の没後に本郷の店に統合されたか。
- (30) 国文学研究資料館「蔵書印データベース」出典ID「200004049」などにおける「人物情報」の項目を参照。http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta\_pub/detail (2017年5月15日確認)。
- (31) 豊山大学は当時、三学期制で、第二学期は9月1日から12月31日までとされているが、春季休学は7月20日から9月10日までともあるので、18日から授業が始まることもあり得るか [大正大学五十年史1976: 173]。ちなみに、慧海は大正5年から東洋大学でチベット語を教えていたとされるが、東洋大学は前期と後期の2学期制で、後期は11月1日から3月31日となっている [東洋大学1937: 297]。
- (32) 和写014『僧徒官位事』に、明治34年(1901)に小林正盛が書肆で得たものを譲ってもらったという識語がある。
- (33) 和版90『密教發達志』は西崖が慧海に贈ったもの(寄贈者識語を参照)。洋和186『支那美術史彫塑篇』も同様。
- (34) 肩書きは、『密教發達志批判講演集』による [塚本1920:1, 57]。権田雷斧については、表紙と57頁の肩書きが異なり、表紙は「大司教大僧正」となっている。なお慧海は、加藤精神から昭和13年(1938)発行の『般若理趣經研精録』を贈られている(洋和125参照)。
- (35) 原稿の内容は、『密教發達志批判講演集』の51頁5行目～55頁3行目に当たる [慧海1920]。

(小此木敏明)

# 河口慧海文庫公開の軌跡

---





本書では、立正大学品川図書館が所蔵する河口慧海旧蔵の非将来文献を、洋装本と和装本に分け、その全容を「目録」として提示した。また、その中から注目すべき資料については、「解題」中にて取り上げた。以下に本書の内容をまとめて記し、むすびとしたい。

当館では、東西文化交流研究所を通じて寄贈されることとなった慧海旧蔵書のほか、慧海関連の資料の収集を進めている。本書冒頭の「資料紹介」では、その新収資料と、本目録に掲載されている旧蔵書の中から数点を選び、画像と共に紹介・解説を試みた。

次の「河口慧海文庫概要」では、東西研から立正大学へと慧海旧蔵書が渡った経緯と、図書館における対応を時系列で示した。慧海旧蔵書を含む東西研寄贈書は、寄贈当時、洋装本のみが登録され、和装本は未登録という形で別置されていた。しかし、近年になり、東西研寄贈の和装本の存在が忘れられ、和装本の登録作業が進む中で別置が解かれてしまった。そのため、和装本に関しては、完全な形で東西研寄贈書（慧海旧蔵書を含む）を復元することが困難となっている。今後も慧海旧蔵書が見つかる可能性が残る所以である。

また、立正大学が所蔵する非将来文献の全容とともに、慧海か、彼に近い人物が資料に貼ったと推定される整理ラベルにも注目した。目録では、NDC 7版に基づく10進分類法で整理しているため、「概要」において、慧海のラベルが残る資料に関しては、ラベル順に掲載を行った。今後、他機関における慧海旧蔵書に見られるラベルを追加することで、ある時点における慧海の蔵書整理の全容が補強されればよいと考える。

「洋装本目録」「和装本目録」では、各資料に関する書誌情報のほか、書入れや資料に挟まっていた紙片などから、慧海にまつわる情報を可能な限り抜き出すことに努めた。慧海自身の書入れはもちろん、慧海へ宛てた寄贈者の識語などについては、スペースの許す限り画像を掲載した。また、慧海や慧海以前の旧蔵者の蔵書印などについても、画像を掲載する方針をとった。

「解題」では、目録作成の調査の過程で判明した情報をもとに、資料の紹介や解説を行った。解題①と②は庄司が、③は小此木が執筆を担当した。①では仏教学者としての慧海の側面にスポットを当て、特に当館所蔵の法華経関連資料とともに紹介した。慧海は法華経の本文の研究を行っていたが、洋装本に限らず和装本の法華経の注釈書を所持しており、実際にそれを読んで書入れを行っていたことが分かる。②では、慧海と彼にまつわる人々の交流の軌跡について紹介した。特に、慧海自身が資料を入手した際の書入れや、慧海と交流があった人々が彼に蔵書を贈った際の書入れなどを時系列にならべ、各人物についての簡単な解説を附した。③は、慧海旧蔵書中に見られた目白僧園関係者の蔵書に着目した。具体的には、僧園の開設者であった雲照や、その弟子であった神榮・慶淳といった人物を紹介し、彼らの旧蔵書と推定される資料を紹介した。また、慧海がそれらの蔵書を入手した経緯について、近代の書肆の仕入れ印を交えつつ、推測を試みた。

最後の「慧海文庫公開の軌跡」では、当館における慧海関連資料の発見から、資料整理業務の過程や、当館資料に関する展示会の開催、学会等での発表の記録をまとめている。

本書の内容は以上の通りである。2009年の資料発見と、その後の調査を開始してから今に至るまで、すでに8年以上が経過してしまっていたが、本書の刊行をもって当館が所蔵する河口慧海関連資料に対する調査・報告がひとまず終了したことになる。今回の河口慧海旧蔵の洋装本・和装本資料に

対する調査により、彼の蔵書構成や彼をとりまく国境を越えた様々な人々との交流の軌跡が示されることとなったが、これらの資料は近代仏教学の形成過程を明らかにする上で今後活用されるべきものと思われる。さらに、今後は日本国内の各機関にそれぞれ別個に所蔵されている慧海関連資料の包括的研究もなされるべきであろう。

なお、すでに指摘した通り、当館所蔵の河口慧海旧蔵書は、1952年頃、当時立正大学長であった石橋湛山を通じて本学へと受け入れられたものと考えられるが、当館では彼の遺志を継ぎ、慧海関連資料の蒐集を進めている。

以下に、当館が所蔵する河口慧海文庫公開の軌跡を記す。

## 2010年11月

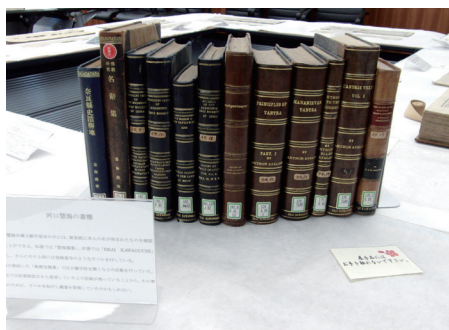
**解説**「河口慧海請来文献」〔旅する本～立正大学図書館所蔵河口慧海コレクション～〕（『立正大学大崎図書館 今昔蔵書選』立正大学大崎図書館編）：庄司史生

※同年に開催された「立正大学大崎図書館特別展 今昔蔵書選」にあわせて発行された図録。この中で初めて立正大学所蔵河口慧海資料を紹介。

## 2010年11月29日～12月4日 於 立正大学

**展示**「立正大学大崎図書館特別展 今昔蔵書選」（立正大学図書館主催）

※立正大学図書館所蔵の貴重書・善本を展示。本展示の中で、立正大学所蔵河口慧海資料を初公開。



## 2010年12月 於 立正大学

**講演**「本学図書館所蔵・河口慧海コレクション」（立正大学大崎図書館特別展 今昔蔵書選 記念講演会、立正大学情報メディアセンター主催）：庄司史生

※「立正大学大崎図書館特別展 今昔蔵書選」にあわせて開催した記念講演。講演発表の場での立正大学所蔵河口慧海資料について初公開。

## 2011年3月

**論文**「立正大学図書館所蔵・河口慧海将来チベット語訳『八千頌般若経』」（『仏教学論集』第28号、

1-16頁)：庄司史生

※立正大学所蔵本の中から、河口慧海が第1回チベット旅行時に入手した経典を紹介。

### 2011年9月 於 龍谷大学

**学会発表**「立正大学図書館所蔵河口慧海旧蔵資料」(日本印度学仏教学会第62回学術大会)：庄司史生

※立正大学所蔵本のうち、特に将来資料について、全国学会にてはじめて紹介。

### 2012年11月1日～11月12日 於 立正大学

**展示**「立正大学図書館所蔵・河口慧海文庫」(立正大学図書館主催)

※立正大学図書館内展示コーナーにて、河口慧海の請来資料と旧蔵資料の一部を展示。

### 2011年12月 於 立正大学

**講演**「新出資料紹介、当館に所蔵されていた河口慧海旧蔵資料」(立正大学情報メディアセンター講演会——学術情報、連携から発信へ——)：庄司史生

※立正大学情報メディアセンター講演会において、資料調査の現状について報告。

### 2012年3月

**論文**“Newly Found Literatures Owned by Ekai Kawaguchi Kept in the Rissho University Library,” Journal of Indian and Buddhist studies, Vol.60, No. 3, pp.1283-1288.：庄司史生

※2011年9月に行われた学会発表の内容を学会誌に投稿。

### 2012年10月 於 立正大学

**講演**「河口慧海が将来した仏典」(第17回 佛教図書館協会研修会、佛教図書館協会主催)：庄司史生

※立正大学で開催された第17回 佛教図書館協会研修会において、河口慧海資料を紹介。

**学会発表**「立正大学図書館所蔵・河口慧海旧蔵資料について」(第7回国際法華経学会、立正大学主催)：庄司史生

※立正大学で開催された第7回国際法華経学会において、立正大学に所蔵されていた河口慧海資料について紹介。

### 2013年2月

**論文**「立正大学大崎図書館所蔵・河口慧海請来梵文写本『ガンダ・ヴューハ』に関する予備的調査報告」(『法華仏教と関係諸文化の研究：伊藤瑞叡博士古稀記念論文集』山喜房佛書林、837-846頁)：庄司史生

※立正大学所蔵河口慧海将来文献のうち、再発見となった梵文『華嚴経入法界品』写本の概要を紹介。

## 2013年3月

**解説** 『立正大学大崎図書館所蔵 河口慧海請来資料解題目録』（立正大学大崎図書館編）：庄司史生  
※立正大学に所蔵されていた河口慧海将来資料についての目録を発行。将来資料調査がひとまず終了。

**論文** 「立正大学図書館所蔵河口慧将来文献の研究(1)——梵文『華嚴經入法界品』写本の翻刻と対校(1)——」（『法華文化研究』第39号、17-33頁）：庄司史生

※梵文『華嚴經入法界品』写本の冒頭から翻刻を開始。またその特徴について言及。

**論文** “The archives of Ekai Kawaguchi at Rissho University Library,” *Universal and International Nature of the Lotus Sutra* (Tokyo: The Rissho University Executive Committee for the Seventh International Conference on the Lotus Sutra, pp.85-100)：庄司史生

※2012年10月に開催された国際法華経学会での発表内容について、英文で紹介。

## 2013年9月 於 國學院大學

**学会発表** 「立正大学図書館所蔵河口慧海旧蔵書について——洋装本を中心に——」（日本宗教学会第72回学術大会 第8部会）：庄司史生

※立正大学所蔵河口慧海資料のうち、未発表であった洋装本資料の概要について紹介。

## 2014年1月 於 立正大学

**講演** 「立正大学大崎図書館所蔵河口慧海旧蔵文献の特色」（立正大学日蓮教学研究所月例研究会、立正大学日蓮教学研究所主催）：庄司史生

※立正大学所蔵河口慧海資料について、他の所蔵機関との比較における資料的特徴について紹介。

## 2014年3月

**論文** 「立正大学大崎図書館所蔵河口慧海旧蔵書について——洋装本を中心として——」（『宗教研究』第87巻別冊、344-345頁）：庄司史生

※2013年9月に学会発表を行った内容について、学会誌に投稿。

## 2014年4月

**記事** 「見つかった河口慧海請来資料」（『チベット文化研究会報』第38巻2号、20頁）：高山龍三

※河口慧海研究の第一人者である高山龍三氏による立正大学所蔵資料と『解題目録』の紹介。

## 2014年5月

**記事** 「『河口慧海旧蔵』と判明——立正大の大崎図書館所蔵資料」『中外日報（論）』（中外日報社、2014年5月23日付、7頁）：庄司史生

※2009年の発見から現在にいたるまでの資料調査について報告。

## 2014年9月 於 種智院大学

**学会発表** 「河口慧海における社会的実践」（日本佛教学会 第84回学術大会（仏教における実践を問



う——社会的実践の理念——))：庄司史生

※立正大学所蔵本をたよりとして、河口慧海が行った社会的実践について発表。

### 2014年9月 於 同志社大学

**学会発表** 「立正大学図書館に所蔵されていた河口慧海旧蔵の和装本について」(日本宗教学会第73回学術大会 第6部会)：庄司史生

※立正大学所蔵河口慧海資料のうち、未発表であった和装本資料の概要について紹介。

### 2014年11月 於 立正大学

**講演** 「河口慧海研究の現状」(第七五一回 日蓮聖人小松原法難会 記念講話)：庄司史生

※河口慧海に関する研究状況について、立正大学所蔵本の調査報告とともに発表。

### 2015年3月

**論文** 「河口慧海の社会的実践」(『日本佛教学會年報』80号、11-43頁)：庄司史生

※2014年9月に学会発表を行った内容について、学会誌に投稿。

### 2015年3月

**論文** 「立正大学図書館に所蔵されていた河口慧海旧蔵の和装本について」(『宗教研究』88(別冊)、283-284頁)：庄司史生

※2014年9月に学会発表を行った内容について、学会誌に投稿。

### 2015年4月～2016年3月

**研究助成** 「河口慧海による『法華経』翻訳の再評価」：庄司史生・小此木敏明・松山典正

※立正大学 研究推進・地域連携センター支援費 第1種の助成金を得て共同研究を実施。

### 2015年10月 於 立正大学

**講演 展示** 「河口慧海請来資料との出会い」(立正大学ネパール交流プロジェクト～キックオフイベント～、立正大学主催)：庄司史生

※同年より開始した立正大学ネパール交流プロジェクトのキックオフイベントにおいて、立正大



学所蔵河口慧海資料の発見と現状での調査の進捗状況について講演。あわせて、河口慧海文庫資料を展示。

## 2016年3月

**論文** 「立正大学図書館所蔵河口慧将来文献の研究(1)——梵文『華嚴経入法界品』写本の翻刻と対校(2)——」(『法華文化研究』第42号、1-9頁)：庄司史生

※梵文『華嚴経入法界品』写本の翻刻を継続して行い、前回までの続きを提示。

## 2016年5月 於 一橋講堂

**展示** 河口慧海関連資料展示

※日本隊によるマナスル初登頂60周年記念のイベント「ザ・マナスルデー」にて河口慧海関連の新収資料を展示。



## 2016年8月～2017年3月

**研究助成** 「近代日本に将来されたネパール仏教写本の研究——河口慧海将来サンスクリット写本を中心として——」：庄司史生

※立正大学ネパール研究プロジェクト（タイプC）による助成金を得て研究を実施。

## 2016年9月 於 立正大学

**展示** 河口慧海関連資料展示



※公開講座「ネパールに魅せられた日本人たち」の開催にあわせて、石橋湛山講堂にて河口慧海関連資料を展示。

## 2016年9月 於 早稲田大学

**学会発表** 「河口慧海と華嚴經」（日本宗教学会 第75回学術大会 第5部会）：庄司史生

※河口慧海と華嚴經について、特に立正大学所蔵資料に基づいて考察し、発表。「近代日本に将来されたネパール仏教写本の研究——河口慧海将来サンスクリット写本を中心として——」（平成28年度 立正大学ネパール研究プロジェクト（タイプC））の研究成果の一部。

## 2017年3月

**論文** 「河口慧海と華嚴經」（『宗教研究』90（別冊）、248-249頁）：庄司史生

※2016年9月の学会発表での内容を学会誌に投稿。

## 2017年6月 於 立正大学

**見学会** 私立大学図書館協会東地区総会

※河口慧海文庫と資料の紹介。

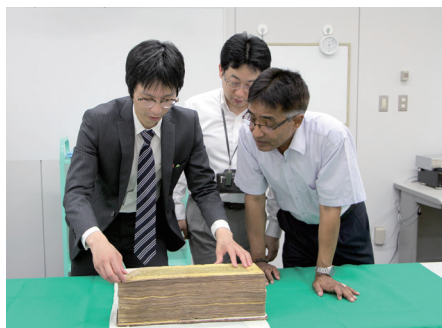
## 2017年6月 於 立正大学

**調査** シャンカル・タバ教授による河口慧海資料の調査：佐々木一憲（研究代表者）

※2017年6月26日(月)、日本にもたらされたネパールの仏教写本の調査のため、ネパール国立トリブヴァン大学のシャンカル・タバ教授（「立正大学ネパール研究プロジェクト」助成による共同研究「ネパール仏教の包括的研究」にて招聘）が品川図書館・古書資料館に来館。



古書資料館にて タバ教授を囲んで  
(写真左より、佐々木一憲講師、シャンカル・タバ教授、小此木、庄司)



写本を調査するタバ教授

## 2017年7月 於 立正大学古書資料館

**見学会** 専門図書館協議会見学会

※河口慧海文庫と資料の紹介。

## 2017年9月 於 東京大学

**学会発表** 「河口慧海と法華経」（日本宗教学会第76回学術大会 第8部会）：庄司史生

※河口慧海と法華経について、特に立正大学所蔵資料に基づいて考察し、発表。

## 2017年10月 於 立正大学

**展示** 河口慧海関連資料展示

※本学仏教文化公開講座「釈尊誕生の地ネパールと日本」（主催：本学仏教学部、共催：本学ネパール交流プロジェクト、後援：公益社団法人日本ネパール協会、チベット文化研究会、本学仏教学部同窓会）の開催にあわせて、石橋湛山記念講堂にて河口慧海関連資料を展示。同日は高山龍三氏（チベット文化研究会会長）「釈迦生誕地を詣でた日本人たち」、村上東俊氏（法華宗陣門流学林教授）「釈尊誕生の地のいま」、庄司史生（本学仏教学部講師）「立正大学とネパールの交流について」と題する講演が行われた。



高山龍三氏によるご講演



石橋湛山像を囲んでの資料展示

## 2017年10月

**記事** 「仏教学者・河口慧海の旧蔵書【立正大学・古書資料館の世界 2回】」（八木書店 コラム 〈<https://company.books-yagi.co.jp/archives/4019>〉）：小此木敏明

※立正大学図書館所蔵河口慧海旧蔵書のうち数点を紹介し、戦前の古書店についても言及。

## 2018年3月

**論文** “The Legacy of Tanzan Ishibashi: The Books Formerly Kept by Ekai Kawaguchi Preserved at Risscho University,” *The Risscho International Journal of Academic Research in Culture and Society 1* (ed. by The Risscho University Interanational Journal Committee, Tokyo: Heibonsha, pp.9-44)：庄司史生

※各機関に所蔵される河口慧海関連資料の全容をまとめ、その上で立正大学所蔵資料の特徴について紹介。

## 参考文献

(著者名五十音順)

- 會谷佳光 [編著] [2010a] 『成田山新勝寺一切経堂収蔵黄檗版大蔵経目録』成田：大本山成田山新勝寺。
- [2010b] 「和刻本『大明三蔵聖教目録』諸本再考」『東洋文庫書報』42, pp.151-199.
- 赤松大励 [1906] 『修養小話：印度古代お伽草紙』東京：森江英二。
- 浅口郡誌編纂係 [編纂] [1925] 『浅口郡誌』岡山：浅口郡役所。
- 浅田一 [1945] 「河口慧海師追想録（一）」『中外日報』（昭和20年3月16日付）
- 石川泰志 [2008] 『近代皇室と仏教：国家と宗教と歴史』東京：原書房。
- 石橋湛山 [2001a] 『石橋湛山日記上：昭和20-31年』東京：みすず書房。
- [2001b] 『石橋湛山日記下：昭和20-31年』東京：みすず書房。
- 石田智宏 [2006] 「法華経の梵語写本 発見・研究史概観」『東洋文化研究所所報』10, pp.1-28.
- 市古貞次 [ほか編] [1998] 『国書人名辞典 第4巻』東京：岩波書店。
- 市古夏生 [編] [2014] 『元禄・正徳板元別出版書総覧』東京：勉誠出版。
- 伊藤宏見 [編] [1974] 『雲照・興然遺墨集』東京：文化書房博文。
- 井上隆明 [1998] 『改訂増補近世書林板元總覽』東京：青裳堂書店。
- 黄檗文化研究所 [編] [1998] 『「特別企画河口慧海ネパール・チベット入国百周年記念——その初公開資料と黄檗山の名宝——」展図録』宇治：黄檗山萬福寺文華殿。
- 大塚伸夫 [2001] 「解説 河口慧海訳『蔵文和訳大日経』」『河口慧海著作集第11巻』pp.1-14.
- [2002] 「解説 河口慧海訳『蔵漢対訳大日経住心品』」『河口慧海著作集第9巻』pp.6-13.
- 大槻幹郎・松永知海 [共編] [1994] 『黄檗版大蔵経刊記集』京都：思文閣出版。
- 奥山直司 [1999] 「解説 慧海仏教学の成立」『河口慧海著作集第4巻』pp.1-22.
- [2000] 「解説 河口慧海の思想遍歴」『河口慧海著作集第3巻』pp.1-20.
- [編] [2007] 『河口慧海日記：ヒマラヤ・チベットの旅』東京：講談社。
- [2008] 「日本仏教とセイロン仏教との出会い：釈興然の留学を中心に」『コンタクト・ゾーン』2, pp.23-36.
- [2009] 『評伝河口慧海』（中公文庫）東京：中央公論新社。（2003年同社、初版）= 『評伝』
- [2016a] 「明治印度留学生：その南アジア体験をめぐって」『印度學佛教學研究』64（2），pp.1042-1035.
- [2016] 「釈興然のセイロン留学と釈雲照：林董関係書簡を中心に」『密教学研究』48, pp.53-65.
- 小此木敏明 [2017a] 「日蓮宗大学の火災と蔵書：新居文庫を中心に」『立正大学史学紀要』2, pp.3-19.
- [2017b] 「仏教学者・河口慧海の旧蔵書【立正大学・古書資料館の世界 2回】」, <<https://company.books-yagi.co.jp/archives/4019>> 2017年10月24日アクセス.
- 小野清秀 [1915] 『真言密教聖典』東京：大聖社。
- 小島文鼎 [1973] 『近世禅林僧宝伝（復刻）第3巻』京都：思文閣。（鹿苑寺蔵版1938年、初版）



- 梶山雄一 [2001] 「法華經における如来全身」『国際仏教学高等研究所年報』4, pp.3-26.
- 金子英一 [1999a] 「解説 西藏傳印度佛教歴史上 一名釋迦牟尼佛之傳」『河口慧海著作集第7巻』 pp.321-342.
- [1999b] 「解説 西藏傳唯識三十頌」『河口慧海著作集第7巻』 pp.163-175.
- 金子民雄 [2002] 『ヘディン交遊録：探検家の生涯における17人』東京：中央公論新社.
- 金子良太 [1977] 「K ダッシュ梵文「法華經」余話」『東洋文庫書報』8, pp.78-86.
- 川合清丸 [著]・宇佐美賀山 [編] [1847] 『旃檀異香』東京：富山全鳳.
- 河口正 [1961] 『河口慧海：日本最初のチベット入国者』（初版）東京：春秋社。= 『慧海伝』
- [2000] 『河口慧海：日本最初のチベット入国者』東京：春秋社。= 『慧海伝』
- 河口慧海 [1914] 『西藏旅行記』上，東京：博文館.
- [1920] 「密教發達史批判」塚本賢曉編『密教發達史批判講演集：学士院受賞大村西崖氏（秘鍵特別号）』東京：國譯密教刊行會，pp.36-56.
- [2004] 『慧海資料（河口慧海著作集，別巻3）』新潟：うしお書店.
- [2011a] 『和文草稿篇（河口慧海著作集，補巻2 上）』東京：USS 出版.
- [2011b] 『和文草稿篇（河口慧海著作集，補巻2 下）』東京：USS 出版.
- [著]・高山龍三 [校訂] [1978] 『チベット旅行記』（5冊）東京：講談社.
- [著]・高山龍三 [校訂] [2015] 『チベット旅行記』（上・下2冊）東京：講談社.
- 岸上操 [1899] 『明治十二傑』東京：博文館.
- 木村高尉 [2002a] 「解説『法心經』」『河口慧海著作集第12巻』 pp.1-2.
- [2002b] 「『河口慧海訳「(ナルタン版) 西藏大藏經甘珠目録』」『河口慧海著作集第12巻』 pp.3-5.
- 清見睦郎 [1945] 『天心岡倉覚三』東京：筑摩書房.
- 草繫全宜 [1913] 『釋雲照 上編』東京：徳教会.
- [1914a] 『釋雲照 中編』東京：徳教会.
- [1914b] 『釋雲照 下編』東京：徳教会.
- [1961] 『雲照大和上傳』京都：大覚寺.
- 熊原政男 [1981] 「図書の函号に用いられた千字文に就いて」関靖・熊原政男『金沢文庫本之研究』青裳堂書店，pp.383-391.（初出『神奈川県図書館学会誌』3, 1958）
- 現代仏教家人名辞典刊行会 [編] [1917] 『現代仏教家人名辞典』東京：現代仏教家人名辞典刊行会.
- 佼成出版社 [編] [1986] 『河口慧海請来チベット資料図録：東北大学文学部所蔵』東京：佼成出版社.
- 高本康子 [2010] 『近代日本におけるチベット像の形成と展開』東京：芙蓉書房出版.
- 小槻晴明 [編] [2003] 『東京大学総合図書館所蔵梵文法華經写本（no. 414）ローマ字版』（法華經写本シリーズ5）東京：創価学会.
- 斎藤昭俊 [1979] 『仏教教育辞典』東京：国書刊行会.
- 斎藤光純 [1977] 「河口慧海師将来東洋文庫所蔵写本チベット大藏經調査備忘録」『大正大学研究紀要』63, pp.1-61.
- 堺市博物館 [編] [1993] 『河口慧海：仏教の原点を求めた人』堺：堺市博物館.
- 寺院本末帳研究会 [編] [1981] 『江戸幕府寺院本末帳集成 上』東京：雄山閣.

- 出版タイムス社 [編] [1930]「人と事業」『日本出版大観』東京：出版タイムス社.
- 庄司史生 [2010]「旅する本～立正大学図書館所蔵河口慧海コレクション～」立正大学大崎図書館編『今昔蔵書選：遠いときへ思いを馳せて』東京：立正大学大崎図書館，pp.36-38.
- [2011]「東洋文庫所蔵・河口慧海将来蔵外写本チベット語訳『金剛般若経』と『法華経』について」『東洋文庫書報』43，pp.19-42.
- [2013]「立正大学図書館所蔵河口慧将来文献の研究（1）——梵文『華嚴経入法界品』写本の翻刻と対校（1）——」『法華文化研究』39，pp.17-33.
- [2014a]「未発表の東洋文庫所蔵・河口慧海旧蔵クメール文字パーリ語文献について」『東洋文庫所報』（45），pp.113-140.
- [2014b]「立正大学大崎図書館所蔵河口慧海旧蔵書について——洋装を中心として——」『宗教研究』87（別冊），pp.344-345.
- [2015a]「河口慧海の社会的実践」『日本佛教学会年報』80，pp.11-43.
- [2015b]「立正大学図書館に所蔵された河口慧海旧蔵の和装本について」『宗教研究』88（別冊），pp.283-284.
- [2016]「河口慧海と華嚴経」『宗教研究』90（別冊），pp.248-249.
- 神瑩 [1902]『集義廻章』東京：神瑩.
- 末本文美士 [2001]「東京大学所蔵の仏教貴重書」『印度學佛教學研究』50（1），pp.1-8.
- 鈴木昶 [2005]『日本の伝承薬：江戸売薬から家庭薬まで』東京：薬事日報社.
- 鈴木隆泰 [2008-2016]「プダク写本『法華経』第1章「序品」～同第19章「常不軽菩薩品」」『山口県立大学学術情報』vol.1-9.
- 鈴木俊幸 [2012]「仕入印と符牒」『書籍流通史料論序説』東京：勉誠出版，pp.47-100.
- 全国寺院大鑑編纂委員会 [編] [1991]『市町村区分による全国寺院大鑑 下巻』京都：法蔵館.
- 反町茂雄 [1990]『紙魚の昔がたり 明治大正篇』東京：八木書店.
- 大正大学五十年史編纂委員会 [編] [1976]『大正大学五十年略史』東京：大正大学五十年史編纂委員会.
- 大真 [1911]『渡印記念寫真帖』[出版地不明]：[大真].
- 多賀城市教育委員会 [編] [2016]『多賀城市の歴史遺産 笠神村 下馬村（多賀城市文化財調査報告書第130集）』多賀城市：多賀城市文化遺産活用活性化実行委員会.
- 高山龍三 [1999]『河口慧海：人と旅と業績』東京：大明堂.
- [2002]『展望河口慧海論』京都：法蔵館.
- [2011]『河口慧海への旅：釈迦生誕地に巡礼した人びと』東京：勉誠出版.
- 田嶋信雄 [2006]『田嶋隆純の生涯』東京：隆純地蔵尊奉賛会.
- 田中公明 [1990]『詳解河口慧海コレクション：チベット・ネパール仏教美術』東京：佼成出版社.
- & 吉崎一美 [共著] [1998]『ネパール仏教』東京：春秋社.
- [2001]「解説一 絵巻・図録・法華経」『河口慧海著作集別巻2』pp.327-332.
- 田鍋幸信 [編] [1977]『西山禾山：伝記資料』東京：大西書店.
- 中外日報 [1919.3.26]「釋慶淳氏逝く」『中外日報』.
- 塚本賢曉 [編] [1920]『密教發達志批判講演集：学士院受賞大村西崖氏（秘鍵特別号）』東京：國

- 譯密教刊行會.
- 辻直四郎 [1966] [書評]「[松濤誠廉編] A Catalogue of the Sanskrit manuscripts in the Tokyo university library, compiled by Seiren Matsunami. Tokyo (Suzuki Research Foundation 鈴木學術財団), 1965. IX, 386 pp.」『鈴木學術財団研究年報』2, pp.84-86.
- 坪谷善四郎 [編] [1937]『博文館五十年史』東京：博文館.
- ツルティム・ケサン&三木治子 [2017]『ダライ・ラマー一世ゲンドゥン・ドゥップ著『根本中論「般若」の語義釈論・宝鬘』和訳』東京：山喜房佛書林.
- 東京朝日新聞 [1916.6.16]「釋大眞師入寂」『東京朝日新聞』.
- 東北大学文学部東洋・日本美術史研究室 [編] [1986]『河口慧海請来チベット資料図録』仙台：東北大学文学部.
- 東洋大学 [編] [1937]『東洋大学創立五十年史』東京：東洋大学.
- 東洋文庫 [2002]「河口請来蔵外文献解説」([http://124.33.215.236/Database/Kawaguchi\\_collection.pdf](http://124.33.215.236/Database/Kawaguchi_collection.pdf))
- 外川昌彦 [2016]「ダルマパーラのブツダガヤ復興運動と日本人：ヒンドゥー教僧院長のマハントと英領インド政府の宗教政策を背景とした」日本研究 53, 189-229.
- 中村菊之進 [1984]「宋明州王公祠本大蔵経考」『文化』44 (1・2), pp.93-99.
- 中村瑞隆 [1976-1997]「Dam pañi chos pad ma dkar po shes bya ba theg pa chen poñi mdo (1) - (12)」『法華文化研究』2-23.
- [2000]『釈迦の故城を探る：推定カピラ城跡の発掘』東京：雄山閣出版.
- 長島尚道 [1975]「大正大学所蔵チベット大蔵経・ナルタン版甘殊爾目録」『大正大学研究紀要』61, pp.1-35.
- 日外アソシエーツ [編] [2013]『出版文化人物事典——江戸から近現代・出版人1600人』東京：日外アソシエーツ.
- 日外アソシエーツ編集部 [編] [2000a]『新訂増補 人物レファレンス事典：明治・大正・昭和（戦前）編 あ〜し』東京：日外アソシエーツ.
- [編] [2000b]『新訂増補 人物レファレンス事典：明治・大正・昭和（戦前）編 す〜わ』東京：日外アソシエーツ.
- 野沢佳美 [2015]『印刷漢文大蔵経の歴史：中国・高麗篇』東京：立正大学情報メディアセンター.
- 野間朝次郎 [1895]『洞津みやげ』三重：野間朝次郎.
- 蓮実俊峯 [編] [1929]『獅子林餘影』栃木：雲照寺.
- 長谷寶秀 [著]・種智院大学密教資料研究所 [編] [1997]『長谷寶秀全集 第3巻』京都：法藏館.
- 長谷川天溪 [1899]「釈雲照律師」岸上操編『明治十二傑』東京：博文館, pp.307-350.
- 東元慶喜 [1982]「釈尊正風会の一とひと」『駒澤大學佛教學部研究紀要』40, pp.51-61.
- 日高信六郎&川喜田二郎 [編著] [1967]『ネパール・ヒマラヤ探検記録：ネパールと日本 1899-1966』東京：講談社.
- 風俗画報 [1907]『風俗画報臨時増刊356号（新選東京名所図絵第47編）』東京：東陽堂.
- 平凡社 [編] [1981]『日本歴史地名大系 30（奈良県の地名）』東京：平凡社.
- 堀伸一郎 [2012]「東洋文庫所蔵未比定サンスクリット写本について」『東洋文庫書報』44, pp.1-24.
- 牧野和夫 [2011]「日本中世文学における十三世紀後末期東山白毫院・靈山周辺：書物ネットワーク

- ク視点から」『實踐國文學』79, pp.32-42.
- 松永知海 [編] [1999] 『影印東叡山寛永寺天海版一切經願文集』京都：佛教大学松永研究室.
- 松濤泰雄 [2002] 「解説 河口慧海訳『藏和对訳無量寿経』『藏和对訳阿弥陀経』『河口慧海著作集第9巻』 pp.14-17.
- 密教大辞典再版委員会 [増訂編] [1983] 『密教大辞典 (増訂縮刷版)』京都：法藏館. (1970年同社、増訂版)
- 宮田恵美 [2007] 「伯父河口慧海の思い出」『河口慧海日記』(河口慧海 [著]、奥山直司編) 東京：講談社.
- 壬生台舜 [1955] 「河口コレクションに就いて」『日本西藏学会々報』2, pp.1-3.  
— [1967] 『大正大学所蔵ナルタン版チベット大蔵経論疏目録』[東京].
- 無相 [1906] 「故一無道人釈神瑩師を想ふ」『十善宝窟』194, pp.48-58.
- 宗川宗満 [1961] 『(ナルタン版) 西藏大蔵経甘珠爾目録』.
- 元良勇次郎 [1900] 『教育と宗教との関係』東京：光融館.
- 矢上山宝島寺 [編] [1987] 『宝島寺所蔵歴史資料目録』倉敷：矢上山宝島寺.
- 吉田文夫 [1981] 「文淵閣・浅倉屋のこと」『文学』49 (12), pp.162-164.
- 米澤嘉康 [2001] 「解説 河口慧海訳『入菩薩行』について」『河口慧海著作集第5巻』 pp.1-8.
- 読売新聞 [1909.6.18] 「目白僧園は分離か解散か」『読売新聞』.  
— [1909.12.27] 「目白僧園の紛擾 二万円の宝什奪合ひ」『読売新聞』.
- 立正大学大崎図書館 [編]・庄司史生 [解説] [2013] 『立正大学大崎図書館所蔵河口慧海請来資料解題目録』東京：立正大学情報メディアセンター. = 『請来資料目録』
- 渡辺守邦・後藤憲二 [編] [2013] 『新編蔵書印譜 (贈訂) 上』東京：青裳堂書店.
- 
- Kaneko, Ryōtai & Matsunami, Yoshihiro & Saitō, Kōjun [1979] “A Descriptive catalogue of the Sanskrit manuscripts in the possession of the Toyo Bunko,” *Memoirs of the research department of the Toyo Bunko (The Oriental library)*, 37, pp.159-191.
- Khangkar, Tsultrim Kelsang [2009] *Tibetan translation of Saddharmapuṇḍarīka-sūtra*, (日蔵仏教文化叢書11), Kyoto: Tibetan Buddhist Culture Association.
- Matsunami, Seiren [1965] *A catalogue of the Sanskrit manuscripts in the Tokyo University Library*, Tokyo: Suzuki Research Foundation.
- Seishi Karashima [2005-2008] “An Old Tibetan Translation of the Lotus Sutra from Khotan (1) ~ (4),” *Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University*, vol.8 ~ 11.
- Tokyo University Library [1959] *List of Sanskrit manuscripts (Kawaguchi and Takakusu Collection) in the Tokyo university library*, [Tokyo].
- Walsh, E. H. C. [1904] “A List of Tibetan Books Brought from Lhasa by Japanese Monk, Mr. Ekai Kawa Gochi,” *Journal of the Asiatic Society of Bengal*, part I., Vol. LXXIII, No.2, pp.118-177.
- 于凌波 [1995] 『中国近现代佛教人物志』北京：宗教文化出版社.
- (釋) 東初 [1974] 『中國佛教近代史』(下冊) 臺北：中華佛教文化館.

# 索 引

## 凡 例

- ・本索引は7頁から214頁までを対象とし、概ね次の基準で見出し語を選んだ。目録に収録されている資料とその著者。慧海に蔵書を寄贈するなど、慧海と交流のあった人物。「はじめに」「解題」において重要と思われるもの。和装本に見られる奥書や識語の記載者。
- ・見出し語は印欧語・西藏（チベット）語・和漢語の三つに分け、印欧語・西藏語はアルファベット順、和漢語は五十音順に配列した。ただし、「Śāntideva（シャーンティデーヴァ）」のように、別の語を注記した場合もある。
- ・見出し語には「書名」「人名」「事項」の分類を付した。また、目録収録資料の「書名」とその著者に当たる「人名」「事項」には、「洋和001」などの目録番号を記載した。
- ・見出し語の漢字は、本文中の表記にかかわらず、基本的に新字体に統一した。
- ・「河口慧海」は見出し語にあげていない。目録収録資料の著者としては、洋和056-58, 207-209（53, 74頁）がある。

## 印 欧 語

<p>A Brief Summary of mDo bskal bzang, the Sutra on the Glorious Age 書名 洋洋038 83</p> <p>A Buddhist Bible 書名 洋洋033 82</p> <p>A Catalogue of the Chinese Translation of the Buddhist Tripiṭaka : The Sacred Canon of the Buddhists in China and Japan 書名 洋和064 55</p> <p>A Collection of Prakrit and Sanskrit Inscriptions 書名 洋洋026 36,81</p> <p>A Commentary to the Kācyaaparivarta 書名 洋洋041 83,178</p> <p>A Dictionary of the English Language 書名 洋洋084 92</p> <p>A Handbook for Travellers in India, Burma and Ceylon: Including the Provinces of Bengal, Bombay, Madras, the United Provinces of Agra and Oudh, the Panjab, Bihar and Orissa, Assam, the Northwest Frontier Province, Baluchistan, and the Central Provinces; and the Native States of Rajputana, Central India, Kashmir, Hyderabad, Mysore, etc. 書名 洋洋062 87,165</p> <p>A Handful of Popular Maxims (Laukikanyāyājñālīḥ, 1-3) 書名 洋洋090 33,93</p> <p>A Sanskrit Grammar for Beginners, in Devanāgarī and Roman Letters Throughout 書名 洋洋081 91</p> <p>A Tibetan-English Dictionary: With Special Reference to the Prevailing Dialects: To Which is Added an English-Tibetan Vocabulary 書名 洋洋075 90,168, 170</p> <p>Abhisamayālamkāra-śloka Prajñāpāramitāvyaḥkyā: The Work of Haribhadra 書名 洋洋040 83</p> <p>Acts to Revelation: Tibetan 書名 洋洋021 80</p> <p>Ādyera Gambhīrā 書名 洋洋017 79</p> <p>Alexander, Mary Charlotte 人名 洋洋052 85</p>	<p>Alphabetical Index to Pāṇini's Sūtras: The Bhakti-Ratnāvalī 書名 洋洋082 91</p> <p>Among the Himalayas 書名 洋洋067 33,88</p> <p>An English Translation with Sanskrit Text of the Yogasara-Sangraha of Vijnana Bhikshu 書名 洋洋034 82</p> <p>An Introduction to the Grammar of the Tibetan Language 書名 洋洋074 90,170</p> <p>Ancient India, as Described by Megasthenēs and Arrian: Being a Translation of the Fragments of the Indika of Megasthenēs Collected by Dr. Schwanbeck, and of the Firstpart of the Indika of Arrian 書名 洋洋049 85,166</p> <p>Andrade, Antonio de 人名 12</p> <p>Anderson, John 人名 洋洋047 85</p> <p>Avalon, Arthur and Ellen 人名 洋洋005 77</p> <p>Avalon, Arthur 人名 洋洋001 71,72</p> <p>Barth, A. 人名 洋洋002 77,166</p> <p>Batchelor, John 人名 洋洋046 85</p> <p>Beal, S. 人名 洋洋022 80</p> <p>Bell, C. A. 人名 洋洋073 89,170</p> <p>Besant, Annie 人名 洋洋014 79,173</p> <p>Bhāṣā bhāskara, arthāt, Hindi bhāṣā kā vyākaraṇa: Bhāṣā bhāskara; A grammar of the Hindi language 書名 洋洋078 90</p> <p>Bhaktiśatakam 書名 洋洋038 83</p> <p>Bhandarkar, Sir Ramkrishna Gopal 人名 洋洋083 91,173</p> <p>Bhattacharya, Krishnakamal 人名 洋洋089 80,92</p> <p>Bhavabhūti 書名 洋洋087 92</p> <p>Bhāvanagaraprācīna śodhasaṃgraha 書名 洋洋029 35,81</p> <p>Bhavnagar Archaeological Dept. 事項 洋洋026 81</p> <p>Bodhicaryāvātāra 書名 152</p> <p>Bodhisattvabhūmi: A Statement of Whole Course of the Bodhisattva (Being Fifteenth Section of Yogācārabhūmi) 2 書名 洋洋042 84,178</p>
--	---



- Brooks, F. T. 人名 洋洋015 79,175
- Buddhism in China 書名 洋洋022 80
- Buddhism: Its History and Literature 書名 洋洋020 80
- Buddhist Texts of Buddhists Text Society 書名 洋洋031 33,83
- Buddhist Texts of the Buddhists Text Society of India 書名 洋洋038 33,83
- Bühler, Georg 人名 洋洋025 81,179
- Burgess, Jas. 人名 洋洋025 81,179
- Bushell, S.W. 人名 洋洋064 88
- Carus, Paul 人名 洋洋036 82,172
- Central Hindu College 事項 洋洋007 78,173
- Chikoro Utarapa ne Yesu Kiristo Ashiri Aeutaknup Oma Kambi = The New Testament of Our Lord and Saviour Jesus Christ in Ainu 書名 洋洋046 85
- Chinese Religion Through Hindu Eyes: a Study in the Tendencies of Asiatic Mentality 書名 洋洋018 36,80
- Chisholm, George G. 人名 洋洋060 87,166
- Cowell, Edward B. 人名 洋洋048,086 85,92,165
- Cunningham, Alexander 人名 洋洋027,028,061 81,87,165,166
- Daṇḍin 人名 洋洋088 92
- Dalai lama VII (Blo bzang bskal bzang rgya mtsho) 事項 40
- Dale, J.B. 人名 洋洋016 79,166
- Darjeeling 事項 83,88,89,90,170,174,175
- Darśanasatīkām 書名 洋洋011 78
- Das Leben des Buddha von Āsvaghoṣa: tibetisch und deutsch 書名 洋洋098 94,176
- Dās, Bhagavān 人名 洋洋014 79
- Das, Govinda 人名 洋洋003 77,166,173
- Das, Nobin Chandra 人名 洋洋019 80
- Das, Sarat Chandra 人名 洋洋030 80,82,83,86,88,90,167,169,170,174,175
- Daśakumāracharita 書名 洋洋088 92
- Davids, T. W. Rhys 人名 洋洋020 80,88
- Dhammapada 書名 洋洋039 83,155
- Dharmapāla 人名 洋洋006 77
- Dharmarāja Nārāyen Gandhi 人名 洋洋080 91
- Dhāturuṣpakośa: Compiled for the Use of Sanskrit Students 書名 洋洋080 91
- Egypt: As Seen in Scripture and on the Monuments 書名 洋洋051 85
- Elliott, Sir Charles A. 人名 洋洋066 88
- English-Esperanto Dictionary 書名 洋洋085 92,173
- Etherington, W. 人名 洋洋078 90
- Étude sur le Mahāvairocana-Sūtra (Dainichikyō): Avec la Traduction Commentée du Premier Chapitre 書名 洋洋043 84,153,178
- Histoire de ce qui s'est passé au Royaume du Tibet: T'ree des lettres escriptes en l'année 1626 書名 洋洋032,081 12
- Müller, F. Max 人名 洋洋032,081 79,175
- Followers of Buddha 書名 洋洋035 82
- Gaṇḍavyūha 書名 33,95,155,156,168
- Godabole, Nārāyanā Bālakrishṇā 人名 洋洋095 94
- Goddard, Dwight 人名 洋洋033 82,83,177
- Graham, J.A. 人名 洋洋066 88,172
- Griffith, Ralph T. H. 人名 洋洋010 78
- Gunanand, Pandit 人名 洋洋050 85
- Gupta and Inscription Galleries 書名 洋洋047 85
- Hall, Fitzedward 人名 洋洋063 88
- Hand Book of Colloquial Tibetan: A Practical Guide to the Language of Central Tibet: in Three Parts 書名 洋洋077 33,90,170
- Hayes, C.F. 人名 洋洋085 92,173
- Hedin, Sven 人名 洋洋054,055 14,86,169
- Hinduism and India: A Restrospect and a Prospect 書名 洋洋003 77,166,173
- Hindustan Review 書名 洋洋004 77
- History of Nepāl 書名 洋洋050 15,36,85,167
- Hymns to the Goddess 書名 洋洋005 35,77
- Indian Palmistry 書名 洋洋016 79
- Inscriptions of Asoka 書名 洋洋027 36,81
- Jacob, G.A. 人名 洋洋090 93
- Jainism, in Western Garb, as a Solution to Life's Great Problems 書名 洋洋013 79,174
- Jaschke, H.A. 人名 洋洋075 92,168,170,174
- Johnson, J.J. 人名 洋洋097 94
- Journal of the Buddhist Text Society of India 書名 洋洋030 33,82
- Journey to Lhasa and central Tibet 書名 洋洋053 33,86,169,174
- Kane, Pandurang Vaman 人名 洋洋094 94,173
- Karuṇapūṇḍarikam 書名 洋洋039 83
- Kasawara, Kenjiu 人名 洋洋032 82
- Kern, Hendrik 人名 洋洋031 82,159
- Kumarasambhavam: Cantos I-VII with the Commentary of Mallinatha 書名 洋洋089 92
- La Trobe, B. 人名 洋洋057 86
- Laṅkāvatāra Sūtram 書名 洋洋038 83
- Laukikanyāyāñjaliḥ dvitīyo bhāgaḥ: A Handful of Popular Maxims, Current in Sanskrit Literature 書名 洋洋090 93
- Laukikanyāyāñjaliḥ Tṛtīyo bhāgaḥ: A Handful of Popular Maxims, Current in Sanskrit Literature 書名 洋洋090 93
- Laukikanyāyāñjaliḥ: A Handful of popular maxims, Current in Sanskrit Literature 書名 洋洋090 93
- Lcan skya I (Lcan skya ngag chos ldan ngag mtsho) 事項 40
- Lethbridge, Roper 人名 洋洋100 95,173
- Lhasa: An Account of the Country and People of Central Tibet and of the Progress of the Mission Sent There by the English Government in the year 1903-4 書名 洋洋056 86

LIST OF BOOKS FOR SALE	事項	125	Sastri, Pandit Sivanath	人名 洋洋044	84,175
Longmans' School Geography for India and Ceylon	書名 洋洋060	87,166	von Schiefner, F. Anton	人名 洋洋024	81
Mādhyaṃikā vṛtṭi	書名 洋洋039	83	Second Book of Sanskrit, Being a Treatise on Grammar, with Exercises	書名 洋洋083	91,173
Maha-Bodhi Society (Mahābodhi Society)	事項 洋洋006	77,173	Selections from Modern English Literature: for the Use of Higher Classes in Indian Schools	書名 洋洋100	38,95,173
Mahābodhi, or, The great Buddhist temple under the Bodhi tree at Buddha-Gaya	書名 洋洋028	81,165	Self-help: With Illustrations of Character, Conduct, and Perseverance	書名 洋洋072	38,89
Majumdar, Jnanendralal	人名 洋洋019	80	Shamsher, Chandra (チャンドラ・シャムシェール)	人名	162,163,167, 168,180
Manu	人名 洋洋071	89	Shastri, Ganesh Dutt	人名 洋洋079	91
Manual of Colloquial Tibetan	書名 洋洋073	89,170	Shachakranirūpana and Pādūkāpanchaka	書名 洋洋008	78
Manusmṛtiḥ Ḳullukabhataṅkṛta-Manavarthamuktāvalivyākhyāsahitā	書名 洋洋071	89	Sherring, M. A.	人名 洋洋063	88,175
Marston, Annie W.	人名 洋洋057	86	Sikhim and Bhutan: Twenty-one Years on the North-East Frontier, 1887-1908	書名 洋洋068	89
McCrinkle, J.W.	人名 洋洋049	85,166	Sinha, Sachchidananda	人名 洋洋004	77
Mitra, Rājendralāla	人名 洋洋099	95	Smiles, Samuel	人名 洋洋072	89
Mulnvan, C.M.	人名 洋洋078	90	von Staël-Holstein, A. Freiherr	人名 洋洋041	83
Munshi Shew Shunker Singh	書名 洋洋050	85	Sunderland, J.T. (ジェー・テイ・サンダーランド)	人名 洋和169	69,165
Nandargikar, Gopalr Raghunath	人名 洋洋092	93	Suvarṇaprabhā	書名 洋洋039	83
Nanjio, Bunyiu (南条文雄)	人名 洋洋031	82,159	Tagore, Rabindranath	人名 洋洋091	93,165, 175
Nava Ratnamālā	書名 洋洋096	94	Tajima, R.	人名 洋洋043	84,178
Neo-theosophy Exposed	書名 洋洋015	79	Tantra of the Great Liberation (Mahānirvāna tantra)	書名 洋洋009	35,78
Nichiren	人名 洋洋045	84	Tantrābhīdhāna with Vījanīghantu and Muḍrānīghantu	書名 洋洋008	78
O'Connor, J.C.	人名 洋洋085	92,173	Tantrik Texts	書名 洋洋008	38,78
Olcott, Henry S.	人名 洋洋006	77	Tāranātha	人名 洋洋023	78,80
On the Threshold of Three Closed Lands: the Guild Outpost in the Eastern Himalayas	書名 洋洋066	38,82,172	Tāranātha Vidyāratna	人名 洋洋008	78
On Yuan Chwang's Travels in India	書名 洋洋064, 065	36,88	Tāranāthaḥi Chos ḥbyuñ (Dpal gyi 'byungans Dam pa'i chos rin po che 'Phags pa'i yul du ji ltar dar ba'i tshul gsal barston pa Dgos 'dod kun 'byuñ zhes bya ba bzhugs so)	書名 洋洋023	80
One Hundred Poems of Kabir	書名 洋洋091	93,175	Ṭhākura, Śri Matthendra	人名 洋洋096	94,173
Padmachandrakosha: An Etymological Sanscrit-Hindi Dictionary for the Use of Schools and Colleges	書名 洋洋079	91	The Abhijñānaśakuntala of Kalidasa: the Purer Devanagari Text Edited With a Literal English Translation, Various Readings, a Preface Principally Treating of the Relative Value of the Several Recensions, Full Notes and Useful Appendices	書名 洋洋093	93
Pāliṭa, Haridāsa	人名 洋洋017	79	The Ancient Geography of India, vol. 1	書名 洋洋061	87,166
Parab, Kās 'māth Pāndurang	人名 洋洋095	94	The Awakening to the Truth, or, 'Kaimokushō'	書名 洋洋045	84
Patankar, P.N.	人名 洋洋093	93,173	The Bhagavad Gītā: With Samskr̥it Text, free Translation into English, a Word-for-Word Translation, and an Introduction on Samskr̥it Grammar	書名 洋洋014	79,173
Prapanchasāra Tantra	書名 洋洋008	78	The Bhakti-ratnāvali, with the Commentary of Viṣṇu Purī	書名 洋洋082	91
Principles of Tantra Part I: The Tantratattva of Śriyukta Śhiva Chandra Vidyārṇava	書名 洋洋001	35,44,77	The Buddha-Karita of Asvaghosha	書名 洋洋086	92
Bhāttācārya Mahodaya	人名 洋洋024	81	The Buddha's Golden Path	書名 洋洋037	83,177
Ralston, W.R.S.	人名 洋洋097	94	The Buddhist Stupas of Amaravati and		
Rāmānujāchārya	人名 洋洋058	86			
Rijnhart, Susie Carson	人名 洋洋053, 069	86,89,169			
Rockhill, W. Woodville	書名 洋洋031	26,82, 158,159			
Sādharmapuṇḍarika	書名 洋洋094	94			
Sāhitya-darpaṇa (Paricchedas I, II, X Arthālānīkāras): With Exhaustive Notes	事項	127,171			
saiṃdhavaḥ (saindhava)	書名 洋洋038	83			
Samādhirāja Sūtram	書名 洋洋007	78,173			
Sanātana Dharma: An Advanced Text Book of Hindu Religion and Ethics	人名 洋洋077	90,170			
Sandberg, Graham	人名	152			
Śāntideva (シャーンティデーヴァ)	人名 洋洋018	80,89,174			
Sarkar, Benoy Kumar					

Jaggayyapeta in the Krishna District, Madras Presidency, Surveyed in 1882	書名 洋洋025	81,179	The Vedānta Siddhāntamuktāvali of Prakāśānanda	書名 洋洋012	79
The Dharma-samgraha: An Ancient Collection of Buddhist Technical Terms	書名 洋洋032	82	The Vedāntatattvasāra	書名 洋洋097	94
The Century Illustrated Monthly Magazine	書名	11	Theosophical Publishing Society <i>Three Years in Tibet</i>	書名 洋洋014	77,79,166
The Eagle and the Captive Sun: Indian Pandits in the Land of Snow	書名 洋洋019	80	Tibet and Lhasa	書名 洋洋059	87,170
The Eagle and the Captive Sun: A Study in Comparative Mythology	書名 洋洋019	80	Tibet: A Geographical, Ethnographical, and Historical Sketch, Derived from Chinese Sources	書名 洋洋069	89
The Gospel of Buddha, According to Old Records	書名 洋洋036	82,172	Tibetan Grammar	書名 洋洋076	90,170
The Great Closed Land: A Plea for Tibet	書名 洋洋057	86	Tibetan Tales Derived from Indian Sources	書名 洋洋024	39,81
The History of India	書名 洋洋048	36,85,165	Ting-Fang, Wu	人名 洋洋018	80
The Hitopadeśa of Nārāyaṇa Paṇḍit (a protégé of King Mādhavachandra): Ed. with Explanatory English Notes	書名 洋洋095	94	Trans-Himalaya: Discoveries and Adventures in Tibet	書名 洋洋054,055	14,86,169
The Hymns of the Samaveda	書名 洋洋010	33,78	Udānavarga	書名	155
The Indo-European Language: Bhāṣā Bhāskara	書名 洋洋078	90	Unwalla, J.N.	人名	79,92,
The Indo-European Language: Five Lectures Delivered at the Queen's College, Benares	書名 洋洋078	90	Uttarāmacharita	書名 洋洋087	92
The Kinship Between Hinduism and Buddhism	書名 洋洋006	77	Vasubandhu	人名	154
The Latest News from Lhasa : A Narrative of Personal Adventure in Tibet.	書名	11	Venis, Arthur	人名 洋洋012	79
The Meghadūta of Kālidāsa: with the Commentary of Mallinātha, for the Use of High Schools and Colleges	書名 洋洋092	93	Visuddhimaggo	書名 洋洋039	83
The Mission of the Brahma Samaj or the Theistic Church of Modern India	書名 洋洋044	84,175	Vyasashrama Bookshop	事項 洋洋015	79
The Religions of India	書名 洋洋002	36,77,166	Waddell, L.A.	人名 洋洋067	88
The Right Hon	書名 洋洋101	95	Walsh リスト	事項	170,180
The Sacred City of the Hindus: An Account of Benares in Ancient and Modern Times	書名 洋洋063	88,175	Warren, Herbert	人名 洋洋013	79,174
The Sanskrit Buddhist Literature of Nepal	書名 洋洋099	95,156	Watters, Thomas	書名 洋洋064	88
The Science of History and the Hope of Mankind	書名 洋洋070	89,174	Wenzel, H.	人名 洋洋032	82
The Story of Hawaii	書名 洋洋052	38,85	Weller, von Friedrich	人名 洋洋098	94,176
			White, J. Claude	人名 洋洋059,068	87,89,170
			With the Tibetans in Tent and Temple: Narrative of Four Years' Residence on the Tibetan Border, and of a Journey into the Far Interior	書名 洋洋058	86
			Woghara, Unrai	人名 洋洋040,042	83,84,178
			Wood, Rey J.	人名 洋洋002	77,166
			Worcester, Joseph E.	人名 洋洋084	92
			Wright, Daniel	人名 洋洋050	15,85,167
			yogācārabhūmi → 庚伽遮羅浮迷	事項	
			Zanoni	書名 洋洋101	95

## 西蔵 (チベット) 語

Klong rdol bla ma (Ngag dbang bla bzang)	事項	42	書名	
mkhan chen bla ma shes rab rgya mtsho ming can e ka'i ka ba gu ci	事項	174	Dam pa'i chos pad ma dkar po zhes bya ba theg pa chen po'i mdo → 法華經	書名
dGe 'dun grub pa (ダライ・ラマ 5 世)	人名	170	rdo rje gling lha sa bi lla	事項
Dge slong blo bzang tshul khrim	事項	42	paṇ ḍi ta shri sha ra ta tsan dra	人名
sGra'i bstan bcos sum cu pa'i tshig don gsal ba'i me long → 語の解説、三十頌の語義「灯の鏡」	書名		Phags pa shes rab kyu pha rol tu phyin pa brgyad stong pa → 八千頌般若(經)	書名
ja pan yul	事項	174	Blo bzang ' phrin las	事項
jigs byed	事項	168	Blo bzang batan pa'i rgyal mtshan dpal bzang po	事項
bsTan bcos 'gyur ro cog gsung bar du bsgrubs pa'i dkar chag tshangs pa'i dbyangs → ナルタン版テンギュル目録「梵声」			dBu ma rtsa ba shes rab kyi ngag don bshad pa rin po che'i phreng ba → 根本中般若の語義解釈「宝鬘」	書名
			bhang ga la'i yul	事項

## 和漢語

愛染王法口伝抄	書名 和写031	38,144	歌之志をり：全	書名 洋和216	76
愛染最深秘訣	書名 和写026	35,142	内山正如	人名 和版093	123
アウグスト・ファウスト	人名 洋和009	46	ウヌワラ (Unwalla)	人名	94,173
阿吽阿経	書名 洋和053	53	ウパーサカ仏教	事項	153
青地善親	人名	143	優婆塞五戒相経箋要 (仏説優婆塞五戒相経箋要)	書名 和版055	115
赤尾好夫	人名	29	浦上隆応	人名 洋和128	64,171, 172,193,204
明石惠達	人名 洋和205	74	雲照	人名 和写007	112,115, 137-139,141,143,145,149, 163,183-194,196-198, 201-203,207
秋里籬島	人名 和版108	127	運敏	人名 和版053, 和写019	101,114,140
浅倉屋	事項	62,103,124, 198-201	詠歌自在	書名 洋和215	75
浅田宗伯処方全集 前編	書名 洋和174	70	栄慶	人名	119
浅田宗伯処方全集 後編	書名 洋和175	70	栄西禅師	書名 洋和133	65
朝月：歌集	書名 洋和217	76	叡尊	人名 和版043	111
足利惠倫	人名 和版103	126	永平高祖傘松道詠略解	書名 和版097	35,124
阿字観正訣	書名 和写023	37,142,190	永遍	人名 和写027	143,192
阿字授要鈔 (阿字檜尾記授要鈔)	書名 和版082	121,194	慧遠	人名 和版065,103	117,126
阿闍仏国経 (仏説阿闍仏国経)	書名 和版014	37,104	慧海伝	書名	25,27,28,32,40
姉崎正治	人名 洋和023,050	48,53	恵看	人名 和版094	123
阿毘達磨俱舍論講要義林	書名 和写010	38,138	恵暁	人名	119
阿弥陀経 (仏説阿弥陀経)	書名 和版013	104,154	慧光	人名 和写002	136
雨森芳洲	人名 和版132	133	江塚幸夫	人名	28
荒井堯民	人名 和版133,135	134	慧然	人名 和版105	127
安藤正純	人名 洋和060	54	関蔵知津	書名 和版067	117
アンドラーデ	人名	12	エドアード・フォン・ハルトマン	人名 洋和023	48
猪狩又蔵	人名 洋和015-018	47	エドモンド・ブランデン	人名 洋和151	67
池田澄達	人名 洋和008	46,94, 158,176,179	慧弁	人名	139
石井教道	人名	10	慧輪	人名 和版095	124
石井光雄	人名	29	円位	人名	138
石津照璽	人名	28	円意	人名	122
石橋湛山	人名	29,30,208,213,214	円光 (良含)	人名 和写008	137,195, 204
泉芳環	人名	151,168	緑山三大蔵目録	書名 和版007	38,102, 176,198
和泉名所図会	書名 和版108	34,127	円慈 → 東嶺円慈	人名	
一英国人の見たる日本及日本人	書名 洋和156	67	円澄	人名 和版038	110
一鹹味 → 冠註一鹹味	書名		円珍	人名 和版044	112
一切経開題	書名	107	円明	人名	128,132
一切蔵経中漢訳未翻経書表	事項	152	オ、ロゼンベルグ	人名 洋和043	51,175
伊藤忠太	人名	29	汪印侯	人名 和版107	127
稲葉君山	人名 洋和146	66	[応永二十一年] 曼荼羅供略記	書名 和写028	143
井上満	人名 洋和154	67	王鐸書草書詩卷	書名 和版123	131,178
異訳心経	書名 和版029	34,108, 172,184,185,201	王日休	人名 和版021	106
岩井大慧	人名 洋和001	44,45,179	王伯序	人名	17,107
印度教	事項	168	黄檗版 (黄檗版一切経、黄檗版大蔵経)	事項	37,42,103-106, 157,159,162,163, 167,171,172
インド後期中観派	事項	152	大江清一	人名 洋和009	46
印度人と西藏人	事項	151	大田錦城	人名 和版133-135	134
中央ヒンドゥー学院	事項	173	大槻文彦	人名 洋和202,203	74
印度仏蹟写真帖	書名 和版113	38,129, 161,176			
印譜	事項	41,172,188			
印融	人名 和版078,079	120,144			
上田万年	人名 洋和198,199	73			
宇佐美賀山	人名	115,189			

- 大野達之助 人名 洋和029 49  
大村西崖 人名 洋和186, 和版090,111 72,122,128, 175,202,204
- 大森義太郎 人名 洋和003 45  
大和田建樹 人名 洋和220 76  
岡教達 人名 洋和121, 和版113 62,129,159, 161,162,176
- 岡本良知 人名 洋和166 69  
荻原雲来 人名 洋和042,212,213 51,75,175
- 荻原博士記念会 事項 洋和047 52  
奥平与二 人名 8  
織田恵秀 人名 49,174  
織田得能 人名 108,160,161  
落合東堤 人名 洋和004 45  
牛津大学 事項 55,173  
「覚書 (The Memorial)」 事項 167  
思ふまゝ:随筆 書名 洋和002 45,177  
飲光 (慈雲) 人名 和版091 122  
おん祭と猿楽:春日若宮 書名 洋和026 48  
カーギュ派 事項 153  
絵画と国家の盛衰 書名 洋和187 72  
開心秘決 書名 和写017 38,140  
解説梵語学 書名 洋和214 75  
快全 人名 和写027 143,192  
開題 書名 和版027 37,107  
戒通 人名 139  
快道 人名 和版128 132  
外務省通商局 事項 69,165  
海雄 人名 140  
戒猷行明 人名 141  
戒律宗章疏 書名 洋和075 36,56  
戒律宗章疏三 書名 洋和079 37,57  
戒律宗章疏二 書名 洋和077 37,56  
果海 人名 和版069 118  
ガガネンダラ・ナート・タゴール 人名 175  
覚演 人名 140  
覚巖心梁 人名 和版097 124  
覚彦 人名 和版041 111  
格言大辞典 書名 洋和019 47  
格言統一儒教宝典 書名 洋和007 46  
覚济 人名 和写028 143  
覚智 人名 110  
覚超僧都全集刊行会 事項 和版072 119  
覚超僧都全集第二之上 書名 和版072 119  
覚道次第 → 浪忍科判 書名  
覚鑊 (興教大師) 人名 和版082 121  
科金剛界蓮華部心念誦儀軌 書名 和版043 39,111  
加持世界 書名 141  
珂存 人名 和版041 111  
科註般若心経秘鍵 書名 和版028 35,107, 199,201  
科註妙法蓮華経 書名 和版030 34,108, 159,160,163, 199-201
- 瞎道本光 人名 和版035 110  
加藤玄智 人名 洋和020 47  
加藤精神 人名 洋和125 63,179, 202,204
- 仮名古事記 → 古事記 書名  
金沢庄三郎 人名 洋和200 73  
金森徳次郎 人名 29  
金子良太 人名 26  
カピラ城跡 事項 161  
神月徹宗 人名 洋和160 68  
神代正語 書名 和版001 34,101  
辛島静志 人名 159  
カルカッタ市 事項 90,174  
カルカッタ博物館代理 事項 168  
河口正 人名 25-29,39-41, 164,180-182
- 河口慧海 (春秋社) → 慧海伝 書名  
河口慧海 (人物書誌大系44) 書名 25  
河口慧海請来チベット資料図録 書名 26,39  
河口慧海書簡 書名 10  
河口慧海ほか書簡巻 書名 9  
河口慧海師略伝並年譜 書名 25,41  
[河口慧海送棺式誄文] 書名 和写036 18,54, 145,179
- 河口慧海草稿 事項 7  
河口慧海著作集 書名 25,39,40,152,171  
河口慧海著作選集 書名 25  
河口慧海日記:ヒマラヤ・チベットの旅 (講談社、2007) 書名 25  
河口慧海による将来品や草稿等を含む 事項 26  
関連資料 事項 8  
河口慧海葉書 事項 25  
河口慧海:人と旅と業績 書名  
河口慧海への旅:釈迦生誕地に巡礼した 書名 25  
人びと 事項 25,41,172,176,177  
河口慧海老師後援会 人名 8  
河口すみ子 人名 136,177  
河口半瑞 (善七) 人名 和版094 123  
河辺源隆 人名 和版071 118  
願海 書名  
官許大蔵輔国集 → 大蔵輔国集 人名 123  
寛興 書名 152,153  
漢蔵対照国訳維摩経 書名 152,153  
漢蔵対照勝鬘経 書名 和写002 136  
揀択時日編 書名 和版098 37,124  
冠註一鹹味 書名 和版100 35,125  
冠註四部録 書名 和版049 37,98,99, 113,193,199,201  
冠註即身成仏義 書名 和版081 35,120  
カント 人名 28  
冠導阿毘達磨俱舍論 書名 和版064 38,117  
関東大震災 事項 26,168,179  
神林隆浄 人名 洋和129 64,177, 180  
漢訳仏典 事項 150,151  
漢老女人経 書名 和版119 130,178  
義海 人名 120



義観	人名	和写011	138,189	隈部慈明	人名		168
義干	人名		111	鳩摩羅什	人名	和版019, 030-032,	
義閑	人名		121			059-061	16,105,108,109,
岸水庵	人名	和版041	111				116,150,160,162,173
技術史	書名	洋和176	70	久留春年	人名	洋和193-197	73
宜春英岳	人名		146	供養法疏略鈔	書名	和版086	38,121
義浄	人名	和版003, 016, 041,		クルガノフ	人名	洋和155	67
		057	51,99,101,	黒上正一郎	人名	洋和141	65,153
			104,111,115	慶応大学仏教青年会主催邦文欧文仏書			
義楚	人名	和版005	102	展覧会特別講演	事項		150
義操	人名	和写015	139	警覺心統生義	書名	和版080	35,120
義楚六帖 (釈氏六帖)	書名	和版005	33,102	慶宜	人名	和版053	114
北村季吟	人名	洋和221	76	敬光顕道	人名		112
木津無庵	人名	洋和033	49,174	経済学大意 改正版	書名	洋和170	69
橘窓茶話	書名	和版132	34,133	慶淳	人名	98,112,113,121,	
絹川太一	人名	洋和179	71			137,145,183,185,	
魏譬論経	書名	和版119	130			192-198,201-204,207	
紀平正美	人名	洋和012	47	ゲール派	事項		153
宜本	人名		137	華嚴経	書名		155,213
木宮恵満	人名	和版098	124	華嚴経持験紀 → 歴朝華嚴経持験紀	書名		
木宮泰彦	人名	洋和133	65	華嚴経浄行品二玄記 → 大方広仏華嚴経			
木村鷹太郎	人名	洋和140	65	浄行品第七搜探二玄記	書名		
逆水洞流	人名	和版096	124	華嚴経入法界品 (Gaṇḍavyūha)	書名	26,155,168,209,	
ギャンツェ写本	事項		158			210,212	
九州三侯遣欧使節行記 続篇	書名	洋和166	69	花嚴五教章玄談	書名	和写005	34,137
恭畏	人名		140	華嚴五教章講録	書名	和写006	38,137
京栄	人名	和写012	138	華嚴五教章聴講録	書名	和写007	34,137,
恭英	人名		141			185-188,198,201	
教王経開題	書名		107	華嚴宗章疏下	書名	洋和106	37,60
教観綱宗	書名	和版070	34,118	華嚴宗章疏 [上]	書名	洋和104	37,60
教観綱宗积義	書名	和版070	34,118	華嚴浄土論章疏	書名	洋和071	36,56
狂言全集	書名	洋和219	76	華嚴普賢行願品宗通略疏	書名	和版101	37,125,
経集 (Suttanipāta)	書名		155			174,185	
教舜	人名	和写018, 030, 031		華嚴部章疏	書名	洋和065	35,55
			140,144	華嚴部章疏二	書名	洋和066	35,55
				華嚴部章疏之余; 方等部章疏一	書名	洋和068	35,55
教如	人名		123	月海	人名	和写023	142
堯尊 (圭誉堯尊房)	人名		138,139,	缺十七行本十七帖			
			189-191,204	→ 原石初搨缺十七行本十七帖	書名		
教長	人名		145	月叟宗円	人名		111
行の哲学	書名	洋和012	47	ケルン (Hendrik Kern)	人名		159
旭菴	人名		123	ケルン・南条本	事項		159,160,163
魚山私鈔 (魚山叢芥集)	書名	和版092	34,123	賢賀	人名	和写024	142
巨妙	人名	和写037	146	堅海	人名		121
ギリシヤの文化	書名	洋和184	71	源海	人名		143,192
基督抹殺論	書名	洋和138	65	元賢	人名	和版025	107
近代支那史	書名	洋和146	66	元興	人名		115
近代宗教思想論考	書名	洋和022	48	賢埴千仏号	書名	和版042	111
空海	人名	和版027, 028, 081-		謙順	人名	和版034	109,141
		083, 和写021		元照	人名	和版054, 058	
			107,120,121,				114,115,118
			141,191	玄奘	人名	和版026, 064	
空弁	人名	和版078, 079	120				17,107,117
俱舎論	書名		28	憲深	人名	和写017	140,195
俱舎論講要義林				元西域人華化考: 上	書名	洋和147	66,178
→ 阿毘達磨俱舎論講要義林	書名			見性宗般	人名		124
楠基道	人名	洋和148	66	原石初搨缺十七行本十七帖	書名	和版117	130,178
功德施菩薩	人名	和版022	106	元智	人名		139
求那跋摩	人名	和版055	115				

- 元朝歴代帝后像 書名 和版107 127  
 玄如 人名 和版102 126  
 賢宝 人名 和版075, 和写004 119,136
- 見聞録 書名 和版069 34,118  
 小泉日慈 人名 161  
 洪懋熙 人名 洋和163 68  
 香庵 人名 111  
 光海 人名 和写022 141  
 弘暉 人名 137,195  
 興教大師 → 覺饒 人名  
 高泉性激 人名 和版004 101  
 康僧鑑 人名 和版013 104  
 幸田成友 人名 洋和152 67
- 交通における資本主義の発展：日本交通業の近代化過程 書名 洋和181 71  
 紅頭嶼土俗調査報告 書名 洋和172 70,172  
 幸徳伝次郎 人名 洋和138 65  
 広日本文典：全 書名 洋和202,203 38,74
- 興然 人名 16,118,166,171, 183-185,192,193, 196,203
- 合部金光明経 → 金光明経  
 果宝 書名 和版047,075,076, 和写024 112,119, 136,142
- 弘法大師書集 書名 和版118 130,178  
 弘法大師の思想と宗教 書名 洋和129 64,177  
 弘法大師の書法源流 書名 和版118 130,178  
 高野山絵葉書帖 第1集 書名 洋和189 72  
 高野山絵葉書帖 第2集 書名 洋和190 72  
 高野山絵葉書帖 第3集 書名 洋和191 72  
 高遊外 人名 和版106 127  
 紅罇一唾篇 → 徧界紅罇一唾篇 書名  
 古易陶朱占 書名 和写001 136,177  
 国語のため 書名 洋和198 73  
 国語のため：第2 書名 洋和199 73  
 国民文庫刊行会 事項 洋和219 76  
 五供養偈注 書名 和版087 33,122  
 壺月余影 書名 洋和048 52  
 古事記 書名 和版131 34,133  
 呉昌碩書画譜 書名 和版115 129,176  
 胡瑞霖 人名 102,176  
 梧桐漫筆後編 書名 和版134 19,34, 134,179
- 梧桐漫筆三編 書名 和版135 34,134  
 梧桐漫筆 [前編] 書名 和版133 34,134  
 ゴダード 人名 177  
 後藤末雄 人名 洋和139 65
- 語の解説、三十頌の語義「灯の鏡」  
 (sGra'i bstan bcos sum cu pa'i tshig don gsal ba'i me long) 書名 167,174,180
- 小畠文鼎 人名 洋和134,135 65  
 小林正盛 人名 122,139,202,204  
 古仏道元 書名 洋和136 65  
 小柳通義 人名 洋和007 46  
 小山内薫 人名 洋和218 76
- 御遣告釈疑鈔 書名 和版084 38,121  
 コルカタ 事項 15,168  
 ゴロヴニン 人名 洋和154 67  
 コロンボ 事項 173  
 金剛経と六祖壇経の研究 書名 洋和116 61  
 金剛供 書名 和写029 34,143  
 金剛頂経開題 書名 107  
 金剛頂経大瑜伽秘密心地法門義訣 卷上 書名 和版045 112  
 金剛頂大教王曼荼羅灌頂金剛名号 書名 139  
 金剛般若波羅蜜経破取著不壞仮名論 書名 和版022 106  
 金剛宝土 事項 88,168,174,175  
 金光明経 書名 和版017,018 37,105  
 金光明最勝王経 書名 和版016,041 37,104,111
- 金剛略疏 書名 和版025 34,107, 199
- コンサイス東京都35区区分地図帖：  
 戦災焼失区域表示 書名 洋和158 68  
 金七十論章疏；十句義論章疏；六離合釈章疏 書名 洋和103 36,60  
 権田雷斧 人名 123,202,204  
 近藤時司 人名 洋和162 68  
 厳仏調 人名 和版015 104  
 根本説一切有部戒経 書名 和版057 115  
 根本中般若の語義解釈「宝鬘」  
 (dBu ma rtsa ba shes rab kyi ngag don bshad pa rin po che'i phreng ba) 書名 170  
 根本仏教 書名 洋和050 53
- サーラット・チャンドラ・ダス  
 (Sarat Chandra Das) 人名 167,180
- 最近印度事情 書名 洋和168 69,165  
 三枝博音 人名 洋和176 28-30,70  
 在家仏教 書名 152  
 在家仏教修行団 事項 10,155  
 在家仏教修行道場開設の辞 書名 40  
 最勝王経開題 書名 107  
 蔡襄書謝賜御書詩 書名 和版120 130,178  
 最新中華形勢一覽図 書名 洋和163 68  
 西天東土 書名 洋和160 68  
 在孟買帝国領事館 事項 洋和168 69,165  
 佐伯旭雅 人名 和版064 117  
 佐伯良謙 人名 洋和127 63,154  
 榊亮三郎 人名 洋和214 75  
 坂田鉄安 人名 和版131 133  
 桜井八五郎 人名 128  
 佐佐木弘綱 人名 洋和215 75  
 佐佐木信綱 人名 洋和215,216 75,76
- 佐々木峻 人名 28-30  
 [雑記] 書名 和写003 136  
 雑問答 書名 和版083 35,121  
 佐藤佐平治 人名 9  
 佐藤富江 人名 洋和059 54,178  
 サンカラ・アチャリヤ 人名 168  
 サンギェ・ギャムツォ 人名 153  
 三休老人生死弁 書名 和版095 37,124  
 三経義疏 書名 153

産業史	書名	洋和180	71
三経支那音本	書名	和版126	132,178
三教指帰註刪	書名	和写019	38,140
傘松道詠略解 → 永平高祖傘松道詠略解	書名		
サンスクリット研究草稿ノート	書名		40
サンスクリット語	事項		40,66,159
三会寺	事項		166,184
三昧耶戒序資乗記	書名	和版077	34,120
三論宗章疏	書名	洋和067	36,55
三論宗章疏之余;法相宗章疏一	書名	洋和069	36,55
三論章疏一	書名	洋和084	36,57
三論章疏之余;掌珍智度宗輪論章疏	書名	洋和093	36,58
椎尾弁匡	人名	和写036	18,54, 145,179
慈雲 → 歆光	人名		
ジェー・テイ・サンダーランド	人名	洋和169	69
志賀重昂	人名	洋和150	67
慈海	人名	和版061	116
四賀光子	人名	洋和217	76
竺法護	人名	和版014,015	104
支謙	人名	和版013	104
慈光	人名	和版058	115
慈孝	人名		128
死後の生命	書名	洋和010	46
死後の世界	書名	洋和054	53
自在天堂	事項		168
自在丸新十郎	人名	洋和046	52
慈山	人名	和版056	115
慈氏菩薩略修念誦法	書名	和写009	34,138, 200
使呪法経頌註	書名		118
四種曼陀羅義	書名	和写021	34,141, 188,189,191
自性	人名	和版082	121
地藏菩薩発心因縁十王経 (仏説地藏菩薩発心因縁十王経)	書名	和版037	34,110
四体合璧文鑑	書名	和版127	132
下谷鯉山	人名		146
実恵	人名	和版082	121
実義	人名		102
十句義論章疏 → 金七十論章疏;十句義論章疏; 六離合積章疏	書名		
桎梏の印度	書名	洋和169	69,165
実習梵語学:文法・悉曇書法・文抄・ 字書	書名	洋和212,213	75
実事録	書名		40
実心	人名	和版130	133
実詮	人名	和版048,080	112,120
[悉曇字母]	書名	和版129	133
悉曇連声伝授切韻口決	書名	和版130	37,133
実用蒙古語初歩	書名	洋和211	75,175
史的唯物論	書名	洋和003	45
支那古代史	書名	洋和145	66
支那思想の研究	書名	洋和006	45
支那美術史彫塑篇	書名	洋和186	72,175, 204

支那仏教史蹟評解 5	書名	洋和030	49,177
篠田英雄	人名	洋和157,178	68,71
地婆訶羅	人名	和版022	106
柴田一能	人名	洋和045	52,175
柴田勇之助	人名	洋和013,014	47
四部録 → 冠註四部録	書名		
私文章稿	書名		40
四分律行事鈔資持記	書名	和版058	38,115, 188
島地大等	人名	洋和034	50
島村清吉	人名		7
下永憲次	人名	洋和222	76
下中弥三郎	人名	洋和185,192	71,73,177
シャーンティデーヴァ (シャーンティデーブ、寂天、静天大徳)	人名	洋和056-58	53,152
釈迦史伝	書名	洋和060	54
釈迦譜要略	書名	和版010	103,176, 198,200
釈雲照 → 雲照	人名		
釈慶淳 → 慶淳	人名		
釈元照 → 元照	人名		
釈興然 → 興然	人名		
釈秀戒 → 大真秀戒	人名		
釈宗興 → 宗興	人名		
釈氏六帖 → 養楚六帖	書名		
釈尊	人名		153,161,214
釈大真 → 大真秀戒	人名		
釈大勇 → 大勇	人名		
釈智旭 → 智旭	人名		
釈智範 → 智範	人名		
釈通潤 → 通潤	人名		
寂天 → シャーンティデーヴァ	人名		
釈摩訶衍論謂立集	書名	和写013	38,139, 188-190
釈摩訶衍論骨髓鈔	書名	和写012	34,138
釈摩訶論玄談	書名	和写011	138, 188-191
釈門章服儀応法記	書名	和版054	35,114
釈隆晃 → 隆晃	人名		
闍那崛多	人名	和版020	105,162
ジャパンの偉大な賢人・ラマである シェーラブ・ギャンツォという名を もつエカイ・カワグチ	人名		174
写本大蔵経	事項		26,27,40
沙弥得度儀範	書名	和版104	126,179
舍利礼文鈔	書名	和版088	33,122
シャル寺	事項		158
宗教研究	書名	151,210,211,213	
宗教新論	書名	洋和020	47
宗教大学	事項	26,39,179,202	
宗教哲学	書名	洋和023,024	48
宗興	人名	和版009	103
周克復	人名	和版036	110
宗纂	人名		145,196,197

- 十七帖の研究及口訳 書名 和版117 130,178  
 十重波羅提木叉和訳 書名 和版056 115,188, 189
- 住心品疏略解 → 冠註住心品疏略解 書名  
 周石 人名 和版036 110  
 十善法語 書名 和版091 37,122  
 周弼 人名 和版139 135  
 宗門無尽灯論 書名 和版102 37,126  
 修驗道章疏一 書名 洋和081 37,57  
 修驗道章疏三 書名 洋和102 37,60  
 修驗道章疏二 書名 洋和101 37,59  
 種子集 書名 和版073 37,119  
 守脱 (大宝) 人名 和版130 133  
 俊空 人名 140  
 峻興 人名 142  
 峻山 人名 114  
 舜恕 人名 和版094 123  
 春正 人名 121,140  
 舜政 人名 和写035 145,197  
 俊尊 人名 140  
 照恵 (照焉) 人名 143,192  
 筱応道安道 人名 和版132 133  
 彰嘉 人名 111  
 聖歡喜天叢書甲集 書名 和版071 35,118  
 乘空 人名 142  
 定玄 人名 和版002 101  
 浄巖 (妙極) 人名 和版049, 081, 和写016, 026, 98,113,120,139,142
- 松山全集 書名 洋和049 53  
 声字実相義口筆 書名 和版075 34,119
- 小乘律章疏一 書名  
 → 大乘律章疏之余; 小乘律章疏一 書名  
 正真仏教 書名 8  
 承遷 人名 和版066 117  
 正倉院式文様集 古裂之部 第1集 書名 洋和193 73  
 正倉院式文様集 古裂之部 第2集 書名 洋和194 73  
 正倉院式文様集 古裂之部 第3集 書名 洋和195 73  
 正倉院式文様集 古裂之部 第4集 書名 洋和196 73  
 正倉院式文様集 古裂之部 第5集 書名 洋和197 73  
 正忠 人名 144
- 掌珍智度宗輪論章疏 書名  
 → 三論章疏之余; 書名  
 掌珍智度宗輪論章疏 書名  
 静天大徳 → シヤーンティデーヴァ 人名  
 松濤秀萃 書名 洋和182 71  
 聖徳太子 人名 153  
 聖徳太子の信仰思想と日本文化創業 書名 洋和141 65,153  
 浄土三部経 → 梵蔵和英合璧浄土三部経 書名  
 浄土宗の三部経 事項 163  
 正法律興復大和上光尊者伝 書名 和版091 122  
 勝鬘経義疏 書名 153  
 請求資料目録  
 → 立正大学大崎図書館所蔵河口慧海  
 請求資料解題目録 書名  
 如海 人名 和版003 99,101  
 徐行善 人名 和版030 108,160  
 諸宗教理同異釈 書名 和版085 34,121
- 諸尊法口決 書名 和写024 38,142, 199  
 諸大乘論章疏一 書名 洋和087 36,58  
 書道全集 第2巻 楽浪・前漢・後漢刻石文 書名 洋和192 73,177  
 新羅史 書名 洋和144 66  
 支婁迦讖 人名 和版012, 014 103,104  
 史話伝説朝鮮名勝紀行 書名 洋和162 68  
 神瑩 人名 和写007 137,183, 185-188,198, 201-203  
 探盈 人名 和版029 108,172  
 晋王献之地黄湯帖 書名 和版119 130  
 親快 人名 和写017 140  
 新義声明大典 書名 和版093 35,123  
 真賢 人名 和版028 107  
 親玄 人名 140  
 真源 人名 和版092 118,123  
 真言宗綱要 書名 洋和128 64,171, 172,185,204  
 真言宗事相章疏 書名 洋和111 37,61  
 真言密教論章疏上 書名 洋和078 36,57  
 真言密教論章疏下 書名 洋和080 36,57  
 新釈尊伝 書名 洋和062 18,54, 145,179  
 信証 人名 和版051 113  
 信怒芳全 人名 121  
 神像 事項 168  
 [神像写真] 書名 洋和032 15,49,85, 174  
 親尊 人名 和写017 140  
 神道史 書名 洋和025 48  
 榛葉元水 人名 洋和117 62,177  
 榛葉良男 人名 洋和118-120 62  
 審美極致論 書名 和版110 128,204  
 審美綱領 書名 和版111 128,198, 204  
 審美新説 書名 和版112 128,204  
 神物人感応如是 書名 洋和021 47  
 親鸞聖人絵詞伝 書名 和版094 34,123  
 随天 人名 和版007 102,176  
 瑞芳 人名 和版058 115  
 瑞龍 人名 123  
 スヴェン・ヘディン (Sven Hedin) 人名 14,169,180  
 数論二十五諦記 書名 146  
 杉浦重剛 人名 洋和015-018 47  
 杉浦俊香 人名 洋和187 72  
 杉原春洞 人名 和版064 117  
 鈴木春湖 人名 洋和221 76  
 鈴江万太郎 人名 洋和211 75,175  
 鈴木商店 事項 102,176,198  
 鈴木大拙 人名 29,168  
 鈴木力 (天眼子) 人名 洋和021 47  
 鈴木隆泰 人名 159  
 スマンガラ 人名 16,82,116,118,166, 167,173,180  
 スルシャル 人名 158

駿陽山人	人名	和版100	125	大元	人名	和写010	138
靖献遺言講義	書名	洋和004	45	大悟	人名		142,190
成純	人名		144	大自在天	事項		168
聖増	人名		144	大乘義章	書名	和版065	34,117
西藏古写経	書名	和版046	112,176	大乘十法経 (仏説大乘十法経)	書名	和版014	104
盛典	人名	和版109	128	大正新脩大蔵経索隠 第一巻			
清野謙次	人名	洋和171	69,179	阿含部 上	書名	洋和114	61
西柏	人名	和版099	124	大聖天歡喜双身毘那耶迦微決	書名		118
成雄	人名		143,192	大乘密藏経	書名		95,156
世界的研究に基づける日本太古史				大乘律章疏一	書名	洋和083	36,57
上巻	書名	洋和140	65	大乘律章疏三	書名	洋和105	36,60
世界美術全集 別巻第5巻	書名	洋和185	71	大乘律章疏二	書名	洋和085	36,57
世界文庫刊行会	事項	洋和174,175	70,150	大乘律章疏之余;小乗律章疏一	書名	洋和086	36,58
関野貞	人名	洋和030	49,177	大疏第三重決択	書名	和写020	141
世親 (Vasubandhu)	人名	和版064	117,154	大疏談義	書名	和版053	38,114
是心道光	人名		146	大真秀戒	人名	64,108,163,171,172,174,184,185,	201,203
世親の宗教: 附唯識三十頌講義	書名	洋和127	63				
雪山会	事項		41	胎藏界口伝抄	書名	和写018	34,35,140
瀬辺恵灯	人名	和版064	117	胎藏金剛教法名号	書名		139
世話狂言の研究	書名	洋和218	76	大蔵輔国集	書名	和版009	38,103
占察善悪業報経玄義	書名	和版039	35,111	大智実統	人名	和版105	127
占察善悪業報経疏	書名	和版040	35,111,200	大典禅師	書名	洋和134,135	65
禅宗無門関鈔	書名	和版099	35,124,199	大道	人名		119
善逝教法史 (テーセク・チョエチュン、ブトン仏教史)	書名		153	大唐西域求法高僧伝	書名	和版003	35,101
先陀婆	事項		127,171	大日経奥疏由来	書名	和写027	143,188,189,192
選択集講義	書名		10	大日経開題	書名		107
禅的体验街頭の仏教: 附文章生活三十年記念祝賀会記事	書名	洋和131	64	大日経教主義	書名	和版048	35,112,188
剪灯新話句解	書名		136	大日経住心鈔 → 大毘盧遮那経住心鈔	書名		
善無畏	人名	和写009	138	大日経住心品 → 蔵漢対訳大日経住心品	書名		
禅林象器箋	書名	洋和132	36,64	大日経住心品疏冠解玄談	書名		98,113
蔵漢対訳大日経住心品: 附大日経蔵漢両訳比較研究概観	書名	洋和126	63,152,153,176	大日経疏玄談	書名	和版047	112,190
増憲	人名		141,191	大日経疏抄	書名	和版044	112,193
増春	人名		109,114	大日経疏談義 → 大疏談義	書名		
蔵川	人名	和版037	110	大日経心目 → 大毘盧遮那成道経心目	書名		
曹洞宗章疏	書名	洋和072	37,56	大日本 上巻	書名	洋和167	69
僧徒官位事	書名	和写014	38,139,199,204	大忍	人名		142
蔵文大日経	書名	洋和123	63,154	大涅槃経第九	書名		171
蔵文大日経語彙	書名	洋和124	63,154	大般若波羅蜜多経 卷第八十一	書名	和版026	17,107
蔵文和訳大日経	書名		152,154	大毘盧遮那経住心鈔	書名	和版051	35,113,193
増補谷文晁本朝画纂大全 [前編]	書名	和版114	34,129	大毘盧遮那成道経心目	書名	和版044	38,112,193
蔵梵対照翻訳名義大集西蔵語索引				大仏頂如来密因修証了義諸菩薩万行首楞厳経合轍	書名	和版052	37,114,199,200
仏典研究第一	書名	洋和210	75,178	太平洋に於ける民族文化の交流	書名	洋和171	69,179
蔵和辞典	事項		29,30,179	太平洋問題調査会	事項	洋和142	65
僧伽婆羅	人名	和版014	104	大宝 → 守脱	人名		
即身成仏義 → 冠註即身成仏義	書名			大方広三戒経	書名	和版011	37,99,103
尊恭	人名		122	大方広仏華厳経浄行品第七搜探二玄記	書名	和版035	34,110
ダーズリン (ダアズリン)	事項		167,168,174	大方広遊戯経	書名		153
大阿弥陀経 (仏説大阿弥陀経)	書名	和版021	37,106	大明三蔵聖教目録	書名	洋和064, 和版024	55,106,156,157,173
大華厳経略策	書名	和版034	35,109	大勇	人名	和版008	102
台源	人名		102,177	高木秀人	人名	洋和155	67



- 高楠順次郎 人名 洋和114 26,  
28-30,41,61,158
- 高島円 人名 51,175
- 高島米峰 人名 洋和002,130  
45,64,177
- 高田真治 人名 洋和006 45
- 高田道見 人名 洋和061 54
- 田口米舫 人名 和版115 129,176
- 武田琴亭 人名 和版002 101
- 竹原信繁 人名 和版108 127
- 田島隆純 人名 洋和126 29,63,84,  
153,176,178,180
- タシルンポ 事項 127,158,171
- 多田淳政 人名 28
- 橘恵勝 人名 洋和052 53
- 達摩笈多 人名 和版020 105,162
- 駄都法口決抄 書名 和写030 38,144
- 田中忠雄 人名 洋和136 65
- 田辺宗夫 人名 洋和169 69
- 谷口吉郎 人名 洋和184 71
- 谷文晁 人名 和版114 129
- 谷文晁本朝画纂大全 [前編] →  
(増補) 谷文晁本朝画纂大全 [前編] 書名
- 田能村竹田 書名 洋和188 72,176
- 玉代勢法雲 人名 168
- タライの地 事項 161
- ダライ・ラマ5世 (dGe 'dun grub pa) 人名 170
- 多羅葉ンヤム経典 事項 28,40
- 多羅葉巴理語経典 事項 28,40
- 達磨多羅禅経説通考疏 書名 和版103 37,126,  
167
- ダルマパーラ 人名 82,173,183
- 智顛 人名 和版068 16,118,  
173
- 近角常観 人名 洋和060 54
- 智旭 人名 和版039,040,055,  
067,069-070  
111,115,117,118
- ヂク、チェ 事項 168
- 智説房 人名 119
- 智積院 事項 137,140,142,143
- 千早正朝 人名 洋和183 71
- 智範 人名 136
- チベット王国 書名 12
- 西藏語読本: 第一 書名 洋和207-209 74
- 西藏語文典綱要 書名 洋和205 74
- チベット語訳八千頌般若(経) (Phags pa  
shes rab kyu pha rol tu phyin pa brgyad  
stong pa) → 八千頌般若 書名
- チベット語訳法華経 (Dam pa'i chos pad  
ma dkar po zhes bya ba theg pa chen  
po'I mdo) → 法華経 書名
- 西藏史の研究 書名 洋和148 66
- チベット大蔵経 事項 26,40,154,  
157,158,170
- 西藏伝印度仏教歴史上(釈迦牟尼之伝) 書名 7,152,153
- 西藏伝唯識三十頌 書名 152,154
- 西藏仏教古派中チャンドラ一家 事項 168
- 西藏文典 書名 洋和206 74
- 西藏文法書草稿ノート 書名 40
- 西藏旅行記(チベット旅行記) 書名 25,41,149,150,152,  
166,167,174,201
- 茶祖珠光伝 書名 和写037 35,146
- チャンドラ・シヤムシェール 人名 162,163,167,168,  
180
- チャンドラ・ダス 人名  
→ サラット・チャンドラ・ダス 人名
- 中外日報 書名 175,179,192,193,  
210
- 中岳霊廟碑帖 書名 和版116 129,176
- 中国春聯集解: 語学・文学・揮毫・  
作詩之栞 書名 洋和222 76
- 註金師子章 書名 和版066 117
- 註法華経 書名 和版033 109,163
- 長意 人名 110
- 長恵 人名 和版092 114,123
- 長寛 人名 137
- 澄観 人名 和版034 109
- 張顕 人名 和版038 110
- 張瑞凶書後赤壁賦 書名 和版121 131,178
- 澄禅 人名 和版073 119
- 朝鮮総督府 事項 洋和137 65
- 朝鮮の統治と基督教 書名 洋和137 65
- 丁福保 人名 和版006 102,177
- チョーネ版 仏部 事項 27
- 陳垣 人名 洋和147 66,178
- 鎮州臨済慧照禅師語録 書名 和版105 35,127,  
171
- 陳文理 人名 洋和063 54
- 琿宥 人名 140
- 沈予昌 人名 和版038 110
- 通意日循 人名 110
- 通潤 人名 和版052 114
- 宗喀巴 人名 和版008 102,176
- 次田潤 人名 洋和027 48
- 土田恭治 人名 133
- 土屋喬雄 人名 洋和180 71
- 土屋正道 人名 和版010 103,176
- 土屋鳳洲(土屋弘) 人名 和版136-138  
135,172,202
- 堤台山(唐公愷) 人名 和版135 134
- 津村秀松 人名 洋和170 69
- ツルティム・ケサン 人名 159
- 徒然草文段抄: 校註 書名 洋和221 76
- 定位 人名 140
- 哲巖 人名 138
- 剃度直授菩薩戒儀軌 書名 和版096 33,124
- 哲学館 事項 159,160,165,173,  
177
- デルグ版 仏部 事項 27
- 伝慧 人名 和版088 122
- 転正法輪史(タム・チョエ・コルギユ  
ウル、学者の宴) 書名 153
- 天親 人名 和版022 106,172
- 天台宗顕教章疏一 書名 洋和108 37,60
- 天台宗顕教章疏二 書名 洋和110 37,61

天台宗密教章疏一	書名 洋和107	37,60	長島尚道	人名	26
天台宗密教章疏三	書名 洋和112	37,61	中村古峽	人名 洋和010	46
天台宗密教章疏二	書名 洋和109	37,60	中村長安	人名	129,176
天台小止観	書名 和版068	16,25, 118,166,173,180	中村不折	人名 和版117,118	73,130-132,177,178
天台の教学	事項	28	中村丙午郎	人名 和版119-124	130,131,178
展望河口慧海論	書名	25	中村瑞隆	人名	159
添品妙法蓮華経	書名 和版020	37,99, 105,159,162	中山菁莪	人名 洋和004	45
桐花堂	事項	160	中山太一	人名	28,29
唐公愷 → 堀它山	人名		中山文化研究所	事項	28
東京国立博物館	事項	27,40	中谷基	人名	108
東京商大商学専門部	事項	40	奈良県	事項 洋和143	66
東京大学	事項	26,27,40,158, 167,168,214	奈良県金石年表	書名 洋和143	66
東京美術学校	事項	39,175,179	ナルタン版カンギュルとテンギュル	事項	163,171
道空	人名	146	ナルタン版 祖部	事項	27
唐賢絶句三体詩法	書名 和版139	34,153	(ナルタン版) 西蔵大蔵経甘珠目録	書名	152,154
東国高僧伝	書名 和版004	38,101	ナルタン版テンギュル目録「梵声」		
東西の文化交流	書名 洋和139	65	( bsTan bcos 'gyur ro cog gsung bar du bsgrubs pa'i dkar chag tshangs pa'i dbyangs)	書名	171
東西文化交流研究会	事項	28-30	ナルタン版 仏部	事項	27
東西文化交流研究所 (東西研)	事項	27-32,39,41,44,69, 71,98,145,179,189, 207	南条文雄	人名 洋和034,064	50,55,156,157, 159,165,167,173, 183,184,193
道順伝灯史伝 (ラムナム・ンガバ)	書名	153	南北相法修身録	書名 洋和011	46
東条一堂伝	書名 洋和005	45	南本大般涅槃経会疏解	書名 和版038	38,110
東条隆哲	人名 洋和049	53	仁王護国般若波羅蜜経		
道坦 → 万仞道坦	人名		(仏説仁王護国般若波羅蜜経)	書名 和版061	116
道範	人名 和版074	119	西尾京雄	人名 洋和210	75,178
東北大学所蔵「河コレクション」	事項	168,171	西川忍龍	人名 洋和189-191	72
東洋大学	事項	27,40,46,159,165, 177,179,204	西山栄久	人名 洋和145	66
東洋文庫	事項	26,27,39-41,44,45, 55,158,167,168,179	日印協会	事項	151
東洋文庫十五年史	書名 洋和001	44,45,179	日蓮	人名 和版033	42,109, 161,163,189, 190,210,211
東洋文庫所報	書名	27	日本: タウトの日記 1	書名 洋和157	68
童麟	人名 和版095	124	日本印象	書名 洋和153	67
東嶺円慈	人名 和版101-103	125,126,174	日本口語法: 全	書名 洋和204	74
鴫田恵吉	人名 洋和005	45	日本占領: その成果と展望	書名 洋和142	65
常盤大定 (常磐大定)	人名 洋和030,060	49,54,177	日本大王国志	書名 洋和152	67
独有雲来師余影	書名 洋和047	52	日本大蔵経総目録	書名 洋和113	61
得仙	人名 和版037	110	日本大蔵経編纂会	事項 洋和065-113	55-61
図書館協会	事項	167	日本地図株式会社	事項 洋和158	68
トマス・ライエル	人名 洋和156	67	日本にいるアメリカ人: ソヴェト記者 のニッポン日記	書名 洋和155	67
富岡俊次郎	人名 洋和053	53	日本の建築	書名 洋和177	70
富田敦純	人名	141	日本の仏教	書名 洋和029	49
富永祐治	人名 洋和181	71	日本美の再発見: 建築学的考察	書名 洋和178	71
富山茂	人名 洋和151	67	日本風景論	書名 洋和150	67
トランスヒマラヤ (Trans-Himalaya)	書名	14,25,169,170,180	日本仏教史綱 下巻	書名 洋和028	49
鳥居龍蔵	人名 洋和172	70,172	日本文書状下校	書名	40
曇昉	人名 和版055	115	日本文法新論	書名 洋和200	73
曇無讖	人名 和版011,017,023, 038	103,105,106, 110	日本遍路	書名 洋和151	67
長沢実導	人名	29	日本幽囚記: 下	書名 洋和154	67
中島健蔵	人名	29	日本郵船	書名	40

入蔵記	書名	41,167	般若心経註訳全集：西藏文	書名	洋和118,119	200
入菩薩行	書名	洋和056-58				62,155
		53,152				
入菩提行論 (Bodhicaryāvatāra)	書名	152,153	般若心経物語	書名	洋和120	62
如意宝樹 (パクスム・ジョンサン)	書名	153	般若部章疏	書名	洋和099	36,59
仁王経開題	書名	107	般若理趣経研精録	書名	洋和125	63,179, 204
沼田宇源太	人名	洋和004	45			
ネパール国立古文書館	事項	167	干潟龍祥	人名		180
ネパールの切手	事項	90,168	秘抄問答	書名	和写032	38,144
能海寛遺稿	書名	洋和164	必昇	人名	和版030	108,160
能海寛追憶会	事項	洋和164	68	ビヒサーラ	事項	168
野口啓祐	人名	洋和156	67	秘密宗念仏鈔 → 秘密念仏鈔	書名	
野中完一	人名		70,172	秘密念仏鈔	書名	和版074
祝詞新講	書名	洋和027	48	標準日本文法	書名	洋和201
バーナード・クオリッチ	人名		125	評伝河口慧海 (評伝)	書名	
パーボ・ツクラクテンバ	人名		153	平松幹夫	人名	洋和153
梅山	人名	和版106	127	ヒルト	人名	洋和145
梅道人墨竹譜草書	書名	和版124	131,178	広津藤作	人名	洋和159
ハインリッヒ・リッケルト：現代ドイツ哲学内に於ける彼の態度	書名	洋和009	46	福井康順	人名	81,179
ハウス・ホーフアー	人名	洋和167	69	不空	人名	和版043,045
芳賀矢一	人名	洋和019	47			111,112
薄伽梵大金剛阿闍梨位法性大日義	書名	和版050	35,113	福田行誠	人名	和版010
泊寿	人名		139	福田宏一	人名	和版126
白瑠璃除銷 (ヤーセル)	書名		153			178
橋本凝胤	人名		180	福田精斎	人名	和版046
橋本光宝	人名		180	福田精斎薬房	事項	176
バス、バザ	事項		168	福田芳之助	人名	洋和144
長谷部水哉遺稿集	書名	洋和165	69	藤井宣正	人名	洋和034
長谷部隆諦	人名	洋和049	53,69	藤井草宣	人名	洋和044
波多野精一	人名	洋和024	48	仏学大辞典	書名	和版006
八千頌般若 (経)				仏教研究名辞集	書名	洋和043
(Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā)	書名	26,33,170,208		仏教辞林	書名	洋和034
八転声記 [ほか]	書名	和写038	34,146	仏教心理の研究	書名	洋和052
八転声開書	書名		146	仏教世界年契梗概	書名	洋和033
八転声事	書名		146	仏教宣揚会	事項	13,17,31,39,41,44, 158,163,189,190, 197,202
服部宇之吉	人名	洋和019	47			
服部融泰	人名	洋和123,124	63,154,180	仏教大辞典 第1巻	書名	洋和035
				仏教大辞典 第2巻	書名	洋和036
羽田子雲	人名	和版114	129	仏教大辞典 第3巻	書名	洋和037
河内遠東古学院現蔵越南仏典略編	書名	洋和063	54	仏教大辞典 第4巻	書名	洋和038
母の面影	書名	洋和045	52,175	仏教大辞典 第5巻	書名	洋和039
馬鳴菩薩	人名	和版023	106	仏教大辞典 第6巻	書名	洋和040
林屋友次郎	人名	洋和115	61	仏教大辞典 第7巻	書名	洋和041
原田祖岳	人名	洋和011	46	仏教と科学	書名	洋和046
バルクルコート (Barkurwa kot) 遺跡	事項		161	仏教日課	書名	
万仞道坦	人名	和版095	124	仏教日課	書名	152,155
晚晴楼集第五編	書名	和版138	135	仏教日本の自覚：藤井草宣隨筆集	書名	洋和044
晚晴楼集第四編	書名	和版137	135	仏教の研究 (国訳秘密儀軌増刷会員募集案内号)	書名	
晚晴楼文鈔二編	書名	和版136	135,172, 202	仏教復興運動	事項	16,165
				仏所行讃経	書名	和版023
パンチェン・ラム	人名		127,163,171	仏陀伽耶 (ブツダガヤ)	事項	16,116,118, 165-167,173, 180,183
パンディタ・シュリー・サーラット・チャンドラ	人名		174			
般若心経	書名	152,155,177		仏陀教説の外延	書名	洋和055
般若心経異本	書名	和写004	34,136	仏陀跋駄羅	人名	和版103
般若心経講義：下	書名	洋和115	61	仏陀論	書名	洋和051
般若心経大成	書名	洋和117	62,177,	仏典結集	書名	洋和031

不動忿怒瑜伽要鈔	書名	和写016	38,139	菩提樹軒	事項	94,95,173
舟橋経賢	人名	和写014	139	菩提心論聞書	書名	和版076 119
普門品経 (仏説普門品経)	書名	和版014	104	菩提心論教相記	書名	和版062 38,116
フランソア・カロン	人名	洋和152	67	菩提心論第三段秘記	書名	和版063 33,117
プリンクリー	人名		28-30	菩提登	人名	和版040 111
ブルーノ・タウト	人名	洋和177,178		菩提留支	人名	和版022 106
			70,71	牡丹灯記	書名	136
フレーザー	人名	洋和153	67	法句経 (Dhammapada)	書名	155
ブロックハウス	人名		169	法華義疏	書名	153
文延	人名	和版102	126	法華部章疏一	書名	洋和082 36,57
文化交流	書名		28,41	法華部章疏三	書名	洋和094 36,59
文化交流研究会	事項		28-30	法華部章疏二	書名	洋和092 36,58
文三橋草書詩卷	書名	和版122	131,178	法性大日義		
文殊	人名	和版102	126	→ 薄伽梵大金剛阿闍梨位法性大日義	書名	
分別六合尺弁義	書名	和写039	35,146	法相宗章疏一		
乘法四縁	書名	和写025	34,142	→ 三論宗章疏之余; 法相宗章疏一	書名	
ヘーゲル	人名		28	法相宗章疏二	書名	洋和073 36,56
北京街版	事項		26,40	本願寺物語	書名	洋和130 64,177
ベナレス神智学会	事項		79,173	梵漢對訳仏教辞典: 翻譯名義大集	書名	洋和042 38,51,175
ベナレスのヒンドゥー大学	事項		169	梵室偶談	書名	和版069 34,118
徧界紅鱧一唾篇	書名	和版080	120	梵蔵伝訳法華経	書名	150,152,153
逸見梅栄	人名		19,134,179,180	梵蔵和英合璧浄土三部経	書名	152,154
法英	人名		142	本田義英	人名	151
法王教活論	書名	洋和061	54	梵文法華経 (Saddharmapundarika)		
宝貴	人名	和版018	105	→ 法華経	書名	
法宜	人名		143,192	梵文和訳法華経	書名	洋和121 62,161,176
宝篋印陀羅尼功德集	書名	和写022	34,141			
法鏡経 (仏説法鏡経)	書名	和版015	104	本邦綿絲紡績史	書名	洋和179 71
宝洲	人名		106	梵網経	書名	16,166,167
法心経 (Udānavarga)	書名		152,155	梵網経開題	書名	107
芳泉	人名		139	梵網経盧舎那仏説菩薩心地法門品第十	書名	和版059,060
法蔵	人名	和版066	117			16,34,116,173
胞胎経 (仏説胞胎経)	書名	和版015	104	賣茶翁偈語	書名	和版106 33,127
宝島寺	事項		112,142,188,190,191,203,204	摩訶菩提会 (仏陀伽耶摩訶菩提会)	事項	116,167,173
				マクミラン社	事項	169
宝塔示現章 (mchod rten brtan pa'i le'u)	事項		158	松岡寛慶	人名	125,174
法明	人名	和版077	120,141	松下大三郎	人名	洋和201 74
方等部章疏一				松永有見	人名	洋和165 69
→ 華嚴部章疏之余; 方等部章疏一	書名			松濤誠廉	人名	26,158
方等部章疏五	書名	洋和089	35,58	松林桂月	人名	洋和188 72,176
方等部章疏三	書名	洋和074	35,56	松本顕祥	人名	
方等部章疏二	書名	洋和070	35,56	松本文三郎	人名	洋和031,116
方等部章疏四	書名	洋和076	35,56			49,61
方等部章疏六	書名	洋和098	35,59	松山与兵衛	人名	洋和182 71
宝隆寺	事項		138,190,191,204	マハーバラタとラーマーヤナ	書名	洋和008 46,179
法隆寺壁画	書名	洋和183	71	曼荼羅供作法	書名	和写028 34,143
ボードナート	事項		167	曼荼羅供略記 → [応永二十一年] 曼荼羅供略記	書名	
ボーディルチ	人名		156	三明永無	人名	28
篋篋口伝初心鈔	書名	和版109	34,128	三上次男	人名	28,30
法華経	書名		26,39,70,105,108,109,149-152,158-163,207,211,214	水野南北原	人名	洋和011 46
				密教修行念誦作法	書名	和版082 121,194
				密教發達志	書名	和版090 122,175,202,204
法華経 [開題]	書名		107	密経部章疏下一	書名	洋和096 36,59
法華経研究	事項		150,151,163	密経部章疏下二	書名	洋和100 36,59
菩提樹の葉	事項		126,167	密経部章疏上一	書名	洋和088 36,58
菩薩道	書名		152,153	密経部章疏上二	書名	洋和090 36,58
星野花子	人名		50,175			

- 密巖  
密巖院発露懺悔文  
密巖上人行状記  
身の上話  
壬生台瞬  
宮地直一  
宮田恵美  
宮武鶴斎  
妙極 → 淨巖  
妙瑞  
妙法蓮華經  
妙法蓮華經觀世音菩薩普門品  
弥勒菩薩  
明拓昭仁寺之碑  
村上專精  
無住  
無著道忠  
武藤山治  
宗川宗満  
村田潔  
無量寿経 (仏説無量寿経)  
無量清浄平等覚経  
 (仏説無量清浄平等覚経)  
明山秀弘 (秀弘明山)  
目白僧園  
蒙漢合璧積尊聖伝  
猛義勇  
黙仙禪師南国巡礼記  
望月信亨  
本居宣長  
藻原日乗  
森鷗外  
文殊師利仏土巖浄経  
文殊師利菩薩問菩提経論  
文殊菩薩  
安井小太郎  
野沢三十六流印信類聚  
耶馬溪写真帖  
矢吹慶輝  
矢袋喜一  
山田妙運  
大和三教論 [前編]  
山本悦心  
唯識論  
唯識論章疏一  
唯識論章疏二  
維摩経義疏  
結城令開  
宥巖  
幽囚録  
宥遷 (伝応房)  
宥誉  
庚伽遮羅浮迷 (yogācārahūmi)
- 人名 和版041 111  
書名 和版082 121,194  
書名 和版089 33,122  
書名 洋和149 67  
人名 29  
人名 洋和025 48  
人名 27,40  
人名 洋和026 48  
人名  
人名 和版050 113,145,  
197  
書名 和版019 37,105  
書名 和版031,032 109  
事項 153  
書名 和版125 132,178  
人名 洋和028,051 49,53  
人名 和版106 127  
人名 洋和132 64  
人名 洋和149 67  
人名 154  
人名 洋和184 71  
書名 和版013 104,154  
書名 和版012 37,103  
人名 140,144  
事項 108,137,149,172,  
183-185,187,188,194,  
196,198,201-204,207  
書名 洋和059 54,178  
人名 115  
書名 洋和161 68  
人名 洋和035-41 50,51  
人名 和版001 101  
人名 110  
人名 和版110-112 128  
書名 和版015 104  
書名 和版022 106,172,  
198  
事項 153  
人名 洋和019 47  
書名 和写035 145,194,  
197  
書名 洋和159 68  
人名 洋和022 48  
人名 洋和173 70  
人名 和版068 16,118  
書名 和版002 38,101  
人名 和版104 126,179  
書名 28  
書名 洋和091 36,58  
書名 洋和097 36,59  
書名 153  
人名 28  
人名 141,191  
書名 135  
人名 143  
人名 142  
事項 126,167
- 謡曲通解  
要法授訣鈔  
吉岡郷甫  
吉田久兵衛  
吉田賢龍  
吉田鉄郎  
頼鏝 → 理天  
来馬琢道  
頼瑜  
ラサ・ヴィラ (ラハサピラ)  
ラサからの近況報告  
ラス・ビハリ・ボース  
ラハサピラ → ラサ・ヴィラ  
ラピンドラナート・タゴール  
六離合釈章疏  
→ 金七十論章疏; 十句義論章疏;  
六離合釈章疏  
六合積精義  
理趣経開題  
理趣経釈章疏一  
理趣釈口訣鈔  
立正大学大崎図書館所蔵河口慧海請來  
資料解題目録 (請來資料目録)  
立正大学図書館  
 (同品川図書館 = 旧大崎図書館)  
理天 (頼鏝)  
隆海  
琉球古来の数学  
隆賢  
隆晃  
龍贊  
隆誉  
亮海  
良舎 → 円光  
良春  
了恕日俊  
良信  
亮汰  
 [両部金剛名号]  
 両部曼荼羅私抄  
陳済生  
倫理御進講草案 久之部  
倫理御進講草案 地之部  
倫理御進講草案 長之部  
倫理御進講草案 天之部
- 書名 洋和220 76  
書名 和写033,034  
38,145,194,196  
人名 洋和204 74  
人名 62,103,200  
人名 洋和060 54  
人名 洋和177 70  
人名  
人名 洋和131,161  
64,68  
人名 和版084,085,  
和写032 121,144  
事項 88,174,175  
事項 11  
人名 洋和169 69,165  
事項  
人名 165,175  
書名  
書名 和版128 35,132  
書名 107  
書名 洋和095 35,59  
書名 和写008 137,194,  
195,196,  
197,198,204  
書名 25,26,27,40,  
41,167,168  
事項 17,18,25,26,30,40,  
41,98,149,159,164,  
180,189,197,207-214  
人名 和写039 146  
人名 142  
書名 洋和173 70  
人名 114  
人名 137,196,198  
人名 123  
人名 和写033,034  
145,196  
人名 和写006 137  
人名  
人名 117  
人名 110  
人名 和版054 114  
人名 和版062,063,  
086-088 116,117,  
121,122  
書名 和写015 33,139,  
200  
書名 和版078,079  
33,120  
人名 和版036 110  
書名 洋和018 47  
書名 洋和017 47  
書名 洋和016 47  
書名 洋和015 47



ルイス・フロイス	人名	洋和166	69	若井林一	人名	洋和167	69
歴代詔勅全集 下巻	書名	洋和014	47	鷲尾順敬	人名		70,172
歴代詔勅全集 上巻	書名	洋和013	47	鷲嶺韜谷	人名	和版098	124
歴朝華嚴經持驗紀	書名	和版036	33,110	渡辺海旭	人名	洋和048	52
蓮体	人名	和版049	98,113	渡辺久五郎	人名		126
浪忍科判(覚道次第)	書名	和版008	102,176	渡辺照宏	人名	洋和054,062	
ロバート・A・フィアリ	人名	洋和142	65				18,53,54,145
ロンブローゾ	人名	洋和010	46	渡辺樺雄	人名	洋和055	53
和英支鮮四国語訳梵文阿弥陀経: 附各 宗より観たる阿弥陀経	書名	洋和122	62				

## あとかぎ

河口慧海旧蔵書が立正大学大崎図書館（現品川図書館）に所蔵されていることが判明したのは、2009年秋から暮れにかけてのことであった、と思う。この「発見」をうけ、これらの資料群の調査が2010年になってから本格的に開始された。

本書でもふれているが、同館所蔵資料の特徴として、多様な形態の文献がそこに含まれているという点をあげることができる。同館は同資料群の調査を、まずは将来文献の調査、次いで非将来文献の調査、といった二段階で実施することとした。そしてその報告書として、将来文献を中心にしたものをもまず発行し、その後非将来文献（洋装本・和装本）目録を発行することとなった。

2013年、将来文献に関する『立正大学大崎図書館所蔵河口慧海請来資料解題目録』が刊行された。引き続き、非将来文献目録発行に向けて準備を進めていたものの、完成の日の目を見ずに月日だけが過ぎてしまった。そのような状況の中、図書館の岩場課長（当時）より、和装本目録については古書資料館専門員の小此木敏明先生にお手伝いをいただければ、とのご提案があった。和装本に関する基本的な書誌情報はすでにデータをとっていたが、時間的・能力的制約から私一人の力では、あるところから先には進めなくなってしまった。そして、結果的に先生に和装本目録を仕上げていただくこととなった。このようにして、2009年の資料群発見から本年で9年目となってしまったが、ようやくここに河口慧海旧蔵の洋装本と和装本の目録を発行する運びとなったのである。

本書が成るにあたっては、多くの方々のご理解とご支援をいただいた。まず、2016年より「立正大学ネパール研究プロジェクト（タイプA・タイプC）」の助成をうけ、関連資料を揃えることができた。まずは記して謝意を申し上げる。

そして、本書の企画と編集は、立正大学品川図書館部長・岩場静子氏、同課員・田中麻巳氏の尽力により進められた。和装本目録と解題の執筆にあたっては小此木敏明先生のお手を煩わせていただいた。先生のご協力がなければ、本書が完成することはなかった。ここに記して謝意を表す。

また、小此木先生と松山典正先生（当時、本学文学部助教）と筆者の3人で取り組んだ共同研究「河口慧海による『法華経』翻訳の再評価」（2015年度、立正大学研究推進・地域連携センター支援費第1種）にて得られた成果が、本書の解題1にもり込まれている。両先生の学恩に深く感謝申し上げる。

さらに、本目録に関し、元大阪工業大学教授・チベット文化研究会会長・高山龍三先生より、河口慧海に関するいくつかの点について、貴重など助言、ご指摘を頂戴することができた。そして、立正大学仏教学部特任講師・佐々木一憲先生には、英文による書入れの翻刻の際に貴重など助言を賜った。ここに両先生の学恩に対し、甚深の謝意を表する次第である。

庄 司 史 生

最初に河口慧海の旧蔵書に関わったのは、6・7年ほど前のことになる。立正大学品川図書館では、平成22年に「今昔蔵書選」という展示を企画・実行し、同年11月に『今昔蔵書選——遠いときに思いを馳せて』という冊子を作成した。その展示や冊子の記事で、庄司史生氏が「河口慧海請来文献」を、私が「貞松山蓮永寺寄贈図書」を紹介した。冊子作成の後、庄司氏の慧海旧蔵書の調査は、貝葉形態の資料から洋装本、未登録の和装本へと及んでいき、私も未登録の和装本中にある蓮永寺の旧蔵書を探していた。その頃、未登録の本は5号館の保存書庫にあって、2人の調査日程が重なることもあった。どちらも調査対象が同じ未登録本ということもあり、情報を交換し、お互いの目当ての物を見つけた場合は報告し合うことに決めた。その時に、仏教宣揚会などについても教えていただいた記憶がある。

平成26年4月、古書資料館が開館すると、未登録本も古書資料館の方に移された。その翌年から、私は同館の専門員という立場になり、本学の和装本を見る機会が飛躍的に増えた。未登録本や登録済みの本の中には、まだ慧海の旧蔵書が残っており、慧海関係の資料が本の間に挟まっていることもあった。それらを見つけるたび、庄司氏に連絡を入れて確認していただいていた。

当時は、私自身が慧海旧蔵書の目録作成に関わるとはまったく思っていなかったが、平成28年に図書館から、慧海旧蔵書の和装本目録の作成に参加して欲しいという依頼があった。貝葉形態のものについては、『立正大学大崎図書館所蔵 河口慧海請来資料解題目録』が庄司氏の尽力によって平成25年に刊行されていたが、洋装本・和装本目録の作成が遅れているということだった。仏教書については門外漢であるため、どうしたものかと思ったが、すでに庄司氏が基礎的なデータを用意されていたため、引き受けることにした。

結局、蔵書印や書入れなど、気になる部分を調べて行くうちに、解題も一つ担当することになってしまった。庄司氏の研究に途中から割り込む形になってしまったことについては申し訳なく思っているが、調べるといろいろ分かることも多く、ついついのめり込んでしまった感がある。もしかすると、私が関わったために、目録の完成がより遅れたのかもしれない。

調査していて改めて思ったことは、デジタル化資料の意義である。日ごろ、和漢古書の画像を見るため、「国立国会図書館デジタルコレクション」などを使ってはいるが、今回、デジタル化されている明治から昭和初期の文献の中から、必要な情報をかなり拾うことができた。もし、デジタル化資料がなかったとすれば、複写依頼や文献貸借、業務の合間に調査に赴く時間など、かなりの労力や金銭を必要としただろう。

もちろん、必要なものがあまねくデジタル化されていたわけではない。気づくのが遅くれ、確認できなかったものも多々ある。特に、宝島寺所蔵の雲照関連資料の存在については、なぜもっと早くに気づけなかったのかと思う。この点については、いささか心残りである。

最後に、本書の編集や原稿のチェックをしていただいた、図書館部長の岩場静子氏や田中麻巳氏、遠藤寿一氏、慧海に関するさまざまな情報をご教授いただいた本学仏教学部の庄司史生氏に、改めて感謝を申し上げる。

小此木 敏 明

## 編集後記

立正大学品川図書館では、河口慧海の請来資料と旧蔵資料を河口慧海文庫として所蔵していますが、河口慧海は私にとって身近でありながら遠い存在でした。言い換えれば、慧海の名は日々耳にしていたのですが、その存在は時代的にも慧海の残した大きな功績を考えると、私からはあまりにも遠いものだったのです。

こうした中、『立正大学大崎図書館所蔵 河口慧海請来資料解題目録』の続巻にあたる本書の編集と慧海文庫充実のための関連資料蒐集を担当することになり、慧海の旧蔵書と向き合う時間が増えていきました。そこで気付かされたのは、慧海がまるで図書館員のようにラベルを貼ったり、独自の装丁を施すなどして、自身の蔵書を大切に管理していたということです。また、印や書き入れ、蒐集した関連資料から、交友関係など資料の背景にある様々な物語と慧海の人物像を垣間見ることができ、遠かったはずの慧海をより身近に感じるようになりました。

慧海が大切に扱い、愛着を持って接していたであろう旧蔵書および新収の関連資料についてまとめたものが本書です。幸運にも、立正大学図書館に所蔵されているこれらの蔵書群を慧海が大切に扱ってきたのと同様に大切に将来へと引き継いでいくと共に、関連資料の蒐集を今後も継続的に行ない、文庫のさらなる充実に努めていきたいと考えております。

本書の執筆を快くお引き受けくださった庄司史生先生と小此木敏明先生、関連資料の蒐集について多くのご協力とご教示を賜りました株式会社極東書店の佐藤寿洋様、株式会社臨川書店の木村龍司様、有限会社玉英堂書店の今西潮様、本学文学部教授の野沢佳美先生、そして資料の撮影から発行まで多岐にわたりお世話になりました株式会社イーフォーの河又浩昭様と安井直久様にこの場を借りて御礼申し上げます。

(立正大学図書館：田中 麻巳)

『河口慧海請来資料解題目録』の発行から5年が過ぎました。河口慧海文庫は、折に触れ紹介され活用され続け、寄贈のご依頼もありがたいことに未だに続いています。この間、図書館の施設には古書資料館やラーニングコモンズが加わり、平成28年度には再び「立正大学図書館」の名で新たなスタートをきりました。

この度続刊として発刊を見た『河口慧海旧蔵資料解題目録』は、前巻に引き続き同文庫の資料群を世に送り出すと同時に、当館が文庫を充実すべく心を込めて蒐集した数々の新収資料が紹介されています。蔵書の充実は、図書館の大きな使命ですが、戦後まもない時期に大いなる理想を掲げ一歩を踏み出した本学図書館は、今も先人の志を引き継ぎつつ、当時は予想駄にできなかった多様な知の拠点、学修の拠点として姿を変えながら発展しています。この図書館の歩みが、今またこの書を生み出す原動力となっていると感じ、喜びに堪えません。同文庫の資料や解題目録が今後引き継がれ、活かされ続けることを心より願っております。

最後に、前巻に引き続き、本巻発行までの5年間、ご多忙の中変わらぬ熱意で調査執筆を続けてくださった庄司史生先生と、古書資料館専門員としての業務、研究の傍ら、和装本の部の執筆をご快諾くださいました小此木敏明先生、そしてご教示ご協力を賜りました皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。また、本巻の発刊は、品川図書館司書田中麻巳氏の編集者としての熱意と努力があってこそそのものであることを申し添え、感謝の言葉に代えさせていただきます。

(立正大学図書館部長：岩場 静子)

## ◆ 解説者略歴 ◆

### 庄司 史生 (しょうじ ふみお)

昭和54年 千葉県に生まれる  
平成15年 立正大学仏教学部仏教学科（夜間主コース）卒業  
平成21年 立正大学大学院文学研究科博士後期課程仏教学専攻単位取得満期退学  
立正大学非常勤講師  
平成24年 博士（文学）  
立正大学仏教学部助教  
平成28年 立正大学仏教学部専任講師  
著書等（解説）『立正大学大崎図書館所蔵河口慧海請来資料解題目録』（立正大学情報メディアセンター、平成25年）  
『八千頌般若経の形成史的研究』（山喜房佛書林、平成28年）など

### 小此木 敏明 (おこのぎ としあき)

昭和52年 群馬県に生まれる  
平成13年 立正大学文学部国文学科卒業  
平成19年 立正大学大学院文学研究科博士後期課程国文学専攻単位取得満期退学  
立正大学非常勤講師  
平成26年 立正大学図書館古書資料館専門員  
著書等『立正大学蔵書の歴史 寄贈本のルーツをたどる：近世駿河から図書館へ』（立正大学情報メディアセンター、平成25年）  
『『中山世鑑』の伝本について——内閣文庫本を中心に』、小峯和明監修・目黒将史編『資料学の現在（シリーズ日本文学の展望を拓く5）』（笠間書院、平成29年）など

## 執筆分担

新収資料紹介 ……………	図書館担当者	和装本目録 ……………	小此木
旧蔵資料紹介 ……………	庄司 (pp.13-16.)	解題1 ……………	庄司
	小此木 (pp.17-19.)	解題2 ……………	庄司
保存と利用 ……………	図書館担当者	解題3 ……………	小此木
河口慧海文庫概要 ……	庄司	慧海文庫公開の軌跡 …	庄司・小此木
洋装本目録 ……………	庄司		図書館担当者



立正大学品川図書館所蔵  
河口慧海旧蔵資料解題目録 庄司 史生・小此木 敏明 解説

---

平成30年 3月10日初版発行

編 集 立正大学品川図書館  
発 行 立正大学図書館  
〒141-8601 東京都品川区大崎 4-2-16  
電話 03-3492-6615  
<http://www.ris.ac.jp/library/>

印刷・製本 株式会社 イーフォー  
〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-7-11  
電話 03-3779-1140



三十一日  
327

今  
河  
湖  
意  
梅  
德  
書  
獄  
透